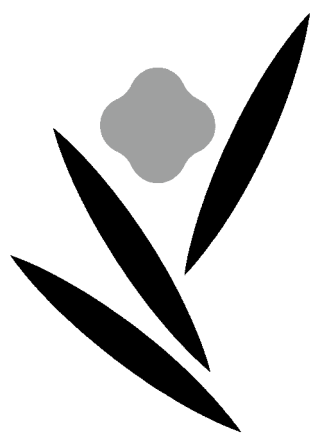


授 業 計 画

平 成 30 年 度



福島学院大学 短期大学部

保 育 学 科

授業計画について

授業計画はシラバスとも呼ばれ、本学が学生の皆さんに提供する授業に関する計画書です。授業ごとに、担当教員、授業概要、到達目標、各回の授業内容、到達度の評価などが記載されています。

また、それぞれの授業時間以外の必要な学修についても明記されていますので、予習・復習を励行するようにしてください。

この授業計画は、学生の皆さんが授業を学ぶための基本的な資料になります。熟読してそれぞれの履修計画を立ててください。

1. 保育学科の教育目標

保育学科においては、多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材を育成することを教育目標としています。

2. 保育学科の学習成果

保育学科では前述の通り、「多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った人材育成」を目指しており、皆さんには、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を取得することを奨励しています。

免許状・資格取得そのものを卒業要件とはしていませんが、学習成果はこれに沿って以下のように設定しています。

- (1) 幼稚園、保育所、認定こども園にかかわらず、地域社会や家庭など様々な保育ニーズに対応し、実践者として活躍できる保育者となる理論と実践を身につけている
- (2) 学内・学外実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題の把握や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を修得している

3. 保育学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、入学希望者選考の方針に示すように創立者の信念に基づき、さらに教育課程編成の方針に示すように専門の学芸を教授し、職業又は實際生活に必要な能力を育成するとともに、地域社会の向上に寄与できる有為な人材の育成を目指しています。これを踏まえて、学則に示された所定の要件を満たした者に本学の卒業を認め、学位を授与します。

保育学科は、子育てに関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成を目指す学科教育に基づき、教養教育科目及び専門教育科目において指定された科目を履修し、定められた単位を修得する事が基本となります。

各科目には、科目それぞれに対応する教育目標として、知識や技能、論理的思考力、文章・身体・感性等に関する表現力、課題対処力、多様性の理解力や対人関係構築力の獲得などが設定され、単位が認定されます。

これら個々の評価を本学が定めるGPA基準により総合的な学修経験を通して修学したと学科会議で認められた者に、学長は教授会の議を経て卒業を認め、「短期大学士（保育学）」の学位を授与します。

4. 保育学科学生の努力目標

- (1) 保育学科では、「幼稚園教諭二種免許状」と「保育士資格」が取得できます。
平成27年度施行の「子ども・子育て支援制度」では、幼保連携型「認定こども園」で従事する保育教諭に対して、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が求められています。従って、卒業時に両方を取得できるようにしましょう。
- (2) 保育者として望まれる諸資質、すなわち明朗、思慮深さ、思いやり、使命感、責任感、研究意欲、協調性などを身につけるようにしましょう。
- (3) 教育・保育実習は保育者になるための大切な体験です。実習とその事前・事後指導を通して、子どもの発達上の諸課題や子どもの生活行動を正しく把握して、保育者に必要な知識、技術、態度を身につけましょう。
- (4) 教育・保育に関するイベント、研修会などのボランティア活動へ積極的に参加し、子ども理解とコミュニケーション能力の向上に努めるとともに、地域社会にも貢献するようにしましょう。

5. 保育者に求められるもの

多様な保育ニーズに対応できる教養と専門的な知識・技術を持った保育者になるために、次の点が求められます。よく理解して努力しましょう。

- (1) 保育者は子どもを愛する強い信念が必要です。本学の建学の精神「真心こそすべてのすべて」に基づいた誠実さや思いやりを持つようにしましょう。
- (2) 子どもに接する保育者にとって、明るく、豊かな人間性は必要不可欠です。子どもの心にそって物事を考え対応できるようにしましょう。
- (3) 世の中の新しい動きにも関心を持ち、幅広い知識を身につけ保育やその周辺領域の理解を深めるため、日ごろから新聞などに親しみましょう。
- (4) コミュニケーション能力の優れた保育者を目指しましょう。保育者は子どもの思いを大切にしながら、同僚や保護者とも良好な関係作りが必要です。
- (5) 子ども自身の事柄ばかりではなく、保護者の要望や地域社会の要請など、現場では様々な問題や課題が生じます。どのような場面でも、ゆとりを持って対応できる強くてしなやかな「心」を持った保育者を目指しましょう。
- (6) 保育現場は日進月歩でマンネリ化は許されません。常に探求心を持ち、授業などで疑問に思ったことは積極的に質問したり調べたりしましょう。
- (7) 自分の人間力を向上させるため進学も視野に入れましょう。卒業後は、本学福祉学部への進学も検討しましょう。

注：「保育者」

保育者（ほいくしゃ）とは、乳幼児、児童の教育・保育に直接かかわっている、保育士・幼稚園教諭・保育教諭の総称として理解され、それぞれを示す言葉ではありません。

6. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、感銘と感動を与え、知的好奇心を喚起する授業の実施を目指すとともに、自らの人生を創造的に生きようとする学生への支援を理念とし、学院創立者の信念である「真心こそすべてのすべて」という建学の精神に基づき、Sincerity（真心）とHospitality（思いやり）を教育の根本におき、広く知識を授けるとともに、専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、地域社会に積極的かつ実践的に貢献することを人材育成の基本的精神としています。

本学は地域社会に根ざし、広く地域の各分野に貢献できる人材育成を目指しています。教養教育科目と専門教育科目からなる体系的な教育課程を編成し、職業又は實際生活に必要な知識と技術を培うための実践的な科目を設定しています。

保育学科の専門教育科目は、子育てに関する多様な変化と時代背景に対応した人材の育成を目指し、多様なニーズに対応できる専門的な知識・技術を持った人材の育成を図るための科目を設定しています。

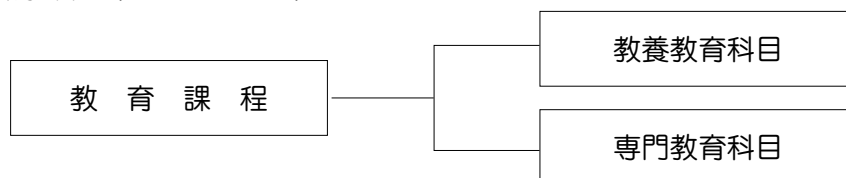
専門教育科目の学びを通し、教育・保育に関する専門職として必要な知識や技能を修得し、さらに子どもの育ちに対する深い洞察力をもって、一人ひとりの特性に柔軟に対応した教育・保育の実践を担う人材の育成ができるよう、教育課程を編成しています。

なお、「教員免許課程」および「指定保育士養成」に基づく教育課程を履修し、単位を修得した者に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格が取得できるよう教育課程を編成しています。

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

保育学科で開設されている授業科目は、「教育課程表」（別表）の通りです。教育課程は、教養教育科目と専門教育科目に大別されています。

教育課程（カリキュラム）



(2) 教養教育科目の教育課程

教養教育科目は、次の6つの科目分野に分かれています。

教育方針

「本学の教育」は、本学学生として、建学の精神、教育理念、および特色ある教育について理解し、実践することを共に考える科目です。そして、建学の精神の高揚に努め、学生生活の充実を図るとともに、社会的貢献について考えることができる人材育成を目標としています。

表現力向上分野

教養ある社会人として、最低限身につけておかなければならない基礎知識は数多くありますが、本学では、明快適切な自己表現によって、より良い人間関係を作り上げていくことを教養教育の基本としています。特に正しい文字言語と音声言語の修得を基本とした、豊かな国語力は必要なものとして重視しています。

本来、国語力を身につけるには、“より多く読み、より多く聴き、より多く書き、より多く話す”ことが最良の方法であると言われていますが、これには多くの時間が必要です。しかし、漢字・成語などの読み書き、意味の理解の基本的なものに限定すれば、比較的短期に修得が可能と思われます。話す・書くについても、生活のさまざまな具体的場面に即した実践的方法を身につけることによって、表現力の向上を図ることができます。

本学では、文章並びに会話による表現力の修得を目的とした「国語表現」（4単位）を必修として開設するとともに、授業の一環として、「国語表現」統一テスト（文字・成語テスト、小論文テスト、対話テスト）を実施し、国語力を集中的に身につけることに力を入れています。各テストの実施日（予定）は、学科の学事・行事日程をご覧ください。正式な日時や教室は教務課から、事前に掲示により明示されます。

なお、「国語表現」の担当者から、「書写演習」「会話演習」の受講を指定された学生は必修科目とします。その授業を必ず履修し、単位を取得してください。

*「書写演習」… 悪筆（くせ字など）で矯正が必要であると判断された学生が受講を指定されます。

*「会話演習」… 人前で話すことが苦手などで会話力を向上させるために受講を指定されます。

情報教育分野

現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける科目です。

保育学科では、入学時の学生の情報機器操作スキルに格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、次のようなレベル別授業を展開しています。

なお、履修レベルは、入学前研修会、およびオリエンテーション時の課題作成など、スキル状況を確認して決定します。

「情報機器操作Ⅰ」 初級レベル	} 選択必修科目
「情報機器操作Ⅱ」 中級レベル	
「情報機器操作Ⅲ」 中級習熟レベル	

「情報機器操作Ⅳ」 メディアミックス活用上級レベル（選択科目）*平成30年度は休講

※初級レベルの履修者は、中級レベルまで、計4単位以上を必修としています。

教養分野

現代社会において、大学生の一般的なマナーの悪さがよく取り沙汰されています。大学在学中、学外実習や就職活動の際も実習先や求人先から、マナーの欠如が指摘されます。そこで、「生活教養」の科目を設け、人間関係を円滑に図るためのマナー教育（冠婚葬祭の基礎知識を含む）を必修科目として位置づけています。

また、教養を兼ね備えた保育者になるためには、一般的な幅広い教養「音楽」「美術」「文学」などに親しみ、学びを深めることも重要です。

教養分野の科目は選択科目ですが、保育者を目指す学生にとって、興味を持って受講できるように、そして専門教育にも繋がるような授業内容としています。

「音楽演習」（2講座を開設）

さまざまなジャンルの音楽に親しみ、音楽に対する積極的な興味と理解、鑑賞力を深め、豊かな情操と磨かれた感性を養う科目。

「美術演習」(2講座を開設)

クラフトや動物をモチーフとした絵画・オブジェの制作、季節感を取り入れた作品制作を通して、自然に親しみ教育・保育者としての美的感性を磨き、創造性を育てる科目。

「文学演習」(1講座を開設)

児童文学を取り上げ、子どもの年齢や発達に合わせたお話の選び方などを学び、子どもの夢や想像力を育む教材としてのお話の魅力を修得する科目。

その他、保育施設での危機管理を学ぶ「生活と安全」、女性の身体的特性を学び、保健に関する基礎知識を修得する「女性の保健」、「日本国憲法」(幼稚園教諭免許状必修科目)では、日本国憲法の基本理念・基本構造や教育を受ける権利、児童の権利擁護なども学ぶ内容としています。

国際理解分野

国際理解分野は、国際理解教育と語学教育で構成しています。

<国際理解教育>

本学の「教育の理念」にも掲げている『国際的な視野に立ち、相手のことを理解し、相互理解の心を持つひとを育てます』を具現化する科目です。

「国際理解論」では、変化の激しい今日の国際社会の現状や歴史的な背景などを、映像や新聞、雑誌を利用して学びます。

「国際理解演習」では、本学で企画する海外研修旅行に参加し、各自の研究テーマに沿った事前学習や現地での体験、研修後のレポート作成を通して、諸外国の社会や異文化への理解を深める内容としています。

<語学教育>

国際事情や諸外国の文化を理解し、国際的な視野を形成する上で、その基礎となる英会話を修得する科目です。

国際化の時代、教育・保育施設においても、外国人の子どもたちが幼稚園、保育所などに在籍し、その保護者と関わるが多くなってきています。

そこで、「英会話」は、日常的な事柄を英語で聞き、話すことができる能力を身につけるため、英語の発音、リスニングに重点を置きます。基礎的な語彙力、構文を修得し、通常会話での基本的なコミュニケーションができることを目的としています。

なお、入学時の学生の英語力に格差がある現況から、学生の能力に応じた授業が展開できるよう、「英会話Ⅰ」(ベーシックレベル)と「英会話Ⅱ」(アドバンスレベル)のレベル別授業を実施します。

体育分野

保育・教育者は、活動的な子どもたちと共に行動をする仕事です。常日頃から、体力の維持と健康管理は極めて重要です。

「体育講義」では、日常生活における心身の健康の確立について、特に運動やスポーツの持つ現代的な意味や役割、可能性を探り、学生が生涯にわたり健康なライフスタイルを創造するために必要な知識について学びます。

「体育実技Ⅰ・Ⅱ」は、学生が生涯継続してスポーツに親しむ技術と習慣を身につけ、健康・体力づくりの実践力向上を目標としています。

(3) 専門教育科目の教育課程

幼稚園教諭免許状に関する区分は、教職に関する科目（6科目群）と教科に関する科目に分けています。保育士資格に関する区分は、6科目群に分けて編成しています。さらに、免許状・資格取得以外にも「本学独自の科目」を開設しています。

理論と実践の両面から、多彩な科目を系統的に学び、幼稚園教諭や保育士などに必要な知識・技能、多面的素養を培っていきます。※詳細は次の通りです。

幼稚園教諭免許状取得にかかわる科目区分

教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教育の基礎理論に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

教職実践実習 教育実習

教科に関する科目

国語、算数、音楽、図画工作、体育

保育士資格取得にかかわる科目区分

保育の本質・目的に関する科目

保育の対象の理解に関する科目

保育の内容・方法に関する科目

総合演習

保育実習

保育の表現技術

本学独自の科目 「創作ミュージカル」「特別研究」など

① 幼稚園教諭免許状取得にかかわる教育課程について

教職に関する科目

教職の意義等に関する科目

教職の意義に関する科目として「保育者論」を設定しています。この科目は、教職・保育職の意義や役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、保育者を目指す者が、教職・保育職についての理解を深めるための科目です。そして、将来、教職・保育職に就くことについて多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図っていきます。

教育の基礎理論に関する科目

教育の基礎理論に関する科目として「教育原理」「教育行政」「教育心理学」「発達心理学」を必修科目としています。

「教育原理」「教育行政」では、教育の理念、並びに教育に関する歴史および思想を学び、教育に関する体系的、基礎的な理論について理解します。

さらに教育行政の考え方や仕組み、並びに教育制度の変遷等を理解し、学校経営の在り方について考えを深めていきます。

「教育心理学」「発達心理学」では、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を修得し、子どもへの理解を深めていく科目です。子どもの心身の発達と保育・教育実践について理解を深め、教育・保育における発達援助について学びます。

教育課程及び指導法に関する科目

教育課程及び指導法に関する科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」「教育方法及び技術」などを必修科目としています。

「保育・教育課程論」では、保育・教育の目的達成のために編成される教育課程の意義やその必要性および法的根拠、教育課程の編成手順・方法を理解します。そして、保育・教育の具現と充実を図るための具体的な指導計画や保育・指導案を作成することができるようにします。

「保育内容総論」は、保育内容の指導法の総論と位置づけ、5領域の教科の学びとともに、それを総合的に捉える視点を養い、教育・保育の全体構造の理解に基づいて、子ども理解や教育・保育方法について学びます。

また、「保育内容指導法」5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）は、それぞれの領域について理解を深め、保育者として、発達過程に即して子どもを理解し、総合的に指導・援助ができる実践的な力を修得します。

「教育方法及び技術」は、教育の方法と情報機器、および教材の活用を踏まえた内容としています。

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目

生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目として、幼稚園教諭免許状必修に関わる「教育相談」は、教育相談の理論・方法とカウンセリングに関する基礎的な知識を含めた内容です。

教職実践実習

「保育・教職実践演習（幼稚園）」は、教職課程の履修を通じて、保育者として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するため、卒業年次の後期に開設しています。

教育実習

教育実習に関する科目として「教育実習」、保育士資格取得のための実習科目（6科目）で構成しています。「教育実習」（事前・事後指導1単位を含む）は、本学認定こども園（幼保連携型）での基本実習を1週間と、幼稚園等での教育実習を3週間、合計4週間の実習を実施します。

教科に関する科目

教科に関する科目は、保育者としての基本的な知識と表現技術を修得するための科目です。

音楽の楽器演奏の表現技術を身につける科目として、「ピアノ演習」と「ギター演習」はどちらかを選択して、1年次の必修科目として設定しています。

「ピアノ演習」は、入学時の演奏技術によりグレードを4段階（初心者・初級者・中級者・上級者）に設定し、グレード別指導を展開しています。「ギター演習」は、ギター演奏の技能を修得するとともに、保育・教育現場で生かすことができる技術を身につけていきます。

※詳細は「保育学科で学ぶ専門音楽」を参照。

その他、幼稚園教諭免許状取得に関わる5教科（国語、算数、幼児音楽、図画工作、幼児体育）を開設しています。

② 保育士資格取得にかかわる教育課程について

保育の本質・目的に関する科目

保育の本質・目的に関する科目は、「保育者論」「教育原理」「保育原理」「社会的養護」「社会福祉」「相談援助」「児童家庭福祉」の7科目を保育士の必修科目として設定しています。

保育者の役割、責務、定義、および保育者に求められる今日的課題などを踏まえ、子どもの教育・保育と保護者支援を担う保育者としての専門性などを学ぶ科目としています。

保育の対象の理解に関する科目

保育の対象の理解に関する科目は10科目で構成し、その内、必修科目は6科目を設定しています。

「教育心理学」「発達心理学」は、子どもの発達に関わる心理学の基礎知識を学び、子ども理解に基づく発達援助を行う実践力を修得する内容としています。

「子どもの保健」、「子どもの保健Ⅱ」では、子どもの健康と保健の意義、子どもの疾病と適切な対応の仕方などを具体的に学んでいきます。

「子どもの食と栄養」は、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、家庭や学校、児童福祉施設における食生活の現況と課題について学びます。

「家庭支援論」では、家庭支援の意義と役割、子育て家庭の支援体制などを理解していきます。

保育の内容・方法に関する科目

保育の内容・方法に関する科目として、幼稚園教諭免許状、保育士資格取得の必修科目として「保育・教育課程論」「保育内容総論」「保育内容指導法」（健康）（人間関係）（環境）（言葉）（表現）の5領域を設定しています。

さらに、保育士資格取得の必修科目「社会的養護内容」「保育相談支援」「乳児保育」「障害児保育」も開設しています。

総合演習

総合演習に関する科目は、「保育・教職実践演習（幼稚園）」を設定。この授業は卒業年次の後期に必修科目として開設します。今まで学んだ授業科目や「教育実習」「保育実習」、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」を通しての学びを踏まえ、保育者として必要な資質能力を確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認するための内容としています。

保育実習

保育実習に関する科目として、「保育実習指導」「保育実習」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」「保育実習Ⅲ」の6科目と、幼稚園教諭免許状取得の科目「教育実習」で構成しています。

「保育実習」は、「保育実習指導」の事前指導後に「保育所実習」と「児童福祉施設実習（保育所を除く）」、おおむね10日間ずつの実習を実施します。

「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」は、どちらかを選択し、「保育実習指導Ⅱ」もしくは「保育実習指導Ⅲ」の授業後に、おおむね10日間の実習を行います。

保育の表現技術

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を修得するために、保育士資格取得の必修科目として、「ピアノ演習」「ギター演習」「幼児音楽」「図画工作」「幼児体育」の5科目を設定しています。

③ 本学独自の科目について

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得に関わる科目の他に、本学の特色ある専門教育科目として、実践的な知識・技術力を修得することを目的に、次の4科目を設定しています。

「創作ミュージカル」

総合芸術であるミュージカルを作り上げ、その成果を舞台上で表現（発表）します。現代社会に必要とされるコミュニケーション能力や自己表現力を高めることも目的の一つとなっています。

「バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流」

本学認定こども園の姉妹園でもあるインドネシアバリ島のハラパン幼稚園を訪問し、幼児教育の実際を現地ですべて学びます。また、バリ島での異文化体験をすることにより、自国の文化との比較研究を行います。

「特別研究」（2講座を開設）

『子どもと園芸』

幼稚園や児童福祉施設などで役立つ野菜栽培や草花を育てるなどの園芸活動を体験的に学習します。

『園行事DVD制作演習』

映像制作の基礎知識と技術を学びます。本学認定こども園の行事を題材に、企画・撮影・編集・完成までを実際に学生自身が行い、体験を通して映像制作を理解します。

「特別研究Ⅱ」（2講座を開設）

『障害児生活支援演習』

身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした技術を修得します。さらに、車椅子介助の基本などについても、実践を通して学びます。

『保育者の表現遊び』

保育者としての必要な歌・踊り・制作遊びなどの表現活動を体験し、学外実習でも実際に活用できる遊びを実践的に学んでいきます。

④ 保育学科で学ぶ専門音楽について

保育学科では保育現場に即した授業内容・授業形態を導入しています。

「幼児音楽」（必修科目）

- (1) 保育現場に即した様々な幼児の歌（童謡・唱歌・生活・行事の歌、あそび歌、踊りの歌、アニメソング）を学びます。
- (2) 簡単な音楽理論（音楽の三要素やキーボードハーモニー奏法を含む）、簡易楽器やハンドベル・トーンチャイムの奏法を修得します。
- (3) 保育現場における、気になる子や発達障害児に対応するための音楽療法も学びます。
- (4) 表現力を身につけるためのミニ・ミュージカルを体験します。

「幼児音楽Ⅱ」（選択科目）

幼児の歌曲を中心に、コードネームを用いた簡易伴奏法を学びながら、「幼児音楽」、「ピアノ演習」を発展させ、ピアノの弾き語りを中心に学びます。

（幼稚園教諭免許状取得希望者は履修することが望ましい）

「ピアノ演習」（選択必修科目）

- (1) 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得します。
- (2) 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）、練習曲（バイエル・ツェルニー等）を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学びます。
- (3) 学生それぞれのピアノ演奏技術に応じて、以下の4つのグレードから一つを選択します。

◆ グレードの名称と選択する際の基準

「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度

「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度

「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度

「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、
バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度

- (4) グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式での授業を展開します。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック（確認テ

スト)を受けます。

「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲 + 歌曲20曲)

「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲 + 歌曲24曲)

「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲 + 歌曲31曲)

「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲 + 歌曲39曲)

- (5) 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行することができます。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組み、高得点取得を目指します。

「ギター演習」(選択必修科目)

ピアノ以外の楽器で、ギターを履修したい学生を対象に授業を実施します。

(履修者7名以上で開講。練習用ギターは各自で準備)

※1. 「幼児音楽」、「ピアノ演習」または「ギター演習」の単位を取得しないと、「教育実習」を履修することはできません。

※2. 「ピアノ演習」と「ギター演習」のどちらも学びたい方は、授業担当者にご相談ください。

7. 履修と免許状・資格の取得

(1) 単位制と履修方法について

授業科目は、教育課程表にまとめられています。この中から卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得するために必要な科目と単位数を確認して、履修する授業科目を決めていきます。

- ① 単位とは学習時間を表したものであって、ある科目について所要の時間数を履修し、その試験に合格したとき、あるいは授業科目担当者がその科目を履修したことを認定した時に単位を取得したことになります。
- ② 学習時間は年間を前期(4月1日～9月30日)と後期(10月1日～3月31日)の2期に分け、1期15週とします。授業科目によっては前後各1期で完結する「半期科目」と、1か年(通年)30週で完結する「通年科目」があります。
- ③ 単位の計算方法は「短大設置基準」に基づいて本学学則に定められています。各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間以外に必要な学修を考慮して、次の基準により計算します。

○講義および演習については、15時間から30時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

○実験・実習および実技については、30時間から45時間の範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

○授業時間は2時間連続(正味90分)を1時限としておりますので、各時限を2時間として単位の計算をします。

なお、本学宮代キャンパスの授業時間割は次の通りです。

授業時間割

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	8：50～ 10：20	10：30～ 12：00	12：50～ 14：20	14：30～ 16：00	16：10～ 17：40	17：50～ 19：20

④ 授業科目の種類

保育学科に開設されている科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に大別されます。

必 修 科 目	<p>卒業必修科目 保育学科を卒業するために、必ず取得しなければならない科目</p> <p>資格・免許状取得のための必修科目 保育士資格、幼稚園教諭二種免許状を取得のために、必ず取得しなければならない科目</p>
選 択 必 修 科 目	<p>卒業選択必修科目 保育学科を卒業するために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目（例：英会話Ⅰまたは英会話Ⅱ。ピアノ演習またはギター演習）</p> <p>資格取得のための選択必修科目 保育士資格を取得のために、どちらかを選択して必ず取得しなければならない科目（例：保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ）</p>
選 択 科 目	

選択科目はそれぞれが自由に選択して履修することができる科目です。

ただし、履修者数を制限している科目や、卒業は選択科目であっても、資格・免許状を取得するためには必修科目となっている科目等もありますので、授業計画、教育課程表をよくご覧の上、履修するようにしてください。

- 履修者数を制限している科目
⇒ 美術演習（造形を楽しむ）、音楽演習（ポップスの世界） など
- 卒業は選択科目で資格・免許状取得には必修科目となっている科目
⇒ 教育心理学、保育・教職実践演習（幼稚園） など
- 卒業は必修科目で資格・免許状取得には選択科目となっている科目
⇒ 国際理解論、創作ミュージカル など

(2) 免許状・資格の取得について

保育学科においては、免許状・資格に関する授業科目を履修することによって、次の免許状・資格を取得することができます。取得するためのそれぞれの最低必要単位数は表の通りです。

- 幼稚園教諭二種免許状
- 保育士資格

※希望する免許状・資格取得に必要な単位数は100単位程度が適当と思われます。なお、1年間に登録できる履修単位の上限は、おおむね55単位までとします。

最低必要単位数

科 目 名	卒 業	幼稚園教諭	保育士
教養教育科目	17単位	21単位	19単位
専門教育科目	46単位	51単位	62単位
合 計	63単位	72単位	81単位

(3) 履修届について

教育課程表により、卒業に必要な科目と単位、資格・免許状取得に必要な科目と単位とを兼ね合わせて、その授業科目の授業計画と時間割表を参照して、履修する科目を決めます。そして別に配布される「履修届」に記入して、指定の期日までに必ず教務課に提出してください。

① 履修科目の変更

届け出た履修科目（必修科目と学外実習科目を除く）の変更は、1回目の授業が開始された日から2週間以内であれば「履修変更届」を教務課へ提出し、他の科目への変更を行うことができます。

② 履修科目の放棄

授業科目を実際に履修してみて、履修の継続が困難になった場合、必修科目を除き、その科目の授業開始日から2週間以内であれば、「履修科目放棄届」により履修を放棄することができます。

ただし、学外実習の科目を放棄する場合は、実習開始日の2週間前までに届けを出してください。

履修科目の変更・放棄をする場合は、必ずクラスアドバイザー等に相談してから、速やかに手続きをとってください。手続きがないまま欠席を続けると「欠格」になりますので注意してください。履修についての疑問や不明の点は、担当教員または教務課にお尋ねください。

(4) 成績評価と単位認定について

本学では、評価の公正化と厳格性を確保するため、「素点」と「単位数」をもとにGPA（グレード・ポイント・アベレージ：成績評定平均点）を算出する方法を取っています。

① 成績評価は、100点を満点として、60点以上を合格、59点以下を不合格とします。成績は6段階となっており、評価点ごとの点数は次の通りです。

A+（100～90点） C（69～60点）

A（89～80点） D（59～50点）

B（79～70点） F（50点未満）

※ GPAの向上のため、C以下の評価点を得た授業科目は、「再履修願」により再履修をすることができます。

② 単位の認定は、当該授業科目の担当教員が、次の条件を備えた者に対して行います。※詳しくは、「履修規程」第6条、第11条をご覧ください。

○ **通常の授業については、必要な時数として定められた時数の3分の2以上を出席した者**

・定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、期末試験への出席も認められません。そして、単位認定は行われず「欠格」となります。実習や病気などのやむを得ない場合を除き、欠席はしないようにしてください。（遅刻や早退については、30分以上を欠席とし、30分未満の場合は、3回で1回の欠席とみなされますので、欠席回数を計算するときは、これを加えることも忘れないようにしてください）

○ **学外実習を伴う実習科目の事前・事後指導は、時数の5分の4以上出席し、かつ当該現場実習において、定められた全ての日数および時数を出席した者**

・5分の1を超える時数を欠席した場合、および当該現場実習において欠席した日数分の延長を行わなかったときは、当該科目が「欠格」となりますので、十分に注意してください。

○ **海外実習（演習）を行う場合は、当該実習（演習）における所定の全プログラムに出席した者**

・体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行います。

成績評価への補足的対応措置

成績評価の際、私語や欠席などに対して、以下の措置が取られ、成績評価点から減点されます。また、授業担当教員が禁止した事項等によっても、減点されることもありますので注意が必要です。

○ 授業内容に関係のない私語、授業の流れを阻害する学生の私語

- ・注意1回につき1点減点

※同一学生の注意3回以降は1回につき2点減点。そして、必要と判断した場合は履修制限に関する細則に従い、退席指示、履修取消などの措置がとられます。

○ 遅刻・早退・欠席

- ・遅刻・早退1回につき1点減点
- ・欠席1回につき3点減点

※遅刻・早退3回で1回の欠席となった場合は、その欠席分は減点されません。

また、次の場合の欠席等は減点の対象から除外されます。該当したときは、各授業担当教員に事前、もしくは事後に「事由書」を文書（書式自由）で提出してください。

- ① 学内外における本学所定の実習を実施する場合（基本実習、保育実習、教育実習等）
- ② 学校保健安全法の規定に基づく、学長による出席停止の指示に従う場合
- ③ 裁判員制度による裁判員に選任された場合
- ④ 就職試験（面接を含む）を受験する場合
- ⑤ 公共交通機関の遅延や運休による場合
- ⑥ 悪天候または事故等により、やむを得ない場合
- ⑦ 親族の不幸等やむを得ない場合

○ 欠 格

定められた授業回数の3分の1を超える回数を欠席した場合は、上記、①から⑦までの場合を含めて欠格とし、期末試験への出席は認められず、単位認定は行われません。

○ 質疑応答

〈指名応答〉

- ・指名した学生が質問に適切に応答したと認めるときは、その内容の評価に応じて1回につき1～2点が加点されます。
- ・質問に不適切な応答をしたと認めるとき、または質問に答えられなかったときは、1回につき1点が減点されます。

〈自発的応答〉

- ・授業担当教員の質問に対して、自ら挙手するなど学生が自発的に適切に応答したと認めるときは、その内容の評価に応じ1回につき1～3点が加点されます。
- ・学生の自発性および授業の双方向性推進の措置として、全授業回数中、授業担当教員の質問に対し、学生が自発的応答を1回もしなかったときは、5点が減点されます。

○ 小論文（宿題）

- ・未提出の小論文1件につき2点が減点されます。
- ・授業担当教員が小論文を優良と評価したときは、小論文1件につき内容の優良さに応じて1～3点が加点されます。

○ 小テスト

授業の理解度を計る小テストについて授業担当教員が優良と認めた場合は、小テスト1件につき評価により1～3点が加点されます。

○ 期末試験としてのレポート提出を課す場合

- レポートは原則として試験期間開始前に提出します。
- 授業担当教員が指定する締め切り期限を過ぎた場合は、期限後1日（土曜、日曜、祝日を含む）あたり、2点減点とします。
- 提出がない場合のレポート評価は零点です。
- 授業担当教員が定めた場合の最低字数に不足する場合も適宜減点されます。また、字数の上限を定めた場合で、それを超えた場合も同様です。

授業受講上の留意点

授業を受講する際の留意点は「学生受講規程」に定められています。この規程の第2条には、下記のようなマナーに反した受講態度は禁じられています。よく読んで授業に臨んでください。

- コート類、小物類（マフラー・帽子等）着用の教室入室、及び受講
- 授業の進行を妨げるような私語
- 携帯電話等の送信や交信
- 飲食や喫煙行為
- 授業担当者の意欲を阻害するマナーの悪い居眠り
- 授業に関係のない荷物（バッグ・紙袋など）を机上に置くこと
- 授業中の教室への無断入退室

(5) 進級制限について

次のいずれかに該当する者は、2年次への進級を認めないことがあります。

1年次は比較的行事も少ないので、進級や2年次以降の学外実習に向けて、勉学に励むようにしましょう。

- ① 1年次の取得単位数20単位未満の者
- ② 1年次のGPAが65点未満の者

平成30年度 保育学科教育課程

教養教育科目

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
教育方針			
本 学 の 教 育	1		
表現力向上分野			
国 語 表 現	4		
書 写 演 習		1	指定者必修
会 話 演 習		1	指定者必修
情報教育分野			
情 報 機 器 操 作 I		2	初級レベル } 中級レベル } 中級習熟レベル } メディアミックス活用上級レベル ※平成30年度休講
情 報 機 器 操 作 II		2	
情 報 機 器 操 作 III		2	
情 報 機 器 操 作 IV		2	
教養分野			
生 活 教 養	4		
生 活 と 安 全		2	
音 楽 演 習		2	
美 術 演 習		2	
文 学 演 習		2	
食 彩 演 習		1	※平成30年度休講
日 本 国 憲 法		2	
女 性 の 保 健		2	
国際理解分野			
英 会 話 I		2	ベーシックレベル } アドバンスレベル } いずれか 2 単位必修
英 会 話 II		2	
国 際 理 解 論	2		
国 際 理 解 演 習		2	
体育分野			
体 育 講 義	1		
体 育 実 技 I	1		
体 育 実 技 II		1	※平成30年度休講

専門教育科目

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
保 育 者 論	2		
社 会 福 祉	2		
相 談 援 助		1	
児 童 家 庭 福 祉	2		
教 育 原 理	2		
保 育 原 理	2		
社 会 的 養 護		2	
教 育 行 政		2	

授 業 科 目	単位数		備 考
	必修	選択	
教 育 心 理 学		1	
教 育 心 理 学	2		
発 達 心 理 学		2	
臨 床 心 理 学		2	
臨 床 心 理 学		2	
子 ど も の 保 健	4		
子 ど も の 保 健	1		
子 ど も の 食 と 栄 養		2	
家 庭 支 援 論		2	
保 育 ・ 教 育 課 程 論		2	
保 育 内 容 総 論		1	} この内より4単位必修
保 育 内 容 指 導 法			
(健 康)		1	
(人 間 関 係)		1	
(環 境)		1	
(言 葉)		1	
(表 現)		1	
教 育 方 法 及 び 技 術		2	
教 育 相 談		2	
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)		2	
社 会 的 養 護 内 容		1	
保 育 相 談 支 援		1	
乳 児 保 育	2		
障 害 児 保 育	2		
幼 児 音 楽 (子 ど も の う た)	2		
幼 児 音 楽 (子 ど も の う た) II		2	
ピ ア ノ 演 習		2	} いずれか2単位必修
ギ タ ー 演 習		2	
ピ ア ノ 演 習 II		2	
図 画 工 作	2		
幼 児 体 育	2		
国 語		2	
算 数		2	※平成30年度休講
創 作 ミ ュ ー ジ カ ル	2		
パ リ ダ ンス レ ッ ス ン と パ リ 島 幼 稚 園 交 流		2	
特 別 研 究		2	
特 別 研 究 II		2	
教 育 実 習		5	事前・事後指導1単位を含む
保 育 実 習 指 導		2	
保 育 実 習		4	
保 育 実 習 指 導 II		1	
保 育 実 習 II		2	
保 育 実 習 指 導 III		1	
保 育 実 習 III		2	

※詳細は入学時に配布した「教育課程表」をご覧ください。

平成30年度 保育学科「授業計画」目次【1年生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教養教育科目									
本学の教育	小松由美	1		1		1			21
国語表現	田上貞一郎	4		4		4			23
書写演習	田上貞一郎		1		1		1	指定者必修	29
会話演習	藤間久子		1		1		1	指定者必修	31
情報機器操作Ⅰ (初級レベル)	木谷徳智	2		2		2		入学時の能力検定により、履修レベルを決定する。2単位以上必修とするが、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで、計4単位以上を必修とする。	33
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	酒井創		37						
情報機器操作Ⅲ (中級習熟レベル)	金澤聡一		45						
生活教養	渡辺雅子	4		4		4			49
生活と安全	黒津康司		2		2		2		53
音楽演習(音楽鑑賞)	ブルース・ヒューバナー		2		2		2		56
音楽演習 (ポップスの世界)	長久保和子 佐藤香		2		2		2		59
美術演習 (粘土細工を楽しむ)	古畑雅規		2		2		2		63
美術演習 (造形を楽しむ)	鈴木美樹		2		2		2		65
文学演習	安田いつ美		2		2		2		68
女性の保健	織田正昭		2		2		2		73
国際理解論	杉浦広幸	2			2		2		82
国際理解演習	佐藤敦子		2		2		2	時間割外 (バリ島研修旅行)	235
	中丸一志			時間割外 (シンガポール研修旅行)		84			
体育講義	藤本 要 島田 貴 要広	1		1		1			86
体育実技Ⅰ	藤本 要 島田 貴 要広	1		1		1			88
専門教育科目									
保育者論	長島輝子	2		2		2			91

社 会 福 祉	高 橋 雄 二	2			2	2			93
児 童 家 庭 福 祉	今 清 孝	2			2	2			97
保 育 原 理	中 野 明 子	2			2	2			101
社 会 的 養 護	神 戸 信 行		2		2	2			104
発 達 心 理 学	小 関 賢	2		2		2			115
子 ど も の 保 健	石 井 佳 世 子	4		4		4			126
保 育 内 容 総 論	鈴 木 智 子		1	1		1			145
保 育 内 容 指 導 法 人 間 関 係	鈴 木 智 子		1	1		1			152
	佐 藤 菊 子								154
保 育 内 容 指 導 法 環 境	杉 浦 広 幸		1	1		1			156
保 育 内 容 指 導 法 表 現	石 田 敏 和 長 久 保 和 子		1	1		1			162
幼 児 音 楽	佐 藤 敦 子	2		2		2			187
ピ ア ノ 演 習	佐 藤 敦 子								196
	ミハウ・ソブコヴィアク				2		2		199
	渡 邊 聡 子	2							205
	池 田 奈 央								208
ギ タ ー 演 習	佐 藤 隆				2		2		219
図 画 工 作	石 田 敏 和								221
	鈴 木 美 樹	2		2		2			
幼 児 体 育	鈴 木 裕 美 子	2		2		2			224
バ リ ダ ン ス レ ッ ス ン と バ リ 島 幼 稚 園 交 流	佐 藤 敦 子		2		2		2		235
特 別 研 究 (園 行 事 DVD 制 作 演 習)	菅 田 清 正		2		2		2		238
特 別 研 究 (子 ど も と 園 芸)	杉 浦 広 幸		2		2		2		241
特 別 研 究 II (保 育 者 の 表 現 遊 び)	長 島 輝 子		2		2		2		244
特 別 研 究 II (障 害 児 生 活 支 援 演 習)	高 橋 雄 二		2		2		2		246
教 育 実 習	長 久 保 和 子 関 本 仁		5	5			5	2 年 間 継 続 履 修	248
保 育 実 習 指 導	鈴 木 智 子		2		2	2		2 年 間 継 続 履 修	251

平成30年度 保育学科「授業計画」目次【2年生】

授業科目	授業担当者	卒業		幼稚園教諭		保育士		備考	ページ
		必修	選択	必修	選択	必修	選択		
教養教育科目									
情報機器操作Ⅱ (中級レベル)	木谷 徳智	2		2		2		1年次、初級レベルⅠの履修者は、中級レベルⅡまで、計4単位以上を必修とする	41
日本国憲法	新村 繁文		2	2			2		71
英会話Ⅰ (ベーシックレベル)	オカンボ・メリッサ・ブラザ 高橋 了治	2		2		2			76
英会話Ⅱ (アドバンスレベル)	オカンボ・メリッサ・ブラザ								79
国際理解演習	佐藤 敦子		2		2		2	時間割外 (バリ島研修旅行)	235
	中丸 一志							時間割外 (シンガポール研修旅行)	84
専門教育科目									
相談援助	八木 孝憲		1		1	1			95
教育原理	関本 仁	2		2		2			99
教育行政	関本 仁		2	2			2		109
教育心理学	田辺 稔		1	1		1			111
発達心理学Ⅱ	小関 賢		2		2		2		117
臨床心理学	小関 賢		2		2		2		119
臨床心理学Ⅱ	小関 賢		2		2		2		121
子どもの保健Ⅱ	渡邊 一代	1		1		1			128
子どもの食と栄養	田村 佳奈美		2		2	2			132
家庭支援論	高橋 雄二		2		2	2			138
保育・教育課程論	渡辺 博志		2	2		2			140
	佐久間 正弘								143
保育内容指導法 健康	佐藤 理		1	1		1			148
保育内容指導法 言葉	田上 貞一郎		1	1		1			158
教育方法及び技術	酒井 創弘 佐久間 正弘		2	2			2		165

教 育 相 談	佐久間 正 弘		2	2		2		167
保育・教職実践演習 (幼 稚 園)	佐久間 正 弘 関 本 仁		2	2		2		174
社会的養護内容	神 戸 信 行		1		1	1		176
保育相談支援	今 清 孝		1		1	1		178
乳 児 保 育	永 澤 孝 子	2			2	2		180
障 害 児 保 育	佐々木 信一郎	2		2		2		184
幼 児 音 楽 II	長久保 和 子 浅 野 洋 子		2		2		2	193
ピアノ演習(初級)								211
ピアノ演習(中級)	ミハウ・ソブコヴィアク		2		2		2	213
ピアノ演習(中上級)								215
ピアノ演習(再)	渡 邊 聡 子	2			2		2	217
国 語	田 上 貞一郎		2		2		2	230
創作ミュージカル	長久保 和 子	2			2		2	232
バリダンスレッスンと バリ島幼稚園交流	佐 藤 敦 子		2		2		2	235
特 別 研 究 (園行事DVD制作演習)	菅 田 清 正		2		2		2	238
特 別 研 究 (子どもと園芸)	杉 浦 広 幸		2		2		2	241
特 別 研 究 II (保育者の表現遊び)	長 島 輝 子		2		2		2	244
特 別 研 究 II (障害児生活支援演習)	高 橋 雄 二		2		2		2	246
教 育 実 習	長久保 和 子 関 本 仁		5	5			5	2年間継続履修 248
保育実習指導			2		2	2		2年間継続履修 251
保 育 実 習	鈴 木 智 子		4		4	4		254
保育実習指導II			1		1	1		255
保 育 実 習 II	鈴 木 智 子		2		2	2		257
保育実習指導III			1		1	1		258
保 育 実 習 III	高 橋 雄 二		2		2	2		260



教養教育科目

授業科目名	本学の教育		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授・学長 小松由美		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等				

【授業の概要】 建学の精神と本学の教育について、映像やパワーポイントを利活用して説明し、学生の理解に役立てる。	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
本学の建学の精神や本学の教育理念及び本学の教育について理解する。			目標	D・H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	開講にあたって オリエンテーション(授業の進め方、評価方法等) ①大学とは何か ②本学の建学の精神と育成しようとする人間像 ③まごころの実践	授業計画、学生便覧 パワーポイント及び映像 利用 ※スーツ着用	学生便覧 「建学の精神」「教育の 理念」を読んでおく
2	本学の教育(1) ～魅力ある授業を目指して～ ①アクティブラーニング授業の実施 ②学生受講規程の説明と学生の授業改善意見 ③授業計画(シラバス)と成績評価の方法 ④本学のGPAとその活用(進級・留年・卒業判定への 活用及び学生の表彰制度) ⑤本学の国語表現教育	学生便覧 ※スーツ着用	学生便覧 諸規程集の「学則」「履 修規程」「学生受講規程」 を読んでおく
3	校歌の練習 第一校歌、第二校歌	校歌歌詞映像利用 学生便覧参照	学生便覧 「校歌」のページを読み、 歌詞を事前に見て、CD を聴き、自分で校歌を口 ずさみ予習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	本学の教育(2) あいさつ ～まごころの始まり～ ①大学生らしい振る舞い、エチケット・マナー ②学生らしい服装（学友会有志をモデルに） ③学生のボランティア活動、社会貢献活動 ④学習スタイルの構築	学生便覧	レポートの構想を練る
5	本学の教育(3) 大学での生活	学生便覧	学生便覧 「大学での生活」を復習する
6	先輩からのアドバイス 卒業生のアドバイス	卒業生の話 (ビデオレターを含む)	レポート作成（レポート提出は6月8日まで）
7	第一校歌斉唱 教員からのアドバイス	映像利用及び資料配布	
8	第二校歌斉唱 レポート発表 ①学生のプレゼンテーション ②レポート総評		
【到達度の評価（評価方法・基準）】 次のいずれかのテーマでレポート（1,000字以上1,200字以内）を 6月8日(金)13:00までに教務課 へ所定の様式にて提出のこと。誤字・脱字の多いもの、内容や趣旨が不十分なものは、再提出を求める。 また期日に遅れた場合は、100点満点から1日につき2点の減点とする。 <レポートのテーマ> ① 私の夢 ② 私のキャリアデザイン } 2つのうちのいずれかを選択			
【教科書】 学生便覧「福島学院大学短期大学部Campuslife2018」および配布資料を使用			
【その他補足事項】 1. 教室はカーサ・フローラ千葉記念ホールで行い、座席は指定とする。出欠は空席を確認して行う。 2. 欠席、遅刻、授業中の態度等については、授業計画の「成績評価への補足的対応措置」に沿う。 3. 授業回数の少ない授業のため、欠席回数に注意して欲しい。 4. 授業内容は進度によって前後することがある。 5. レポートの評価は、コメントを付して返却する。			

授業科目名	国語表現		授業形態・単位数	講義及び演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 田 上 貞一郎 <small>た がみ ていいちろう</small>		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 敬語の使い方・教育・保育実習での話し方、就職面接、小論文作成など、保育者になる上で避けて通れない課題について、会話・文章の両面から詳しく解説する。 さらに職場の先輩や保護者との会話、園だより・連絡帳の書き方についても触れる。実習礼状はもちろん実習日誌・指導計画の書き方についても国語表現の観点からその留意点などについて学修していく。 授業進行はワークシート提出形式の演習を25回程度課すなど実践的内容とする。 また、本学では国語力向上を目指し、統一テスト（「文字・成語」「小論文」「対話」の三テスト）を実施し、それらの成績を加味して授業の成績評価を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	J	多様性への理解力、応用力		
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育者として恥ずかしくない国語表現力の習得を目標とする。			目標	A・B・C
教育・保育実習から現場で保育者になったとき即戦力となるよう、実践的な授業を通して国語表現力のアップを目標とする。			目標	A・B・D・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) (4) 統一テストについての説明	自己プレゼンテーション (自己紹介・自己アピール発表) 教材: 授業計画 学生便覧 教科書	自己紹介の準備 授業計画の確認
2	保育者としてよい国語表現をするために(1) ～鋭い観察眼を持って～など	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習
3	保育者としてよい国語表現をするために(2) ～自立した保育者になるために～など	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習
4	保育者を目指すみなさんへ ～現場からの生の声～	指名問答 朗読 教材: 教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	聞き取りやすい話し方の基本 ～滑舌練習、早口言葉～など あいさつ～トレーニング法～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：滑舌、早口言葉の練習
6	滑舌、早口言葉の練習成果発表 ～全員に発表してもらう～	口頭発表 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
7	敬語の使い方 ～上司や先輩への言葉遣い～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート①作成
8	保育者の発声 自己紹介の仕方～留意点～など (ワークシート①提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート②作成
9	実習先との話し方 ～アポの取り方～など (ワークシート②提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
10	実習現場での話し方 ～感性を磨く～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
11	子どもへの言葉かけ ～話を引き出す～など	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
12	就職面接 保護者との話し方 保育現場での電話	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑬⑭作成
13	文字を正しく書こう 正しい表記で書こう (ワークシート⑮⑯提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳㉑作成
14	文章作成上の留意点 ～当て字に注意する～など (ワークシート⑳㉑提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉒㉓㉔ 作成
15	文章の基本的な書き方 ～読み手に思いやりを～など (ワークシート㉒㉓㉔提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉕㉖作成
16	実習日誌の書き方(1) ～なぜ、実習日誌を書くのか～など (ワークシート㉕㉖提出)	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
17	実習日誌の書き方(2) ～注意したい用語表現～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉗作成
18	指導計画の書き方(1) ～指導計画の種類～など (ワークシート㉗提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
19	指導計画の書き方(2) ～計画する際の留意点～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉘作成
20	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート㉘提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート㉙㉚㉛㉜ 作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	実習礼状など手紙・ハガキの書き方(2) ～実習礼状を実作する～ (ワークシート⑬⑭⑮⑯提出)	実習礼状作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
22	メールの書き方	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑰作成
23	履歴書の書き方(1) ～書く上での留意点～など (ワークシート⑰提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑱作成
24	履歴書の書き方(2) ～履歴書を実作する～ (ワークシート⑲提出)	履歴書作成 指名問答 朗読 ワークシート返却 送り状作成 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
25	小論文の書き方(1) ～作文と小論文の違い～など	指名問答 朗読 ワークシート返却 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：小論文「事例」の書写
26	小論文の書き方(2) ～構成を考えて書く～など (小論文「事例」の提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：新聞「社説」の書写
27	小論文の書き方(3) ～小論文を実作する～ (新聞「社説」の提出)	「事例」の返却 小論文 作成 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
28	連絡帳の書き方 ～書く上での留意点～など	「社説」の返却 指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：ワークシート⑳作成
29	園だよりの書き方 ～パソコンで書くときの留意点～など (ワークシート㉓提出)	指名問答 朗読 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
30	まとめ ～保育者になる上で国語表現の重要性について発表～	口頭発表 指名問答 ワークシート返却 教材：教科書	口頭発表の準備
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書の朗読（10%）、口頭発表（10%）、授業中の作成物（10%）、ワークシートの提出（50%）、「文字・成語テスト」（10%）、「小論文」（5%）、「対話テスト」（5%）から客観的に評価する。詳しくは、学生便覧に記載されている「国語表現」統一テストの内容と実施の項目を確認すること。 ※欠席1回につき3点減点とする。 ※教科書忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育者になるための国語表現 著者名：田上貞一郎 発行所：萌文書林 価格：1,800円（税別）			
【その他補足事項】 悪筆（くせ字など）で矯正が必要な方、人前で話すことが苦手な方などは、後期開講の「書写演習」「会話演習」の受講者指定を次の方法により行う。指定された場合は必ず受講し、単位を取得しなければならない。 <ul style="list-style-type: none"> ・「書写演習」… 課題の提出物を精査して受講者を指定する。 ・「会話演習」… 授業終了前の「本日のポイント」についての口頭発表（5名程度）、滑舌・早口練習の成果発表ならびに教科書の朗読、指名問答時の返答など会話全般から判断して受講者を指定する。 			

授業科目名	国語表現		授業形態・単位数	講義及び演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{あらかわ} 荒川 ^{まもる} 守	[本務先：オフィスゼロワン 職名：代表取締役]	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教育教養科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教育教養科目	必修	
保育士資格		教育教養科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目では、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成していく。特に社会人（保育者）として必要な伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばすよう会話・文章の両面から解説する。また実習先での実習日誌の書き方、実習礼状やメールの書き方についても国語表現の観点から、その留意点などについて修得していく。 また、本学では国語力向上を確実なものとするため統一テスト（「文字・成語」「小論文」「対話」の三テスト）を実施し、それらの成績を加味して授業の成績評価を行うこととする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力		
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
実習先での自己紹介、話し方がきちんとできるようになる。		目標	A・B・C・D・I	
先輩や上司に対して、敬語を駆使して表現・会話ができるようになる。		目標	A・B・D・F・H・I・L	
文章の基本的な書き方で、自分の視点で表現・説明ができるようになる。		目標	A・B・D・K	
実習日誌や実習礼状で意思が届く表現力が身につく。		目標	A・B・D・H・K・L	
小論文やプレゼンテーションをすることで発信力・発言力が身につく。		目標	A・C・D・F・I・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の内容と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 (3) その他（本科目の留意点） (4) 統一テストについての説明	教材：授業計画 教科書	授業計画の確認 漢検 p14～35、 p132～150を練習
2	小テスト実施／音読解答(1) 書き取り練習	漢検ポケット・漢検テストの 解答を板書する	漢検 p96～131を練習
3	小テスト実施／音読解答(2) 書き取り練習	漢検ポケット・漢検テストの 解答を板書する	漢検 p56～95を練習
4	小テスト実施／音読解答(3) 書き取り練習	漢検ポケット・漢検テストの 解答を板書する	教科書 p112～124を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	小論文の書き方(1) 作文と小論文の違いを知る	教科書・具体的なトレーニングを通して意見と根拠を短文にする	小論文の題材を探す
6	小論文の書き方(2) ～構成を考えて書く～	教科書・与えられた論題から適切な問いを見つけ実作する	小論文の実作
7	小論文の書き方(3) 小論文の留意点を理解し実作する	教科書・小論文の留意点を理解し実作する	小論文の実作 教科書 p 18を読む
8	新聞を読む 旅行をする・観察眼・疑問を調べるなど p18までについての考えをまとめる	教科書・p 18までで自分に必要なことをまとめ発表する	教科書 p 20～23を読む
9	聞き取りやすい話し方の基本 発音・発声を正しく、アクセントなど	聞き取りやすく、しかも上手な話し方について学ぶ	オススメの本を探し紹介の準備をする
10	私の「オススメの本」を紹介する 心打たれた本の内容を説明する	発声・発音に始まり、音読やスピーチの基本を練習する	教科書 p 24～25を読む
11	挨拶の仕方(1) 挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証する	教科書・グループを作り、挨拶の仕方ですら相手や自分の気持ちがどのように変化するかを考える	挨拶から次の言葉かけへの話の展開を考える
12	挨拶の仕方(2) 挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証する	教科書・挨拶が人とつながりにどのような影響を与えるかを寸劇で表現する	教科書 p 26～30を読んで具体的な場面を考える
13	待遇表現 ～敬語によるコミュニケーション 敬語が人間関係の調整や場の状況にどのようなにはたらくているか考える（p 141提出）	教科書・自己表現としての敬語の使用法を理解して使用してみる	教科書に沿ってのまとめ
14	中間テスト	教科書・まとめと振り返り	教科書 p 32～36を読む
15	保育者の発声、自己紹介の仕方 ①先生方対象②こども対象③クラス担任として ④研修先 4通りの自己紹介	教科書 p 142を作成する 覚えてから自己紹介を試みる	教科書 p 37～39を読む
16	実習先との話し方 実習での話し方、保護者との話し方	教科書・実習中の話し方で大切なことをグループで考え発表する	教科書 p 40～42を読む
17	保育現場での話し方 保育現場での話し方のポイント	教科書・社会人として話し方に必要なことを探して討論する	教科書 p 43～45を読む
18	子どもへの言葉かけ 言葉かけ、繰り返しの言葉かけ、話を引き出す	教科書・相手から話を引き出すことや話の輪を広げることを練習する	教科書 p 46～50を読む
19	就職面接の仕方(1) 事前の準備、面接、実際の質問内容	教科書・想定質問に答える練習をする	教科書 p 46～50を読む
20	就職面接の仕方(2) 事前の準備、面接、実際の質問内容	教科書・想定質問に答える練習をする	教科書 p 51～54を読む
21	保護者との話し方(1) 基本的な姿勢、人前での話し方	教科書・家庭訪問、保護者会、個人面接を想定して話をする	教科書 p 51～54を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	保護者との話し方(2) 基本的な姿勢、人前での話し方	教科書・家庭訪問、保護者会、個人面接を想定して話をする	教科書 p 55～60を読む
23	電話のマナー 基本的なマナーについて	教科書・電話のマナーを受け手、かけ手に別れ模擬練習し、ポイントを説明する	教科書 p 58～61を読む
24	文字を正しく書く 字を書く際の注意点	教科書・平仮名とカタカナ、教育漢字を書く練習をする	教科書 p 62～65を読む
25	正しい表記で書く 現代表記と誤用しやすい用語	教科書・現代表記と誤用しやすい用語を正しく書けるよう練習をする	教科書 p 66～71を読む
26	文章作成上の留意点 間違いやすい漢字、差別用語、隠語、重複表現	教科書・間違えてしまう漢字を正しく書けるように練習するなど	教科書 p 72～76を読む
27	文章の基本的な書き方 句読点の打ち方、段落の作り方など	教科書・文章を書くときの基本的な注意点を学ぶ	教科書 p 78～87を読む
28	実習日誌の書き方 国語表現の観点からの実習日誌の書き方	教科書・実践に即し実習日誌を書いて練習する	教科書 p 93～106を読む
29	実習礼状など手紙・ハガキの書き方 手紙・ハガキの書き方を練習で覚える	教科書・実践に即し手紙・ハガキを書いて練習する	教科書 p 107～111を読む
30	履歴書の書き方 アピール力のある履歴書の書き方	教科書・履歴書の書き方や送り状について学ぶ	教科書既習内容ポイントを再確認する
期末試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 中間テスト・後期末試験（筆記）30%
 2. 口頭発表など20%
 3. レポートなどの提出状況10%
 4. 授業態度10%
 5. 教科書の音読10%
 6. 「統一テスト」文字・成語テスト10%・小論文テスト5%・対話テスト5%（詳しくは、学生便覧に記載されている「国語表現」統一テストの内容と実施の項目を確認すること）
- ※「成績評価への補足的対応措置」により欠席、遅刻、早退による減点を行う。
詳細については初回授業時に説明する。

【教科書】

書名：国語表現
著者名：田上貞一郎
発行所：萌文書林
価格：1,800円（税別）

授業科目名	書 写 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 <small>た がみ ていいちろう</small> 田 上 貞一郎		開 講 期	後期
			授 業 回 数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
保育士資格		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「国語表現」授業担当者から、悪筆（くせ字など）で矯正が必要であると、受講を指定された学生が履修する科目である。 1. 文字を適切かつ美的に筆記できるように演習を行い、書写能力の向上・美的書写表現技法を修得する。また、文字の成り立ちを学び、記録・伝達手段としての文字についての専門的知識を高める。 2. 教養教育科目「国語表現」との関連性を考慮した教材の使用により、適切な用語用法を修得し、豊かな教養と情緒の涵養を図る。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
目的に応じて用語用法を考え、表現技法や書体を工夫することができる能力を養う。		目標	A・D	
書表現技法の修得、鑑賞力と美意識の高揚を図る。		目標	A・B	
保育者として手書きする連絡帳などに美文字で記入できる力の習得を目指す。		目標	B	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の進め方 (2) 授業時間以外の必要な学修の進め方 (3) 評価の観点と方法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト、授業計画	自己紹介の用意 授業計画の確認
2	書くための準備 — 姿勢・用具・持ち方	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト・ビデオ視聴 (NHK「手書き美人」25分)	テキスト予習 練習課題
3	漢字とかな(文字の成り立ち)／隙間均等法	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
4	美文字三原則	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	漢字の8パーツ	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
6	字形の整え方 ルール1～3	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
7	字形の整え方 ルール4～7	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
8	「へん」と「つくり」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
9	「にょう」と「たれ」	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
10	ひらがな 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
11	ひらがな 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
12	カタカナ 練習	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
13	カタカナ 清書と補充	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト 補充課題	テキスト予習 練習課題
14	文字の揃え方 (中心線串刺し法)	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
15	まとめと振り返り	指名問答、フィードバックシート、書実技 教材：テキスト	テキスト予習 練習課題
<p>【到達度の評価 (評価方法・基準)】 実技の完成度 (50%)、提出物 (40%)、授業態度 (10%) から客観的に評価する。 ※テキスト忘れは一回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：クセ字が直る美文字レッスン帳 著者名：青山浩之 発行所：NHK出版 価格：500円 (税別)</p>			

授業科目名	会 話 演 習		授業形態・単位数	演習・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>ふじ ま ひさ こ</small> 藤 間 久 子	開 講 期	後期	
		授 業 回 数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
保育士資格		教養教育科目	選択 (受講指定者は必修)	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 「国語表現」授業担当者から、人前で話すことが苦手などで、会話力を向上させるために受講を指定された学生が履修する科目である。 本科目では日常会話からビジネスの場に至るまでのコミュニケーション能力を向上させるための「話し言葉」についての実践的な演習を行う。話し方の基礎や「話し言葉」に対する感覚を磨き、表現技術を修得する。 また、言葉によって事実を的確に伝えたり、自分の意見を整然と主張する訓練をすることにより論理的な思考に支えられた明確な表現力を養うことを目的とする。 さらに円滑な人間関係を築くための会話法について学んでいく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
基礎的な音声表現のトレーニングにより会話のイメージアップを図る。		目標	A・B
社会の様々な状況の中で協調していくための適切な会話表現ができるようになる。		目標	A・J
論理的思考と表現の工夫により説得力のある話し方のスキルアップを目指す。		目標	A・C・I
コミュニケーションを深めるための会話術を磨く。		目標	E・F・H・L
保育者として上司・同僚さらに保護者とのスムーズな会話力の習得を目指す。		目標	B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法と本科目の留意点 自己紹介(1)	授業計画 個別指導	
2	自己紹介(2) 話の基本技術(1) 適切な会話のための音声表現について	発表 (VTR収録)	復習: VTR チェック (レポート)
3	話の基本技術(2) 発音・発声・アクセント・イントネーションなど	プリント	復習: プrintの練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	話の基本技術(3) 社会生活における適切な会話について ～会話の目的と組み立て方	グループ演習	復習：補助挨拶について
5	話の基本技術(4) 「書き言葉」と「話し言葉」の違いについて ～聞いて分かりやすい話すための原稿作成	プリント 発表	課題：以降授業内でニュース、トピックスの発表
6	論理的思考に基づく表現力(1)～ディベート 論理的な話をする為の話のまとめ方について	プリント	予習：テーマ設定 復習：フローシートの作成
7	論理的思考に基づく表現力(2)～ディベート 聞き上手になる為のポイント	グループ討議	復習：フローシートの作成
8	論理的思考に基づく表現力(3)～ディベート ディスカッションなどでの司会の方法	グループ討議	復習：授業内容の再確認
9	敬語表現(1) 敬語の必要性と表現方法について	プリント	復習：プリント内容の確認
10	敬語表現(2) 間違いやすい敬語用法について	プリント	復習：プリント内容の確認
11	敬語表現(3) 様々な状況での会話、電話応対について	ロールプレイング	予習：シナリオの設定
12	パブリックスピーキング(1) 公の場でのスピーチ原稿の作り方	個別指導	復習：原稿のチェックと下読み
13	パブリックスピーキング(2) 好感の持てる話し方について	発表（VTR収録）	課題：VTRチェック（レポート）
14	コミュニケーションを高める会話法(1) 円滑な会話のための表現技法	ロールプレイング	復習：テーマの設定
15	コミュニケーションを高める会話法(2) 会話における自己表現	発表	予習：原稿のチェック
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（筆記） 30% 2. 課題スピーチなど表現力を総合した評価 50% 3. レポートなどの提出状況 10% 4. 授業態度 10% ※「成績評価への補足的対応措置」により欠席、遅刻・早退による減点を行う。			

授業科目名	情報機器操作 I (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 木谷徳智 〔本務先：オフィスK 職名：代表〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、PCやネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目である。コンピュータ利用経験の少ない受講者を対象に、本科目と2年次の「情報機器操作II」を併せて以上の内容を実施する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
2年次に履修する「情報機器操作II」において実践的な技術・知識の演習を実施するためのベースができる。			目標	A・B
パーソナルコンピュータの基本操作とタイピング操作、日本語入力操作を習得することができる。			目標	A・B
具体的な「道具（ソフト）」として、ワープロ機能の実践的な利用技術と知識を習得することができる。			目標	A・B・C

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） タイピングソフトの説明 パソコン利用状況の確認	授業計画 PC利用 ・PowerPointでの説明	事前理解 ・授業計画
2	タイピング練習（説明・五十音入力練習） ・タイピング練習方法の説明と環境準備の確認 ・〔課題〕 五十音入力練習	PC利用 ・メモ帳での入力練習 資料配布 ・ローマ字変換表	タイピング練習 ・ローマ字入力 課題の完成・提出（次回迄） ・「ローマ字入力練習」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習（集中練習1） ・Mikatype練習方法の説明と練習 ・[課題] ポジション練習	PC利用 ・PowerPointでの説明 ・Mikatype練習	タイピング練習 ・ポジション練習 課題の完成・提出（次回迄） ・「ポジション練習結果」
4	タイピング練習（集中練習2） ・[課題] ポジション練習	PC利用 ・Mikatype練習	タイピング練習 ・ポジション練習 課題の完成・提出（次回迄） ・「ポジション練習結果」
5	タイピング練習【個別練習】（15分程度） パソコンの基礎(1) ・パソコンの歴史としくみ ・パソコンの基本操作（Windows）①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Windows操作練習	事前理解 ・教科書：P14～31 ・教科書：P60～85 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう①（文章）」
6	タイピング練習【個別練習】（15分程度） パソコンの基礎(2) ・パソコンの基本操作（Windows）②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Windows操作練習	事前理解 ・教科書：P60～85 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう②」
7	タイピング練習【個別練習】（15分程度） マウス操作 ・ペイント系ソフトでのイラスト作成 ・[課題]「ペイントイラスト」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Paint（イラスト作成）	事前理解 ・教科書：P96～122 課題の完成・提出（次回迄） ・Paintイラスト1、2、3
8	タイピング練習【個別練習】（15分程度） キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作① ・[課題]「文節入力変換」の練習	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（文字入力練習）	事前理解 ・教科書：P86～95 課題の完成・提出（次回迄） ・「文節入力変換」 ・「保育を学ぼう③」
9	タイピング練習【個別練習】（15分程度） キーボード操作（日本語入力システム） ・MS-IMEの基礎操作② ・[課題]「Let's Try! 1～4」の練習	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（文字入力練習）	事前理解 ・教科書：P86～95 課題の完成・提出（次回迄） ・「Let's Try! 1～4」(P95) ・「保育を学ぼう④」
10	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(1) ・ビジネス文書の構成、作成の流れと文字修飾 ・インデント、箇条書き、段落番号	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（送付状）	事前理解 ・教科書：P140～171 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう⑤」
11	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(2) ・ビジネス文書の作成 ・[課題]「送付状」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（送付状）	事前理解 ・教科書：P140～171 課題の完成・提出（次回迄） ・「送付状」
12	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(3) ・かんたんなおたよりの作成、文字の均等割り付け ・[課題]「第32回おたより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（第32回おたより）	事前理解 ・教科書：P172～179 課題の完成・提出（次回迄） ・「第32回おたより」 ・「保育を学ぼう⑥」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(4) ・かんたんなおたよりの修正 ・[課題]「第33回おたより」の作成 ・[課題]「第34回おたより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（第33回おたより）	事前理解 ・教科書：P 179～181 課題の完成・提出（次回迄） ・「第33回おたより」 ・「保育を学ぼう⑦」
14	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(5) ・作表機能の操作説明 ・[課題]「時間割」の作成・完成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（時間割）	事前理解 ・教科書：P 184～205 課題の完成・提出（16回迄） ・「時間割」
15	前期のまとめ ・ワードの表を利用した「計画表」の作成	PC利用 ・Word（総合演習課題）	事前理解 ・教科書：P 184～205 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育を学ぼう①」(完成形)
16	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(6) ・イラスト入り案内カードの作成（図形活用） ・[課題]「案内カード」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（案内カード）	事前理解 ・教科書：P 207～212 課題の完成・提出（次回迄） ・「案内カード」文面、1、2
17	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(7) ・表入りおたよりの作成 ・[課題]「年度計画（春季版）」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（年度計画）	事前理解 ・教科書：P 212～215 課題の完成・提出（次回迄） ・「年度計画（春季版）」
18	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(8) ・[課題]「進級カード」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（進級カード）	事前理解 ・教科書：P 224 課題の完成・提出（次回迄） ・「進級カード」
19	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(9) ・[課題]「遠足だより」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（遠足だより）	事前理解 ・教科書：P 225 課題の完成・提出（次回迄） ・「遠足だより」（完成形）
20	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(10) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）① ・図形描画の基礎操作	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（図形描画操作）	事前理解 ・教科書：P 96～124 課題の完成・提出（次回迄） ・「自由描画」
21	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(11) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）② ・[課題]「うさぎ」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 128～132 課題の完成・提出（次回迄） ・「うさぎ」
22	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(12) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）③ ・[課題]「ひよこ」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 133～137 課題の完成・提出（次回迄） ・「ひよこ」
23	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワードプロセッサの機能と操作(13) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）④ ・[課題]「かざぐるま」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word(図形描画イラスト)	事前理解 ・教科書：P 96～124 課題の完成・提出（次回迄） ・「かざぐるま」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(14) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）⑤ ・[課題]「保育園案内図」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（保育園案内図）	事前理解 ・教科書：P 124～128 課題の完成・提出（次回迄） ・「保育園案内図」
25	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(15) ・かんたんなイラストの作成（図形描画）⑥ ・[課題]「福島学院大学案内図」の作成	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（保育園案内図）	事前理解 ・教科書：P 124～128 課題の完成・提出（次回迄） ・「福島学院大学案内図」
26	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(16) ・[課題]「園だより」の作成①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（園だより）	事前理解 ・教科書：P 216～223 課題の完成・提出（次回迄） ・「園だより」（レイアウト）
27	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(17) ・[課題]「園だより」の作成②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（園だより）	事前理解 ・教科書：P 216～223 課題の完成・提出（次回迄） ・「園だより」
28	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(18) ・[課題]「発表会の案内」の作成①	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（発表会の案内）	事前理解 ・教科書：P 226～227 課題の完成・提出（次回迄） ・「発表会の案内」（レイアウト）
29	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ワープロソフトの機能と操作(19) ・[課題]「発表会の案内」の作成②	PC利用 ・Mikatype練習 ・Word（発表会の案内）	事前理解 ・教科書：P 237～239 課題の完成・提出（次回迄） ・「発表会の案内」（完成形）
30	タイピング試験（15分程度） ワープロソフトの機能と操作（まとめ）	PC利用 ・Mikatype試験 ・Word（機能と操作まとめ）	事前理解 ・教科書：P 237～239 試験結果の提出 ・Mikatype（USB内含む）
期末試験	後期のまとめ（後期末試験）	これまでの知識とスキルを活用した総合演習	

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

前期のまとめ	20%	・総合演習による前期内容の理解度の確認
後期のまとめ	20%	・総合演習による後期内容の理解度の確認
レポート	10%	・タイピング練習結果レポート
提出課題	30%	・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題
授業態度	20%	・授業への取り組み、積極的・自発的な応答・参加

【教科書】

書名：保育者のためのパソコン講座
著者名：阿部正平 他
発行所：萌文書林
価格：2,000円（税別）
※Windows 7 office2007/2010/2013対応版

【その他補足事項】

- ・「情報機器操作Ⅰ」の履修者は、2年次で「情報機器操作Ⅱ」も履修し、単位を取得しなければならない。
- ・USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。
- ・本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。

授業科目名	情報機器操作Ⅱ（中級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>さか い はじめ</small> 酒井 創		開講期	通年
	非常勤講師 <small>しの だ のぶ お</small> 篠田 伸夫		授業回数	30回
	〔本務先：福島大学 職名：教授〕		期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	酒井：オフィスアワーは、初回授業時に説明する。 篠田：授業終了後に教室で質問等に対応する。			

【授業の概要】 現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に不可欠な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの習得を目標とする。		目標	A・B・C	
自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を養成する。		目標	A・B・C・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解 ・タイピング練習ソフトの配布と練習方法の説明 ・正しいタイピング練習の理解と実践	授業計画、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	事前理解：授業計画内容の確認
2	タイピング練習とキーボード操作の確認 ・正しいタイピング練習の理解と実践 日本語入力と文書作成 ・キーボード操作確認 ・日本語入力システムの確認	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・タイピング練習 ・事前理解：テキスト内容 ・課題：Exe.1

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習 図形ツール操作演習(1) ・ Word文書上での図形ツールの操作	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容
4	タイピング練習 図形ツール操作演習(2) ・ Word文書上での図形ツールの操作	タイピング練習ソフト 「Mikatype」 テキストUnit 3	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容 ・ 課題：Exe.1
5	タイピング練習 図形ツールの活用(1) ・ 図形操作の確認 ・ 案内図を作る	テキストUnit 3 Exercise 1 (Word)	・ タイピング練習 ・ 事前理解：テキスト内容 ・ Exercise復習
6	タイピング練習 図形ツールの活用(2) ・ イラストを作る① ・ PowerPointの基本操作	テキストUnit 3 Exercise 1	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
7	タイピング練習 図形ツールの活用(3) ・ イラストを作る② ・ PowerPointスライド上での図形ツール	テキストUnit 3 Exercise 2	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
8	タイピング練習 図形ツールの活用(4) ・ イラストを作る③ ・ PowerPointスライド上での図形ツール	テキストUnit 3 Exercise 3	・ タイピング練習 ・ Exercise復習
9	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 - 1 ・ 日本語入力とワープロ基本機能の確認 ・ 簡単なお便りの作成	テキストUnit 4	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう①(本文)」
10	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 1 - 2 ・ 作成した文書の再利用	テキストUnit 4	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう②」
11	タイピング練習 ビジュアルツールの活用 ・ 表や図ツールなどの理解	テキストUnit 5	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業外課題 「保育を学ぼう③」
12	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 1 ・ イラストの入った案内カードの作成	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出
13	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 2 ・ 表を組み込んだ文書の作成	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出
14	タイピング練習 実践ワープロソフト Word演習 2 - 3 ・ やや複雑なレイアウト文書の作成 ・ 夏期課題説明	テキストUnit 6	・ タイピング練習 ・ Exercise復習 ・ 授業の完成・提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	Word総合演習(1) ・前期のまとめ	総合演習課題	<ul style="list-style-type: none"> これまでのExercise内容の理解と復習 授業外課題「保育を学ぼう①(完成)」
16	Word総合演習(2) ・いろいろなおたより、カード、ポスターを作る ・これまでの知識とスキルを活用する ・プリンタ利用の実際	テキストUnit 6・Let's Try プリント配布	<ul style="list-style-type: none"> Exercise復習 課題完成、提出
17	OSを活用したファイル操作 ・パソコン上でのフォルダ・ファイル操作	テキストUnit 2	授業内容復習
18	ネットワーク利用の実際(1) ・情報収集、検索の実際 ・インターネットによるコミュニケーションとウェブサービスの活用	テキスト Part 4 プリント配布	授業内容復習
19	ネットワーク利用の実際(2) ・ウェブページ情報を活用したレポート作成の実際 ・著作権に関する留意事項の理解	プリント配布	授業内容復習
20	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習 1 ・プレゼンテーションとプレゼンテーションソフトの理解	テキストUnit 11	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
21	実践プレゼンテーションソフト PowerPoint演習 2 ・課題の作成	テキストUnit 11	課題の作成
22	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 1 (作表とかんたんな計算) ・表計算ソフトの基本機能確認 ・「クラス表1」	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
23	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 2 (作表とかんたんな計算) ・表計算ソフトの基本機能確認 ・「クラス表2 (グラフ作成含む)」	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
24	実践表計算ソフト Excel演習 1 - 3 (作表とかんたんな計算) ・「年間カレンダー」の作成	テキストUnit 7	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
25	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 1 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳様式」の作成	テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
26	実践表計算ソフト Excel演習 2 - 2 (データベース機能の基礎) ・「児童台帳」の作成、更新と検索・集計の実際	テキストUnit 8	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習
27	実践表計算ソフト Excel演習 3 - 1 (グラフと計算式の活用) ・「身体計測記録表」と「身体計測記録台帳」の作成	テキストUnit 9	<ul style="list-style-type: none"> 事前理解：テキスト内容 Exercise復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
28	実践表計算ソフト Excel演習3-2 ・「身体計測記録台帳」を活用したグラフ作成の実際と簡単なデータ分析	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
29	実践表計算ソフト Excel演習3-3 ・「行事写真購入申し込み管理表」「健康診査表」による、場面に応じた活用方法の理解 ・次回「総合演習」の説明	テキストUnit 9	・事前理解：テキスト内容 ・Exercise復習
30	総合演習 ・課題の作成	・各自の年間タイピング記録をExcelで集計 ・成果と今後の課題をレポートにまとめる	・事前準備：「総合演習」準備 ・課題の完成、提出
期末試験	Excel総合演習（期末試験） ・これまでの知識とスキルを活用する	Excel総合演習課題	・ExcelのExercise内容の理解と復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーもしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期末のまとめ 30% ・総合演習による前期内容の理解度の確認 後期末のまとめ 30% ・総合演習による後期内容の理解度の確認 提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題 授業参加状況 10% ・ <u>評価基準</u> により採点（初回授業時に説明） 詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 ・基本的に、テキストに従い、自ら課題を進める授業形態となる。積極的な態度で受講することを希望する。 ・授業内容については、実習の進行状況などにより、一部入れ替えや変更を実施する場合がある。 ・演習で作成した課題などを一時的に保存し、持ち運ぶための外部メディアとして、USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。 ・本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。			

授業科目名	情報機器操作Ⅱ（中級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 木谷徳智 〔本務先：オフィスK 職名：代表〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後、教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の情報ネットワーク社会を支えるIT（情報技術）活用に必要な、パーソナルコンピュータやコンピュータネットワーク活用の実践的知識とスキルを、保育・幼児教育の現場での実践を意識した演習課題を通して身につける演習科目である。 <u>1年次に「情報機器操作Ⅰ」を受講し単位認定を受けた学生は、必ず履修すること。</u>	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
パソコンとネットワークを活用するための具体的な「道具(ソフト)」である、ワープロ機能、表計算機能、画像処理、プレゼンテーション、ネットワーク活用などの実践的な利用技術と知識を習得することができる。			目標	A・B
情報ネットワーク社会に、独力で積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を身に付けることができる。			目標	A・B
情報ネットワーク社会の中で、自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断することができる。			目標	A・B・C
情報ネットワーク社会の中で、主体的に収集・判断・表現・処理・創造することができる。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標、評価方法、授業の進め方、その他（本科目の留意点）	授業計画、テキスト タイピング練習ソフト 「Mikatype」	・事前理解：授業計画内容の確認
2	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ネットワーク利用の基礎(1) ・インターネット、電子メールの概要と留意点①	演習	演習内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	タイピング練習【個別練習】（15分程度） ネットワーク利用の基礎(2) ・インターネット、電子メールの概要と留意点② ・[課題]「Webメール」の活用	演習	演習内容の復習
4	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(1) ・1年次の復習とスキル確認①	応用課題	演習内容の復習
5	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(2) ・1年次の復習とスキル確認②	応用課題	演習内容の復習
6	タイピング練習【個別練習】（15分程度） Wordによる文書作成(3) ・1年次の復習とスキル確認③	応用課題	演習内容の復習
7	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(1) ・ワークシートの構成、作成の流れと文字修飾 ・セル操作の基本、グラフ表示 ・[課題]「クラス表2（グラフ付）」の作成	テキスト ・Excel（シート操作） ・Excel（クラス表2）	事前理解 ・教科書：P 230～278、 P 279～289、P357 課題の完成・提出（次回迄） ・「クラス表2（グラフ付）」
8	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(2) ・セルの編集、簡単な計算式、画像貼付操作 ・[課題]「カレンダー」の作成	テキスト ・Excel（カレンダー）	事前理解 ・教科書：P 289～299 課題の完成・提出（次回迄） ・「カレンダー」
9	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(3) ・やや複雑な構造の表作成、表示形式 ・[課題]「離乳食の進め方の目安」の作成	テキスト ・Excel（離乳食の進め方の目安）	課題の完成・提出（次回迄） ・「離乳食の進め方の目安」
10	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(4) ・データベース機能 ・[課題]「児童台帳」の作成①	テキスト ・Excel（児童台帳）	事前理解 ・教科書：P 300～310 演習内容の復習
11	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(5) ・データベース機能 ・[課題]「児童台帳」の作成②	テキスト ・Excel（児童台帳）	事前理解 ・教科書：P 310～323 課題の完成・提出（次回迄） ・「児童台帳」
12	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(6) ・[課題]「身体計測記録表」の作成	テキスト ・Excel（身体計測表）	事前理解 ・教科書：P 324～334 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録表」
13	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(7) ・グラフ表示 ・[課題]「身体計測記録台帳」の作成	テキスト ・Excel（身体計測台帳）	事前理解 ・教科書：P 334～337 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録台帳」
14	タイピング練習【個別練習】（15分程度） 表計算ソフトの機能と操作(8) ・グラフ表示、実践的改良 ・[課題]「身体計測記録台帳2」の作成	テキスト ・Excel （身体計測台帳2）	事前理解 ・教科書：P 338～353 課題の完成・提出（次回迄） ・「身体計測記録台帳2」

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
15	前期のまとめ 表計算ソフトの総合演習 ・これまでの知識とスキルの総合演習	総合演習課題	これまでの演習内容の理解と復習
16	表計算ソフトの機能と操作(9) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿」の作成	テキスト ・Excel（行事写真購入申込み管理簿）	事前理解 ・教科書：P 353～356 課題の完成・提出（次回迄） ・「行事写真購入申込管理簿」
17	表計算ソフトの機能と操作(10) ・計算式、関数 ・[課題]「行事写真購入申込管理簿2」作成	テキスト ・Excel（行事写真購入申込み管理簿2）	・教科書：P 353～356 課題の完成・提出（次回迄） ・「行事写真購入申込管理簿2」
18	デジタル画像の活用(1) ・デジタルカメラ使用の基本 ・[Windows Live フォトギャラリー]を使用したPCへの画像取込と管理	演習	演習内容の復習
19	デジタル画像の活用(2) ・自分が使用する通信機器の活用 ・静止画像のフォーマットと解像度	演習	演習内容の復習
20	デジタル画像の活用(3) ・課題「キャンパス紹介」の作成（Word）	課題説明、演習	課題の完成
21	プレゼンテーションソフトの基本(1) ・ソフトの基本操作①	テキスト ・PowerPoint（基本操作）	事前理解 ・教科書：P 362～386 演習内容の復習
22	プレゼンテーションソフトの基本(2) ・ソフトの基本操作② ・[課題]「キャンパス紹介」の作成	テキスト ・PowerPoint（基本操作）	事前理解 ・教科書：P 388～395（参考） 演習内容の復習
23	プレゼンテーションソフトの活用(1) ・ストーリー検討、ラフスケッチ作成 ・[課題]「キャンパス紹介」の作成	・参考例pptファイル	課題の完成・提出（次回迄） ・「キャンパス紹介」
24	デジタル画像と音情報の活用(1) ・動画のフォーマットと解像度 ・「Windows Live ムービーメーカー」の使い方～静止画、動画の取込と編集～	解説、演習	演習内容の復習
25	デジタル画像と音情報の活用(2) ・PCでの音、楽曲データの取扱い方法 ・「Windows Live ムービーメーカー」での音データの取扱い	演習	演習内容の復習
26	デジタル画像と音情報の活用(3) ・[課題]「キャンパス紹介ムービー」の作成	演習	課題の完成
27	プレゼンテーションソフトの活用(2) ・素材収集の方法、素材収集 ・スライド作成の実際 ・[課題] スライドの作成①、リハーサル	PowerPointファイル（素材収集）	演習内容の復習 資料・素材集め

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
28	プレゼンテーションソフトの活用(3) ・スライド作成の実際とリハーサル ・[課題] スライドの作成②、リハーサル	PowerPointファイル (スライド、リハーサル) (補足資料紹介)	スライドの完成 発表リハーサル
29	プレゼンテーションソフトの活用(4) ・[課題] 発表と評価①	PowerPointファイル (発表用スライド)	スライドの修正と発表の練習
30	プレゼンテーションソフトの活用(5) ・[課題] 発表と評価②	PowerPointファイル (発表用スライド)	スライドの修正と発表の練習
期末 試験	後期のまとめ（後期末試験） ・動画およびプレゼン課題の修正と提出	PC利用 ・PowerPointファイル 提出	発表ファイル修正と発表評価 内容の確認
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期のまとめ 30% ・総合演習による前期内容の理解度の確認、タイピング練習 後期のまとめ 20% ・総合演習による後期内容の理解度の確認 提出課題 30% ・授業時作成および授業時間外の宿題の提出課題 授業参加状況 20% ・評価基準により採点 ※詳細は、初回授業時に説明する。			
【教科書】 書 名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価 格：2,000円（税別） ※Windows 7 office2007／2010／2013対応版			
【その他補足事項】 ・USBフラッシュメモリを各自で準備すること。詳細はオリエンテーション時に説明する。 ・本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。			

授業科目名	情報機器操作Ⅲ (中級習熟レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>かな ざわ そう いち</small> 金 澤 聡 一 〔本務先：金澤中小企業診断士事務所 職名：中小企業診断士〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		http://fujikawa37.skr.jp の“先生への連絡のページ”から連絡すること。		

【授業の概要】 コンピュータとインターネットは、ビジネス、および生活のツールとして必須のものになっている。従来、計算の道具としてこの世に萌芽したComputerではあるが、インターネットの出現とともにその性格を大きく変え、今や人間をサポートする重要なitemである。 情報機器操作Ⅲでは、PCとインターネットの今後の発達を踏まえたITに関する授業を行う。(基礎的なパソコンの操作、ワープロ、表計算ソフト利用の勉強も行うが、保育・幼児教育の現場で多用されると思われる音楽(MIDI)、ビデオなどの編集・加工などの実習にも力を入れた授業を行う。)	【授業の概要と対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標と対応項目】 (受講して得られる力)	
今後の情報ネットワーク社会に、積極的に参画していくための「情報活用の実践力」を、上記授業概要について、卒業後に現場で役立つレベルでの修得を目標とする。			目標	A・B・C
自分にとってどのような情報が必要かを自分で判断する力、必要な情報を、主体的に収集・判断・表現・処理・創造する力を習得する。			目標	A・B・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・実習環境の実際とその理解	授業計画 1年間の授業予定の説明と必要な基礎的な情報のDBへの設定を行う	・WebへのID等の登録 ・OS等、学習環境の確認
2	ワープロの知識と活用(1) ・書式設定(フォントサイズ、用紙サイズ、余白設定など) ・文字入力(ローマ字かな変換) ・インデントの設定	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 3 かんたんなおたよりを作成しよう』(P80～P111)の部分に従い、保育園が発行する簡単なお便り作成の学習を行う	・書式設定の復習 ・文字入力の復習 ・インデント設定の復習 なお、『第33回 ふれあいルームのお知らせ』は完成させておくこと(後で使用)

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	ワープロの知識と活用(2) ・ワープロに貼り付けるイラスト作成と貼り付け方法の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 4 かんたんなイラストを作成しよう』（P114～P134）に従い、保育園が発行する文書に貼り付けるイラスト作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> イラスト書式設定の復習 オートシェイプ利用の復習 色付け・グラデーション設定の復習 なお、『地図、うさぎ』のイラストは完成させておくこと（後で使用する）
4	ワープロの知識と活用(3) ・ワープロに貼り付けるイラスト作成と貼り付け方法の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 4 かんたんなイラストを作成しよう』（P135～P142）に従い、保育園が発行する文書に貼り付けるイラスト作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> パーツの重ね合わせ方法の復習 グループ化の復習 なお、『ひよこ、ひまわり、リス』のイラストは完成させておくこと（後で使用する）
5	ワープロの知識と活用(4) ・イラストが入ったおたより作成の練習 ・ペイントを利用したイラスト作成	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』（P144～P153）に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> 文字の書式設定の復習 イラストの貼り付け方法の復習 レイアウト設定の復習 なお、『土手で遊ぼう』の文書は、イラストを貼り付けた上で提出のこと
6	ワープロの知識と活用(5) ・表作成方法の学習 ・クリップアート利用方法の学習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』（P154～P165）に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	<ul style="list-style-type: none"> 表作成方法の復習 表書式設定方法の復習 クリップアート利用方法の復習 なお、『給食だより 5月』の文書は、イラストを貼り付けた上で提出のこと
7	ワープロの知識と活用(6) ・ワープロ総合演習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 5 イラストが入ったおたよりを作成しよう』（P166～P174）に従い、保育園が発行する文書作成の学習を行う	『7月の園だより』、『動物園遠足のお知らせ』の2文書を作成し、提出のこと
8	ワープロ総合演習	2～7回の授業で学習したイラスト作成、文書作成の知識をもとにした総合演習を実施する	・2～7回の授業で学習したことの復習
9	表計算ソフトの知識と活用(1) ・EXCELの知識と基本的な操作方法の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 7 作表と簡単な計算をしよう』（P218～P236）に従い、保育園でよく利用する表の作成を学習する	<ul style="list-style-type: none"> 文字、数字の入力・書式設定 罫線の引き方 四則演算方法 上記に関する復習を行うこと
10	表計算ソフトの知識と活用(2) ・EXCELの知識と基本的な操作方法の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 7 作表と簡単な計算をしよう』（P218～P236）に従い、保育園でよく利用する表の作成を学習する	『カレンダー』と『離乳食の進め方の目安』は完成させて提出すること
11	表計算ソフトの知識と活用(3) ・大量データの入力処理方法の学習 ・入力規則等の設定方法の学習	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 8 児童台帳を作成しよう』（P240～P252）に従い、名簿台帳の作成方法を学習する	『児童台帳』は完成させて提出すること

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	表計算ソフトの知識と活用(4) ・基本的な関数の学習①	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』（P 252～P 278）に従い、基本的な関数の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配布の計画あり	基本的な関数を十分に理解しておくこと （SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT、RANK、IFなど） なお、関数に関する課題を提示するので、作成して提出すること
13	表計算ソフトの知識と活用(5) ・基本的な関数の学習②	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』（P 252～P 278）に従い、基本的な関数の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配布の計画あり	基本的な関数を十分に理解しておくこと なお、関数に関する課題を提示するので、作成して提出すること
14	表計算ソフトの知識と活用(6) ・グラフの作成	テキスト使用による授業 テキスト『Unit 9 グラフと計算式を活用しよう』（P 252～P 278）に従い、グラフ作成の学習を行う *テキストだけでは内容不足のため資料配布の計画あり	基本的な関数、グラフ作成方法を十分に理解しておくこと なお、関数とグラフ作成に関する課題を提示するので、作成して提出すること
15	表計算ソフト総合演習	9～14回の授業で学習した表計算ソフト利用の知識をもとにした総合演習を実施する	・9～14回の授業で学習したことの復習
16	画像／動画の知識と編集操作(1) ・デジタルカメラの操作実習 ・画像／動画の保存方法の学習	資料配布に基づく授業 資料に基づき画像ファイルと動画ファイルの保存方法の学習を行う	配布した資料を十分に理解しておくこと 画像／動画のファイル識別子の違いを十分に理解しておくこと
17	画像／動画の知識と編集操作(2) ・動画の編集方法の学習 （映像の表示時間設定、切替効果、アニメーション）	資料配布に基づく授業 資料に基づき動画ファイルの編集方法を学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと
18	画像／動画の知識と編集操作(3) ・動画の編集方法の学習 （タイトル、テロップ、クレジット、Sound貼付け）	資料配布に基づく授業 資料に基づき動画ファイルの編集方法を学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと
19	画像／動画の知識と編集操作(4) ・動画の拡張子&mp4への変換、DVD焼き付け	資料配布に基づく授業 資料に基づき動画ファイルの編集方法を学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと
20	MIDIシーケンサーの知識と活用(1) ・MIDIシーケンサーに対する理解 ・MIDIシーケンサー学習環境の理解	資料配布に基づく授業 ・MIDIシーケンサーの初期設定 ・MIDIシーケンサー操作の基本を資料に基づき学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと
21	MIDIシーケンサーの知識と活用(2) ・MIDIシーケンサーへの『打ち込み』の基本操作	資料配布に基づく授業 簡単な楽曲（童謡など）のMIDIシーケンサーへの『打ち込み』方法を学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと なお、指定された楽曲の打ち込みは完成させておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	MIDIシーケンサーの知識と活用(3) ・和音・リズムパートの作成	資料配布に基づく授業 10回目の授業で作成したsoundに対して、和音・リズムパートを作成する	配布した資料を十分に理解しておくこと なお、和音・リズムパートの作成を完成させておくこと
23	MIDIシーケンサーの知識と活用(4) ・音の強弱、Velocityの設定 ・さまざまな音色の設定	資料配布に基づく授業 11回目の授業で作成したsoundに対して、Velocityやさまざまな音色設定方法の学習を行う	配布した資料を十分に理解しておくこと なお、和音・リズムパートの作成を完成させておくこと
24	MIDIシーケンサーの知識と活用(5) ・ファイル識別子（dimとmidi）に関する基礎知識 ・dimからmidiへの変換操作の学習	資料配布に基づく授業 19回目の授業で作成したsoundに対して、dimからmidiへの変換操作を学習する	配布した資料を十分に理解しておくこと なお、変換したファイルは提出のこと
25	MIDIシーケンサーの知識と活用(6) ・MIDI総合演習①	自分で用意したスコアに基づきオリジナルな作品を作成する	好みの音楽のスコアを用意すると共に、MIDI soundにふさわしい形式に編曲を行っておくこと
26	MIDIシーケンサーの知識と活用(7) ・MIDI総合演習②	自分で用意したスコアに基づきオリジナルな作品を作成する	好みの音楽のスコアを用意すると共に、MIDI soundにふさわしい形式に編曲を行っておくこと なお、完成したオリジナルなMIDI sound は提出のこと
27	MIDIシーケンサーの知識と活用(8) ・MIDIシーケンサーによるリアルタイム録音①	電子キーボードによる演奏をMIDIシーケンサー上のピアノロールにノート化	配布される資料をよく読んでおくこと
28	MIDIシーケンサーの知識と活用(9) ・MIDIシーケンサーによるリアルタイム録音②	電子キーボードによる演奏をMIDIシーケンサー上のピアノロールにノート化	配布される資料をよく読んでおくこと
29	MIDIシーケンサーの知識と活用(10) ・MIDIシーケンサーと電子キーボード演奏の合奏①	合奏したい曲のスコアを準備&ピアノ等にて演奏できるように練習しておくこと	配布される資料をよく読んでおくこと
30	MIDIシーケンサーの知識と活用(11) ・MIDIシーケンサーと電子キーボード演奏の合奏②	合奏したい曲のスコアを準備&ピアノ等にて演奏できるように練習しておくこと	配布される資料をよく読んでおくこと
【到達度の評価（評価方法・基準）】 課題およびレポート（10回程度）90%、受講態度（質問に対する回答など）10%のウエイト付けにて評価を行う。			
【教科書】 書名：保育者のためのパソコン講座 著者名：阿部正平 他 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・「情報機器操作Ⅰ・Ⅱ」との関係については、オリエンテーション時に説明する。 ・演習や実習が主体となるので、積極的な態度で授業に参加すること。また、授業時間以外での自主的自習を奨励する。 ・授業内容については、実習の進行状況などにより、一部変更する場合がある。 ・演習で作成した課題などを保存しておくための外部メディアとしてUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。 ・本授業は、受講者の学習状況や理解度をリアルタイムで把握するための「授業支援システム」を導入した環境で実施する。 			

授業科目名	生活教養		授業形態・単位数	講義及び演習・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 わたなべまさこ 渡辺雅子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	120時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、前期と後期の初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 学外実習にあたって、就職してからも、現代社会ではコミュニケーション能力が求められている。そのコミュニケーション能力の基本の一つは「マナー」である。 本授業では、品格ある教養を兼ね備えた社会人を目指すことを目的に、授業の前半は、社会生活をおくる上で必要な、人間関係を円滑に図るためのマナー（社会人としての基本マナー、言葉遣いのマナー、訪問のマナー、対応のマナー、電話のマナーなど）を、これからの生活の中でも十分に活用できるように演習や事例研究を通して修得する。 授業の後半では、会食のマナー（日本料理、西洋料理、中国料理、パーティーの基礎知識）、冠婚葬祭お付き合いのマナーについて学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○ A	知識	○ B	技術・技能
	C	論理的思考力	○ D	文章表現力
	E	表情及び身体表現力	F	感性及び感動表現力
	G	協働能力	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	J	多様性への理解力、応用力
	○ K	課題対処力	○ L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
社会人に求められる基本的なマナーを学ぶことにより教養や知識を高める。そして、教養を兼ね備えた社会人となるように基本的なビジネスマナーを演習やケース・スタディ（事例研究）を通して身に付ける。	目標	A・B・D・K・L		
会食のマナーでは、これからの日常生活の中でも実践し、基本的な食作法（箸使い、カトラリーの使い方など）ができるようにする。	目標	A・B・L		
冠婚葬祭お付き合いのマナーでは、特に学生が将来、保育者になることを視野に入れ、冠婚葬祭の「冠」では、乳幼児にまつわる祝い事の基礎知識とその祝い方を理解する。「祭」の年中行事では、保育施設などで行われる様々な行事（節分、ひな祭り七夕、クリスマスなど）の由来と祝い方などの基本を理解し、子どもたちへ日本の伝統文化を継承していくことの大切さを認識する。	目標	A・B		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 あなたのマナー好感度はどれくらい？ 訪問のマナー(1) ・事前準備 ・玄関先でのマナー	授業計画 スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「スマステ」長寿の祝い(5分) 「まる得マガジン」 スマートなマナー①(5分)	予習・復習 教科書 P 32～34、 P 164～165、 P 171 配布資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	訪問のマナー(2) ・席次のマナー ・客間でのマナー①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「京都の作法」（7分） 「Qさま：上座・下座」（5分）	予習・復習 教科書 P 27～37、 P 44～48 配布資料
3	訪問のマナー(3) ・客間でのマナー② ・辞去のマナー ◎事例研究①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー②（5分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 27～37、 P 44～48 配布資料 課題：実習依頼の 言葉遣い
4	訪問のマナー(4) ・茶菓のいただき方 ・もてなしのマナー ◎事例研究②	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートなマナー③（5分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 36、39～43、 P 47 配布資料 課題：就職活動の 言葉遣い
5	■小テスト(1) ～訪問のマナー 電話のマナー(1) ・対応のポイント ・かけ方の基本 ◎事例研究①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「会社の星（電話）」（7分） 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 70～74 配布資料 課題：実習先に電話を かける（言葉遣い）
6	電話のマナー(2) ・かけ方の応用 ◎事例研究②	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 70～76 配布資料 課題：就職活動で電話を かける（言葉遣い）
7	電話のマナー(3) ・うけ方の基本と応用①	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 77～81 配布資料
8	電話のマナー(4) ・うけ方の応用② ・伝言メモの留意点 ◎うけ方の事例研究① ・伝言メモの作成①	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 DVD視聴 「スマステ」（3分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 77～81 配布資料 課題：伝言メモ（清書）
9	電話のマナー(5) ◎うけ方の事例研究② ・伝言メモの作成②	スライド・教科書・配布資料 電話機を使用しての演習 事例研究	予習・復習 教科書 P 77～81 配布資料 課題：伝言メモ（清書）
10	■小テスト(2) ～電話のマナー 対応のマナー(1) ・来客対応の心構え ・受付の基本 ・名刺の受け渡し	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「会社の星（名刺）」（5分） 名刺と名刺入れを使用しての 演習	予習・復習 教科書 P 19～26 配布資料 課題：受付での言葉遣い
11	対応のマナー(2) ◎受付の事例研究 ・取り次ぎ、案内、見送りの仕方 ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導①	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「スマステ」（3分） 事例研究	予習・復習 教科書 P 19～26 配布資料
12	会食のマナー 西洋料理のマナー(1) ・レストランでの基本マナー ・メニュー、テーブルセッティング ・食べ方のマナー① ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導②	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀① 10分（5分×2項目） ナプキン・カトラリー・洋食 器等を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 128～132

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	会食のマナー 西洋料理のマナー(2) ・食べ方のマナー② ◆学外授業「テーブルマナー演習」事前指導③	スライド・教科書 DVD視聴 「まる得マガジン」 スマートな食べ方の流儀② 10分（5分×2項目） カトラリー・洋食器等を使用 しての演習	予習・復習 教科書 P 132～134
14	◆学外授業「テーブルマナー演習」実施	西洋料理テーブルマナーの 実践	予習・復習 教科書既修内容を 再確認 課題「学外授業」 レポート ➡次回提出
15	学外授業「テーブルマナー演習」事後指導 会食のマナー 西洋料理のマナー(3) ・お酒の知識 前期まとめ・前期末試験の説明	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「ワインについて」5分 各種グラスを使用しての演習	予習・復習 教科書 P 135 配布資料
16	前期末試験	筆記試験	教科書・配布資料 既修内容を再確認
17	前期末試験の解説 言葉遣いと人間関係のマナー(1)	スライド・教科書・配布資料	予習・復習 教科書 P 50～68 配布資料
18	言葉遣いと人間関係のマナー(2) 会食のマナー 日本料理のマナー(1) ・日本文化としての箸のマナー ・日本料理の心得	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「和風総本家 意外と知らない 箸のマナー」(20分) 箸と椀を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 50～68、 P 112～113 配布資料
19	会食のマナー 日本料理のマナー(2) ・日本料理の種類 ・食べ方のマナー ・日本酒	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「京のいっぴん物語」(7分) 箸と和食器を使用しての演習	予習・復習 教科書 P 112～120 配布資料
20	会食のマナー 中国料理のマナー(1) ・中国料理の種類 ・回転台の使い方 ・食べ方のマナー ・飲茶の楽しみ方	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「もっとおいしく 中国料理の楽しみ方」(15分) れんげの使い方の演習	予習・復習 教科書 P 124～127 配布資料
21	会食のマナー 中国料理のマナー(2) ・中国茶 ・中国酒 会食のマナー パーティーマナー(1) ・パーティーマナーの基礎知識 ・立食パーティーマナーのポイント ・パーティーマナーの服装マナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「日経おとなの OFF・中国茶」(7分) 「会社の星 会食マナー」① (7分) グラス・プレート・フォーク の持ち方の演習	予習・復習 教科書 P 127、 P 136～138 配布資料
22	会食のマナー パーティーマナー(2) ・料理の取り方 ・乾杯のマナー ■小テスト(3) ～会食のマナー（総合問題）	配布資料・グループワーク DVD視聴 「会社の星 会食マナー」② (10分)	予習・復習 席次、日本料理の作法、 言葉のマナー等、 既修内容を再確認
23	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(1) ・招待状の返信 ・祝電	スライド・配布資料 教材・祝電	予習・復習 教科書 P 156～157 配布資料
24	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(2) ・祝品と祝金 ・表書きの書き方	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴「六曜」(7分) 「結婚に招かれたとき 招待客の礼儀」(8分)	予習・復習 教科書 P 156～157、 172～174 配布資料

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	冠婚葬祭おつき合いのマナー 結婚式に招待されたときのマナー(3) ・服装のマナー ・当日のマナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「テーブルスピーチ」(5分) 「会社の星 招待客のマナー」(7分)	予習・復習 教科書P138・157 配布資料
26	冠婚葬祭おつき合いのマナー 赤ちゃんとお子さんの祝い事 帯祝いから十三参りまで	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「冠婚葬祭女王決定 内祝い」(7分)	予習・復習 教科書P158～162 配布資料 「人生の祝い事」
27	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(1) 暦の基礎知識 お正月	スライド・配布資料 DVD視聴 「和風総本家 お正月の過ごし方」(20分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
28	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(2) 1月～6月	スライド・配布資料 DVD視聴 「節分」(8分) 「ひな祭り」(10分) 「端午の節句」(5分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
29	冠婚葬祭おつき合いのマナー 年中行事(3) 7月～12月	スライド・配布資料 DVD視聴 「七夕の祝い方」(7分) 「スマステ8・9月の行事」 (12分) 「暦を歩く」(3分)	予習・復習 配布資料 「年中行事」
30	冠婚葬祭おつき合いのマナー 弔問のマナー お葬式の手順、お悔やみの言葉、弔電、 弔慰金、供物・供花、服装のマナー、 告別式・通夜でのマナー	スライド・教科書・配布資料 DVD視聴 「お葬式の心得 お香典・ お焼香悩み解決」(7分)	予習・復習 教科書P166～170 配布資料 「弔問のマナー」
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 後期末試験終了後、希望者には後期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期末試験（筆記試験） … 35% 2. 後期末試験（筆記試験） … 40% 3. 学外授業レポート（1回） … 10% 4. 小テスト（3回） … 15% ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。			
【教科書】 書名：新生活教養 著者名：近喰晴子・三村善美他 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 1. 配布資料を整理するための専用ファイル1冊を準備すること。 2. 学外授業、演習実施など、指定された場合には、スーツを着用すること。 なお、指定されたスーツ以外で出席している場合は、1回につき成績評価から1点ずつ減点する。 3. 基本実習、学外授業の日程、授業の進捗状況により、授業内容の入れ替えや授業内容の一部を変更する場合がある。 4. 遅刻をした場合は授業終了時に必ず申し出ること。（申し出がなかったら出席扱いとはしないので注意すること） 5. 学外授業「テーブルマナー演習」は、保育学科とこども学科は合同で9月1日(土)に実施する。 6. 学外授業「テーブルマナー演習」食事代の一部として、一人あたり2,200円の実費を徴収する。			

授業科目名	生活と安全		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 黒 津 康 司		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園や保育所における軽傷事故は日常的に発生しており、また、死亡等に至る重大事故も毎年発生している。さらに、幼稚園等の内外において、子どもをねらった事件が頻発しており、今や幼稚園教諭や保育士にとって（保護者にとっても）、日々の業務（生活）の中で子どもの安全を確保することは重要な課題となっている。 本授業においては、さまざまなケースを通して事故等を分析することにより、事故等を予兆的に捉え、保育等における事故等の未然防止を図ろうとするものである。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
危機管理の観点から、保育業務全体を見る目を養うことができる。		目標	A・C・D・K	
子どもが被害者となる事件・事故の現状等を学ぶことにより、保育時等における園児の安全を確保するための留意点等を身につけることができる。		目標	A・B・D・I・K	
クレーム事案への対処方法を通じて、保護者との関係の在り方に関する基礎知識を習得することができる。		目標	A・B・J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	1. オリエンテーション ～「生活と安全」において何を学ぶか？ (1) 授業概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (受講時の留意点等) 2. 保育における危機管理とは	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画 各回ともレジュメ、参考資料を配布して行う 発表も求める 適宜DVDを使用する 	幼稚園・保育所に関する事件・事故報道に関心を持ち、授業内容との関連性を考える習慣を身につけること 各回に配布した参考資料は必ず読了すること
2	子どもが被害者となる犯罪の現状(1) <ul style="list-style-type: none"> 「子ども」が被害者となる犯罪にはどのようなものがあるか 子どもの性被害の現状と課題 	<ul style="list-style-type: none"> 講義 各種統計資料 DVD (10分) 「5つのお願い」 	配布資料を事前学習のこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもが被害者となる犯罪の現状(2) ・児童虐待の現状とその特徴 ・児童虐待の早期発見と早期保護	・講義 ・DVD（20分） 「児童を虐待の被害から守るために」	報道された虐待事例について調べておくこと
4	子どもが被害者となる犯罪の現状(3) ・児童虐待の現状とその特徴 ・児童虐待の早期発見と早期保護	・講義 ・DVD（20分） 「児童を虐待の被害から守るために」	報道された虐待事例について調べておくこと
5	幼稚園・保育所における事件・事故の現状 ・最近5年間の状況 ・業務上過失犯とは ・管理者、保育士等の責任	・講義 ・配布資料	配布資料を事前学習のこと
6	幼稚園・保育所における事故事例(1) ・事例研究	・配布資料 ・発表・討議 ・解説	配布資料を事前研究し、発表資料をまとめること 事前に発表練習をしておくこと
7	幼稚園・保育所における事故事例(2) ・事例研究	・配布資料 ・発表・討議 ・解説	配布資料を事前研究し、発表資料をまとめること 事前に発表練習をしておくこと
8	幼稚園・保育所における事故防止対策(1) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配布資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
9	幼稚園・保育所における事故防止対策(2) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配布資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
10	幼稚園・保育所における事故防止対策(3) ・保育態様別着眼点 ・実技要領	・講義 ・配布資料 ・実技	指示した救命法を事前に練習しておくこと
11	幼稚園・保育所における危機管理(1) ～万一事件等が発生した場合の措置 ・犯罪者等の侵入事案 ・不審者情報・危険情報等への対応	・講義 ・配布資料 ・実技	配布資料を事前学習のこと
12	幼稚園・保育所における危機管理(2) ・地震等への対応 ・その他	・講義 ・配布資料 ・DVD（20分） 「3.11その時、保育園は」	3.11大震災に関する課題レポートを事前に提出すること
13	幼稚園・保育所における危機管理(3) ・地震等への対応 ・その他	・講義 ・配布資料 ・DVD（20分） 「3.11その時、保育園は」	3.11大震災に関する課題レポートを事前に提出すること
14	幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(1) ・要望・苦情等をどう捉えるか ・基本的な考え方と具体的対応要領	・講義 ・配布資料 ・一部討議	配布資料を事前学習のこと
15	幼稚園・保育所に対する要望・苦情等への対応(2) ・非常識なクレーム及びクレマーの存在 ・事例に基づく対応要領 講義のまとめ・総括	・講義 ・配布資料 ・一部討議	配布資料を事前学習のこと 対応要領を研究しておくこと

【到達度の評価（評価方法・基準）】

100点満点とし、その割合は、小論文・レポートの結果：60%、ミニテストの結果：40%とする。

1. 小論文・レポート：授業内容に沿って2回くらい課題を与えて行う。課題との整合性、構成、独創性、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。
2. ミニテスト：授業内容の理解度を確認するため、4～5回行う。問題との整合性、構成、文法等を採点の基準とし、S～Dの5段階で評価する。
3. その他：遅刻、欠席、受講態度、発表姿勢等評価に関わるその他の詳細については、初回授業時に説明する。

【参考書】

1. 書名：保育園における事故防止と安全管理
著者名：田中哲郎
発行所：日本小児医事出版社
価格：2,500円（税別）
2. 書名：保育園における危険予知トレーニング
著者名：田中哲郎
発行所：日本小児医事出版社
価格：1,800円（税別）
3. 書名：保育士と考える実践保育リスクマネジメント講座
著者名：関川芳孝
発行所：社会福祉法人全国社会福祉協議会
価格：1,200円（税別）

【その他補足事項】

1. 「受講ノート」は必ず用意し、毎回の受講後確実に整理すること（質の高いノートの作成に努めること）。
2. 授業順序及び内容は、学生の理解の進捗、大学行事等により、変更する場合もあり得る。

授業科目名	音楽演習（音楽鑑賞）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ブルース・ヒューバナー		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 この授業は、音楽が人格形成に欠かせないものであることを前提としている。 すなわち社会、家族、自らのアイデンティティ、身体および精神の両方が、音楽により質の高いものに向上し、人生の全てを左右することさえあるということを学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
音楽・音に対し知性的な考察ができ且つ、洗練された鑑賞力と選択力を養うことを目指す。それにより音楽を楽しみ、豊かな感性を育むことを目標とする。			目標	A・E・F・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1章 音楽的な生活 パート1：私の音楽生活の瞬間 自己紹介	授業計画 リスニングセッション 音楽を聴く方法 音楽の記述 レクチャー／デモンストレーション	授業計画を事前に読んでおく
2	パート2：音楽的な生活とは？	リスニングセッション 小泉文夫『子守唄の社会学』 レクチャー／デモンストレーション	小泉文夫氏について調べておく
3	パート3：根と枝 伝統と革新 音楽のパトロン 音楽を経済的にどのように支えたか？	リスニングセッション 小泉文夫『わらべうたと民族性』 映画：アマデウス	モーツァルトについて調べておく
4	パート4：音楽制作の現場 楽譜	リスニングセッション Comparison of World Notation Systems, 映画：アマデウス	配布資料等で前回授業の復習をしておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	パート4：音楽制作の現場 アンサンブル	リスニングセッション DVD 映画：アマデウス	配布資料等で前回授業の復習をしておく
6	2章 音楽と空間	リスニングセッション 小泉文夫『人はなぜ歌をうたうか：音楽の場』 映画：アマデウス	配布資料等で前回授業の復習をしておく
7	パート1：音楽の進化 自然界の音	リスニングセッション CD／YouTube	配布資料等で前回授業の復習をしておく
8	パート2：「アーティスト」と素材 世界の楽器について	リスニングセッション 音楽と自然：尺八 自然と文化の尖端について：尺八の作り方	尺八について調べておく
9	パート3：「アーティスト」と素材 建築と音楽の平行進化	リスニングセッション TedTalk 音楽と建築 DVD	配布資料等で前回授業の復習をしておく
10	3章 音楽の力	リスニングセッション 小泉文夫『アジアの音楽・ヨーロッパの音楽』 ゲストレクチャー DVD	配布資料等で前回授業の復習をしておく
11	パート1：音楽と世代 1960's：ヒップホップ	リスニングセッション 映画：『ウッドストック』 CD／YouTube	配布資料等で前回授業の復習をしておく
12	パート2：政治的運動と音楽 ボブ・マーリー、ジョン・レノン	リスニングセッション ドキュメント『ボブ・マーリー』 CD／YouTube	ボブ・マーリーとジョン・レノンについて調べておく
13	パート3：宗教音楽	リスニングセッション 小泉文夫『仏教音楽から学ぶもの』 CD／YouTube	仏教音楽について予習しておく
14	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査	リスニングセッション	発表できるよう準備しておく
15	Survey of Sound Environment 学生研究発表：音楽環境検査 前期小テスト	リスニングセッション	発表できるよう準備しておく
16	4章 音楽は言語 パート1：言語の学習と音楽の学習	リスニングセッション	配布資料等で前回授業の復習をしておく
17	パート2：音楽でストーリーを伝える手法	リスニングセッション Case Study：山田流箏曲『竹生島』 レクチャー／デモンストレーション	箏曲『竹生島』について調べておく
18	パート2：音楽でストーリーを伝える 緊張と解放 音楽形式	リスニングセッション レクチャー／デモンストレーション	配布資料等で前回授業の復習をしておく
19	パート3：即興	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	配布資料等で前回授業の復習をしておく
20	5章 ジャズ パート1：ジャズの本質 L. アームストロングとジャズソロ	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz レクチャー／デモンストレーション	L. アームストロングについて調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	パート2：アメリカの芸術形式？ ジャズの歴史	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz ゲストレクチャー	ジャズについて調べておく
22	パート3：世界におけるジャズの影響	リスニングセッション Film：Ken Burns Documentary The History of Jazz DVD／CD／YouTube	配布資料等で前回授業の復習をしておく
23	6章 三つの窓：音楽家、楽器、ジャンル	リスニングセッション	
24	パート1：ひとりの音楽家： レナード・バーンスタイン ～指揮者として～	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	レナード・バーンスタインについて調べておく
25	レナード・バーンスタイン ～作曲家として～	リスニングセッション DVD	配布資料等で前回授業の復習をしておく
26	レナード・バーンスタイン ～教育者として～	リスニングセッション DVD／CD／YouTube	配布資料等で前回授業の復習をしておく
27	パート2：ひとつの楽器 スチールパン トリニダードから世界へ	リスニングセッション ゲストレクチャー	トリニダード・トバコについて予習しておく
28	パート3：ひとつのジャンル ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD／YouTube	ハリウッド映画について調べておく
29	パート3：ひとつのジャンル ハリウッド映画音楽 イメージとサウンド	リスニングセッション CD／YouTube／DVD	配布資料等で前回授業の復習をしておく
30	被災地と音楽 後期小テスト	リスニングセッション ゲストレクチャー	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 研究レポート提出（60％）・前期小テスト（20％）・後期小テスト（20％） 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退、授業中の態度等による減点を行う。 *詳しくは初回授業時に説明する。			
【その他補足事項】 教材としてCD、DVD、YouTube等を使用。プリントを配布する。			

授業科目名	音楽演習 (ポップスの世界)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ながくぼ かず こ 長久保 和子	開講期	通年
	非常勤講師	さとう かおり 佐藤 香	授業回数	30回
	[本務先: キャンダンスクール 職名: 校長]		期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、個人またはグループで好きな歌を3～4曲選び、自分たちで構成をアレンジしながら、音楽を通して自分を表現することを学ぶ。歌唱の他に、振り付け、音響、照明、衣装等を自分たちで考え工夫し、総合的な音楽表現を取り入れながら一つの作品に仕上げる。年間3回の発表会でパフォーマンスの実践を経験する。また、演奏会の運営(プログラム作成、受付、会場案内等)についても学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
歌唱や踊りを通して、総合芸術としての作品を仕上げる中で、自己の表現方法を知る。	目標	A・B・E・F・K
演じることを楽しみ、なおかつ、観客をも楽しませるといったエンターテインメントを追求する。	目標	A・H・J・K
グループを組み、また履修者全員で一つの作品を仕上げていく中で、仲間と共に集い創作する上での喜び、協調性や達成感を味わう。	目標	G・K・L
発表会の場数を踏むことで「人前で演じる」ことを通して自分への自信につなげていく。	目標	E・F・K・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要の説明 ・年間3回の発表会(後期末試験)の説明 ・リーダーと役割分担を決める ・第1回発表会の6曲を決める 履修者一人ずつカラオケシステムで歌う 今までの発表会のDVD鑑賞	授業計画 カラオケシステム DVD ディスカッション・歌唱	グループ分け 曲の音源を各グループで準備
2	年間3回の発表会の詳細説明 教室の使用方法和借用について 千葉記念ホールで各グループ歌唱・構成の指導 歌とダンスの練習	グループ練習 カラオケシステム ディスカッション 音響設定	歌の練習 グループごと割り振った歌詞カードを作成 曲目表作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	千葉記念ホールで各グループ歌唱・構成の指導 ・発声、柔軟 ・グループごと構成（ハモリ、振付等） 歌とダンスの練習	歌唱 ダンス・グループ練習 カラオケシステム 音響設定	指導を受けた点を改善 振付や構成、ハモリの練習
4	千葉記念ホールで各グループ歌唱・構成の指導 ・指導点を改善し変更点を確認・発声、柔軟 ・グループごと構成（ハモリ、振付等） ・衣装の確認 ・曲順の決定 プログラム・ポスターの構想、歌とダンスの練習 ダンス指導について	歌唱 ダンス・グループ練習 カラオケシステム 音響設定 ディスカッション	指導を受けた点を改善 振付や構成、ハモリの練習 衣装を持参 動きやすい服装（スニーカー等）を準備
5	リハーサルルームでダンス指導（佐藤 香担当） ・柔軟とダンスの基本 ・振り付けの仕方 ・ステージマナー 千葉記念ホールで歌唱・構成指導（長久保 和子担当）	歌唱 ダンス・グループ練習 音響設定	指導を受けた点を改善 振付や構成、ハモリの練習 プログラムとポスターの 原案提出
6	発表会会場：スペイン広場の下見 千葉記念ホールで各グループ歌唱・構成の指導 ・指導点を改善し変更点を確認 ・発声、柔軟 ・衣装の決定 ・グループごと構成（ハモリ、振付等） プログラム・ポスターの原案提出	立ち位置確認 歌唱、ダンス グループ練習 カラオケシステム 音響設定	指導を受けた点を改善 衣装を持参 振付や構成、ハモリの練習 プログラムとポスター修正
7	第1回発表会の説明（スペイン広場） ・当日の流れや立ち位置などの確認・司会の決定 ・音響の使い方・プログラムについて 全体練習の実施（立ち位置を確認：6曲） 歌とダンスの練習	ディスカッション 立ち位置の確認 発表会運営練習 歌唱 ダンス・グループ練習 音響設定	指導を受けた点を改善 衣装を持参 振付や構成、ハモリの練習 動きやすい服装、上履き準備
8 ・ 9	グループに分かれて練習（6曲） ・発声、柔軟 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） ・指導点を改善し変更点を確認 衣装、プログラム、ポスターの確認	歌唱 ダンス・グループ練習 カラオケシステム 音響設定	指導を受けた点を改善 プログラムとポスターを持参 動きやすい服装、上履き準備
10 ・ 11	第1回発表会の全体リハーサル ・指導点を改善し変更点を確認 ・6曲の構成、立ち位置等最終確認 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） 衣装、プログラム、ポスターの最終確認 プログラム、ポスターの提出	歌唱 ダンス・グループ練習 立ち位置確認 発表会運営練習 音響設定	指導を受けた点を改善 衣装を持参 プログラムとポスターの清書
12 ・ 13	第1回発表会のリハーサル（各週3曲） ・発声、柔軟 ・指導点を改善し変更点を確認 ・実際の順番に沿って練習	歌唱 ダンス・グループ練習 発表会運営練習 音響設定	指導を受けた点を改善 役割や衣装など最終確認
14 ・ 15	第1回発表会の実施（授業時間外：スペイン広場） ・発表会の運営について学ぶ ※7月中旬の昼休み時間、2回に分けて実施予定 第1回発表会の反省（DVD鑑賞） ・反省、アドバイス、今後の改善点を含め、ディスカッション 第2回発表会の説明 ・当日の流れ、会場について ・曲目の決定（4曲） プログラム・ポスターの構想	歌唱、ダンス 発表会運営 音響設定 DVD ディスカッション グループ練習 カラオケシステム	発表会の感想や反省等をまとめる 衣装、構成、振付、司会、BGM等役割の決定 プログラムとポスターの原案提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
16	第2回発表会の全体リハーサル① ・衣装の確認、曲順の決定 ・BGM、司会を入れて立ち位置を確認 プログラム・ポスターの最終確認	ディスカッション 歌唱、ダンス 発表会運営・音響設定	発表会の練習 プログラムとポスターの清書 衣装を持参
17	第2回発表会の全体リハーサル② ・実際の順番に沿って全体練習 ・衣装や化粧等の最終確認 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） プログラム・ポスターの提出	歌唱 ダンス・グループ練習 発表会運営練習 音響設定	指導を受けた点を改善 役割や衣装などの最終確認
18	第2回発表会の実施（のぎく祭） ・前日にリハーサルを実施（授業時間外に実施） ・千葉記念ホールで発表会を行う	歌唱、ダンス・グループ発表 発表会運営	発表会の感想や反省等をまとめる
19	第2回発表会の反省（DVD鑑賞） ・反省、アドバイス、今後の改善点を含め、ディスカッション 後期末試験（第3回発表会）の説明 ・当日の流れ、会場について ・曲目とグループの決定（4曲） プログラム・ポスターの構想	DVD ディスカッション グループ練習	衣装、構成、振付、ハモリ、司会、BGM等の役割決定 プログラムとポスターの原案提出
20	千葉記念ホールで歌唱・構成指導（長久保 和子担当） ・衣装の確認、曲順の決定・立ち位置を確認（4曲） ・グループごと構成（ハモリ、振付等） プログラム・ポスターの原案提出 運営係（司会、BGM等）の確認	ディスカッション 歌唱、ダンス グループ練習・音響設定	指導を受けた点を改善 プログラムとポスターの修正 動きやすい服装、上履き準備
21 ・ 22	グループに分かれて練習（4曲） ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） ・指導点を改善し変更点を確認 衣装の確認、プログラム・ポスターの最終確認	歌唱 ダンス・グループ練習 音響設定 ディスカッション	指導を受けた点を改善 プログラムとポスターの修正 動きやすい服装、上履き準備
23 ・ 24 ・ 25	第3回発表会の全体練習 ・構成、立ち位置等確認 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） ・衣装の最終確認 プログラム・ポスターの提出	歌唱 ダンス・グループ練習 立ち位置確認 発表会運営練習 音響設定	プログラムとポスターの修正 清書 衣装を持参 動きやすい服装、上履き準備
26 ・ 27	第3回発表会の全体リハーサル① ・BGM、司会を入れて立ち位置確認 ・構成、衣装や化粧等の最終確認 ・プログラムと舞台進行について ・実際の順番に沿って全体練習 プログラム・ポスターの提出	歌唱 ダンス・グループ練習 立ち位置確認 発表会運営練習 音響設定	プログラムとポスターの清書 役割などの最終確認 衣装を持参
28 ・ 29	第3回発表会の全体リハーサル② ・発表会同様に進行 ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） 衣装の最終確認	歌唱 ダンス・グループ練習 発表会運営練習 音響設定	指導を受けた点を改善 役割や衣装など最終確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
30	最終リハーサル実施 ・業者と確認しながら進める ・ダンス指導（佐藤 香担当） ・歌唱、構成指導（長久保 和子担当） 第3回発表会の実施 （後期末試験：授業時間外に実施）	歌唱 ダンス・グループ練習 発表会運営練習 （業者参加） 発表会運営	発表会の感想や反省等をまとめる
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 3回の発表時、声量と音程・リズムの正確性、音域や曲の雰囲気・振り付け等の適正を重視した総合的な完成度（3回目の発表時は、担当教員が依頼する教員の審査）… 60% 2. 授業に取り組む姿勢、発表会への意欲、歌唱やダンスの能力 … 30% 3. 周りとの協力・協調性といったコミュニケーションの能力 … 10% ※詳細は初回授業にて説明する。			
【その他補足事項】 1. 初回の授業はFCメイツで行う。 2. 2回目からの教室は、千葉記念ホール、FCメイツ、リハーサルルームを使用し、授業終了時に次回の場所を指示する。内容によっては、図書館情報センタースタジオを使用することもある。 3. FCメイツ以外はカラオケシステムがないことから、事前に自分たちで音源を準備し、実施するようにする。また、教務課からデッキ・ワイヤレスマイク、千葉記念ホールのマイクを可能な限り借用して実施する。 4. 完成度によっては、学位記授与式メモリアルコンサート、入学式に出演する場合もある。その場合は、授業とは別に練習を行う。 5. 履修者が多い場合、歌唱によるオーディションにより、履修者数の制限を行う。			

授業科目名	美術演習（粘土細工を楽しむ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授	ふる はた まさ のり 古 畑 雅 規	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 動物や植物などをモチーフに、デッサン、水彩画、ポスターカラーなどで描く。絵画としてモチーフそのものだけではなく、背景を描くことによりその場の臨場感や奥行きを出させ、絵本のような物語を感じさせる作品づくりを目指す。また、立体として平面同様動物や植物などをモチーフにして粘土細工などでオブジェを制作する。絵画には表現できない立体感や重量感、またモチーフそのものの質感を追求する。最後に絵画と立体の混合作品の制作もすることにより、現代美術の要素も学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
作品の制作に対して、基本的な技法とその技術を学ぶ。			目標	A・B
さまざまなアイデアを出し合い、工夫する。			目標	B・C
意欲をもって楽しく学ぶ。			目標	F・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点)	授業計画	
2	動物の絵画の制作 構図を考え下描きをする	イラストボード エンピツ など	描きたい動物の資料を用意する
3	動物の絵画の制作 背景を考えながら下描きをする	イラストボード エンピツ など	身近な動植物の観察
4	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えながら下描きをする	エンピツ、ペン など	身近な動植物の観察
5	動物の絵画の制作 絵具を使って着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
6	動物の絵画の制作 陰影を考えて着彩	水彩絵具、ペン など	身近な動植物の観察
7	動物の絵画の制作 全体のバランスを考えて仕上げ	定着スプレー	身近な動植物の観察
8	動物のオブジェの制作 土台づくり	板、粘土 など	制作対象の資料を用意する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	動物のオブジェの制作 基礎の形づくり	アルミハク、粘土 など	制作対象の資料を用意する
10	動物のオブジェの制作 骨格を正確に制作する	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
11	動物のオブジェの制作 少しずつ肉付けをする	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
12	動物のオブジェの制作 ボリューム感をだす	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
13	動物のオブジェの制作 背景も同時に制作する	アルミハク、粘土 など	身近にある物の色の観察
14	色鉛筆の使い方の学習 力の加減による色の変化を見る	色鉛筆	身近にある物の色の観察
15	色鉛筆の使い方の学習 グラデーションの学習	色鉛筆	身近な動植物の観察
16	オブジェの制作の続き	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
17	動物のオブジェの制作 形を完成させる	アルミハク、粘土 など	身近な動植物の観察
18	動物のオブジェの制作 絵具を使って着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
19	動物のオブジェの制作 グラデーションをとり入れる	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
20	動物のオブジェの制作 全体のバランスを整え仕上げ	水彩、アクリル絵具 など	身近な動植物の観察
21	粘土を素材とする立体の風景の制作 下描き	スケッチブック、エンピツ など	制作対象の資料を用意する
22	粘土を素材とする立体の風景の制作 絵画と立体の部分を分けて考える	スケッチブック、エンピツ など	制作対象の資料を用意する
23	粘土を素材とする立体の風景の制作 土台づくり	粘土 など	制作対象の資料を用意する
24	粘土を素材とする立体の風景の制作 立体になる部分の制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
25	粘土を素材とする立体の風景の制作 質感なども考えて制作	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
26	粘土を素材とする立体の風景の制作 背景を考える	粘土、アルミハク など	粘土以外の素材を用意する
27	粘土を素材とする立体の風景の制作 水彩、アクリル絵具で着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
28	粘土を素材とする立体の風景の制作 ボリューム感を出す	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
29	粘土を素材とする立体の風景の制作 全体の色のバランスを考えて着彩	水彩、アクリル絵具 など	身近な風景の色を観察する
30	粘土を素材とする立体の風景の制作 仕上げ 一年間のまとめ	水彩、アクリル絵具、 定着材 など	
【到達度の評価（評価方法・基準）】			
1. 作品評価 70%（制作時間に見合った達成度、工夫、ボリューム） 2. 授業態度 30%（作品への意欲で評価）			
【教科書】 その都度、資料を配布する。			
【その他補足事項】 1. 材料費として2,700円を徴収する。 2. 授業の進行状況により、授業内容が入れ替わることがある。			

授業科目名	美術演習（造形を楽しむ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 ^{すず} 鈴木 ^{みき} 美樹		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「美術」は、ものの見方を広げると同時に、コミュニケーションを可能にしてくれる。本演習では、専門性につながるそれら教養としての「美術」を学ぶものである。 具体的には「造形遊び」などの様々な今日的表現を通して、ものを作りだす喜びを味わう。季節に応じた製作の中で自然に親しみ、各月ごとの「歳時記」の記述を通して、感性を豊かにする。また、美術の史的背景を、ビデオ等を用いて解説も行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
様々な「作品」の製作を通して、美術の楽しさや奥深さを味わうことができるようになる。			目標	A・B・F
自然に対する興味・関心が育ち、そこから生み出された文化への理解を深めることができる。			目標	A・F・J
作品の製作や鑑賞を通して、美的感性が養われ、美術の基礎技能や表現力を高めることができる。			目標	A・B・F・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション、今後の学習の進め方 春のキャンパスで自然観察を行う (自然観察のポイント)	授業計画 プリント① ※キャンパス内散策は天候による 散策の感想を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント①の復習 ワークシートの記入と提出
2	風を探してみよう ～紙を使って動くおもちゃをつくる	プリント② 折り紙、割り箸、ビーズなどで 製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 プリント②の復習
3	季節や行事のカードをつくってみよう(1) ～立体カードの構造を知る	プリント③ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント③の復習 空き時間を使って課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	季節や行事のカードをつくってみよう(2) ～基本のつくり方	プリント④ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント④の復習 空き時間を使って課題を進める
5	季節や行事のカードをつくってみよう(3) ～基本から応用へ	プリント⑤ 画用紙、カッターなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑤の復習 空き時間を使って課題を進める
6	季節や行事のカードをつくってみよう(4) ～様々な方法を試してみる	プリント⑥ 画用紙、カッターなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 プリント⑥の復習 空き時間を使って課題を進める 教材を探しておく
7	光で遊ぼう(1) ～光に当てると美しいものを見つける	様々な素材 OHP、スライド投影機を使用し、 自分が見つけたものを伝え合う	自然観察と記録作成 ワークシートの記入と提出 作りたい題材を探しておく
8	光で遊ぼう(2) ～スタンドグラス製作の説明、下がき	プリント⑦ 画用紙、鉛筆などで製作する DVD視聴（20分） 「藤城清治の世界」 VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑦の復習 空き時間を使って課題を進める
9	光で遊ぼう(3) ～下がき（図案を決める）	画用紙、鉛筆などで製作する DVD視聴（20分） 「藤城清治のギャラリー」 VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
10	光で遊ぼう(4) ～下がき（構成を考える）	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
11	光で遊ぼう(5) ～下がきの完成、画用紙に転写し切り始める	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
12	光で遊ぼう(6) ～画用紙を切り抜く	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
13	光で遊ぼう(7) ～配色について	画用紙、鉛筆などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
14	光で遊ぼう(8) ～スタンドグラスの完成	画用紙、鉛筆などで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
15	紙作りを体験しよう(1) ～牛乳パックからパルプをとる	プリント⑧ 牛乳パックなどで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑧の復習 紙にすき込む切紙を製作しておく
16	紙作りを体験しよう(2) ～基本の方法を学び、色紙や自然物をすき込む	牛乳パックなどで製作する	自然観察と記録作成 紙にすき込む切紙を製作しておく
17	紙作りを体験しよう(3) ～基本の方法から応用する	牛乳パックなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 紙にすき込む切紙を製作しておく
18	落ち葉で遊ぼう(1) ～様々な落ち葉、木の実を観察する	プリント⑨ ※キャンパス内散策(天候による) 散策の感想を述べる	自然観察と記録作成 プリント⑨の復習 ワークシートの記入と提出
19	落ち葉で遊ぼう(2) ～落ち葉を使って絵を描く、技法の習得	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
20	落ち葉で遊ぼう(3) ～落ち葉で絵を描く、構想を練る	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	落ち葉で遊ぼう(4) ～落ち葉で絵を描く、完成させる	押し葉、画用紙、クレヨン、接着剤などで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める クリスマスについて調べ、資料を準備する
22	クリスマスを楽しく飾ろう(1) ～クリスマスの由来を知る ツリーの台座を作る 松ぼっくりに着色する	クリスマスについて調べたことを述べる プリント⑩ 木の実、粘土、塗料などで製作する	自然観察と記録作成 プリント⑩の復習 空き時間を使って課題を進める
23	クリスマスを楽しく飾ろう(2) ～ツリーの台座を彩色する	木の実、粘土、絵具などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
24	クリスマスを楽しく飾ろう(3) ～リースの土台を作る	厚紙、画用紙などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
25	クリスマスを楽しく飾ろう(4) ～リースの飾り付けをする	厚紙、画用紙、木の実、粘土などで製作する	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
26	クリスマスを楽しく飾ろう(5) ～ツリーの飾り付けをする	木の実、ビーズ、モールなどで製作する 作品を觀賞し、感想を伝え合う	自然観察と記録作成 空き時間を使って課題を進める
27	「自然」と「芸術」を通した幼児教育を知ろう ～今日、世界で最も注目されている イタリアの幼児教育の紹介	プリント⑪ VTR視聴（40分） 「レジオ・エミリア市の挑戦 ～子どもの輝く創造力を育てる」 VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑪の復習 ワークシートの記入と提出
28	色彩の世界をのぞいてみよう ～色彩の文化史にふれる	プリント⑫ VTR視聴（40分） 「世界・美の旅 ～世界を巡った謎の青」 VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑫の復習 ワークシートの記入と提出
29	感性と表現について考えてみよう ～エイブル・アートについて	プリント⑬ VTR視聴（40分） 「日曜美術館」 VTRの感想や意見を述べ合う	自然観察と記録作成 プリント⑬の復習 ワークシートの記入
30	1年間のまとめ ～作品とファイルの整理。反省と感想を記入し、作品ファイルを完成させる	作品、プリント⑭ ファイルをまとめる 1年間の感想を述べ合う	自然観察と記録作成 ワークシートの記入 ファイルの整理と提出

【到達度の評価（評価方法・基準）】

作品（提出状況や完成度）・提出物70%、受講態度30%
 ・「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行う。
 ・「学生受講規程」に反する受講態度があった場合、注意3回で退室とし、欠席扱いとする。
 ※詳細については、初回授業時に説明する。

【教科書】 書名：ポケット版 学研の図鑑 ② 植物
 発行所：学習研究社
 価格：960円（税別）
 ※授業内容に応じて、その都度資料を配布する。

【参考書】 その都度、紹介する。

【その他補足事項】

1. 材料費として1,400円程度の実費を徴収する。
2. 各自の準備物として、A4判のクリアファイル、自然物やリサイクル用品等が必要となる。
3. 実技を行うため、履修者は24名までとする。それを超える場合は調整することがあるが、特に第一希望の学生を優先する。
4. 履修人数や希望、天候、作業の進度により、一部内容が変わることもある。

授業科目名	文学演習（読み聞かせ）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 やす だ 安 田 かつ 美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 子どもの年齢や発達に合わせたお話の選び方から、実際にお話するときのポイントなどについて学ぶ。 各作品の基本的な留意点を学んだ後、読み聞かせの練習、全体での発表会など実践的な授業を行い、「読み聞かせ名人」を目指す。 伝統的な昔話のほか、子どもたちに聞かせたいお話、人気の絵本なども多数取り上げる。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
お話の持つ魅力を再認識するとともに、保育の現場で子どもたちに読み聞かせをするときに、知っておかなければならない基本的な知識を習得する。			目標	A
発声、発音の基礎、人前で話すときの注意点を学び、聞き取りやすく、人を引き付ける読み聞かせの技術を身に付ける。			目標	B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業の進め方、評価方法	授業計画 教科書	
2	お話の魅力 お話をするときの基本的な留意点 声の出し方の基礎	教科書 プリント	教科書の次回学習する範囲の下読み
3	1歳から2歳くらいの子どものお話と話し方のポイント(1)「この時期の子どもとお話」	教科書、絵本、VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
4	1歳から2歳くらいの子どものお話と話し方のポイント(2)「この時期の子どもに適した絵本」	教科書 絵本	教科書の次回学習する範囲の下読み
5	2歳から3歳くらいの子どものお話と話し方のポイント(1)「この時期の子どもとお話」	教科書、絵本、VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	2歳から3歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(2)「ももたろう」「大きなかぶ」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
7	2歳から3歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(3)「おむすびころりん」「てぶくろ」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
8	読み聞かせの発表会(1)	発表、教科書	発表の練習
9	読み聞かせの発表会(2)	発表、教科書	発表の練習
10	3歳から4歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(1)「この時期の子どもとお話」	教科書、絵本、VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
11	3歳から4歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(2)「三匹の子ぶた」「赤ずきんちゃん」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
12	3歳から4歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(3) グリム童話について「シンデレラ」原作との比較	教科書 絵本 プリント	教科書の次回学習する範囲の下読み
13	3歳から4歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(4)「白雪姫」原作との比較	教科書 プリント	教科書の次回学習する範囲の下読み
14	3歳から4歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(5)「大工とおに六」「プレーメンの音楽隊」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
15	前期末試験		
16	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(1)「この時期の子どもとお話」	教科書、絵本、VTR視聴 「絵本の読み方」15分	教科書の次回学習する範囲の下読み
17	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(2)「さるかに」「花咲かじいさん」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
18	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(3)「かぐや姫」「ねずみの嫁入り」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
19	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(4)「わらしべ長者」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
20	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(5)「こびとのふしぎな臼」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
21	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(6)「かさじぞう」「三枚のお札」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
22	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(7) イソップ童話について 「北風と太陽」「よくばりな犬」	教科書 プリント	教科書の次回学習する範囲の下読み
23	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(8)「ぶたの計算」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
24	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(9)「こびととくつや」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(10)「おおかみと七匹の子やぎ」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
26	4歳から5歳くらいの子どもへのお話と話し方のポイント(11)「ジャックと豆の木」	教科書	教科書の次回学習する範囲の下読み
27	読み聞かせの発表会(1)	発表、教科書	発表の練習
28	読み聞かせの発表会(2)	発表、教科書	発表の練習
29	子どもたちと楽しみたい絵本(1) 作品紹介	教科書、絵本	
30	子どもたちと楽しみたい絵本(2) まとめ	教科書、絵本	
期末試験	後期末試験		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。</p>			
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品の読み聞かせ60%、授業への参加態度10%、期末試験30%から客観的に評価する。 欠席、遅刻、早退、授業中の態度に関わる減点については、「成績評価への補足的対応措置」に従う。 ※詳細については初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：お話とその魅力 著者名：相馬和子 他 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）</p>			

授業科目名	日本国憲法		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{にい むら しげ ふみ} 新村 繁文 〔本務先：福島大学 職名：特任教授〕		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 日本国憲法の基本的原則について、各条文や判例を交えて解説していく。また本科目が教職免許の課程における必修科目である点を踏まえ、特に教育を受ける権利、幼児児童の権利擁護の観点を受講者と議論を深めていくよう進めていく。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日本国憲法の基本理念・基本構造を正確に学ぶことをテーマとし、具体的な事例や設問に即して検討する。福祉国家理念を基礎にした20世紀の人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討し、人権、教育を受ける権利等について、実生活に如何に反映されているか、理解していくことを目標とする。			目標	A・C・D・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション(法の世界と人権・権利) ～憲法にはいる前に、法の基本的概念を学ぶ	授業計画・レジюме	
2	近代市民憲法の成立と立憲主義(1) ～近代市民革命とその基本原理を学ぶ	レジюме・必要に応じ 補足資料	新聞等で関連記事を読む
3	近代市民憲法の成立と立憲主義(2) ～国民主権と権力分立の考え方を学ぶ	〃	〃
4	近代市民憲法の成立と立憲主義(3) ～自由権の基本権から社会権の基本権への展開	〃	〃
5	近代市民憲法の成立と立憲主義(4) ～社会権の基本権の考え方を学ぶ	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	基本権各論(1) ～憲法13条（個人の尊重、自己決定権、プライバシー等）を学ぶ	レジュメ・必要に応じ 補足資料	新聞等で関連記事を読む
7	基本権各論(2) ～精神的自由権と経済的自由権の違いを学ぶ	〃	〃
8	基本権各論(3) ～憲法25条（生存権）を学ぶ	〃	〃
9	基本権各論(4) ～憲法26条（教育を受ける権利）の基本的考え方を学ぶ	〃	〃
10	基本権各論(5) ～子どもの権利について多面的に考える	〃	〃
11	基本権各論(6) ～憲法27条（勤労の権利）の考え方を学ぶ	〃	〃
12	統治機構各論(1) ～国会について学ぶ	〃	〃
13	統治機構各論(2) ～内閣について学ぶ	〃	〃
14	統治機構各論(3) ～裁判所について学ぶ	〃	〃
15	統治機構各論(4) ～憲法保障のあり方を学ぶ	〃	〃
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験を実施し、主としてその得点により成績評価する。試験は100点満点、適切な語句等を記入する穴埋め方式を中心とする。 ※詳細は、授業時に説明する。			
【教科書】 書名：いちばんやさしい憲法入門 著者名：初宿正典、高橋正俊、半沢広一、棟居快行 発行所：有斐閣 価格：1,600円（税別）			
【参考書】 適宜指示する。			

授業科目名	女性の保健		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 お織 だまさあき 田正昭		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回講義時に説明する。		

【授業の概要】 女性の健康と疾患について、女性のライフサイクルの視点から教科書をもとにして学ぶ。併せてスライドとビデオを用いて理解を深める。必要に応じて配布資料を用いる。また母性としての自己の健康状態を把握し、正しい知識を得る。授業内では女性の保健に関わる社会的トピックスをもとに受講者間で討論を行う。おおむね5回ごとに確認のためにミニテストを行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
女性として、また近未来の親として知っておくべき母性に関する基礎知識を習得する。			目標	A・C
ライフサイクルの立場から女性の一生にわたる保健、健康問題を理解する。特に、月経、妊娠、出産に始まり、乳幼児期、学童期、思春期、成熟期、更年期、老年期と、時期ごとに生じる様々な健康に関する身体的・生理的、心理的、社会的特性と機能を、母性の立場から考える。			目標	A・K
母子の健康に関する社会的トピックスに対して積極的関心を持ち、それらに対して自分の意見や考えを述べられるようにする。			目標	I・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 女性の健康の概念と歴史 女性のライフサイクル 生殖生理総論	授業計画 教科書を参考にしながら、 配布資料を用いて講義する	女性の健康をキーワードとして未 来の自己のライフサイクルを考え てみる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	女性の身体特性(1) ～生殖器の構造と機能 ～女性と先天異常	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
3	女性の身体特性(2) ～乳房の構造と機能を中心に ～異常の発見	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
4	月経の生理とホルモンの生化学、 月経異常と対応	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
5	妊娠の成立と維持、分娩の生理 ～生理・生化学的変化の理解 ～男性の生殖生理	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する 理解度チェックのためのミニテスト実施	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
6	避妊と人工妊娠中絶	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
7	女性の疾患 ～気になる症状の理解 ～産後うつ	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
8	女性の疾患 ～子宮がん、卵巣がん ～子宮内膜症、子宮筋腫ほか	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
9	女性の疾患 ～乳がんを中心に	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する 理解度チェックのためのミニテスト実施	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
10	性感染症 ～HPV、AIDSなどのSTDの現状と対応	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
11	女性と予防接種 ～HPV、風疹などを中心に	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
12	更年期の健康、働く女性と高齢出産 ～先天異常 ～骨粗しょう症ほか	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する 理解度チェックのためのミニテスト実施	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
13	不妊治療 ～生殖医療（代理出産）	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する 理解度チェックのためのミニテスト実施	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
14	女性に関する先端医療の現状 女性の性をめぐる社会問題 ～性暴力、DVほか	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
15	まとめ ～女性の保健をめぐる総合討論 ～女性の健康のための法律・制度	教科書を参考にしながら、配布資料を用いて講義する	事前学習も重要であるが特に講義後の復習に重点をおいてほしい
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 筆記試験 講義全範囲を対象として期末試験として行う。
 2. 課題発表 テキストをもとにあらかじめ割り振った課題の発表を評価する。
 3. 中間ミニテスト 理解度確認のために講義4～5回ごとにミニテストを実施。終了後、授業内で採点する。
 4. 授業態度 知識だけでなく講義での態度、積極的発言、質問、討論意欲を評価する。
- 最終的に 1. 60% 2. 10% 3. 20% 4. 10%の割合で総合評価する。

【教科書】 書名：女性のライフサイクルとナーシング
著者名：高橋真理、村本淳子（編）
発行所：ヌーベルヒロカワ
価格：2,200円（税別）

【参考書】 書名：ウイメンズヘルスナーシング概論
著者名：村本淳子、高橋真理（編）
発行所：ヌーベルヒロカワ
価格：1,900円（税別）

【その他補足事項】

参考書は教科書と対を成すものであり、できれば購入を勧めたい。

授業科目名	英会話Ⅰ（ベーシックレベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	オカンポ・メリッサ・ブラザ	開講期	通年
	非常勤講師	たか はし りょう じ 高橋了治	授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時説明する。(オカンポ) 授業終了後に教室で質問等に対応する。(高橋)		

【授業の概要】 この授業では、英語のスピーキングやリスニングを通して日常生活における基本的な英語表現や英熟語の習熟を図る。また、外国の文化や習慣、考え方にも注目して異文化理解への関心を深め、場に応じた自己表現を英語でできるように指導する。 補助教材としてプリントを用いて保育現場で使われる語句を学び、英語検定試験の指導についても随時行う。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
テキストにてでくる基本的な英単熟語を会話で応用できる。	目標	A・B・J	
保育現場で使われる語句を会話で応用できる。	目標	A・E・I・J	
様々な状況を想定しながら英語で簡単な自己表現ができる。	目標	D・I・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方と留意点	授業計画 テキストの使用法	自分なりに英語を学ぶ意義を考えておくこと
2	Unit 1：家族 肯定と否定の返答	テキスト・CD プリント使用	Unit 1 (p. 11~14) 意味調べ・音読
3	Unit 2：友達 頻度を表す表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 2 (p. 15~18) 意味調べ・音読
4	Unit 3：文化 義務と提案の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 3 (p. 19~22) 意味調べ・音読
5	Unit 4：教育 意見の述べ方	テキスト・CD プリント使用	Unit 4 (p. 23~26) 意味調べ・音読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	Unit 1～4 Review 文法や表現のまとめ 英語検定試験にむけた対策(1)	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.11～26） 既習項目の確認
7	Unit 5：スポーツ 本音と希望を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 5（p.27～30） 意味調べ・音読
8	Unit 6：作業 過去・現在・未来（基本時制）	テキスト・CD プリント使用	Unit 6（p.31～34） 意味調べ・音読
9	Unit 7：Food 食べ物 仮定や条件の表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 7（p.35～38） 意味調べ・音読
10	Unit 5～7 Review 文法や表現のまとめ 英語検定試験に向けた対策(2)	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.27～38） 既習項目の確認
11	Unit 8：英語を勉強している 課題とその解決	テキスト・CD プリント使用	Unit 8（p.39～42） 意味調べ・音読
12	Unit 9：健康 体調不良の相手に同情の気持ちを伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 9（p.43～46） 意味調べ・音読
13	Unit 10：服 理由と条件を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 10（p.47～50） 意味調べ・音読
14	Unit 1～10 Review 文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.11～50） 既習項目の確認
15	前期末試験		理解不足項目の補習
16	英語検定試験に向けた対策(3)	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.11～50） 既習項目の再確認
17	Unit 11：旅行 頻度を表す表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 11（p.51～54） 意味調べ・音読
18	Unit 12：音楽 「好き」と「嫌い」を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 12（p.55～58） 意味調べ・音読
19	Unit 13：映画 比較級と最上級	テキスト・CD プリント使用	Unit 13（p.59～62） 意味調べ・音読
20	Unit 14：ショッピング コメントを加えたり、話題を変えたりする	テキスト・CD プリント使用	Unit 14（p.63～66） 意味調べ・音読
21	Unit 11～14 Review 文法や表現のまとめ 英語検定試験に向けた対策(4)	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.51～66） 既習項目の確認
22	Unit 15：インターネット 変わりつつあることについて説明する	テキスト・CD プリント使用	Unit 15（p.67～70） 意味調べ・音読
23	Unit 16：天気 よく起きることを表現する	テキスト・CD プリント使用	Unit 16（p.71～74） 意味調べ・音読
24	Unit 17：感情 感情を伝える	テキスト・CD プリント使用	Unit 17（p.75～78） 意味調べ・音読
25	Unit 15～17 Review 文法や表現のまとめ 英語検定試験に向けた対策(5)	テキスト・CD プリント使用	テキスト（p.67～79） 既習項目の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
26	Unit 18：政府 難しい質問への対処	テキスト・CD プリント使用	Unit 18 (p. 79～82) 意味調べ・音読
27	Unit 19：アート 丁寧に断る表現	テキスト・CD プリント使用	Unit 19 (p. 83～86) 意味調べ・音読
28	Unit 20：未来 将来について語る	テキスト・CD プリント使用	Unit 20 (p. 87～90) 意味調べ・音読
29	Unit 15～20 Review文法や表現のまとめ	テキスト・CD プリント使用	返却されたプリントや課題の見直しをする
30	文法項目の確認 口頭表現の復習など	テキスト・CD プリント使用	テキスト (p. 51～90) 既習項目の確認
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 前期・後期末試験（50%） 2. 授業への貢献、態度、提出物など（50%） ※「成績評価への補足的対応措置」により減点などを行う。 ※英語検定試験の対策は英語学習への動機づけの一つとして行う。英語検定試験の受験は任意であり、単位認定の条件ではないが、年度内での英語検定試験合格者には、当該科目の成績評価に加点する。 *詳細は初回の授業で説明する。			
【教科書】 書名：English Listening and Speaking Patterns 著者名：Andrew E. Bennet 発行所：南雲堂 価格：2,000円（税別）			
【参考書】 書名：Wee Sing “The Best of Wee Sing” 著者名：Pamela Conn Beall and Susan Hagen Nipp 発行所：Penguin group (USA) 価格：900～1,300円程度			
【その他補足事項】 1. 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可） 2. 進捗状況によって、授業内容等を変更することがある。 3. 英語検定試験を受験する際の受験料は自己負担とする。			

授 業 科 目 名	英会話Ⅱ (アドバンスレベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担 当 教 員 (職名・氏名)	講師 オカンポ・メリッサ・ブラザ		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択必修	
保育士資格		教養教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時説明する。		

【授業の概要】 社会のグローバル化に伴い、保育の現場でも外国人の子どもや保護者とかかわることが多くなってきた。本授業では保育の現場で話される会話と音楽を英語と歌を通して習得する。そして、英語の学習を通して、保育所や幼稚園の生活や子どもの発達も理解する。 また、保育現場で使われる英語表現を習得し、基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での表現力の向上を図る。 さらに、リスニングと英語の発音に慣れることについても、童謡を用いることで高めていく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育現場で使われている英語表現を習得する。		目標	A・B・D
基本的な英語構文や語彙力を身に付け、英語での表現力を高める。		目標	C・D・E・I
英語の童謡を理解する。		目標	A・E・L
英語で歌うことができる。		目標	A・B・C・D・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価方法、英会話習得のコツ	授業計画	Chap 1 ~ Chap 12の予習
2	保育所・幼稚園で使われる単語演習 ・保育所・幼稚園のクラス名、保育数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 1 (p. 6~8) の復習 Chap 1 (p. 9~11) の予習
3	自己紹介、会話演習 ・保育所・幼稚園のクラス名、保育数、保育者の自己紹介、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 1 (p. 9~11) の復習 Chap 2 (p. 12~14) の予習
4	「実習初日」(1) 台所用品、遊具などの単語演習 ・園にある遊び用品、給食用食器類の名前などを覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 2 (p. 12~14) の復習 Chap 2 (p. 15~17) の予習
5	「実習初日」(2) 園児との会話演習 ・園にある遊び用品、給食用食器類の名前などを覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 2 (p. 15~17) の復習 Chap 3 (p. 18~20) の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	「さあ、出かけましょう！」(1) 園付近にある店、施設名の単語演習 ・園の近くにある店や施設の名前などを覚える、泣いている園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 3 (p. 18~20) の復習 Chap 3 (p. 21~23) の予習
7	「さあ、出かけましょう！」(2) 散歩しながらの会話演習 ・園の近くにある店や施設の名前などを覚える、泣いている園児をあやす、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 3 (p. 21~23) の復習 Chap 4 (p. 24~26) の予習
8	「バシャバシャ、水しぶき」(1) 水遊びでの単語演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 4 (p. 24~26) の復習 Chap 4 (p. 27~29) の予習
9	「バシャバシャ、水しぶき」(2) 水遊びをしながらの会話演習 ・プールで遊ぶ時の用具その他の遊び（鬼ごっこ、ブランコ、積み木等）、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 4 (p. 27~29) の復習 Chap 5 (p. 30~32) の予習
10	「ホットケーキを作ろう！」(1) おやつを作りながらの単語演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつの時間の話し、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 5 (p. 30~32) の復習 Chap 5 (p. 33~35) の予習
11	「ホットケーキを作ろう！」(2) おやつを作りながらの単語演習 ・簡単な料理の作り方、材料・用具 ・おやつの時間の話し、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 5 (p. 33~35) の復習 Chap 6 (p. 36~38) の予習
12	「読み聞かせ」(1) 読み聞かせをした後の会話演習 ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだ後の感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 6 (p. 36~38) の復習 Chap 6 (p. 39~41) の予習
13	「読み聞かせ」(2) 読み聞かせをした後の会話演習 ・絵本を読んで聞かせる、本を読んだ後の感想を聞く、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 6 (p. 39~41) の復習 Chap 7 (p. 42~44) の予習
14	「スイカ割り」(1)スイカで遊ぼう ・季節の風物（こいのぼり・七夕・たこあげ等） 1月~12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 7 (p. 42~44) の復習 Chap 7 (p. 45~47) の予習
15	前期末試験		
16	「スイカ割り」(2)スイカで遊ぼう ・季節の風物（こいのぼり・七夕・たこあげ等） 1月~12月を覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 7 (p. 45~47) の復習 Chap 8 (p. 48~50) の予習
17	「お誕生日おめでとう！」(1) お誕生日会で使われる会話演習 ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 8 (p. 48~50) の復習 Chap 8 (p. 51~53) の予習
18	「お誕生日おめでとう！」(2) お誕生日会で使われる会話演習 ・誕生日をみんなで祝う、誕生会への招待状を書く、日付の言い方を覚える、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 8 (p. 51~53) の復習 Chap 9 (p. 54~56) の予習
19	「遊んでいる子どもたち」(1) 様々な遊びに関する単語演習 ・ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等の遊び、単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 9 (p. 54~56) の復習 Chap 9 (p. 57~59) の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	「遊んでいる子どもたち」(2) 様々な遊びに関する単語演習 ・ハンカチ落とし、コマ回し、あやとり等の遊び、 単数・複数の違い、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 9 (p. 57~59) の復習 Chap 10 (p. 60~62) の予習
21	「赤ちゃんニュース」(1)乳児に関わる単語演習 ・沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等、おむつ取り 替え時の会話、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 10 (p. 60~62) の復習 Chap 10 (p. 63~65) の予習
22	「赤ちゃんニュース」(2) 乳児が泣いているときの保育士同士の会話演習 ・沐浴、ミルク飲み、ハイハイする等、おむつ取り 替え時の会話、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 10 (p. 63~65) の復習 Chap 11 (p. 66~68) の予習
23	「歯の妖精」(1)歯磨きの基本単語演習 ・歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 11 (p. 66~68) の復習 Chap 11 (p. 69~71) の予習
24	「歯の妖精」(2) 子どもの歯が抜けたときの会話演習 ・歯磨き粉、虫歯、歯医者、歯ブラシ等、実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 11 (p. 69~71) の復習 Chap 12 (p. 72~74) の予習
25	「緑色の目をした魔女」(1) 生活発表会で使われる単語演習 ・生活発表会と保護者への招待状、発表の練習、 実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 12 (p. 72~74) の復習 Chap 12 (p. 75~77) の予習
26	「緑色の目をした魔女」(2) 生活発表会で使われる単語演習 ・生活発表会と保護者への招待状、発表の練習、 実習日誌	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 12 (p. 75~77) の復習
27	プレゼンテーションの準備と実践(1)	テキスト使用 テキスト付属CD使用	Chap 1~3の復習
28	プレゼンテーションの準備と実践(2)	テキスト付属CD使用	Chap 4~6の復習
29	プレゼンテーションの準備と実践(3)	テキスト付属CD使用	Chap 7~9の復習
30	プレゼンテーションの準備と実践(4)	テキスト付属CD使用	Chap 10~12の復習
期末 試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 前期・後期末試験：各30%
2. 授業への参加・態度：20%
3. プレゼンテーション：20%

【教科書】 書名：Children's Garden
著者名：赤松直子
発行所：成美堂
価格：2,400円（税別）

【参考書】 書名：Wee Sing CD "The Best of Wee Sing"
著者名：Pamela Conn Beall and Susan Hagen Nipp
発行所：Penguin group (USA)
価格：900~1,300円程度

【その他補足事項】

1. 授業には英和辞典を持参すること。（電子辞書可）
2. 進捗状況によって、授業内容等を変更することがある。

授業科目名	国際理解論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 <small>すぎ</small> 杉 <small>うら</small> 浦 <small>ひろ</small> 広 <small>ゆき</small> 幸		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 大都市だけでなく、地方でも外国人居住者が増えてきている。その現状を踏まえ、保育者が海外の異なった生活習慣や考え方を持った人たちと接したり、その子どもを保育するにあたり、問題が発生しないよう、また問題が発生した場合に適切な対応ができるように、必要な知識の獲得や対応力の向上を目指す。なお、本年度は、テーマ別に具体的な国の事例を紹介する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
外国人等の人種、民族文化が異なる人(子ども)を預かる場合、問題が起きないように、また問題が起きた場合に適切な対応がとれる保育者を目指す。		目標	A・B・H・J
異なる文化、宗教、生活習慣が異なる保護者と対応する際、良好な関係が持てる保育者を目指す。		目標	A・I・J
自分自身も国際社会の一員であることの認識が持てる社会人を目指す。		目標	J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 海外暮らし(世界こんなところに) 事例: ケニヤ	授業計画 Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、海外暮らしのTV番組を見ておく
2	国際協力(GO・NGO) 事例: ネパール	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、フェアトレードについて調べておく
3	日本は世界で○位?	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動(貧困)	事前学修として、貧困について周囲と話し合っておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	海外旅行(1) (困らないように) 事例：ハワイ	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、海外旅行のガイドブックを読んでおく
5	海外旅行(2) 事例：バリ島	Power pointでの紹介 手製資料	行きたい国を考えておく
6	国際紛争と海外の治安(1) 事例：南スーダン	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、第二次世界大戦を調べておく
7	国際紛争と海外の治安(2) 事例：ウクライナ	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、最近発生したテロを調べておく
8	隣国との付き合い(1) 事例：台湾	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動（反日問題）	事前学修として、なぜ隣国では反日運動が起きるか考えておく
9	隣国との付き合い(2) 事例：中国	Power pointでの紹介 手製資料 グループ活動（反日問題）	事前学修として、親日的な国と理由を考えておく
10	国際理解に役立つ世界の遊び(1) (調査)	絵本での紹介 グループ活動（練習）	事前学修として、日本の遊びの紹介方法を考えておく
11	国際理解に役立つ世界の遊び(2) (発表)	グループ活動（発表）	事前学修として、選んだ遊びの紹介を練習しておく
12	世界の宗教(1) 事例：アメリカ	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、自分の実家の宗教（宗派）が何か調査しておく
13	世界の宗教(2) 事例：サウジアラビア	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、自分の出身園での行事を調査しておく
14	世界の行事 クリスマスなど	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、最近1年間に参加した行事を整理しておく
15	世界の料理	Power pointでの紹介 手製資料	事前学修として、日本食が海外に広がった理由を考えておく
期末試験	期末試験	持ち込みなし	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験70点。グループ活動30点（10点満点×3回）。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、減点等を行う。			

授業科目名	国際理解演習（シンガポール）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 <small>なか まる かず し</small> 中丸 一志		開講期	後期
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	福島駅前キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	選択	
保育士資格		教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 「体験を通しての国際理解」 国際理解演習「シンガポール研修旅行」を実施。実地研修を行う。 事前授業では、シンガポールの歴史や文化について学ぶ他、各自が設定したテーマに基づき調査研究する。 また、それについての個別指導も行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
旅行を通じ、集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案等を学習できる。			目標	A・G・L
ホスピタリティとインバウンドのあり方、イノベーションを学べる。			目標	B・H・I・J・L
各自の興味ある分野（ビジネス、観光、デザイン、建築など）を事前に調査し、現地体験することによって、理解を深めることができる。			目標	A・G・J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 研修旅行の意義・目的	授業計画・配布資料	シンガポールへの興味・感心を確認
2	シンガポール共和国の歴史（歴史・人種・言語）	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
3	シンガポールの地理・気候	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
4	シンガポールの経済・産業（貿易・観光）	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
5	シンガポールの街並みと建築	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
6	シンガポールの交通事情	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
7	シンガポールの食文化	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査
8	入国手続きほか事前準備・現地の法律について	配布資料、インターネット検索	シンガポールの調査

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	現地での行動について（渡航前の最終確認）	配布資料、インターネット検索	海外旅行の調査
10	現地体験①（4コマ）合同研修 ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、マーライオンパーク他	シンガポール研修の実施 全体及び個別指導	シンガポール観光・体験
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	現地体験②（4コマ）合同研修 ニューウォーター・ビジターセンター、幼稚園視察	〃	〃
15	〃	〃	〃
16	〃	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	現地体験③（4コマ） テーマ別自主研修	〃	シンガポール体験
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	現地体験④（4コマ） テーマ別自主研修	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	現地体験⑤（4コマ） テーマ別自主研修	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	最終レポート発表	プレゼン発表	体験談発表

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 事前レポート20%、最終レポート40%で評価する。
 2. 旅行中の行動態度、団体行動・グループ行動のあり方を40%で評価する。
- ※海外研修における所定の全プログラムに出席すること。ただし、体調不良もしくは病気・怪我等で所定のプログラム（オプションプログラムを除く。）に参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点として成績の評価を行う。

【教科書】 プリント資料を適宜配布する。（各自の研究テーマに沿って指導）

【その他補足事項】

1. 海外研修日程は、2019年2月24日(日)～3月1日(金)（6日間）を予定している。
 2. シンガポール渡航費用、海外での食事代・交通費、海外旅行保険費用が必要となる。
 3. 最少催行人数を10名、最多催行人数を15名程度とする。
なお、履修者が10名に達しない場合、または履修放棄などによって履修者が15名を割り込んだ場合は、学期の途中であっても休講となる。
 4. 履修登録は後期履修登録時とし、事前授業は10月初旬より開始する。
 5. 単位の認定が3月となるため、卒業年次生は卒業単位数に含めないこと。
- ※海外研修の実施にあたり、国際情勢の悪化等、十分な安全を確保できないと判断した場合には、海外研修の実施を中止する場合がある。

授業科目名	体 育 講 義		授業形態・単位数	講義・1単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 藤 本 要 兼任准教授 島 田 貴 広	ふじもと かなめ しまだ たかひろ	開 講 期	後期
			授 業 回 数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現在および将来の生活における健康や体力づくり、生涯学習の一環としての運動およびスポーツについて理解を深めて行く。 主な授業内容として、運動と健康・体力との関連性、慢性疾患と生活習慣、体力と運動にまつわるからだの仕組み、運動処方やスポーツ外傷・障害の予防と応急処置などである。 また、それらの知識を自ら積極的に生活の中で活用し、実践してゆく力と意欲を身につけるよう授業を行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
体育を通じた健康、体力づくり全般に関する知識を修得することができる。			目標	A・J
健康づくりや運動に関する知識を、自ら積極的に生活の中で活用し、実践していく力と意欲を身につけることができる。			目標	B・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 「授業の概要と進め方について」 「運動と健康・体力の関連」	授業計画 プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントやノートの整理
2	慢性疾患と生活習慣(1) 「生活習慣と慢性症状、発病までのしくみ」 「糖尿病と虚血性疾患について ～インスリンと脂質・糖代謝を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリント「生活習慣病キーワード」でインスリンとFFA、中性脂肪、コレステロールの各用語解説を読んでおくこと ノートの整理

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	慢性疾患と生活習慣(2) 「がんと生活習慣 ～飲酒と喫煙を中心に～」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリント「生活習慣病マップ」を読んで生活習慣病発病のメカニズムを復習しておくこと
4	運動とからだのしくみ 「体力要素と運動機能の関係」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) VTR「驚異の小宇宙人体V なめらかな連係プレー骨・筋肉」	配布プリントやノートの整理
5	運動処方の実際(1) 「エアロビックな運動とアネロビックな運動」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参 (電卓機能付きの携帯電話も使用可)	配布プリントやノートの整理 簡単なトレーニングを家庭で実践してみること
6	運動処方の実際(2) 「エネルギー代謝を中心に」	プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用) 演習を行うので電卓等持参	事前に1日の食事内容と生活活動の内容と時間を調べておくこと 配布プリントやノートの整理
7	スポーツ外傷・障害の予防と応急処置	演習：応急処置 スライド資料 (パワーポイント使用)	配布プリントやノートの整理
8	授業の振り返り（まとめ）	まとめテスト（筆記試験） プリント配布 スライド資料 (パワーポイント使用)	総復習をするので配布プリントやノートを整理して持参すること
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 40点満点のまとめテスト（筆記試験）を授業の最後に実施する。 2. 小レポートを30点満点で評価する（6回実施。1回あたりの配点は5点）。 授業中に興味関心を持った内容や、感想など、当日指示のあった課題についてまとめて記述する。 3. 学習に対する意欲・興味関心・主体性などについて授業中の行動（例えば発問に対する回答や授業内容に関する積極的な質問、ディスカッション時の態度等）を観察し、30点満点で評価する。			
【参考書】 1. 書名：実践スポーツクリニック 慢性疾患と運動 著者名：山崎元 発行所：株式会社 文光堂 価格：4,500円（税別） 2. 書名：フィットネスQ&A 著者名：宮下充正、武藤芳照、白山正人、平野裕一 発行所：株式会社 南江堂 価格：2,718円（税別） ※参考書は授業中に紹介するが購入の必要はない。			

授業科目名	体育実技 I		授業形態・単位数	講義・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ふじもと 藤本 要	開講期	通年
	兼任准教授	しまだたか 島田 貴広	授業回数	23回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		教養教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		教養教育科目	必修	
保育士資格		教養教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 体育実技 I では、健康・体力の維持向上を図りながら、継続して運動やスポーツに親しむ習慣や態度を身につけることをねらいとする。 年間で4つのスポーツ種目を設定し、それぞれ基本技能の課題、チームワークの課題を設定し、学生が自立してスポーツ活動を行うための基本的な力を養っていく。 また、試合形式で行う授業については、準備から審判を含めた試合の管理運営までを学び、実践力を身につけていく。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
スポーツのルールやマナーについて理解し実践できるようになる。	目標	A	
スポーツ種目の基本技能を習得し、親しめるようになる。	目標	B	
チーム戦術、あるいはグループ戦術を理解し、チームあるいはペアで協働して実践できるようになる。	目標	G・L	
自分やチームの課題を見つけて解決しようとする態度を養う。	目標	K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の進め方 ・グループ分け ・実施種目を選択し、年間の計画を決定 ・ウォーミングアップ、クールダウンの方法	授業計画 講義・実技	次回種目のルールについて予習しておく
2	種目 I ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
3	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
5	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
6	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	次回種目のルールについて予習しておく
7	種目Ⅱ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
8	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
9	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
10	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
11	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく
12	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施)	実技試験	次回種目のルールについて予習しておく
13	種目Ⅲ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	
14	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
15	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
16	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
17	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	次回種目のルールについて予習しておく
18	種目Ⅳ ルールの確認・説明 基本技能の課題(1) 簡易ゲーム	グループワーク	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	基本技能の課題(2) 簡易ゲーム	グループワーク	
20	チームワークの課題(1) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
21	チームワークの課題(2) 試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	
22	試合形式で実施 (学生数に応じて、リーグ戦やトーナメントを設定)	グループワーク	試験を受ける種目の決定と準備を行っておく
23	スキルテスト (実施した2種目のうち、一つを選択して実施)	実技試験	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 技能・知識の習得度 60%
- 授業への参加状況 30%
- 特記事項 10%※
 - ※特に秀でた活動や技能を示した者について、10点の範囲内で評価する。
 - (例) ・全国大会出場レベルの技能や指導員資格者レベルの技能を持ち、他学生の見本となり、指導の補助など授業運営に大きく貢献した者。
 - ・リーダーシップを発揮し、授業効果の向上に貢献した者。

【その他補足事項】

＜実施種目について＞

実施する種目Ⅰ～Ⅳについては下記の種目の中から4つを選び実施する。その際、クラスの学生数や運動経験・体力などの状況、教員の専門性、実施環境等を勘案する。(通年23コマを4単元に分け、1種目につき5～6回ずつ実施)

バレーボール バドミントン バasketボール 卓球 ユニホック ソフトバレーボール
サッカーまたはフットサル フライングディスク (アルティメッドまたはディスクゴルフ)

＜課題について＞

それぞれの種目の「基本技能の課題」「チームワークの課題」については種目決定後に担当教員から説明を行い、スキルテストの内容も課題の中から実施する。

＜服装持ち物について＞

服装はスポーツウェア上下、屋内用のスポーツシューズを持参する。
ラケットやボールなどの用具については初回授業で説明する。



專門教育科目

授業科目名	保育者論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 ながしまてるこ 長島輝子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の職務内容とその社会的意義・役割について概説する。 2. 保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）に求められる資質・能力を概説する。 3. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の地位・身分、服務及び養成・研修の制度を解説する。 4. 昨今の幼児教育行政の動向を紹介し、将来の進路決定に役立つような情報を提供する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼児教育の意義と保育者の役割を理解する。			目標	A
保育者に求められる資質・能力を理解する。			目標	A・C
幼稚園教諭・保育士・保育教諭の地位・身分及び守るべき服務を理解する。			目標	G・J
専門職としての就職するための心構えを学ぶ。			目標	J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション ・「保育者論」で何を学ぶのか ・評価方法等の説明	講義、質疑応答 授業計画 プリント（教科書）配布	予習：第1・2章の下読み
2	保育とは何か ・保育者とは 保育者の社会的位置づけ	グループワーク・講義 プリント	復習：本日の話し合いを レポートにまとめる
3	幼児の発表会のDVD視聴 ・「保育者に必要だと思われる力・保育者に必要だと考える事柄」を考えまとめる	DVD視聴・講義 レポートを作成し、提出 する	予習：第3・4章の下読み
4	保育者の哲学 保育者の資質 ・砂遊びで育つもの	講義・グループワーク グループ発表 質疑応答	復習：「砂遊び」の講義を まとめる
5	保育者の専門性 ・保育者に求められる3つの側面 保育者の養成	講義 レポート作成 質疑応答	復習：第5・6章の読み込み 予習：第7章の下読み

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	保育の展開と再構成 ・DVD「きえちゃんのイメージ」視聴 ・感想を書く	講義 DVD視聴 レポート作成	予習：第8章の下読み
7	保育記録のとり方 教育課程と指導計画 指導案作成（部分案）	講義 質疑応答 部分案作成	復習：指導案作成
8	保育者の業務 ・DVD「先生ってなあに」を視聴 ・時系列で記録する	DVD視聴 日誌に記録する	予習：第9章の下読み
9	保育者間の協同 ・誕生会の出し物について	講義 グループワーク 発表	予習：第10章の下読み
10	保育者の実践的能力 ・園だよりについて（実際の園だよりを参考に教師が保護者に伝えたいことを探る）	講義・グループワーク まとめたことをグループごとに発表する	復習：第1・2章の読み込み
11	保育者の実践的能力 ・「けんか」をテーマに「年齢別けんかの傾向と保育者のかかわり」「保護者対応」を考える	講義・グループワーク まとめたことを発表する	復習：第3・4章の読み込み
12	保護者に対する理解と支援 ・保護者支援について ・地域支援における保育者の役割	講義 質疑応答	復習：第5・6章の読み込み
13	専門機関との連携 ・なぜ連携が必要なのか 現代の望ましい保育者像	講義 質疑応答	復習：第7・8章読み込み
14	保育者の成長 ・保育の場における研修 これからの保育者に求められるもの	講義 質疑応答	復習：第9・10章の読み込み
15	まとめ ・保育者とは ・期末試験について	講義 レポート作成	要点整理と期末試験の準備
期末試験	期末試験	ペーパー試験 (持ち込みなし)	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（80%） 2. 課題提出（10%） 3. 受講態度（10%） 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。 ※詳細についてはオリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 資料を印刷し配布する。それをファイルにまとめるためのクリアファイルを一冊準備すること。			
【参考書】 1. 書名：幼稚園教育要領解説 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 2. 書名：保育所保育指針解説書 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：190円（税別） 3. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 著者名：内閣府（文部科学省・厚生労働省） 発行所：フレーベル館 価格：249円（税別）			

授業科目名	社会福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 <small>たか</small> <small>はし</small> <small>ゆう</small> <small>じ</small> 高橋雄二		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、社会福祉の基本と原理的内容について総論的に取り上げる。社会福祉への関心と興味を深めると共に、社会福祉の基本的な理念であるノーマライゼーションを理解し、実践するために必要な社会福祉の理論史・理論構成・技術論などを体系的に修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
人間の尊厳と社会福祉の意義および思想を理解すると共に、社会福祉の基本原則と形成過程およびその体系を理解する。			目標	A・C・J
社会福祉の課題発見とその原理を理解し、社会福祉の実践のための基礎知識・技術体系を修得する。			目標	A・B・H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法、授業の進め方と留意点 第1講 現代社会における社会福祉 社会福祉の概念 社会福祉の理念の意義と歴史的変換	授業計画 教科書補足資料1	
2	第2講 社会福祉の一分野としての児童家庭福祉 児童家庭福祉の理念と考え方	教科書補足資料2	教科書 p 14~24を事前に読む
3	第3講 児童の人権擁護と社会福祉 人権擁護の考え方の系譜 虐待・いじめの現状と権利擁護	教科書補足資料3 DVD視聴 (30分) 「障害者虐待を食い止めるために」	教科書 p 26~36を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	第4講 家庭支援と社会福祉 社会福祉の専門職としての保育士	教科書補足資料4	教科書 p 38～46を事前に読む
5	第5講 社会福祉の制度と法体系 社会福祉における法律と制度	教科書補足資料5 DVD視聴（30分） 「暮らしと憲法」	教科書 p 50～60を事前に読む
6	第6講 社会福祉行財政と実施機関 社会福祉行財政の体系	教科書補足資料6	教科書 p 62～72を事前に読む
7	第7講 社会福祉施設等 社会福祉施設の種類と概要	教科書補足資料7 DVD視聴（30分） 「農業に挑む障害者たち」	教科書 p 74～86を事前に読む
8	第8講 社会福祉の専門職・実施者 社会福祉の専門職とその定義	教科書補足資料8	教科書 p 88～98を事前に読む
9	第9講 社会保障および関連制度の概要 社会保障制度とは	教科書補足資料9 DVD視聴（30分） 「あなたと生きたい・植物状態の人たちとその家族」	教科書 p 100～110を事前に読む
10	第10講 相談援助の意義と原則 相談援助の意義 相談援助の原則	教科書補足資料10	教科書 p 112～120を事前に読む
11	第11講 相談援助の方法と技術 保育現場における相談援助 相談援助方法と技術	教科書補足資料11	教科書 p 124～132を事前に読む
12	第12講 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ 利用者の権利擁護と苦情解決	教科書補足資料12	教科書 p 136～146を事前に読む
13	第13講 少子高齢化社会への対応 少子化の要因と対策	教科書補足資料13	教科書 p 148～157を事前に読む
14	第14講 地域福祉の推進とネットワーク 地域福祉の概念	教科書補足資料14 DVD視聴（30分）「スタート・新セイフティーネット(1)」	教科書 p 160～170を事前に読む
15	第15講 社会福祉の諸外国の動向 社会福祉と福祉国家 まとめ	教科書補足資料15	教科書 p 172～181を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。			
【教科書】 書名：社会福祉 著者名：松原康雄 坏 洋一 金子 充 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	相談援助		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 やぎ たかのり 憲		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、保育・児童・家庭福祉の専門職として、相談実践の方法を具体的事例や体験的な授業を通して学ぶ。また、援助者が持つべき利用者の人権尊重、自己覚知や他者理解といった援助の基本姿勢、傾聴・共感・受容などの具体的技術の習得を目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育活動に必要な相談援助の概要について理解する。			目標	A・B
相談援助の方法と技術について理解する。			目標	C・D・E・F
保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。			目標	G・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標及び評価方法 相談援助の理解 (相談事例、生活諸問題)	授業計画 教科書補足資料1	
2	相談援助の意義 (歴史、倫理を含む)	教科書補足資料2	教科書 p 14~24を事前に読む
3	相談援助の機能 (家庭、地域に果たす役割)	教科書補足資料3	教科書 p 26~36を事前に読む
4	ソーシャルワーク (ケースワーク、コミュニティワーク)	教科書補足資料4	教科書 p 38~48を事前に読む
5	保育とソーシャルワーク (家庭を支える)	教科書補足資料5	教科書 p 50~60を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	相談援助の対象 (保育環境、地域、施設)	教科書補足資料6	教科書 p 62～72を事前に読む
7	相談援助の過程 (インターク面接から援助の終了まで)	教科書補足資料7	教科書 p 74～84を事前に読む
8	相談援助の技術・アプローチ (相談者・支援者に対する具体的な支援)	教科書補足資料8	教科書 p 86～96を事前に読む
9	相談計画・記録・評価 (記録の意義、記録の書き方等)	教科書補足資料9	教科書 p 98～108を事前に読む
10	関係機関との協働 (子ども家庭支援センター・児童相談所等)	教科書補足資料10	教科書 p 110～120を事前に読む
11	多様な専門職との連携 (職種の理解とネットワーク)	教科書補足資料11	教科書 p 122～132を事前に読む
12	社会資源の活用、調整、開発 (子どもと生活を支える仕組みの理解)	教科書補足資料12	教科書 p 134～144を事前に読む
13	虐待の予防と対応等の事例分析	教科書補足資料13	教科書 p 160～170を事前に読む
14	障害のある子どもと保護者への支援等の事例分析	教科書補足資料14	教科書 p 172～182を事前に読む
15	まとめと事例検討	教科書補足資料15	教科書 p 146～158を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 語句選択方式のテストを学期末に実施する。30% 2. 授業への参加態度・授業ごとのリアクションペーパーによる。40% 3. レポート 課題については授業時に説明する。30%			
【教科書】 書名：相談援助 著者名：松原康雄・村田典子・南野奈津子 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	児童家庭福祉		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授	こん 今 きよ たか 清 孝	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 社会福祉の構成要素のひとつである児童家庭福祉は、対象者を児童だけではなく、子どもの育つ環境全体を視野に入れた理解により、豊かなものにする事ができる。 本講義では、児童家庭福祉の基本的理念、制度、施設等の運営、ソーシャルワークなどの児童家庭福祉援助について体系的に学び、保育者として必要な知識と思考方法を身につける。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。			目標	A・C
児童家庭福祉サービスについて理解する。			目標	A・J
児童家庭福祉における専門職としての保育者の役割を理解する。			目標	A・C・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 保育における児童家庭福祉	授業計画 授業資料1 授業資料完成	教科書P2～9を事前に読む
2	現代社会と子ども・家庭 — 社会・家庭・地域の変容 —	授業資料2 授業資料完成	教科書P11～21を事前に読む
3	現代社会と児童家庭福祉 — 児童家庭福祉の方向性 —	授業資料3 授業資料完成	教科書P22～41を事前に読む
4	児童家庭福祉の概念と理念 — 児童の権利条約 —	授業資料4 授業資料完成	教科書P43～57を事前に読む
5	児童家庭福祉の歴史的展開	授業資料5 授業資料完成	教科書P57～72を事前に読む 1～5のまとめ レポート作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	児童家庭福祉の法体系 — 児童福祉6法及び関連法 —	授業資料6 授業資料完成	教科書P73～83を事前に読む
7	児童家庭福祉の実施体制	授業資料7 授業資料完成	教科書P84～99を事前に読む
8	児童家庭福祉の費用 児童家庭福祉の専門職とネットワーク	授業資料8 授業資料完成	教科書P99～114を事前に読む 6～8のまとめ レポート作成
9	児童家庭福祉の現状と課題(1) — 子育て支援サービスと保育ニーズ —	授業資料9 授業資料完成	教科書P115～137を事前に読む
10	児童家庭福祉の現状と課題(2) — 母子保健サービス —	授業資料10 授業資料完成	教科書P137～147を事前に読む
11	児童家庭福祉の現状と課題(3) — 障害のある子どもへの支援 —	授業資料11 授業資料完成 DVD視聴32分 「児童虐待」「DV」	教科書P147～166を事前に読む
12	児童家庭福祉の現状と課題(4) — 児童虐待とDV —	授業資料12 授業資料完成	教科書P166～178を事前に読む
13	児童家庭福祉の現状と課題(5) — 社会的養護サービス —	授業資料13 授業資料完成	教科書P178～190を事前に読む
14	児童家庭福祉の現状と課題(6) — ひとり親家庭福祉 —	授業資料14 授業資料完成	教科書P190～200を事前に読む 9～14のまとめ レポート作成
15	児童家庭福祉援助活動 — 児童家庭福祉援助活動と保育及び相談援助 —	授業資料15 授業資料完成	教科書P201～243を事前に読む
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 筆記試験 70点満点の筆記試験を前・後期末に実施する。
- レポート レポート（3回）は30（各10）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。
- その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。

【教科書】 書名：新・保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉
著者名：柏女霊峰ほか
発行所：社会福祉法人 全国社会福祉協議会
価格：1,900円（税別）

【その他補足事項】

筆記試験の際には、授業配布資料のみの持ち込みを可とし、教科書やノートの持ち込みは不可とする。
授業配布資料は、適宜授業内容を書き込みしたり、重要点にアンダーラインを引いたりして、授業中や授業後に完成させ試験に臨むこと。

授業科目名	教育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 せきもと ひとし 関本 仁	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 これまで人間が営んできた歴史の中で、その時々 の社会・文化を背景として、どのように教育を捉 えてきたのだろうか。教育思想の歴史を概観し ながら、その様々な思想が現在おこなわれて いる教育に対してどのような影響を与えてい るのか、について考える。特に、子どもの福 祉に関わる教育論に注目しながら、子どもた ちにとって豊かな育ちを支える教育のあり方 について、皆さんとともに考えていきたい。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
教育の意義・目的について学び、児童福祉とのかかわりについて理解する。		目標	A・C	
教育の理念に関わる歴史を学び、基礎的な教育理論について理解する。		目標	A・C	
国内外を含めた、さまざまな教育制度を理解する。		目標	A・C	
教育実践でなされているさまざまな取り組みについて理解する。		目標	D・J	
社会教育・生涯学習の観点から、現代の教育的課題について理解する。		目標	J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 教育とは何か	授業計画 スライド資料提示 ペア/グループディスカッション リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
2	教育の目的：教育と教化と形成	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み (予習) 配布資料の復習
3	教育と児童福祉	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み (予習) 配布資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	西洋における教育思想と歴史(1) — 古代～コメニウス、ルソー、 ペスタロッチ —	確認小テスト、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
5	西洋における教育思想と歴史(2) — フレーベル、デューイ～現代 —	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
6	日本の教育思想と歴史	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
7	子ども観と教育観	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
8	教育制度の基本	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
9	さまざまな国の教育制度	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
10	教育実践の基礎的理解	確認小テスト、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
11	さまざまな教育実践(1) — フレーベルの思想を受け継ぐ実践 —	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
12	さまざまな教育実践(2) — モンテッソーリなどを中心に —	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
13	社会教育と生涯学習	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
14	教育の権利保障	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
15	教育の現代的課題／まとめ	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 … 50% 2. 授業内での確認小テスト（4回） … 20% 3. 各回終了時に記入するリアクションペーパー（15回） … 20% 4. 授業への参加態度など … 10%			
【その他補足事項】 教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドの資料を配布する。 予習としてその下読みをおこない、授業の準備をしておくこと。 参考図書は、授業の進行に応じて適宜紹介する。			

授業科目名	保育原理		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 中野明子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業では、保育学の基本的事項の理解、保育実践に生かせる知識の修得、専門職としての保育者の役割の理解、諸外国の保育・保育の多様なあり方への理解、日本の保育の現状と今日的課題を理解すること等を通して、保育現場での実際や現代の子ども達がおかれている状況を把握し、子どもや保護者へ対しての、より良い支援のあり方を考察する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における保育の理念、保育の意義について理解する。		目標	A・C
保育所保育指針における保育の基本について理解する。		目標	A・C
子どもの発達に応じた援助について理解する。		目標	A・C・F・J
保育の思想と歴史的変遷について理解する。		目標	A・C
保護案件の事例等を通して、保育の現状と課題について考察し、保育者の役割と専門性について理解を深める。		目標	A・C・D・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	1. オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点) 2. 「保育」とは何か	授業計画 なぜ保育科に入学したか、「保育」とは何かイメージしたことを発表する	入学動機をまとめておく
2	保育支援の必要性和社会的役割 (現代社会における保育の意義について・養護と教育の一体性)	教科書・プリント グループ討論	自分の子ども時代を思い起こして授業に臨む
3	今、子どもたちのまわりで何が起きているか (保護案件の事例を通し保護者との信頼関係、職員間、専門機関との連携の重要性について理解する)	教科書・プリント レポート作成	保護者支援に関する記事等、報道された子ども虐待について調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	保育所・幼稚園・認定こども園について <ul style="list-style-type: none"> ・就学前保育、教育制度と法体系 ・保育所保育の理念と意義 	プリント 保育所保育指針 保育所保育指針解説書 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 グループ討議	保育所保育指針29年告示 第1章 総則 (P4～P7)を予習
5	保育思想の歴史 — 西欧の保育 —	教科書・プリント	
6	保育思想の歴史 — 日本の保育 —	教科書・プリント	自分の地域の保育所、幼稚園について、園の特徴等を調べておく
7	子どもを理解する — 食育について — (保育現場での食育の取り組み)	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第5章 健康及び安全 (P27～P30)を予習
8	子どもを理解する — 子どもの発達(1) — <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の発達の特性・発達過程について 	VTR「赤ちゃん胎内からの出発」(20分) グループ討議	保育所保育指針 第2章 保育の方法 (P13～P23)を予習
9	子どもを理解する — 子どもの発達(2) — <ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメントの重要性 ・自己肯定感の定義についての考察 	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第2章 保育の方法 (P13～P23)を予習
10	保育の環境(1) 人的環境・物的環境・自然や社会事象 (遊びの特性と構成する要素についての理解)	VTR「元気遊び川和保育園」(30分) プリント	保育所保育指針 第1章 総則 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項 (P10～P12)を予習
11	保育の環境(2) — 自然は偉大な教師 — (見守る援助、直接体験の重要性)	VTR「里山で子ども達が輝く」(35分) レポート作成	保育所保育指針 第1章 総則 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項 (P10～P12)を予習
12	諸外国の保育事情 (世界の国々の保育事情について理解を深める)	プリント グループ討議 VTR「世界で活躍する卒業生」(10分)	保育所保育指針 第4章 子育て支援 (P36～P37)を予習
13	保護者とのかかわりの中で求められるもの (発達障害の理解、親の障害受容の難しさを知る)	プリント・教科書 グループ討議 レポート作成	保育所保育指針 第4章 子育て支援 (P36～P37)を復習
14	保育の計画 <ul style="list-style-type: none"> ・保育形態について — (様々な保育形態、異年齢保育について知る) ・保育と指導計画について (保育において指導計画がなぜ必要か理解する) 	プリント・教科書 保育所保育指針解説書	授業後、実習先の保育形態を調べ、実習先の保育課程、保育方針、保育の特色等について理解する
15	保育の制度 現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・今、求められる保育者の役割と専門性 ・まとめ 	プリント・教科書 グループ討論	今までの授業を振り返り、整理しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
期末試験	期末試験	筆記試験	プリントを整理して臨む
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験（60%） 2. レポート及び感想文（30%）課題は授業内容に沿い、捉えたこと理解を深めた内容について記述する。 3. 授業態度（10%）グループ討議等に意欲を持って参加しているか評価する。 ※詳細は、初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：保育原理 ― はじめて保育の扉をひらくあなたへ ― 著者名：咲間まり子編 発行所：株式会社みらい 価格：2,000円（税別）</p>			
<p>【参考書】 書名：多文化保育・教育論 著者名：咲間まり子編 発行所：株式会社みらい 価格：1,800円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 1. 本授業では平成29年告示「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいて学んでいく。 2. 授業配布資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルして試験に臨むこと。</p>			

授業科目名	社会的養護		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 こう べ のぶ ゆき 神 戸 信 行		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 現代社会の家族や児童養護に関する問題を概説し、児童福祉の領域における社会的養護の必要性和役割・体系について説明する。 さらに、施設養護の原理とその実際について講義し、今後求められる社会的養護のあり方や子育て支援・社会的養護の担い手としての保育士の役割と専門性について理解を深める。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
		B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
今日の養育不安や児童虐待の増加など養護問題の現状を理解する	目標	A・C	
今日の養育問題が惹起する背景・要因を理解する。	目標	A・C	
社会的養護の体系と現状、施設養護の機能について調べ、理解する。	目標	A・C・D・I・K	
「社会的養護の課題と将来像」の概要と今後の施設改革の意義を理解する。	目標	A・C・K	
保育士に期待される職業倫理と専門性を理解する。	目標	C・H	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業内容の概要と到達目標 (2) 授業の展開と評価の視点	授業計画	
2	子どもの社会的養護の基本的考え方 児童の社会的養護の理念と概念	教科書補足資料	教科書1章1節を事前に読む
3	社会的養護の位置づけ 児童家庭福祉分野における社会的養護 児童の権利擁護と社会的養護	教科書補足資料	教科書1章2節を事前に読む
4	児童虐待問題と児童養護(1) 増加する児童虐待～児童虐待の定義と現状	教科書補足資料 VTR20分 「こどものSOSに耳を澄ませて」	教科書第11章1節を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	児童虐待問題と児童養護(2) 家庭・施設の実態と児童虐待 児童虐待への対応	教科書補足資料	教科書第11章2節・3節を事前に読む
6	子どもの社会的養護の歴史(1) 欧米における児童福祉観の変遷と社会的養護 子どもの権利の国際的宣言	教科書補足資料	教科書2章1節を事前に読む
7	子どもの社会的養護の歴史(2) 日本における児童福祉観の変遷と社会的養護 戦後の児童福祉制度における社会的養護	教科書補足資料	教科書2章2節を事前に読む
8	子どもの社会的養護の概要(1) 子どもの養護の体系	教科書補足資料 配布するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する	教科書第3章を事前に読む
9	子どもの社会的養護の概要(2) 施設養護の体系	教科書補足資料 配布するワークシートを使いながら、課題にしたがって調べて、発表する	教科書第3章を事前に読む
10	社会的養護の課題と将来像 ケア単位の小規模化 施設の地域分散化 施設機能の高度化	教科書補足資料	教科書第12章を事前に読む
11	施設養護の基本原則(1) 人権尊重の原理 個性の尊重と個別化の原理	教科書補足資料 配布された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する	教科書5章1節・2節を事前に読む
12	施設養護の基本原則(2) 親子関係調整の原理 集団生活の力動的活用の原理 社会参加と自立支援の原理	教科書補足資料 配布された資料「事例」をグループで話し合い、基本原則を具体的に理解する	教科書5章2節・3節を事前に読む
13	社会的養における支援計画(1) 個別支援計画の必要性と作成の留意点	教科書補足資料	教科書第10章1節を事前に読む
14	社会的養における支援計画(2) 日常生活における事例分析 自立支援に関する事例分析	教科書補足資料 事例に付された課題について、グループで話し合い、発表する	教科書第10章2節・3節を事前に読む
15	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験	筆記試験により行う	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 前・後期末に実施。70点満点とする。 2. レポート 授業中の課題を作成したものをレポートとして提出する。 提出したレポートは、30点満点とする。 3. その他 授業中の学習意欲・態度を重視する。			
【教科書】 書名：子どもの養護 ― 社会的養護の原理と内容 第3版 著者名：松本峰雄ほか 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 <small>わた なべ ひろ し</small> 渡 辺 博 志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育行政に関する基礎的・基本的な考え方（原理、原則や動向）を幅広く理解するとともに、学校がおかれている社会的状況や変化について具体的事例を取り上げながら考察する。さらに教育行政の具体が幼稚園・学校・教職員、家庭や地域社会とどのような関係をもっているのかについて考えを深め、近年の教育課題となっている学校安全や幼稚園及び学校における適切で効果的な経営・教育実践の在り方について探究する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
※わが国の教育行政の考え方や仕組み、教育制度の具体について自分の言葉で表現し説明できるようになる。		目標	A・D・I	
前項※で得た知見を活用しながら、教育行政が幼稚園や学校経営、教育活動、地域との連携と深い関わりをもっていることを探り、豊かな園・学校経営や教育実践の在り方について自分の視点から論じることができるようになる。		目標	A・C・K	
様々な教育的社会事象や教育改革の動向から、社会の変化に対応できる教育行政の在り方や成長する教師・保育者の在り方について具体事例をもとに論じることができるようになる。		目標	J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 教育行政で何を学ぶのか	授業計画 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習
2	公教育と教育行政の関係 ・教育に関する法規、教育制度、教育政策を概観 ・教育行政の役割	プリント教材 メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート1

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	保育の専門家としての条件 — 教員・保育士の資格、力量、研修 — <ul style="list-style-type: none"> 成長する教師の基盤は研修と研究 資格要件 特色ある研修の具体事例 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート2
4	日本の公教育制度 <ul style="list-style-type: none"> 公教育の理念と制度 公教育のしくみ 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート3
5	学校（幼稚園）教育のしくみ <ul style="list-style-type: none"> 日本と世界の学校（幼稚園）制度の比較 特色ある幼稚園教育の事例検討 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート4
6	教育や保育を支える法規 <ul style="list-style-type: none"> 難しそうだけど含蓄がある教育法規 教育基本法 学校教育法 児童福祉法 幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート5
7	時事問題からみた教育行政 — 子どもの未来を支える安全教育 — <ul style="list-style-type: none"> 安全教育と教育行政の働き 時事問題からみた教育行政の取り組み 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート6
8	教育行政を動かす機関：文部科学省と教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> 文科省と教育委員会の仕組み 幼稚園と県、教育委員会の関係 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート7
9	学校（園）の組織マネジメント <ul style="list-style-type: none"> 園、学校の経営の改善・発展 PDCAサイクルの具体 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート8
10	教育行政からみた教師・保育者の仕事「授業・保育」 <ul style="list-style-type: none"> 授業・保育で磨く教師・保育者としての力量 保育者の力量形成 — 研究・研修 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート9
11	教職員の職務と服務 <ul style="list-style-type: none"> 服務に関する法規：職務上の義務・身分上の義務 職務遂行と服務は表裏一体 服務規程の具体 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート1
12	教育改革からみた教育行政 <ul style="list-style-type: none"> 教育課題の背景にある教育行政の取り組み 教育改革の具体と教育行政の取り組み 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート10
13	子どもの側からみた教育行政 <ul style="list-style-type: none"> 教育を受ける権利の保障 人権教育としての幼児教育 (ペイリーとレッジョ・エミリアの取り組み事例) 子どもの権利条約 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート11
14	教育行政と教育財政 <ul style="list-style-type: none"> 教育に関する費用：我が国の教育予算・教育財政 幼稚園・保育所の財務と教育費用 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習 学修ミニレポート12
15	教育行政の動向と幼児教育改革への対応 <ul style="list-style-type: none"> 世界の教育改革と幼児教育の度尾呼応宇 日本の幼児教育と制度改革 	教科書・プリント教材 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関する キーワード予習
期末 試験	後期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 60点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。
2. 授業後の「学びの着地点」「授業テーマに関する学修ミニレポート」を30点満点で採点する。
学修ミニレポートは、予習課題、振り返り課題、追究課題を設定。
3. 授業への参加態度（討議、発言、質問、提案など）を10点満点で採点する。

【教科書】

特に教科書は使用せず、担当教員が作成したプリント資料をその都度配布する。

【参考書】

1. 書名：新しい時代の幼児教育
著者名：小田 豊・榎沢良彦 編
発行所：有斐閣
価格：1,800円（税別）
2. 書名：教育行政学
著者名：勝野正章 編
発行所：学文社
価格：1,800円（税別）

【その他補足事項】

1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくする。
2. 授業のはじめにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深める。
3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。

授業科目名	教育行政		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 せきもと ひとし 関本 仁	開講期	前期・後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	有	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育行政に関わる基礎的・基本的な考え方、(原理・原則・動向)を幅広く理解すると同時に、教育行政が実際に幼稚園を始めとする学校、教職員、家庭や地域社会とどのような関係を持っているのかについて理解を深めていく。そして、幼稚園を始めとする学校での適切かつ効果的な経営のあり方、特に安全への対応を重視したこれからの保育・教育のあり方について、皆さんとともに考えていきたい。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
わが国の教育行政の考え方や仕組み、教育政策の動向について理解する。		目標	A・C	
教育行政が幼稚園や学校経営、保育・教育活動、地域との連携に深い関わりを持っていることを理解し、その実践について今後のあり方を考える。		目標	A・C・J	
危機管理を含む学校安全の必要性について、その目的と具体的な取り組みを理解する。		目標	A・C・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 教育行政で学ぶこととは何か	授業計画 スライド資料提示 ペア/グループディスカッション リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
2	公教育と教育行政との関係	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み (予習) 配布資料の復習
3	保育の専門家としての条件	スライド資料提示 ペア/グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み (予習) 配布資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	日本の公教育制度	確認小テスト、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
5	幼稚園における学校教育の仕組み	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
6	教育・保育を支える法規	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
7	時事問題からみた教育行政の取り組み	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
8	教育行政をおこなう機関 ：文部科学省と教育委員会	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
9	幼稚園における学校経営	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
10	学校と地域との連携	確認小テスト、スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
11	教育改革と教育行政	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
12	「教育を受ける権利」の保障について	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
13	学校安全への対応	確認小テスト、スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
14	教育行政と教育財政	スライド資料提示 リアクションペーパーの記入	プリント下読み（予習） 配布資料の復習
15	幼児教育における制度改革／まとめ	スライド資料提示 ペア／グループディスカッション リアクションペーパーの記入	配布資料の復習
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 … 50% 2. 授業内での確認小テスト（4回）… 20% 3. 各回終了時に記入するリアクションペーパー（15回）… 20% 4. 授業への態度など … 10%			
【その他補足事項】 教科書は指定せず、各回の終わりに次回使用するスライドの資料を配布する。 予習としてその下読みをおこない、授業の準備をしておくこと。 参考図書は、授業の進行に応じて適宜紹介する。			

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 田 辺 <small>たなべ</small> 稔 <small>みのる</small>		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、幼稚園の具体的な場面を想定しながら、教育の過程における心理学的な法則や事実を理解し、より効果的な教育を展開するために必要な教育心理学の基本的事項を修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの心身の発達、特に心の発達過程に焦点を当てながら「発達」の基本を自分の言葉で説明できるようになる。			目標	A・C・J
日頃の生活や遊びを通して、「学び(学習)」の過程について理解を深め支援のあり方や課題について考えていけるようになる。			目標	A・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 教育心理学で何を学ぶのか。評価方法等	授業計画 教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
2	心理学の研究方法与教育心理学の課題 個人差をどのように捉えていくのか	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p4～p13を事前に読むこと
3	発達段階の理解(1) 生涯発達の発達段階と発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
4	発達段階の理解(2) エリクソン、ハヴィガーストの発達課題	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	1年次発達心理学の学習内容を復習のこと
5	学習(1) 学習の意味、子どもが学ぶ事の意味やその心理学的な過程の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書p71～p78を事前に読むこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	学習(2) 学習の過程と理論	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 71～ p 78を事前に読むこと
7	学習(3) 学習の過程と理論、条件付けと認知過程	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 78～ p 82を事前に読むこと
8	個人差の理解と教育(1) 個人差とは・個人差の理解	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 35～ p 37を事前に読むこと
9	個人差の理解と教育(2) パーソナリティの理解・代表的な見方ととらえ方	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 37～ p 40を事前に読むこと
10	個人差の理解と教育(3) パーソナリティの発達	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 42～ p 45を事前に読むこと
11	個人差の理解と教育(4) パーソナリティの測定	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	具体的な測定例として自己分析を試みる
12	教育評価(1) 評価の種類、その方法と整理	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	教科書 p 197～ p 200を事前に読むこと
13	教育評価(2) 教育・保育場面で活用できる統計手法	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	卓上計算機（携帯電話でも可）を用意
14	まとめ(1) 総括的な振り返り（発達から学習）	教科書、資料提示はパワーポイントを使用予定	
15	まとめ(2) 総括的な振り返り（人格から教育評価）	資料提示はパワーポイントを使用予定	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. レポート レポートは30点満点の採点とする。課題は授業内容に沿い、興味関心を持った領域に関して各自で課題を設定する方式とする。 3. その他 授業内容の理解度を確認するため2回～3回、小テストを実施する。採点は授業内で答え合わせを行い、理解不足の箇所を各自確認する資料とする。			
【教科書】 書名：基礎から学ぶ教育心理学 著者名：工藤俊郎・高井直美・上田恵津子 発行所：八千代出版 価格：2,200円（税別）			
【その他補足事項】 本科目では、コンピュータを用いたスライド（パワーポイント）を中心に展開していく。やむを得ず欠席した場合は、ファイル形式あるいはプリント資料にて配付できるので申し出ること。			

授業科目名	教育心理学		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育心理学の基本的な事項について理解する。また、教育の諸問題について、教育心理学の視点から説明したり自己の意見を発表したりできる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育心理学の基本的な事実や現象について理解できる。			目標	A・C
保育現場で問題となるような事項について、教育心理学の用語を用いて説明できるようになる。			目標	A・J
保育現場で生じ得るさまざまな活動や問題点について、教育心理学的な視点から自己の見解を述べることができる。			目標	A・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点. 教育と発達(1) 成熟と学習	授業計画 教科書補足資料 1	教科書 p 1～7 を事前に読む
2	教育と発達(2) 子どもを取り巻く教育環境 文化・教師	教科書補足資料 2 ミニテスト 意見発表	教科書 p 7～12 を事前に読む
3	学習の原理(1) 学習とは 条件づけ①	教科書補足資料 3 ミニテスト 意見発表	教科書 p 13～17 を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	学習の原理(2) 条件づけ② 学習の理論	教科書補足資料4・ミニテスト・DVD視聴 (刷り込み) 意見発表	教科書 p 17～19を事前に読む
5	学習の原理(3) 潜在学習 洞察学習・観察学習	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書 p 19～27を事前に読む
6	学習と動機づけ(1) 外発的動機づけ 内発的動機づけ	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書 p 28～32を事前に読む
7	学習と動機づけ(2) 結果期待・効力期待 学習性無力感	教科書補足資料7 ミニテスト 意見発表	教科書 p 32～35を事前に読む
8	学習と動機づけ(3) 原因帰属 目標とやる気	教科書補足資料8 ミニテスト 意見発表	教科書 p 36～40を事前に読む
9	知力と学力 知能とは何か 知能の構造	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書 p 40～53を事前に読む
10	教授 — 学習過程 教授 — 学習課程のモデル 授業の評価・分析	教科書補足資料10・ミニテスト・DVD視聴 (ことばの発達)意見発表	教科書 p 57～67を事前に読む
11	教育評価 教育評価の意義 教育評価の問題点	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書 p 68～80を事前に読む
12	教育測定と統計 教育測定 平均の分布と変換	教科書補足資料12 意見発表	教科書 p 81～92を事前に読む
13	パーソナリティと適応(1) パーソナリティ形成と要因 パーソナリティの捉え方	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 93～104を事前に読む
14	パーソナリティと適応(2)・全体のまとめ(1) 適応 適応機制	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 104～108を事前に読む
15	学級集団と問題点・全体のまとめ(2) 学級集団 現状と問題点	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 109～141を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 毎回の授業で実施するミニテスト（13回）：60%、授業内のまとめのテスト（2回）：40%（各20%）			
【教科書】 書名：教育心理学 著者名：本郷一夫・八木成和（編） 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	発達心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本授業は、人間発達に関する基礎知識（発達の定義、要因、子ども観、発達理論、発達段階）について概説する。特に、新生児期、乳幼児期、児童期については、具体的な事実や現象を例にあげながら、身体・運動、認知、言語、社会性の発達面について解説する。 基本的には解説→質問→課題のパターで授業を進めていく。第2回目～第13回目の授業では、授業開始と同時に数分間のミニテストを実施する。ミニテストは（採点して）翌週の授業で返却する。第14回目と第15回目の授業では、それぞれまとめのテストを実施する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子どもの心身の発達に対する主な要因とその相互作用について理解する。		目標	A	
発達に関する代表的理論を理解する。		目標	A・C	
発達の概念、保育・教育に関する発達理解の意義について理解する。		目標	A・J	
各時期の運動・言語・認知・社会性の発達について理解する。		目標	A・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 発達の定義と発達の規定要因、発達の原理	授業計画 教科書補足資料1	教科書 p 1～3 を事前に読む
2	発達の基礎(1) 人間発達の特殊性 発達の生物学的基礎	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書 p 3～4 を事前に読む
3	発達の基礎(2) 発達の規定要因 遺伝と環境	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書 p 4～5 を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	発達の基本(3) 初期経験 臨界期・敏感期	教科書補足資料4・ミニテスト・DVD視聴（刷り込み） 意見発表	教科書 p 6～10を事前に読む
5	乳児期まで(1) 胎生期の特徴 新生児期の身体発育と行動	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書 p 11～17を事前に読む
6	乳児期まで(2) 新生児期の知覚 新生児期の能力	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書 p 18～28を事前に読む
7	幼児期前期(1) 身体と運動の発達 感覚・知覚・言葉の発達	教科書補足資料7・ミニテスト・DVD視聴（運動機能の発達） 意見発表	教科書 p 29～35を事前に読む
8	幼児期前期(2) 認知・思考の発達 基本的な生活習慣の確立と自我の発達	教科書補足資料8・ミニテスト・DVD視聴（認知機能の発達） 意見発表	教科書 p 36～40を事前に読む
9	幼児期後期(1) 身体と運動の発達 言葉とコミュニケーションの発達	教科書補足資料9・ミニテスト・DVD視聴（社会性の発達） 意見発表	教科書 p 41～47を事前に読む
10	幼児期後期(2) 認知の特徴 社会性の発達	教科書補足資料10・ミニテスト・DVD視聴（ことばの発達） 意見発表	教科書 p 48～53を事前に読む
11	児童期(1) 身体的発達 認知・思考の発達	教科書補足資料11・ミニテスト・DVD視聴（情緒の発達） 意見発表	教科書 p 55～60を事前に読む
12	児童期(2) 心理社会的発達 発達課題	教科書補足資料12 意見発表	教科書 p 61～71を事前に読む
13	青年期・成人期・老年期 各段階の特徴 発達課題	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 73～82を事前に読む
14	発達障害の理解・全体のまとめ(1) 発達障害の理解と支援 その他の障害の理解と支援	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 93～104を事前に読む
15	保育者の理解・全体のまとめ(2) 保育者の心理 新任保育者の悩みと葛藤	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 83～92を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の授業で実施するミニテスト10回（60%） 2. 授業内のまとめのテスト2回（40%）			
【教科書】 書名：幼児教育と保育のための発達心理学 著者名：小池康生・藤野信行（編） 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	発達心理学Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 発達心理学で学んだ内容を基にして、隣接領域や保育現場と関連づけながら専門的な知識を習得する。 また、保育環境や保育者を含めて保育現場の問題について、発達心理学の視点から総合的に考察できるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもに関する特有な行動について、発達心理学の視点から説明できるようにする。			目標	A・C
子どもの抱える心理的問題点について、さまざまな角度から考察できるようにする。			目標	A・J
保育現場で予想される子どもの問題点について、発達心理学的観点から理解し援助の方法について考えることができる。			目標	A・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 発達の基礎 (補足：認知・言語の発達)	授業計画 教科書補足資料1	教科書 p 27～51を事前に読む
2	遊び 遊びの発達 遊びをとおした社会性の発達	教科書補足資料2 ミニテスト 意見発表	教科書 p 89～100を事前に読む
3	親子関係 愛着 親子間の相互作用	教科書補足資料3 ミニテスト 意見発表	教科書 p 101～112を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	仲間関係・きょうだい関係 仲間関係の発達 きょうだい関係の発達	教科書補足資料4 ミニテスト 意見発表	教科書 p 113～123を事前に読む
5	道徳性・向社会的行動 道徳性の発達 向社会的行動の発達	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書 p 125～136を事前に読む
6	自己の発達 自己の理解 自己の形成と文化	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書 p 137～149を事前に読む
7	0歳児～3歳児の発達と対応(1) 0歳前半の発達と対応 認知の発達・対人関係の発達	教科書補足資料7 ミニテスト 意見発表	教科書 p 163～164を事前に読む
8	0歳児～3歳児の発達と対応(2) 0歳後半の発達と対応 認知の発達・対人関係の発達	教科書補足資料8 ミニテスト 意見発表	教科書 p 165～167を事前に読む
9	0歳児～3歳児の発達と対応(3) 1歳児の発達と対応 言語と認知の発達・対人関係の発達	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書 p 167～174を事前に読む
10	0歳児～3歳児の発達と対応(4) 2～3歳児の発達と対応 言語と認知の発達・対人関係の発達	教科書補足資料10 ミニテスト 意見発表	教科書 p 174～178を事前に読む
11	3歳児～6歳児の発達と対応(1) 年少児の事例（認知） 年中児・年長児の事例（認知）	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書 p 179～185を事前に読む
12	3歳児～6歳児の発達と対応(2) 年少児の事例（対人関係） 年中児・年長児の事例（対人関係）	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書 p 185～190を事前に読む
13	3歳児～6歳児の発達と対応(3) 保護者の戸惑いへの対応 関心を示さない保護者への対応	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 190～194を事前に読む
14	青年期の課題・全体のまとめ(1) 青年期の社会生活 青年期の発達課題	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 151～156を事前に読む
15	成人期と老年期の課題・全体のまとめ(2) 成人期の社会生活 老人期の社会生活	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 156～161を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の授業で実施するミニテスト14回（60%） 2. 授業内のまとめのテスト2回（40%）			
【教科書】 書名：発達心理学 著者名：本郷一夫（編） 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	臨床心理学		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 臨床心理学の基礎的な知識やさまざまな現象をとおして、正常や異常についての判断基準を理解する。 また、典型的な症例と事例に基づいて、心理援助の実践や代表的な理論および心理療法について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
臨床心理学の基本的な事項について、専門用語を用いて説明できるようになる。			目標	A・C
臨床心理学の基礎的な知識を用いて、さまざまな症状や心理現象などについて説明できるようになる。			目標	A・J
典型的なケースを基にして、心理援助の方法や理論について簡単に説明できるようになる。			目標	A・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点。 臨床心理学の基礎(1) (統計的基準・価値的基準)	授業計画 教科書補足資料 1	教科書 p8までを事前に読む
2	臨床心理学の基礎(2) 社会的適応の基準 絶対的基準など	教科書補足資料 2 ミニテスト 意見発表	教科書 p9～16を事前に読む
3	臨床心理学の基礎(3) 極限状態と異常 日常生活と異常	教科書補足資料 3 ミニテスト 意見発表	教科書 p18～26を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	心理援助の実際(1) 自閉スペクトラム症 事例と解説	教科書補足資料4 ミニテスト DVD視聴 (自閉スペクトラム症)・意見発表	教科書 p 28～33を事前に読む
5	心理援助の実際(2) 注意欠如・多動症 事例と解説	教科書補足資料5 ミニテスト DVD視聴 (注意欠如・多動症)・意見発表	教科書 p 34～36を事前に読む
6	心理援助の実際(3) 局限性学習症・知的能力障害 事例と解説	教科書補足資料6 ミニテスト DVD視聴 (局限性学習症)・意見発表	教科書 p 37～41を事前に読む
7	心理援助の実際(4) いわゆる「神経症」① パニック症など	教科書補足資料7 ミニテスト DVD視聴 (パニック症)・意見発表	教科書 p 52～53を事前に読む
8	心理援助の実際(5) いわゆる「神経症」② 強迫症・恐怖症など	教科書補足資料8 ミニテスト DVD視聴 (強迫症・恐怖症)・意見発表	教科書 p 53～55を事前に読む
9	心理援助の実際(6) 虐待・摂食障害など 事例と解説	教科書補足資料9 ミニテスト DVD視聴 (摂食障害)・意見発表	教科書 p 60～68を事前に読む
10	心理援助の実際(7) 変換症・解離性同一症 事例と解説	教科書補足資料10 ミニテスト DVD視聴 (解離性同一症)・意見発表	教科書 p 69～72を事前に読む
11	心理援助の基礎(1) 人格理論 フロイト	教科書補足資料11 ミニテスト DVD視聴 (フロイト)・意見発表	教科書 p 93～96を事前に読む
12	心理援助の基礎(2) 人格理論 ユング・ロジャーズなど	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書 p 97～100を事前に読む
13	心理援助の基礎(3) 人格理論 エリクソンなど	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 108～110を事前に読む
14	心理援助の方法(1)・まとめ(1) 心理療法 クライアント中心療法など	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 143～146を事前に読む
15	心理援助の方法(2)・まとめ(2) 心理療法 認知行動療法など	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 155～157を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の授業で実施するミニテスト14回（60%） 2. 授業内のまとめのテスト2回（40%）			
【教科書】 書名：心とかかわる臨床心理学 基礎・実際・方法 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）			

授業科目名	臨床心理学Ⅱ		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 小 関 賢	教授 小 関 賢	開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 臨床心理学で触れられなかった精神の障害や日常生活で陥りやすい心の変調状態等について、具体的な事例とおして学ぶ。 また、発達障害や虐待など子どもの問題について事例を基にして理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
日常生活で生じる心理的な問題点について、臨床心理学の用語を用いて説明できるようになる。			目標	A・C
比較的重い精神障害について、さまざまな角度から考察できるようになる。			目標	A・J
子どもの抱えている問題点について、臨床心理的の観点から理解し援助の方法について考えることができる。			目標	A・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 全般不安症	授業計画 教科書補足資料1	教科書p52を事前に読む
2	日常生活と強迫症 事例	教科書補足資料2 ミニテスト DVD視聴(強迫症) 意見発表	教科書p53を事前に読む
3	日常生活と恐怖症 事例	教科書補足資料3 DVD視聴(恐怖症) ミニテスト 意見発表	教科書p53を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	統合失調症 特徴と型 事例	教科書補足資料4 ミニテスト 意見発表	教科書 p 78～80を事前に読む
5	うつ病と双極性障害 特徴と型 事例	教科書補足資料5 ミニテスト 意見発表	教科書 p 81～84を事前に読む
6	認知症 症状 事例	教科書補足資料6 ミニテスト 意見発表	教科書 p 85～86を事前に読む
7	子どもの問題と対応(1) 発達障害 知的能力障害	教科書補足資料7 ミニテスト 意見発表	教科書 p 28～41を事前に読む
8	子どもの問題と対応(2) 情緒障害 不登校	教科書補足資料8 ミニテスト 意見発表	教科書 p 42～51を事前に読む
9	子どもの問題と対応(3) 母性剥奪症候群 育児不安・育児困難	教科書補足資料9 ミニテスト 意見発表	教科書 p 56～58を事前に読む
10	子どもの問題と対応(4) 心身症 摂食障害	教科書補足資料10 ミニテスト 意見発表	教科書 p 63～68を事前に読む
11	子どもの問題と対応(5) 子どものうつ病 重症心身障害	教科書補足資料11 ミニテスト 意見発表	教科書 p 82～87を事前に読む
12	子どもの問題行動と心理療法(1) 精神分析療法 分析的心理療法	教科書補足資料12 ミニテスト 意見発表	教科書 p 144～146を事前に読む
13	子どもの問題行動と心理療法(2) 遊戯療法 芸術療法	教科書補足資料13 ミニテスト 意見発表	教科書 p 146～151を事前に読む
14	子どもの問題行動と心理療法(3)・まとめ(1) 家族療法 行動療法	教科書補足資料14 ミニテスト 意見発表	教科書 p 153～155を事前に読む
15	子どもの問題行動と心理療法(4)・まとめ(2) 認知行動療法 集団療法	教科書補足資料15 ミニテスト 意見発表	教科書 p 156～160を事前に読む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の授業で実施するミニテスト14回（60%） 2. 授業内のまとめのテスト2回（40%）			
【教科書】 書名：心とかかわる臨床心理学 基礎・実際・方法 著者名：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 発行所：ナカニシヤ出版 価格：2,200円（税別）			

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 佐藤 理	おさむ	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育所保育指針の趣旨を踏まえ、乳幼児にとっての健康とその意義を理解するとともに、保育士として健康に関する指導をするための具体的な方法を学ぶ。 子ども自身が自ら健康で安全な生活を創り出す力を培うために、保育者として健康と安全について乳幼児にどう関わるかについて、基本的な生活習慣、安全能力の育成などに関する指導の実践力を養う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
乳幼児の健康について発達過程及び養護と教育に即して理解し、総合的な指導・援助ができる。		目標	A	
乳幼児の健康的な発育発達支援のためのスキルを身につける。		目標	B・D・E・F・G・I・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	授業計画 保育所保育指針 幼稚園教育要領	
2	健康とは(1) WHOの健康の定義①	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
3	健康とは(2) WHOの健康の定義②	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
4	健康とは(3) ヘルスプロモーション①	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	健康とは(4) ヘルスプロモーション②	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
6	健康とは(5) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と健康①	保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
7	健康とは(6) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と健康②	保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
8	健康とは(7) 保育所保育指針・幼稚園教育要領と健康③	保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
9	保健管理(1) 健康成立条件のモデル	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
10	保健管理(2) 健康成立条件のモデルと保健管理の領域	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
11	保健管理(3) 子ども保健管理	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
12	保健管理(4) 子どもの生活・行動管理	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
13	保健管理(5) 環境管理	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
14	前期のまとめ(1)	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
15	前期まとめ(2)（試験を含む）		
16	後期オリエンテーション	授業計画 保育所保育指針 幼稚園教育要領	
17	健康づくりに向けた指導・援助(1) 保健指導の基礎①	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
18	健康づくりに向けた指導・援助(2) 保健指導の基礎②	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
19	健康づくりに向けた指導・援助(3) 保健指導の基礎③	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
20	健康づくりに向けた指導・援助(4) 保健指導の基礎④	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
21	健康づくりに向けた指導・援助(5) 保健指導の基礎⑤	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
22	健康づくりに向けた指導・援助(6) 保健指導の実践①	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
23	健康づくりに向けた指導・援助(7) 保健指導の実践②	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	健康づくりに向けた指導・援助(8) 保健指導の実践③	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
25	健康づくりに向けた指導・援助(9) 保健指導の実践④	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
26	健康づくりに向けた指導・援助(10) 保健指導の実践⑤	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
27	健康づくりに向けた指導・援助(11) 保健指導の実践⑥	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
28	健康づくりに向けた指導・援助(12) 保健指導の実践⑦	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
29	後期のまとめ(1)	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
30	後期のまとめ(2) (小テストを含む)		
【試験の講評】 希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. レポート … 10% 2. まとめの試験（前期）… 40% 3. 小テスト（後期）… 40% 4. 受講態度 … 10%（意見発表及び発言など積極的講義参加）			
【教科書】 1. 書名：保育所保育指針〈平成29年度告示〉 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） 2. 書名：幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【参考書】 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			

授業科目名	子どもの保健		授業形態・単位数	講義・4単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤助教 石井佳世子 [本務先：福島県立医科大学 職名：助手]		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		120時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目では、小児の特徴を理解し、小児が心身ともに健康に発育していくために必要な知識や支援について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
子ども心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。		目標	A	
子どもの発育、発達、保健について理解する。		目標	A	
子どもの疾病と予防及び対応について理解する。		目標	A・B・K	
子どもの精神保健とその課題について理解する。		目標	A・C・D・G・K	
保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。		目標	A・B	
施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。		目標	A	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (授業内容、評価等の説明) 人の成り立ち、子どもの特徴	授業計画 プリントを中心とした講義	
2	小児保健の目標と現状 健康の概念	〃	配布プリントの予習・復習
3	子どもの成長発達(1) 身体発育	〃	〃
4	子どもの成長発達(2) 生理機能 (呼吸・循環・体温調節)	〃	〃
5	子どもの成長発達(3) 運動機能	〃	〃
6	子どもの成長発達(4) 精神機能	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
7	子どもの生活(1)（衣服・免疫機能・清潔）	授業計画 プリントを中心とした講義	配布プリントの予習・復習
8	子どもの生活(2)（排泄）	〃	〃
9	子どもの生活(3)（消化機能・栄養）	〃	〃
10	子どもの生活(4)（睡眠・脳・感覚機能）	〃	〃
11	子どもの生活(5)（遊び）	〃	〃
12	子どもの生活環境・保育の多様化	〃	〃
13	子どもの精神保健(1)（心身症、虐待）	〃	〃
14	子どもの精神保健(2)（障害）	〃	〃
15	前期末試験	筆記試験	
16	起こりやすい事故と事故予防	プリントを中心とした講義	配布プリントの予習・復習
17	子どもの疾病(1)（感染症）	〃	〃
18	子どもの疾病(2)（感染症）	〃	〃
19	子どもの疾病(3)（先天異常・新生児疾患・心疾患）	〃	〃
20	子どもの疾病(4) （免疫・アレルギー・呼吸器・運動器疾患）	〃	〃
21	子どもの疾病(5)（消化器・腎臓疾患）	〃	〃
22	子どもの疾病(6) （神経・血液・悪性腫瘍・皮膚・耳・鼻・歯疾患）	〃	〃
23	子どもの疾病(7)（内分泌・代謝性疾患・栄養障害）	〃	〃
24	子どもに起こりやすい症状(1)（発熱・痛み）	〃	〃
25	子どもに起こりやすい症状(2)（咳・呼吸困難）	〃	〃
26	子どもに起こりやすい症状(3)（嘔吐・下痢・便秘）	〃	〃
27	子どもに起こりやすい症状(4)（脱水・けいれん）	〃	〃
28	子どもの救急処置	〃	〃
29	保育環境と衛生管理・安全管理	〃	〃
30	健康及び安全の実施体制 母子保健施策 まとめ	〃	〃
期末 試験	後期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 前期末試験（40%）、後期末試験（40%）、出席状況（10%）、授業への参加度（10%）により総合的に評価する。 試験については、筆記試験を予定している。			
【教科書】 指定なし。講義用のプリントを配布する。			

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{わた なべ かず よ} 渡 邊 一 代 〔本務先：福島県立医科大学 職名：講師〕		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 健康な小児の発育・発達を理解し、適切な保育のあり方の基本知識と技術態度を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの健康及び安全に関わる保健活動の計画及び評価について修得する。			目標	A・C・J・K
子どもの保健増進及び心身の発達・発育を促す保健活動や環境を理解する。			目標	A・C・G・J・K・L
子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に身につける。			目標	A・B・C・G・J・K・L
救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に理解する。			目標	A・B・C・G・J・K・L
現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。			目標	A・J・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・その他の留意点 保健活動の計画及び評価	授業計画 教科書	教科書の該当箇所を事前に通読
2	子どもの養護(1)	演習：抱き方、背負い方、衣類の着脱、おむつ交換、授乳法 教科書、小テスト①・②	教科書の該当箇所を事前に通読
3	子どもの養護(2)		
4	子どもの身体計測 (実技チェック)	演習：頭囲・胸囲・身長・体重の計測 教科書、小テスト③	教科書の該当箇所を事前に通読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	子どもの生理機能の測定 (実技チェック)	演習：呼吸・脈拍・体温の測定 小テスト④	教科書の該当箇所を事前に通読
6	子どもの感覚機能・運動機能の発達評価	教科書、プリント配布 小テスト⑤	教科書の該当箇所を事前に通読
7	子どもの歯の健康	演習：歯磨き 教科書、小テスト⑥	教科書の該当箇所を事前に通読
8	子どもの身体の清潔(1)	DVD「赤ちゃんのお世話」15分 演習：沐浴、調乳	教科書の該当箇所を事前に通読
9	子どもの身体の清潔(2)	教科書、小テスト⑦	教科書の該当箇所を事前に通読
10	子どもの異常症状と適切な対応(1)		教科書の該当箇所を事前に通読
11	子どもの異常症状と適切な対応(2) 子どもの事故と応急手当(1)	ビデオ「ママの応急手当」21分 教科書、小テスト⑧・⑨	教科書の該当箇所を事前に通読
12	子どもの事故と応急手当(2)		教科書の該当箇所を事前に通読
13	心肺蘇生法 (実技チェック)	演習：心肺蘇生法、 教科書、小テスト⑩	教科書の該当箇所を事前に通読
14	三角巾を使用した応急処置 (実技チェック)	演習：三角巾の活用 教科書、小テスト⑪	教科書の該当箇所を事前に通読
15	心と身体の健康問題と地域保健活動	教科書	教科書の該当箇所を事前に通読
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 50点 2. 小テスト（11回） 22点 3. 実技試験（4回） 8点 4. 発表 5点 5. 授業態度等 15点 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行う。			
【教科書】 書名：子どもの保健Ⅱ 著者名：高内正子 編集 発行所：建帛社 価格：2,100円（税別）			

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位	
			開講年次	2年次	
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	かね 金子	さと 里美	開講期	前期・後期
				授業回数	15回
				期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別		
卒業		専門教育科目	必修		
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修		
保育士資格		専門教育科目	必修		
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。			

【授業の概要】 幼稚園・保育士の各領域間で相互に関連を持ちながら、健康な子どもの心身の発育・発達や小児期における特徴的な疾病を理解し、めまぐるしく変化する子どもの健康を保持増進するための適切な環境や指導方法についての基本的知識を学ぶ。また、日常的な生活援助、疾病予防、救急時の対応、事故防止安全管理について、保健活動を展開できる基本的な技術と実践できる能力を養う。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの発育過程がわかる。			目標	A
乳幼児の健康管理の方法として、必要な観察・計測ができる。			目標	A・B
計測値・実施事項の基準値がわかり評価ができる。			目標	A・B・J
安全、最善の環境を理解し、課題発見、適切な対応を考える。			目標	A・G・J・K
グループ、個人で健康啓蒙資料を作る。			目標	A・B・E・G・I・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、授業内容、評価方法・授業の進め方・留意点 子育てを考えよう (資料)	授業計画の説明 資料の通読と意見交換	
2	健康な子どもの発育過程	DVD「世界の子育て」視聴 意見交換	ミニレポート 「赤ちゃんの能力」
3	乳幼児の健康管理 1. 身体計測法	人形、学生モデル活用での演習	ミニレポート 「計測ポイントetc」
4	2. 計測値の評価方法	指数等計算、パーセンタイル 曲線記入、基準との比較	テキスト演習 課題おさらいテスト

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	3. バイタルサインの測定	デモスト後学生間で実技演習	演習課題 おさらいテスト
6	4. 視覚・聴覚機能確認法	演習資料、学生成成資料の活用演習	演習課題 おさらいテスト
7	5. 保育環境と日常生活習慣の調整	テキスト解説、DVD視聴 プリント通読後、意見交換	ミニレポート 「子どもの生活」
8	安全管理 1. 子どもに多い事故の理解 資料から特徴を探る	配布資料の読み取り、意見交換 から特徴の特定	演習課題 おさらいテスト
9	2. 不慮の事故予防	DVD「子どもの事故は半減 できる」KYTテスト	演習課題 ミニレポート
10	3. 応急手当	DVD「乳幼児の応急手当」 包帯法実技体験	体験レポート
11	4. 救命救急法、通報ポイント	DVD、レサシベビィ使用 通報模擬体験	体験レポート
12	体調不良時の対応 — 観察、対処法	プリント解説、カルタ作り	演習課題 おさらいテスト
13	感染予防対策 — 感染症成立3要素 感染症予防3対策法	手洗いキット使用実演 消毒薬希釈計算	演習課題 ミニレポート
14	「健やか親子21」「子育て支援策」広報活動 課題発見と啓蒙施策を考える	健康便り・ポスター作り	作品企画 ～完成
15	総括リフレクション	プリント配布解説、質疑応答	プリント・テキスト 演習課題
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 期末試験（70%）、各回の演習・課題レポート等への取り組み状況（30%）で評価する。			
【教科書】 書名：これならわかる！ 子どもの保健実習ノート ～子育てパートナーが知っておきたいこと～ 著者名：小林 美由紀 発行所：診断と治療社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 田村佳奈美		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 乳児期から小児、学童期と子どもの食生活は心身の健全な発育、発達のみならず、生涯にわたる健康的な食習慣を築く基礎となる。また、将来の疾病予防とも大きな関連がある。近年、栄養の偏りや「欠食」、「こ食」の問題も大きい。子どもの成長段階に応じた栄養・健康について食を通して考え、保育士として必要な子どもの食と栄養について学び、適正な食、栄養のあり方の知識、技術を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
栄養、食に関する基礎知識を習得する。			目標	A・B・C
健康な生活の基本としての食事の意義や食事の大切さを学ぶ。			目標	A・C・H
子どもの食と栄養を理解し栄養と発育の関連、栄養の過不足が理解できる。			目標	A・B・C・J・K
食育の基本を地域社会、文化との関わりを通して学び食育を企画できる。			目標	A・B・C・I・J
家庭や児童福祉施設の食生活の現状、特別な配慮を要する子どもの食事と栄養について理解する。			目標	A・B・C・H

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方、その他	授業計画 教科書	
2	第1章 子どもの健康と食生活の意義 国民健康・栄養調査・生活リズム	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第1章を事前に読む
3	第2章 栄養に関する基本的知識 三大栄養素・五大栄養素	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第2章を事前に読む
4	第2章 栄養に関する基本的知識 その他の栄養素 脱水 (熱中症)・栄養素の欠乏症・過剰症	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第2章を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第3章 消化・吸収・代謝に関する基礎知識 口～肛門まで、消化管について	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第3章を事前に読む
6	第4章 食事摂取基準と小児の特徴 食生活指針・年齢区分・推奨量・目安量	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第4章を事前に読む
7	DVD学習（消化管の構造、食物の流れ）	教科書、補足資料、 パワーポイント DVD（人体の小宇宙）	教科書第3章を事前に読む
8	第5章 献立・調理の基本 食品区分（3つ、4つ、6つ）PFCバランス・主食・主菜・副菜	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第5章を事前に読む
9	演習 前日の食事を記録して栄養バランスを考える 食事記録・食事バランス調べ・自己評価 (レポート提出あり)	補足資料 調査、レポート用紙	補足資料復習 前日の食事を記録してくる
10	第6章 食品の基礎知識 旬の食材・食品のマーク・栄養補助食品	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第6章を事前に読む
11	第7章 調理の仕方 炊飯・だし・一汁三菜・食品の概要・計量	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第7章を事前に読む
12	演習 一汁三菜のメニューを考える（1食分） (夏期休み終了後レポート提出あり)	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第7章を事前に読む
13	第8章 出生前期の特徴と食生活 悪阻・便秘・貧血・肥満・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第8章を事前に読む
14	DVD学習 食品添加物、食の安全について考える	補足資料 DVD	補足資料復習
15	前期まとめ、前期の復習	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第1～8章を読む
16	第9章 授乳期・離乳期の心身の特徴と食生活 成長と発達・食習慣の形成・離乳食・市販ベビーフード	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第9章を事前に読む 夏期課題レポート提出
17	演習 市販食品や市販のベビーフードを調べる アレルギー表示・原材料・見た目・味・食感など (レポート提出あり)	教科書、補足資料 パワーポイント 市販食品、ベビーフード	教科書第9章を事前に読む
18	第10章 幼児期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第10章を事前に読む
19	第11章 学童期の心身の特徴と食生活 偏食・遊び食べ・食欲不振・間食	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第11章を事前に読む
20	幼児期～学童期の疾患と栄養 感染症など	補足資料 パワーポイント	配布資料を復習する
21	第12章 保育所・幼稚園の給食 学校給食摂取基準・食中毒・手洗い・食事のマナー	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第12章を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	第13章 食育の基本と内容 保育所保育指針・食育基本法・食育推進基本計画・食文化・地産地消	教科書、補足資料 パワーポイント	教科書第13章を事前に読む
23	演習 食育ポスターを作ろう 各自作成する（サインペン、色鉛筆など持参）	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書第13章を事前に読む
24	DVD学習 食べるとは、生きるとは、命をいただくとは	DVD	補足資料復習
25	第14章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 共食・孤食・個食・家庭支援	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書第14章を事前に読む
26	第15章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 アレルギー対応ガイドライン・アレルゲン・宗教による禁忌食品やマナーの違い	教科書、補助資料 パワーポイント	教科書第15章を事前に読む
27	摂食・嚥下障害について 摂食機能・嚥下・食形態の工夫	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
28	子どもの疾患と栄養 小児生活習慣病	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
29	子どもの食と栄養に関わる知識 ECOクッキング・食にまつわることわざ	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
30	総括・これまでのまとめ	教科書、補助資料 パワーポイント	補足資料を復習
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 後期末試験…70%（70点満点の記述式のテストを学期末に実施、前期末試験はなし） 2. 授業内レポート（2回）、夏期課題レポート（1回）は、1回につき10点満点で採点（10点×3回）…30% ※前期末の夏期課題レポート（献立作成）は夏休み明けに提出とする。 提出が遅れた場合は、採点結果から5点減点とする。			
【教科書】 書名：コンパクト版保育者養成シリーズ〈新版〉子どもの食と栄養 著者名：水上由紀、細川裕子編著 発行所：一藝社 価格：2,000円（税別）			
【その他補足事項】 1. グループワーク：市販食品、市販離乳食の表示調べ、味見など 2. 体験学習：市販の離乳食の味見、食育ポスター作成 3. 夏期課題レポート：献立作成と1品調理、写真撮影 ※授業の中で大切な部分を繰り返し説明し、質問もする。積極的に声を出して答えること。			

授業科目名	子どもの食と栄養		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 <small>なかむらけいこ</small> 中村啓子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 幼児期の栄養は保育者にゆだねられることから保育者が正しい栄養の知識と摂取方法、身体の発育及び発達を理解する必要がある。子どもの食と栄養では栄養学の基礎知識や子どもの現状を知り、食育の必要性和とすすめ方など保育士として必要な知識や技法について習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの発育・発達と食生活について説明できる。			目標	A・B・I・K
子どもの健康と食生活の意義について説明できる。			目標	A・B・C・I・K
子どもの食生活の現状を知り食生活の必要性を感じることができる。			目標	A・C・H・I・K
特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。			目標	A・C・H・I・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方、その他	授業計画 教科書	
2	第1章 子どもの発育・発達と支援(1) 食の重要性 小児期栄養の特徴	教科書 補足資料	教科書P 9～13を事前に読む
3	第1章 子どもの発育・発達と支援(2) 発育・発達 食にかかわる器官とその発達 子どもの発育・発達のための支援	教科書 補足資料	教科書P 13～22を事前に読む
4	第2章 栄養・食品の知識(1) 栄養の生理 食べ物のゆくえ 栄養素のはたらき	教科書 補足資料	教科書P 23～35を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第2章 栄養・食品の知識(2) 小児期の食べ物	教科書 補足資料	教科書P 36～44を事前に読む
6	第2章 栄養・食品の知識(3) 日本人の食事摂取基準 ミニテスト①	教科書 補足資料	教科書P 44～51を事前に読む
7	第2章 栄養・食品の知識(4) 食品構成と栄養バランス 望ましい献立と食べ方 食事バランスガイド	教科書 補足資料	教科書P 51～60を事前に読む
8	第3章 妊娠・胎児期の食生活 妊娠期のメカニズムと出産 妊娠期の食生活	教科書 補足資料	教科書P 61～68を事前に読む
9	第4章 乳児期の食生活(1) 乳児期の特徴 乳児期の栄養 母乳栄養	教科書 補足資料	教科書P 69～79を事前に読む
10	第4章 乳児期の食生活(2) 乳児期の栄養 人工栄養 離乳期の栄養 離乳の定義と「授乳・離乳の支援ガイド」	教科書 補足資料	教科書P 79～86を事前に読む
11	第4章 乳児期の食生活(3) 離乳の必要性 離乳の開始 離乳の進め方 離乳食の与え方	教科書 補足資料 食品サンプル	教科書P 86～101を事前に読む
12	実習 調乳 離乳食	プリント	教科書P 138～158を事前に読む
13	第5章 幼児期の食生活(1) 幼児期の成長と発達 幼児期栄養の特徴	教科書 補足資料	教科書P 114～117を事前に読む
14	第5章 幼児期の食生活(2) 幼児期の食べ物 間食	教科書 補足資料 食品サンプル	教科書P 117～125を事前に読む
15	第5章 幼児期の食生活(3) 幼児は食事から何を学ぶか 前期のまとめ	教科書 補足資料	教科書P 125～135を事前に読む
16	演習 食事のマナーが身につく方法	グループディスカッション 発表	
17	第6章 児童福祉施設における食事と栄養(1) 保育所給食	教科書 補足資料	教科書P 138～147を事前に読む
18	第6章 児童福祉施設における食事と栄養(2) 食生活指導の重要性 給食を通しての食生活指導	教科書 補足資料	教科書P 147～149を事前に読む
19	第6章 児童福祉施設における食事と栄養(3) 食物アレルギーと給食 食物アレルギーの原因となる食物 食物アレルギー対策 食物アレルギー児の保育と給食	教科書 補足資料 食品サンプル	教科書P 149～158を事前に読む
20	第6章 児童福祉施設における食事と栄養(4) その他の児童福祉施設の給食 児童福祉施設での食事の提供の特徴 食事提供者における保育者の役割	教科書 補足資料	教科書P 158～161を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	第6章 児童福祉施設における食事と栄養(5) 学校給食 学校給食と栄養教育	教科書 補足資料	教科書P161～168を事前に読む
22	第7章 障がいのある子どもの食生活(1) 障がい児の特徴と食生活	教科書 補足資料	教科書P169～172を事前に読む
23	第7章 障がいのある子どもの食生活(2) 障がい児の食生活と問題点と対応	教科書 補足資料	教科書P172～175を事前に読む
24	第8章 子どもの食生活(1) 子どもの食生活の配慮 偏食 食欲不振 むし歯	教科書 補足資料	教科書P177～182を事前に読む
25	第8章 子どもの食生活(2) かめない子 生活習慣病	教科書 補足資料	教科書P182～187を事前に読む
26	第8章 子どもの食生活(3) 発熱 嘔吐 下痢 食中毒	教科書 補足資料	教科書P187～192を事前に読む
27	第8章 子どもの食生活(4) 食生活の変容 子どもの食事	教科書 補足資料	教科書P192～201を事前に読む
28	第8章 子どもの食生活(5) 食の安全性 食品添加物 健康食品 サプリメント ミニテスト②	教科書 補足資料	教科書P201～207を事前に読む
29	第9章 食育の基本 食育とは 保育所における食育	教科書 補足資料	教科書P208～216を事前に読む
30	第10章 食育の実践 まとめ	教科書 補足資料	教科書p217～231を事前に読む
期末試験	後期末試験	ペーパーテスト	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験記述方式のテストを後期末に実施する（70点） 2. 授業への参加態度（討議、発言、質問）を評価する（30点）			
【教科書】 書名：子どもの食と栄養 著者名：峯木真知子、高橋淳子編 発行所：株式会社 みらい 価格：2,200円（税別）			
【その他補足事項】 授業内容の理解確認のため2回のミニテストを行う。答え合わせは授業中、各自で行う。			

授業科目名	家庭支援論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	なかのあきこ 中野明子	開講期	前期・後期
	講師	たかはしゆうじ 高橋雄二	授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 家庭支援の意義と役割を理解すると共に、家庭生活を取り巻く社会的状況を学ぶ。 子育て家庭の多様なニーズに対する支援体制とその展開、関係機関との連携について学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
家庭支援の意義とその機能について理解する。			目標	A
子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。			目標	A
子育て家庭の支援体制について理解する。			目標	A・G
子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法、授業の進め方と留意点 第1講 家庭の意義と機能 「家庭」「親族」「世帯」とは 家族の定義と機能の変化 支援者として家庭にどう向き合うか	授業計画 教科書補足資料1	シラバス 教科書 p 2～12を事前に読む
2	第2講 家庭支援の必要性 家庭における無生活課題 生活の主体である家庭がもつ力	教科書補足資料2	教科書 p 14～24を事前に読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	第3講 保育士等が行う家庭支援の原理 児童福祉法改正と家庭支援の制度化 保育所・幼稚園における家庭支援 家庭支援の原則	教科書補足資料3 DVD視聴（20分） 「プロフェッショナル」	教科書 p 26～36を事前に読む
4	第4講 家庭支援と社会福祉 社会福祉の専門職としての保育士	教科書補足資料4	教科書 p 38～44を事前に読む
5	第5講 地域社会の変容と家庭支援 地域社会の変容 地域における多様な福祉課題 子どもの貧困対策	教科書補足資料5 DVD視聴（30分） 「児童の貧困」	教科書 p 50～60を事前に読む
6	第6講 現代の家庭における人間関係 現代の家族・家庭の変容 家庭支援の際に配慮すべき人間関係	教科書補足資料6 DVD視聴（30分） 「特別養子縁組・里親制度」	教科書 p 64～72を事前に読む
7	第7講 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス 男女共同参画社会の実現に向けた取り組み 仕事と育児の両立環境	教科書補足資料7	教科書 p 76～86を事前に読む
8	第8講 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 児童家庭福祉の施策体系 社会資源としての専門機関	教科書補足資料8	教科書 p 88～98を事前に読む
9	第9講 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て支援・次世代育成支援の経緯 子ども・子育て関連3法の概要	教科書補足資料9 DVD視聴（30分） 「子育て支援」	教科書 p 100～110を事前に読む
10	第10講 多様な子育て支援サービスの概要 子育て支援サービスの意義 子ども・子育て支援新体制の概要	教科書補足資料10	教科書 p 112～124を事前に読む
11	第11講 保育所入所児童の家庭への支援 保育所の役割 入所している子どもの保護者への支援	教科書補足資料11	教科書 p 126～138を事前に読む
12	第12講 地域の子育て家庭への支援 地域子育て家庭への支援とは何か 保育所の特性を活用した地域子育て家庭への支援	教科書補足資料12	教科書 p 140～149を事前に読む
13	第13講 要保護児童およびその家庭に対する支援 要保護児童の全体像と家族的背景 親子関係再構築支援	教科書補足資料13	教科書 p 152～162を事前に読む
14	第14講 子育て支援における関係機関との連携 関係機関と連携する意味 子育てしやすい地域づくり	教科書補足資料14	教科書 p 164～173を事前に読む
15	第15講 子育て支援サービスの課題 待機児童対策と子育て支援 まとめ	教科書補足資料15	教科書 p 176～184を事前に読む
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. レポート レポートは20点満点の採点とする。課題については授業時に説明する。			
【教科書】 書名：家庭支援論 著者名：新保幸男・小林 理 発行所：中央法規出版株式会社 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 <small>わた なべ ひろ し</small> 渡 辺 博 志		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】			
	<p>認定こども園、幼稚園、保育所及び連節する小学校低学年で行われている保育・教育活動は、国の意図的、計画的な仕事として行われていることを理解できるようにする。国はその目的を達成するため保育・教育活動の基準として幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領、学校指導要領を公示し、充実した保育・教育の具現に努めていること、また各幼稚園、保育所では、地域や子どもの実態を踏まえた保育・教育活動を行うため、最適な教育課程を編成し、特色ある保育・教育を推進していること、保育・教育の質の向上に向けてPDCAサイクルを取り入れていることなどを捉えることができるようにする。</p> <p>さらに教育課程編成の必要性、指導計画や保育・指導案の作成についても具体事例などをもとに考察するとともに、計画作成の作業に取り組むことができるようにする。</p>	<input type="radio"/>	A	知識
<input type="radio"/>		B	技術・技能	
<input type="radio"/>		C	論理的思考力	
<input type="radio"/>		D	文章表現力	
<input type="radio"/>		E	表情及び身体表現力	
<input type="radio"/>		F	感性及び感動表現力	
<input type="radio"/>		G	協働能力	
<input type="radio"/>		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
<input type="radio"/>		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
<input type="radio"/>		J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>		K	課題対処力	
<input type="radio"/>		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育・教育の目的達成と教育課程の意義や必要性および法的根拠や編成手順・方法を自分の言葉で表現し説明できる。	目標	A・D・I		
日々の保育・教育に必要な具体的な指導計画や保育・教育のための指導案を作成することができる。	目標	C・D		
指導と評価の観点に立ち、より効果的で質の高い教育課程編成のあり方・方法について自分の視点で論じることができる。	目標	J・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 「養育・保育・教育」の共通点と相違点	授業計画 授業目標・方法 パワーポイント資料 プリント資料 ペア・グループ討議	次時の授業に関するキーワード予習
2	目的・計画的な営み ・教育課程の意義と必要性 ・教育課程・カリキュラムとは ・新しいカリキュラムの考え方	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 11～19 キーワード予習 学修ミニレポート①

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「保育」「教育」の仕事…意図的・計画的に進めるために ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」 「認定こども園教育・保育要領」の必要性	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 22～27 キーワード予習 学修ミニレポート②
4	教育課程編成の基本的な考え方 ・幼稚園教育要領ができるまで ・めざす幼児像 具体的なねらい 保育の具体的な内容 ・教育課程の具体事例研究	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 33～38 キーワード予習 学修ミニレポート③
5	保育のねらい、内容と教育課程編成の具体と手順 ・保育課程の法的基礎要件 ・保育内容と領域 ・保育課程の事例研究	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 41～57 キーワード予習 学修ミニレポート④
6	保育内容と子どもの活動 ・発達の理解と指導計画 ・環境と遊びを通して教育する意味 ・連続する学び	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 59～66 キーワード予習 学修ミニレポート⑤
7	意図的・計画的に保育・教育を行うための「計画」の必要 を考える ・5つの領域 ・年間指導計画 月指導計画 週指導計画（週案） 日指導計画（日案）	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	教科書 p 69～75 キーワード予習 学修ミニレポート⑥
8	日案（日の計画）を作成する(1) ・日案作成の基本と諸要素 ねらい／環境構成／活動内容／予想される 子どもの活動／指導・援助	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習
9	日案（日の計画）を作成する(2) ・幼児の活動 ・環境構成の具体 ・指導上の留意点 ・部分案	日案作成用紙 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	日案作成 キーワード予習
10	週案（週の計画）を作成する(1) ・週案作成の基本と諸要素 ・事例案の検討	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	骨子案作成 キーワード予習
11	週案（週の計画）を作成する(2) ・週案作成の構想と具体 ・日案と週案の共通点と相違点	週案作成用紙 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	推移案作成 キーワード予習
12	「評価」とカリキュラム・マネジメント (PDCAサイクル) を考える ・保育者による自己評価の観点 ・保育者間で行う自己評価 ・幼稚園・保育所施設の自己評価	教科書・クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑦

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	保育・教育の「連携」と子どもの育ち ・子ども支援制度 広がる〇〇活動 ・幼児教育と外部の教育資源 ・地域との連携事例研究	プリント資料 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑧
14	様々な教育・保育課程のデザインと実践展開 ・特色ある教育・保育活動の実際 ・保幼小の連携 ・預かり保育、延長保育	プリント資料 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑨
15	私たちの考える理想の〇〇園 ・園の保育・教育ビジョン ・特色ある教育環境 教育・保育活動 ・プレゼンテーションと冊子づくり	プリント資料 クリッカー問題 補助資料・メディア資料 パワーポイント資料 ペア・グループ討議	プリント資料の キーワード予習 学修ミニレポート⑩
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 60点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. 授業後の「学びの着地点」「授業テーマに関する学修ミニレポート」を30点満点で採点する。 学修ミニレポートは、予習課題、振返り課題、追究課題を設定。 3. 授業への参加態度（討議、発言、質問、提案など）を10点満点で採点する。			
【教科書】 書名：教育課程・保育課程を学ぶ 著者名：松村和子 近藤幹生 椛島香代 著 発行所：ななみ書房 価格：2,000円（税別）			
【参考書】 書名：教育課程総論 著者名：小田 豊 神長美津子 発行所：北大路書房 価格：1,700円（税別）			
【その他補足事項】 1. 毎時間の授業内容は「学びのナビゲーション」として概要を提示し、授業に取り組みやすくする。 2. 授業のはじめにそれまでの授業内容の振り返りを「クリッカー問題」として提示し、ペア・グループ討議を通して理解を深める。 3. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。			

授業科目名	保育・教育課程論		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 さくま まさ ひろ 佐久間 正 弘		開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 カリキュラムと教育課程の意義、様々な教育思想に基づく教育課程について理解するとともに、日本における教育課程に係る法令及び保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について学習し、保育・教育課程の編成方法の理解を深めた上で、長期的指導計画、短期的指導計画試案を作成する。指導と評価の一体化の視点で教育課程改善の実際事例を考察する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育・教育課程の意義を理解し、その必要性、法的根拠、編成の手順を説明できる。			目標	A・C
発達段階に応じた長期的計画、短期的計画の試案を作成できる。			目標	D・J
指導と評価の一体化の視点から、より質の高い教育課程の在り方を検討できる。			目標	C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標、評価方法 (2) カリキュラムと教育課程	講義 授業計画 配布資料	授業計画を読んでおく
2	ふたつのカリキュラム 意図したカリキュラム 意図しないカリキュラム	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
3	カリキュラムの種類と歴史 教科カリキュラム・経験カリキュラム フレーベル～倉橋惣三～現代	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
4	保育・幼稚園教育の基本 幼稚園と保育所、認定こども園 保育所以外の児童福祉施設	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育・幼稚園教育の基本に関連して重視すること ふさわしい生活の展開、遊びをとおしての総合的な指導、一人一人の特性に応じた指導	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
6	計画的な環境構成と保育者・教師の役割 幼児の主體的活動と環境構成	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく レポート提出
7	教育時間終了後等に行う教育活動 教育活動と子育て支援	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
8	指導計画作成の手順とポイント 幼児の姿、具体的なねらいと内容 ねらい、内容と環境構成	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
9	長期の指導計画の実際 事例の検討と作成準備	小グループでの話し合いと 準備活動	試案作成準備
10	長期の指導計画の作成 試案の作成	個人で指導計画を完成させる	試案を完成させる
11	短期の指導計画の実際 事例の検討と作成準備	小グループでの話し合いと 準備活動	試案作成準備
12	短期の指導計画の作成 試案の作成	個人で指導計画を完成させる	試案を完成させる
13	幼児教育と小学校教育の接続 円滑な接続と指導計画	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
14	評価と指導計画の改善 長期・短期の評価と改善 指導の過程における評価と改善	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
15	まとめ 新しい時代の幼児教育	講義と話し合い 配布資料	配布資料を読んでおく
期末試験	前期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. レポート（授業中に課題を提示する） 30% 2. 指導計画試案（授業中に作成する） 10% 3. 前期末試験 50% 4. 授業への積極的参加態度 10%			
【教科書】 資料を配布する。			
【参考書】 書名：教育課程・保育課程論 著者名：千葉武夫・那須信樹 発行所：中央法規出版 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	保育内容総論		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育・保育所・認定こども園の教育及び保育の基本に基づく保育内容の総合的な達成の理解に重点を置いて、保育内容の相互関連的な理解の具体化を図る。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
		B	技術・技能	
	○	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育内容の相互関連性を具体的に理解する。			目標	A・C・G
保育内容の歴史的変遷や現在の子どもを取り巻く社会的環境の変化について学ぶ。			目標	A
5領域を通し幼稚園・保育所・認定こども園の保育内容とその果たす役割を理解する。			目標	A・I・J
養護と教育、保幼小連携について学ぶ。			目標	A・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション 保育内容総論を学ぶにあたって	授業計画 教科書 レポート (感想)	予習 教科書 (P10~P17)
2	子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容	教科書 (P10~P17) グループワーク 講義	授業の復習
3	「幼稚園教育要領」における保育内容	教科書 (P32~P43) 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 講義	授業の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	「保育所保育指針」における保育内容	教科書（P18～P31） 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 講義	授業の復習
5	保育内容と養護にかかわる事項	教科書（P22～P24） プリント 講義	授業の復習
6	保育内容と総合的な保育展開「健康」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
7	保育内容と総合的な保育展開「人間関係」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
8	保育内容と総合的な保育展開「環境」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
9	保育内容と総合的な保育展開「言葉」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	授業の復習
10	保育内容と総合的な保育展開「表現」領域	幼稚園教育要領解説書 保育所保育指針解説書 グループワーク	レポート：「保育現場における遊び」について
11	保幼小の連携を創造する保育内容	教科書（P114～P127） 講義	レポート提出 授業の復習
12	子育て支援を創造する保育内容	教科書（P128～P141） 講義 グループワーク	授業の復習
13	わが国における保育内容の変遷	教科書（P154～P165） 講義	授業の復習
14	これからの保育内容の課題	教科書（P178～P192） 講義 グループワーク	授業の復習
15	まとめ ・保育者に求められる姿 ・保育内容総論のまとめ（期末試験について）	教科書 グループワーク 発表	まとめ・期末試験の予習
期末試験	期末試験	ペーパー試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験：80点満点の記述方式のテストを学期末に実施。 2. レポート：1回提出で20点満点の採点とする。			

- 【教科書】
1. 書名：実践を創造する演習「保育内容総論」
著者名：豊田和子
発行所：(株)みらい
価格：2,000円（税別）
 2. 書名：保育所保育指針
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：120円（税別）
 3. 書名：保育所保育指針解説書
著者名：厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：190円（税別）
 4. 書名：幼稚園教育要領
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
価格：100円（税別）
 5. 書名：幼稚園教育要領解説書
著者名：文部科学省
発行所：フレーベル館
 6. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：150円（税別）
 7. 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
著者名：内閣府、文部科学省、厚生労働省
発行所：フレーベル館
価格：249円（税別）

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 さとう おさむ 佐藤 理		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子ども自身が自ら健康で安全な生活を創り出す力を培うために保育者として乳幼児の健康と安全にどう関わるかについて、基本的な生活習慣、安全能力の育成などに関する指導の実践力を養う点から、指導案の作成、教材・教具の工夫、模擬指導などを演習形式で進める。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育内容「健康」について乳幼児の発達過程に即して理解し、総合的な指導・援助ができる。		目標	A	
健康的な発育発達支援のための指導計画案を作成し、模擬指導をととして指導することができる。		目標	B・D・E・F・G・I・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価の方法 (3) その他	授業計画 幼稚園教育要領 保育所保育指針	
2	領域「健康」のねらいと内容(1)	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習
3	領域「健康」のねらいと内容(2)	スライドによる解説 保育所保育指針 幼稚園教育要領	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	健康づくりに向けた保健指導(1) 指導のねらい1 指導案1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
5	健康づくりに向けた保健指導(2) 教材・教具の工夫1	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
6	健康づくりに向けた保健指導(3) 教材・教具の工夫2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
7	健康づくりに向けた保健指導(4) 模擬指導1	模擬指導演習	講義内容の復習
8	健康づくりに向けた保健指導(5) 模擬指導2	模擬指導演習	講義内容の復習
9	健康づくりに向けた保健指導(6) 指導のねらい2 指導案2	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
10	健康づくりに向けた保健指導(7) 教材・教具の工夫3	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
11	健康づくりに向けた保健指導(8) 教材・教具の工夫4	スライドと講義資料による解説と演習	講義内容の復習
12	健康づくりに向けた保健指導(9) 模擬指導3	模擬指導演習	講義内容の復習
13	健康づくりに向けた保健指導(10) 模擬指導3	模擬指導演習	講義内容の復習
14	まとめ(1)	スライドと講義資料による解説	講義内容の復習
15	まとめ(2)〔小テストを含む〕		
【試験の講評】 希望者には試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 教材・教具制作 30% 2. 模擬指導 30% 3. 小テスト 30% 4. 受講態度 10%（意見発表及び発言内容等）			
【教科書】 書名：保育所保育指針〈平成29年度告示〉 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【参考書】 書名：幼稚園教育要領〈平成29年度告示〉 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別）			
【その他補足事項】 模擬指導のための教具作成を行う。準備する物については、オリエンテーションで説明する。			

授業科目名	保育内容指導法 健康		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 藤本 要	ふじもと かなめ	開講期	前期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解し、講義と演習を通して具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深める。			目標	A・C・J
幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。			目標	A・B・C・G・I・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 領域「健康」のねらい及び内容(1) ～健康のねらい及び内容並びに全体構造の理解	授業計画 (発表担当決め) 教科書	領域「健康」のねらい及び内容について読んでおくこと
2	領域「健康」のねらい及び内容(2) ～ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点	教科書 幼稚園教育要領 保育所保育指針	講義内容の復習
3	領域「健康」のねらい及び内容(3) ～幼児の健康にかかわる現代的課題と保育実践	教科書 幼稚園教育要領 保育所保育指針	講義内容の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成とその指導法(1) ～幼児期の基本的な生活習慣の形成とその指導法（食事、排せつ）	食事・排せつの指導に関するグループ発表	食事・排せつの指導を目的とした指導案を作成してくること
5	幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成とその指導法(2) ～幼児期の基本的な生活習慣の形成とその指導法（着脱衣、睡眠）	着脱衣、睡眠の指導に関するグループ発表	着脱衣、睡眠の指導を目的とした指導案を作成してくること
6	幼児期の身体の諸機能の発達と生活習慣の形成とその指導法(3) ～幼児期の基本的な生活習慣の形成とその指導法（清潔）	清潔の指導に関するグループ発表	清潔の指導を目的とした指導案を作成してくること
7	安全な生活とケガや病気の予防を理解する(1) ～幼児の安全教育・健康管理に関する指導法	安全教育・健康管理の指導に関するグループ発表	安全教育・健康管理の指導を目的とした指導案を作成してくること
8	安全な生活とケガや病気の予防を理解する(2) ～幼児の安全教育（交通安全指導と防犯指導）	交通安全指導と防犯指導に関するグループ発表	交通安全指導と防犯指導を目的とした指導案を作成してくること
9	安全な生活とケガや病気の予防を理解する(3) ～幼児の安全教育（危険な行動、特に注意を要する遊具・道具の指導）	危険な行動、特に注意を要する遊具・道具の指導に関するグループ発表	危険な行動、特に注意を要する遊具・道具の指導を目的とした指導案を作成してくること
10	幼児期の運動発達(1) ～幼児期運動指針と多様な動きの獲得を目的とした指導法	多様な動きの獲得を目的とした指導に関するグループ発表	幼児期運動指針を読んでおくこと
11	幼児期の運動発達(2) ～多様な動きの獲得、日常生活における幼児の動きを引き出す環境構成	多様な動きの獲得、日常生活における幼児の動きを引き出す環境構成を目的としたグループ発表	多様な動きの獲得を目的とした指導案を作成してくること
12	幼児期の運動発達(3) ～伝承遊び（鬼遊び他）の指導法	伝承遊び（鬼遊び他）の指導法に関するグループ発表	伝承遊び（鬼遊び他）を目的とした指導案を作成してくること
13	幼児期の運動発達(4) ～屋内遊び、屋外遊び、季節遊びの指導法	屋内遊び、屋外遊び、季節遊びの指導法に関するグループ発表	屋内遊び、屋外遊び、季節遊びを目的とした指導案を作成してくること
14	食育基本法と食育教育 ～発達段階に沿った食育指導	発達段階に沿った食育指導に関するグループ発表	発達段階に沿った食育指導を目的とした指導案を作成してくること
15	まとめ（小テストを含む）		
【到達度の評価（評価方法・基準）】			
1. 小テスト … 40%			
2. グループ発表（制作を含む） … 40%			
3. 毎回の授業の最後に提出する小レポート … 20%			
【教科書】 書名：幼稚園教諭・保育士をめざす保育内容「健康」 著者名：井筒紫乃・川田裕次郎 発行所：圭文社 価格：2,500円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「人間関係」について理解し、乳児期から幼児期にかけての発達、道徳性や規範意識の発達について理解する。</p> <p>具体的には、保育における人間関係を様々な側面から理解できるように、現場での実践を振り返る際、自分自身が経験してきた人間関係や現在の他者との関係の持ち方なども考え、具体的なテーマに基づいて理解を深める。人間関係の指導方法を実践事例を通して具体的に培う。</p>	<input type="radio"/> A
<input type="radio"/> B		技術・技能
<input type="radio"/> C		論理的思考力
<input type="radio"/> D		文章表現力
<input type="radio"/> E		表情及び身体表現力
<input type="radio"/> F		感性及び感動表現力
<input type="radio"/> G		協働能力
<input type="radio"/> H		まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
<input type="radio"/> I		積極的発言力及びプレゼンテーション力
<input type="radio"/> J		多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/> K		課題対処力
<input type="radio"/> L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
現代社会における子どもを取りまく環境とその「人間関係」を理解する。	目標	A・C・L
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域の「人間関係」のねらいや内容を具体的事例から学び、その指導法について理解する。	目標	A・B・G
保育実践での「人間関係」に関わる具体的問題を取り上げ、基本的な考え方と方法を考察し適切な援助や対応ができる力を培う。	目標	A・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 ○なぜ人間関係を学ぶのか ～人とかかわる力の成長と現代社会～	授業計画 教科書 「今までの人生で自分が出会った心に残る人々」について【グループ討議】	課題レポート① 「今まで私を支えてくれた人々」
2	1. 現代社会の子どもを取り巻く今日的課題	教科書 プリント資料1	復習 人とかかわる力の成長と現代社会
3	2. 幼児期の環境構成や人とかかわり ○園舎内外の環境構成と保育方法	教科書 プリント資料2 VTR (30分)「子どもを育む保育の環境」(映像利用) 【グループ討議】	復習 教科書 P 9～20 現代社会の子どもを取り巻く今日的課題

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	3. 領域「人間関係」と他領域との関連 ○他領域との関係の基礎理解と指導方法の実際	教科書 プリント資料3	復習 P53～65 幼児期の環境構成や人とのかかわり
5	4. 乳幼児の発達と人間関係 ○0歳児～3歳未満児の発達とかかわりの方法 ○3歳以上児の発達とかかわりの方法	教科書 プリント資料4	復習 P21～30 領域「人間関係」と他領域との関連
6	5. 遊びのなかで育つ人間関係 ○友達とかかわりをねらいにした指導計画案の作成と保育方法	教科書 VTR (30分) 育ちあい「ある保育園の子どもたち」(映像利用) 【グループ討議】	復習 P31～39 乳幼児の発達と人間関係
7	6. 保育者に求められている人間関係 ○保育者とかかわりをねらいにした保育計画案の作成と保育方法	教科書 プリント資料5	復習 P40～52 遊びのなかで育つ人間関係
8	7. 特別な支援を必要とする幼児と他の幼児がともに育ちあうためのかかわり ○支援計画の立案について	教科書 プリント資料6	復習 P66～76 保育者に求められている人間関係
9	8. さまざまな人々との交流と保・幼・小の交流活動の実践	教科書 プリント資料7 【グループ討議】	復習 P77～86 特別な支援を必要とする幼児と他の幼児がともに育ちあうためのかかわり
10	9. 就学前の子どもの育ちを支える人間関係	教科書 プリント資料8	復習 P87～97 さまざまな人々との交流と幼・保・小の交流活動の実践
11	10. 保育者と保護者の人間関係 保護者への支援事例	教科書 プリント資料9	課題レポート② 「私が保育現場で大切にしたい人間関係」
12	11. 地域子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み	教科書 プリント資料10	復習 P109～117 保育者と保護者の人間関係
13	12. 多文化保育と人間関係 異文化理解のためのかかわり	教科書 プリント資料11 【グループ討議】	復習 P118～124 地域子育て支援活動や預かり保育における保育者の工夫や取り組み
14	13. 指導計画の立案と保育の実践方法	教科書 プリント資料12	復習 P125～133 多文化保育と人間関係
15	授業内容のまとめ	教科書 プリント資料13 1～14の振り返り	復習 「総まとめ」
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 …… 70点満点の記述方式のテストを学期末に実施する。 2. レポート …… レポートは2回提出で30点満点の採点とする。(15点×2回)			
【教科書】 書名：保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」 著者名：咲間まり子 発行所：みらい 価格：2,000円（税別） ※保育所保育指針・保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書は、授業で使用するので20年告示版、29年告示版を持参すること。 *初回授業で説明する。			

授業科目名	保育内容指導法 人間関係		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 佐藤 菊子		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に質問等は教室で対応する。		

【授業の概要】 領域「人間関係」のねらいおよび内容について、ビデオ・事例を使用しながら展開する。乳幼児の人間関係を育てるために、保育の方法・内容・環境・保育者の援助を踏まえ、「人とのかかわる力」を身につけるため主体的に授業に参画する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
人間関係の育ちから、幼児の心を捉えることができるように、ビデオ視聴や絵本などの活用を図り理論と実践を繋げながら保育のあり方を具体的に学びコミュニケーション能力が身につくようにすることを到達目的とする。			目標	A・I・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 幼児教育の基本 ～幼児教育の目的と領域～ ～環境を通しての教育～	授業計画 VTR「幼稚園の1日の生活から」 幼稚園の実践から	<ul style="list-style-type: none"> レポート「子どもの遊び」を次回まで仕上げてくる 教科書P25～28を読んでくる
2	幼児教育の基本 ～保育者のさまざまな役割～	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P29～32を読んでくる
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」 ～人とのかかわり～	人とのかかわりと遊び VTR「ちっちゃいけどいい？」(22分) 視聴後、グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P49～55を読んでくる VTR「ちっちゃいけどいい？」のレポートを次回までに仕上げてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	乳幼児の発達と領域「人間関係」 ～友だち・集団・友だちとぶつかる～	友だちとぶつかることについて事例から理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・日案「おにごっこ」遊びを次回まで仕上げてくる ・教科書P58～65を読んでくる
5	子どもと保育者のかかわり ～信頼関係・子どもの関係～	実践「運動会に向けて：鬼ごっこ遊び」	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P72～81を読んでくる
6	子どもと保育者のかかわり ～幼児期の人間関係とコミュニケーション～	VTR「あしたね」(20分) 視聴後、グループワーク 資料「人間関係のしくみ」	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P84～90を読んでくる
7	遊びのなかの人とのかかわり ～幼児期の人間関係とコミュニケーション～	ごっこ遊びの事例・ごっこ遊びで育つ事例についてグループワーク(遊びの中でのいざござから)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「集団遊び」を読んでくる ・教科書P97～103を読んでくる
8	遊びのなかの人とのかかわり ～自己表現と仲間づくり～	実践「集団遊び」 グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニレポート「仲間づくり」 ・教科書P106～112を読んでくる
9	生活を通して育つ人とのかかわり ～子どもの生活と「人間関係」～	VTR「ほんとうのオバケみたい」(20分) 視聴後、グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P128～144を読んでくる ・資料「集団遊び：くつつき鬼」を読んでくる
10	個と集団の育ち ～集団で活躍する楽しさの「人間関係」～	実践「集団遊び：くつつき鬼」のグループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P156～162を読んでくる
11	人とのかかわりを見る視点 ～遊びの中の「人間関係」～	VTR「迷路ごっこだよ」(25分) 視聴、グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P163～167を読んでくる ・資料「集団遊び：猛獣狩りにいこうよ」を読んでくる
12	人とのかかわりを見る視点 ～遊びの中の「人間関係」～	実践「集団遊び：猛獣狩りにいこうよ」グループワーク	教科書P168～172を読んでくる
13	人とのかかわりの育ちと「人間関係」 ～依存と自立、自我と自己主張～	グループワーク(見守るなど)	教科書P174～176を読んでくる
14	幼児教育の現代の課題と領域「人間関係」 ～地域社会と子どもの育ち～	人とのかかわり「保育現場から学ぶ」	教科書P177～182を読んでくる レポート「地域の子どもたち」 次回まで仕上げる
15	幼児教育の現代と課題と「人間関係」 ～地域社会と子どもの育ち～	人とのかかわりと今日的課題 グループワーク・発表	
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価(評価方法・基準)】 期末試験 60% レポート、ミニレポート 20% 授業態度等 20% ※1. 「成績評価への補足的対応措置」により、授業態度と欠席、遅刻・早退による減点を行う。 2. 課題(宿題)未提出は各2点減点。優秀レポートは各1～3点加点。 なお、詳細については初回の授業時に説明する。			
【教科書】 書名：事例で学ぶ保育内容「人間関係」 著者名：無藤 隆 発行所：萌文書林 価格：2,000円(税別)			

授業科目名	保育内容指導法 環境		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 <small>すぎ</small> 杉 <small>うら</small> 浦 <small>ひろ</small> 広 <small>ゆき</small> 幸		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	15時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明する。			

【授業の概要】 本授業におけるテーマは、保育における環境（子どもの暮らし、あそび、学びにとって意味のある外界）としての物的環境、人的環境、自然環境および社会的環境を学習する。また、基本的に知っておくべき動植物について学習してもらう。そして、出身地・実習先の環境に関わる特徴の学習について、学生の自主的な学習を促す。さらに、放射能の問題もまだ残っているため、保護者に安心してもらえるよう、対策と必要な知識を学習してもらう。さらに、能動的学習についても取り入れる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
子どもが周囲の環境に親しみ、自然と触れ合う中で、様々な事象に興味関心を持たせられるような保育ができるようになる。	目標	A・H		
子どもが身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れられるような保育ができるようになる。	目標	B・K		
身近な事象を見たり考えたり、扱ったりする中で物の性質や数量、文字などに対する感覚が豊かになるような保育ができるようになる。	目標	C・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	授業オリエンテーション、保育での「環境」とは (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 (園庭の構造を理解する)	授業計画 教科書 園庭見学	幼児期に遊んだ空間を思い出し、整理しておく 教科書を読んでおく
2	領域「環境」のとらえ方と考え方(1) 幼稚園教育要領・保育所保育指針および認定こども園教育・保育要領より	教科書、Power Point、 手製資料 (法・規則)	幼稚園教育要領を調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	領域「環境」のとらえ方と考え方(2) 幼稚園・保育所設置認可基準（地方と東京）	教科書 Power Point 手製資料	出身幼稚園・保育所の敷地を思い出して整理しておく
4	乳幼児の発達と環境 （乳幼児の環境、環境を通しての保育、保育環境の構成する保育者）	教科書、Power Point	乳児の生活環境を調べておく
5	身近な環境の構成：人的環境 （様々な人との関わり）	教科書、Power Point	自身の人間関係を考えておく
6	身近な環境の構成：物的環境 （幼児にとって魅力ある環境、屋内環境と屋外環境）	教科書、Power Point	身の回りの屋内環境を調べておく
7	身近な環境の構成：社会的環境 （社会問題、法、園行事）	教科書、Power Point	生活の中で、社会のルールをどう学んだか整理しておく
8	中間テスト （自然の事象への関心、地元の自然、遠足）	ペーパー式テスト 季節の発見	今までのところを復習しておく
9	自然環境(1) （植物とのかかわり、花と草）	教科書、手製資料（自然公園）、Power Point、グループワーク（遠足）	出身地周辺の自然公園を調べておく
10	自然環境(2) （植物とのかかわり、木）	教科書、Power Point、小テスト①花・草	子どもの好きな草花を調べておく
11	自然環境(3) （生き物とのかかわり）	教科書、Power Point、小テスト②木	身の回りで飼育されている生き物を調べておく
12	自然環境(4) （農作物の栽培と利用、ビオトープ）	教科書、Power Point、小テスト③生き物1	子どものころの野菜栽培体験を整理しておく
13	自然環境(5) （環境マップ、ESD）	教科書、Power Point、小テスト④生き物2	キャンパスマップをよく見しておく
14	安全対策(1) （自然災害対策）	教科書、Power Point、グループワーク（津波避難）	震災について、自身の体験を整理しておく
15	安全対策(2) （原発事故、その他）	教科書、Power Point、レポート（原発事故対策の基準値）	乳幼児の食品の放射性物質基準値と成人の基準値の違いを確認しておく
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 中間テスト40点。小テスト40点（10点満点×4回、間違った回答へのレポート対応可）。 レポート20点（5点×4回）。 「成績評価への補足的対応措置」により、減点等を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。</p>			
<p>【教科書】 書名：生活事例からはじめる ― 保育内容 ― 環境 著者名：徳安 敦・瀧川光治・杉浦広幸 発行所：青踏社 価格：2,000円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】 本授業は、季節感や体験を重視するため、基本的に授業中毎回屋外に出る機会を設ける予定である。 そのため、服と靴は屋外を散策するのに問題ないものとする。</p>			

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 田 上 貞一郎 <small>た がみ ていいちろう</small>		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼児の言葉の発達の特徴や言語環境とのかかわりから、幼児の言語的資質を高める理論と実践について理解を深める。「言葉のモデル」としての保育者の言葉遣いについても触れる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの言葉の獲得と発達について理解を深める。			目標	A・B
乳幼児期の言葉の特徴やその指導について知識・能力を深化させたい。			目標	A・B・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 保育内容「言葉」の位置づけと内容	自己プレゼンテーション 教材：授業計画 教科書	教育計画の確認
2	「言葉」に関するねらいと内容 — 幼稚園教育要領 —	朗読 指名問答 教材：幼稚園教育要領解説 教科書	幼稚園教育要領解説予習 朗読練習
3	「言葉」に関するねらいと内容 — 保育所保育指針 — — 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 —	朗読 指名問答 教材：保育所保育指針解説書 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説 教科書	保育所保育指針解説書予習 幼保連携型認定こども園教育・保育要領予習 朗読練習
4	保育者のことば 方言・敬語・幼稚園語	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	保育者のことば 保育者の話し方・発問と助言・保育者の発声	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
6	子どものことば ことばの発達・ことばの発達と条件・音声の発達	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 DVD視聴（「ことばの発達」21分）	学習範囲予習 朗読練習
7	子どものことば 語彙の発達・文字の発達・言語障害	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 DVD視聴（「早期教育を考える」21分）	学習範囲予習 朗読練習
8	ことばの指導と計画 年間・学期別・月間指導計画表、週案、日案	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習 宿題：課題（日案の書写） 作成
9	子どもの言葉を発達させる活動 — ことば遊び — (課題の提出)	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
10	子どもの言葉を発達させる活動 — 絵本(1) —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
11	子どもの言葉を発達させる活動 — 絵本(2) —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
12	「ブックスタート」について	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書VTR視聴（「クシュラの奇跡」24分）（「ブックスタートの活動」16分）	学習範囲予習 朗読練習
13	子どもの言葉を発達させる活動 — 紙芝居 —	朗読 指名問答 教材：教科書	学習範囲予習 朗読練習
14	子どもの言葉を発達させる活動 — その他の活動 —	朗読 指名問答 フィールド バックシート 教材：教科書 カセットテープ 聴取（NHKラジオ第2 「お話出てこい」15分）	学習範囲予習 朗読練習
15	総括質疑 — 今までの授業内容を踏まえて「言葉」について質疑する —	口頭発表 指名問答 教材：教科書	質疑の準備
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書の朗読（10%）、期末試験の成績（80%）、課題提出（10%）から客観的に評価する。 ※欠席1回につき3点減点とする。ただし、実習による欠席は減点の対象外とする。 ※教科書等教材忘れは1回につき3点減点とする。 ※詳細については初回授業時に説明する。			
【教科書】 書名：保育内容指導法 言葉 著者名：田上貞一郎 他 発行所：萌文書林 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	保育内容指導法 言葉		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 佐藤 佐敏 [本務先：福島大学 職名：教授]		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等				

【授業の概要】 胎児から学童期前期に至るまで子どもが言語を獲得していく過程について、発達心理学、大脳生理学等の知見を援用して究明していく。また、言語の獲得を促進させるための支援の方法を確認していく。すべての授業で学習課題を提示し、その課題を解決していくためにグループディスカッションを取り入れる。主体的、対話的な活動のもとで実感をともなった深い学びとなることを目指す。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもの言葉の獲得と発達について、特に発達心理学的な視点から、理解を深める。			目標	A・B・C
子どもの言葉の獲得と発達について、特に認知科学や大脳生理学の視点から、理解を深める。			目標	A・B・C
乳幼児期の子どもの保育の仕方について、理解と技能を深める。			目標	A・B・I

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意 領域「言葉」のねらい、内容および全体構造の理解	授業計画	
2	乳幼児の言葉と胎教 「胎教」は言葉の発達とどのようにかわるのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
3	乳幼児の言葉の獲得と早期教育(1) 早期教育は言葉の発達を促進するのか その方法論とメリット	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
4	乳幼児の言葉の獲得と早期教育(2) 早期教育は言葉の発達を阻害しないか その方法論とデメリット	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	身体的な発達の視点から言葉の獲得を考える なぜ人は他の動物よりも高度な言葉を操作できるようになったのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
6	認知的な発達の視点から言葉の獲得を考える 子どもには生来的にどのような能力が備わっているのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
7	言葉の発達と親の対応(1) どんな親の対応が、子どもの言葉の発達を促進させるのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
8	言葉の発達と親の対応(2) どんな親の対応が、こどもの言葉の発達を阻害してしまうのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
9	言語能力の発達とコミュニケーション障害 コミュニケーション障害と思われる子どもとどうかかわるか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
10	学童期に入るときの言葉の発達 乳幼児の言語能力と学童期の言語能力には相関関係があるのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	本時の課題についての復習
11	構造主義と子どもの言葉の獲得 「名前がなくとも、ものは存在している」と言えるのか	アクティブ・ラーニング 演習形式	絵本の読み聞かせの予習
12	言葉の発達を促進させる活動(1) — 絵本の読み聞かせ —	アクティブ・ラーニング 実演	読書活動の予習
13	言葉の発達を促進させる活動(2) — アニマシオン、リテラチャー・サークル、ブックトークといった読書活動 —	アクティブ・ラーニング 実演	遊びをともなう活動の予習
14	言葉の発達を促進させる活動(3) — その他の遊び、言語活動 —	アクティブ・ラーニング 実演	これまでの復習
15	総括 これまでの講義の整理とリフレクション	アクティブ・ラーニング 演習形式	これまでの復習
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

幼稚園教諭二種免許状等の取得に値する学びが認められたかどうかを評価基準とする。
十分に認められた場合、認められた場合、およそ認められた場合、努力を要する場合、認められない場合等で評価する。
評価方法は、期末試験50点。毎時間提出するリアクションペーパー50点。
*出席重視であり、1回欠席するごとにマイナス3点とする。

【教科書】

毎時間プレゼンテーションスライドで説明する。
その資料は授業で配布する。

【その他補足事項】

毎時間、主体的、対話的な演習（課題解決に向けたグループディスカッションなど）を行う。

授業科目名	保育内容指導法 表現		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	いしだとしかず 石田敏和 (造形)	開講期	前期・後期
	兼任准教授	すずきみき 鈴木美樹 (造形)	授業回数	15回
	准教授	ながくぼかずこ 長久保和子 (身体)	期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、保育内容における領域「表現」の指導法を学ぶ。 授業内容は身体表現領域(8回)と造形表現領域(7回)とする。 身体表現では、子どもの身体表現の特性について理解を深め、実際の現場に即した様々な遊びを体験し、感じたことや考えたことを身体の動きで表現できるようにする。また、模擬保育や指導案作成を通して身体表現指導法を学び、保育者にとって必要な協調性や自主性などを身につける。 造形表現では、幼児の発達段階をふまえ、幼児期の表現の特徴やその意義を理解する。幼児の姿を具体的に把握しながら「表現」と「感性」の関係や、イメージの形成について考える。実技では材料・用具の特徴を知り、保育現場で行う様々な表現技法と指導上の留意点を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
領域「表現」の基本的な捉え方や意義、ねらいを理解することができる。	目標	A・B	
保育の場に即した身体表現の実技を経験することで、子どもと同じ目線で遊ぶ楽しさや面白さを味わい、子どもの発達段階に即した身体表現の指導法を身につけることができる。	目標	B・E・F・J・K・L	
身体表現活動を通して、仲間と協働する喜びや達成感を味わい、保育者にとって必要な保育技術を習得することができる。	目標	G・L	
幼児の造形表現の姿や、表現活動の意義を理解し、保育者として望ましい指導援助の仕方を考えることができる。	目標	A・B・K	
感性が豊かになり、造形的な表現力を高めることができる。	目標	F・J・K	
材料・用具の特性を把握し、それを用いた様々な技法を習得することができる。	目標	A・B・F・J・K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	身体表現 オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 領域「表現」のとらえ方 (ねらいと内容) — 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より — 乳幼児期における身体表現の特性	授業計画、資料に基づいて説明 演習 (身体を動かす) グループディスカッション	授業計画確認 次のテーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	さまざまな身体表現遊びと指導法 「身近な生き物や事象になりきって遊ぼう」 「手作り楽器や道具を使って体いっぱい表現しよう」 「バルーンで遊ぼう」「オノマトペの歌でダンスを作 て踊ろう」	講義・実践 演習（音楽を聴いて身体を動かす、簡単な楽器を作る、歌を歌うなど） グループディスカッション	復習 次のテーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ
3	指導計画と幼児理解 身体表現指導案の立て方と指導案作成 身体表現指導案を基にした模擬保育と振り返り	資料に基づいて説明 指導案を書く（模写） 模擬保育を行う グループディスカッション	復習 次のテーマとなる題材の情報や保育雑誌などに関心を持つ
4	劇遊び（オペレッタ）(1) 劇遊びにおける指導案とは グループ分け、題材の決定と役割分担 グループごとに指導案作成	資料に基づいて説明 グループ分け グループディスカッション 指導案を書く	指導案を書く 題材に沿った台本、歌やダンスを考える
5	劇遊び（オペレッタ）(2) 台本作り（歌とダンス） 流れの確認（小道具とBGMについて）	資料に基づいて説明 グループディスカッション 歌やダンスの練習 ステージの立ち位置確認	復習 役割ごとの打ち合わせ
6	劇遊び（オペレッタ）(3) 最終確認	発表の説明 グループディスカッション 歌やダンスの練習 音響や小道具などの確認	指導案のまとめと最終確認 役割ごとに練習
7	劇遊び（オペレッタ）(4) グループごとの発表（VTR記録） 指導案提出	発表（VTR記録） 模擬保育を行う レポートの説明	レポートをまとめる 復習
8	身体表現まとめ 身体表現活動とは 発表会の振り返り レポート提出	VTR鑑賞 グループディスカッション	復習と振り返り
9	造形表現 オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 感性と表現について	授業計画 プリント①	自然観察 プリント①の復習
10	「表現」のねらいと内容 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をふまえて ・幼児造形表現の発達と特質	プリント② ビデオ視聴（20分） 「0歳からの表現活動」 感想や意見を述べる	プリント②の復習 プリント③の予習 ビデオ視聴後の感想をまとめる
11	造形表現の内容とその指導(1) ・技法による表現（マッピングなど）	プリント③ 絵具、画用紙等で表現する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント③の復習 プリント④の予習
12	造形表現の内容とその指導(2) ・技法による表現（フロッタージュなど）	プリント④ 絵具、画用紙等で表現する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント④の復習 プリント⑤の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	造形表現の内容とその指導(3) ・技法による表現（スパッタリングなど）	プリント⑤ 絵具、画用紙等で表現する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑤の復習 プリント⑥の予習
14	造形表現の内容とその指導(4) ・技法による表現（ぼかし・にじみなど）	プリント⑥ 絵具、画用紙等で表現する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑥の復習 プリント⑦の予習
15	造形表現まとめ ・造形表現における指導方法の分類 ・指導計画について	プリント⑦ 意見を述べ、疑問点を質問する	プリントの①～⑦の復習 期末試験の予習
期末試験	期末試験（造形表現のみ）		
<p>【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。</p>			
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】 ※詳細は初回授業にて説明する。</p> <p>○身体表現…50% 発表・模擬保育などの実技30%・レポート10%・指導案10%</p> <p>○造形表現…50% 製作物の評価20%・期末試験15%・レポート5%・受講態度10%（授業に臨む意欲と姿勢、質疑応答の内容と頻度） ※身体表現の点数と、造形表現の点数を合算し100点満点で評価する。（詳細については、初回授業時に説明する） 成績評価への補足的対応措置により、欠席・遅刻・早退による減点等を行う。</p>			
<p>【教科書】 必要に応じて授業時にプリントを配布する。 ※身体表現と造形表現の第1回目は、授業計画と〈平成29年告示〉幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説書、保育所保育指針・保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書を持参すること。</p>			
<p>【その他補足事項】 授業スケジュールを別途配布する。（A Bクラスはクラスを半分にして実施する）</p> <p>○身体表現…教室は体育館とする。授業内容などによって変更する場合もある。</p> <p>(1) 2回目から運動できる服装および室内用シューズを着用すること（スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めない）。</p> <p>(2) 授業が始まるまでに、アクセサリ類は必ず外すこと。</p> <p>(3) 髪が長い学生は一つにまとめること。</p> <p>(4) 貴重品はロッカーに入れること。 ※授業内容および順序は進行状況により変更する場合がある。</p> <p>○造形表現…教室は工芸棟とする。 材料費として700円を実費徴収する。 ※学習の進度等により、内容が一部変更になる場合がある。</p>			

授業科目名	教育方法及び技術		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 酒井 創 講師 佐久間 正 弘		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等	各担当教員のオフィスアワー、及び連絡メールアドレス等は、初回授業時に説明する。			

【授業の概要】 これから社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な「教育の方法論」「教育の技術」(佐久間11コマ担当)、「情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能」(酒井4コマ担当)を身につける科目である。 幼児教育の現場で行われる教育の方法と技術について実践的かつ総合的に学習する。はじめに教育方法の歴史の変遷を概観し、先人の教育方法についての思想を考察した後、幼稚園教育要領(保育所保育指針)、幼保連携型認定こども園に基づく教育課程編成と授業設計・指導、教材教具と情報機器・ICTの活用、評価方法等の基本的技術を修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
教育方法の意義と守備範囲について理解し説明できる。	目標	A・C		
教育方法の歴史の変遷について理解した上で、これまでの方法を批判的に読み解くことができる。	目標	C・J		
今日の幼児教育の方法と技術の基本を理解し、活用できる。	目標	B・K		
情報化社会の光と影を理解した上で、幼児教育における教育メディアとICTを適切かつ効果的に活用できる。	目標	A・B・C・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業の概要と到達目標、評価方法 【教育の方法論】 教育方法の定義と意義	講義 授業計画 配布資料	授業計画を読んでおく
2	【教育の方法論】 欧米における教育方法の歴史的展開	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
3	【教育の方法論】 日本における教育方法の歴史的展開	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
4	【教育の技術】【教育の方法論】 教育方法の技術 学習心理と教授理論	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	【教育の方法論】 今日の幼児教育 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく幼児教育・保育	講義とグループ討議 配布資料 レポート課題提示	配布資料を読んでおく
6	【教育の技術】 遊びを通しての総合的な教育・保育	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
7	【教育の技術】 幼児の主体的活動と環境構成の方法	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく レポート作成
8	【情報機器及び教材の活用】 ICTと教育、ICTと幼児教育(1) ・教育環境でのネットワーク・クラウド活用の実際 ・個人情報保護と知的所有権の基本	講義とICT機器を使用した演習 配布資料	事前配布資料 演習内容の理解 課題 「個人情報保護もしくは知的所有権等に関する話題」作成
9	【情報機器及び教材の活用】 ICTと教育、ICTと幼児教育(2) ・アプリケーションソフトを使用した指導計画案作成の実際 ・個人情報保護、知的所有権等に関する話題の調査と提供	講義とICT機器を使用した演習 配布資料	課題 「指導計画案」「個人情報保護もしくは知的所有権等に関する話題」作成
10	【情報機器及び教材の活用】 ICTと教育、ICTと幼児教育(3) ・個人情報保護、知的所有権等に関する話題提供（プレゼン）と討議(1)	ICT機器を使用した演習とプレゼン グループ討議 配布資料	課題 「個人情報保護もしくは知的所有権等に関する話題プレゼン」作成
11	【情報機器及び教材の活用】 ICTと教育、ICTと幼児教育(4) ・個人情報保護、知的所有権等に関する話題提供（プレゼン）と討議(2)	ICT機器を使用した演習とプレゼン グループ討議 配布資料	課題 「個人情報保護もしくは知的所有権等に関する話題プレゼン」作成
12	【教育の技術】【教育の方法論】 教育評価の理論と方法	講義とグループ討議	配布資料を読んでおく
13	【教育の技術】 授業の設計	指導計画の作成	模擬授業の自己評価をまとめる
14	【教育の技術】 授業の設計と模擬実践	指導計画の作成 模擬授業	模擬授業の自己評価をまとめる
15	まとめ 【教育の方法論】 教育方法の課題と今後の展望	講義とグループ討議 配布資料	配布資料を読んでおく
期末試験	期末試験（「教育の方法論」「教育の技術」）		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 「教育の方法」「教育の技術」：70% 内訳：(1) 小テスト 20% (2) レポート 30% (3) 期末試験 40% (4) 授業参加態度 10% 「情報機器及び教材の活用」：30% 内訳：(1) 課題 80% (2) 授業参加態度 20%			
【教科書】 使用しない。資料を配布する。			
【参考書】 書名：教育の方法と技術 著者名：平沢 茂 編著 発行所：図書文化 価格：2,000円（税別）			

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	さくま まさひろ 佐久間 正 弘	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育相談には治療的相談だけでなく開発的相談があること、一部の担当者だけでなくすべての教師が行うべきものであることを理解し、教育相談・カウンセリングの初歩的な技法を修得し活用できるようにする。また、日常的な教育相談のあり方と不登校やいじめなどの教育現場における課題についての理解を深め、適切なかわり方ができるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
教育相談の意義と働きを理解し、すべての教師が行う教育活動であり、組織的・計画的に展開されることを説明できる。		目標	A・C	
カウンセリングの初歩的技法を身に付けて、それらの技法を活用することができる。		目標	B・E・F・H	
諸課題についての理解を深め、それらへのかかわり方を工夫することができる。		目標	J・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標、評価方法 (2) 教育相談とは何か	講義、ディスカッション 授業計画 教科書、配布資料	授業計画を読む
2	教育相談の種類と担い手 開発的教育相談・予防的教育相談・治療的教育相談、 教師のカウンセリングマインド	講義、ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
3	子どもの発達をとらえた教育相談 子どもの発達とアセスメント	講義・演習、ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
4	家庭で育つ心と幼稚園で育つ心 家族との間で行われる心の世界 友達との間で行われる心の世界	講義・演習、ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	言葉と体をとおして見える子どもの心 心と言葉のつながり 心と体のつながり	講義・演習 ディスカッション 教科書配布資料 レポート課題提示	教科書・配布資料を読む レポート作成
6	話を聴くための心構えと基礎的な技法 心に耳を傾けること 非言語的技法と言語的技法	演習、ディスカッション、 ロールプレイ 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む レポート作成
7	気になる子どもへのかかわり 1人ひとりを大切にするかかわり つながりをつくるかかわり	講義・演習、ディスカッ ション、ロールプレイ 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む レポート作成
8	気になる親へのかかわり 一緒に考えるかかわり	講義・演習、ディスカッ ション、ロールプレイ 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む レポート提出
9	不登校・登園しぶりの理解とかかわり 未然防止と援助・指導	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
10	いじめの理解とかかわり 「いじめ」の理解 未然防止と対応	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
11	発達障害の理解とかかわり 困難さを見定めることの大切さと指導・支援	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
12	園内・校内の組織的な教育相談 支援チームとスクールカウンセラー・スクールソーシャル ワーカーの活用	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
13	関係機関との連携 一対一の連携とサポートチームでの連携	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
14	教師自身のケア 自分でできるケアと組織的なケア	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
15	まとめ これまでの学習の振り返り	講義・演習 ディスカッション 教科書、配布資料	教科書・配布資料を読む
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 期末試験 50% 2. レポート 授業中に課題を提示する。30% 3. 小テスト 授業の終わりに小テストを行う。10% 4. 授業への積極的参加態度 10%			
【教科書】 書名：子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門 著者名：西 見奈子 編著 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）			
【参考書】 書名：教師のたまごのための教育相談 著者名：会沢信彦・安齋順子 編著 発行所：北樹出版 価格：1,900円（税別）			

授業科目名	教育相談		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任講師 やぎ たかのり 憲		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育相談の理論と方法を学ぶとともに、教育相談の視点から、教育現場での事例を通し、子どもの心理・発達上の様々な問題に対する理解と支援方法を学習する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
教育現場における相談内容を把握し理解する。			目標	A・J
ディスカッション・グループワークを通じて相談支援スキルを高める。			目標	C・I・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 教育相談とは	授業計画	
2	教育現場で働くということ 地域をよむ、教育現場の風土を知る	パワーポイントを使用した講義	復習：授業内容の振り返り
3	対象理解のために知っておきたい(1) 発達障害	パワーポイントを使用した講義	復習：授業内容の振り返り
4	対象理解のために知っておきたい(2) 貧困	パワーポイントを使用した講義	復習：授業内容の振り返り
5	対象理解のために知っておきたい(3) 環境不適応・不登校	パワーポイントを使用した講義	復習：授業内容の振り返り

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	対象理解のために知っておきたい(4) 家族	パワーポイントを使用した講義	復習：授業内容の振り返り
7	カウンセリングの基本(1) ロールプレイを中心に	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
8	カウンセリングの基本(2) ロールプレイを中心に	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
9	暴力をふるってしまう子どもの教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
10	学習困難の子どもの教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
11	不登校・不応の子どもの教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
12	家族の問題をかかえた子どもの教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り
13	いじめの被害者・加害者への教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り 期末レポートに取り組む
14	LGBTで悩む子ども・保護者の教育相談 ロールプレイ	講義 グループワーク	復習：授業内容の振り返り 期末レポートに取り組む
15	まとめ 教育相談に求められる能力とは	グループディスカッション	期末レポートに取り組む
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 毎回の感想レポート 40% 2. 期末レポート 30% 3. ワーク、ディスカッション、発表などの意欲等 30%			

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 <small>わた なべ ひろ し</small> 渡 辺 博 志		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育者として求められる専門性、実践力について、演習やテーマ研究等による授業を通して、今後の保育実践に向けての自己課題を明らかにするとともに、保育活動に必要とされる専門的知識・方法や実践的知識・技能を補い、その定着を図ることをねらいとする。 具体的には、映像資料の視聴、実践記録の分析、グループ討議、ロールプレイング、子ども理解事例研究などの方法を通して保育で大切にしたい専門的知識・技能を再確認しながら、実践的指導力の学びを深めることができるようにする。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育に関する学修履歴を踏まえて自分の学びを振り返り自己課題を明らかにするとともに、保育者としてさらに大事にしたい知識技能の習得について履修カルテを作成することができるようになる。	目標	A・D		
問題解決のための対応、判断方法等について学びを深めることができるようになる。	目標	A・B		
保育に関する今日的課題について現状分析、考察を自分の視点から論ずることができるようになる。	目標	J・K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） これまでの保育に関する学修や教育実習を振り返り話し合う ・実習でもっと大事にしたかったこと、 むずかしかったこと、苦労したこと ・さらに深く学びたいこと	授業計画 学修や実習について省察し、 確かめたいことやさらに深く 学びたいことについてグルー プで話し合う	これまでの学修履歴や 実習から自己課題を整理 する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	保育者の専門性の発達と「実践演習」(1) <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども理解」と保育 ・「子ども理解」のための方法とツール記録、子どもの「表現」、デジタルツールの活用、言葉かけの実践事例研究 	子ども理解の方法や事例について話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・実習で出会った〇〇さん ・ベテラン教師に学ぶ方法 ・私が実践したい「子ども理解」 	履修ミニレポート1 左記3つの視点から自分の「子ども理解」を整理して記述する
3	保育者の専門性の発達と「実践演習」(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングの基礎 ・「ふるまう」ことから学ぶ — ほめる・言葉かけ — 	グループで場面事例をもとに「ほめる活動」のロールプレイングをする	履修ミニレポート2 効果的であった「ほめる」活動事例を整理して記述する
4	保育者の専門性の発達と「実践演習」(3) <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の「寄り添い」 — 教育的愛情 — ・保育者の対人能力 子ども、職員同士、保護者とのかかわり 	自分が考える「教育的愛情」「よりよい対人関係」についてグループ討議をする	履修ミニレポート3 左記2つの視点から自分の考えを整理して記述する
5	ここまでの演習で深く考えたこと、学んだこと <ul style="list-style-type: none"> ・学びの振り返りとまとめ 	自分の振り返りとして自己課題に関する学びの展望を話し合う	履修ミニレポート4 小まとめを作成する
6	保育における保育実践力(1) <ul style="list-style-type: none"> ・計画と実践の間にある「ズレ」から学ぶ ・子どもの自発性・能動性を引き出す物的・人的環境 	自発性・能動性を引き出す環境づくり、内発的動機付けなどについて事例研究をする	履修ミニレポート5 左記の事例について授業案集などから事例を集め考察をする
7	保育における保育実践力(2) <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「遊び」の総合性 ……5領域にまたがる主体的な活動 ・「遊び」の楽しさを伝える保育活動 	実践指導者からの指導を受け、遊びのレパートリー、取り入れ方についてグループで協議する	履修ミニレポート6 「遊び」事例集の作成
8	保育における保育実践力(3) <ul style="list-style-type: none"> ・保育者の指導・援助 ・言葉かけ 見守る スキニップの具体的方法 	言葉かけ、見守る、スキニップの具体事例についてグループで討議する	履修ミニレポート8 左記の具体事例をまとめて考察する
9	自己課題と専門性の向上(1) <ul style="list-style-type: none"> ・自己課題を克服することの意義 ・保育者・私にとっての自己課題 ・自己課題克服に向けてのPDCAサイクル 	現在の「私・シート」をもとに自己課題を整理するとともにクラスメイトからのコメントから「気づき」をまとめる	履修ミニレポート9 「私・シート」をまとめる
10	自己課題と専門性の向上(2) <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさを知る ・自分の「強み」を発見し、課題を補う ストレングス視点 エンパワーメント 	クラスメイトから視点「自分の強みとそれを生かした展望」をまとめる	履修ミニレポート10 「私・シート」に「これからの展望」をまとめる
11	自己課題と専門性の向上(3) <ul style="list-style-type: none"> ・「実技」を生かした保育の充実 ・事例研究「絵本」の可能性と読み聞かせ「手遊び」「手作り工作」など 	経験者からの指導を受け、「実技」についてのまとめと活用 の展望を図る	得意な実技のプレゼンテーション計画を立てる
12	保育・教育の改善と目指す保育者像(1) <ul style="list-style-type: none"> ・新しい幼稚園教育要領が目指す保育① ・指導の評価と計画の再構成 ・保育の質を高める事例研究 	「育の質を高める」をテーマにグループ討議をする	履修ミニレポート11 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
13	保育・教育の改善と目指す保育者像(2) <ul style="list-style-type: none"> ・新しい幼稚園教育要領が目指す保育② ・子どもの姿の見とりと援助、保護者支援 ・組織としての関わり方と関係機関との連携 	子どもの見とり、援助の在り方など保育・教育の改善についてグループで話し合う	履修ミニレポート12 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
14	保育・教育の改善と目指す保育者像(3) <ul style="list-style-type: none"> ・目指したい保育者像 ・保育課題の検討 	目指したい保育者像について整理しグループで話し合う	履修ミニレポート13 左記のテーマについて自分の視点を整理して記述する
15	この授業を通して学んだこと <ul style="list-style-type: none"> ・「履修ミニレポート整理」と考察 ・保育者としての展望発表 	授業を通して学んだことを発表し合う	履修ミニレポートの整理と考察をする
期末試験	後期末試験時間内の「履修カルテ」作成		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 40点満点の記述方式による「履修カルテ」作成を後期末に実施（テスト時間内に記述作成） 2. 「履修ミニレポート」を40点満点で採点する。 「履修ミニレポート」は、履修カルテ作成のポートフォリオ資料となる。 3. 授業への参加態度（「学びの着地点」記述内容、討議、発言、質問、提案など）を20点満点で採点する。			
【教科書】 使用しない（授業内容に関する資料は、その都度、配布する） なお、以下の3冊は、準教科書として1年次から使用しているものを使用する。 <ol style="list-style-type: none"> 書名：幼稚園教育要領 著者名：文部科学省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） 書名：保育所保育指針 著者名：厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） 書名：幼保連携型認定こども園教育・保育要領 著者名：内閣府・文部科学省・厚生労働省 発行所：フレーベル館 価格：149円（税別） 			
【参考書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：保育・教職実践演習 著者名：小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著 発行所：建帛社 価格：1,800円（税別） 書名：保育・教職実践演習 ― 自己課題の発見・解決に向けて 著者名：生野金三 井口真美 田中正浩 田中正浩 発行所：萌文書林 価格：2,000円（税別） 			
【その他補足事項】 1. 授業で配布する資料、実施した演習内容、授業キーワードについて復習すること。 2. 自己採点方式の確かめテストを数回実施し、理解の定着を図る。			

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	さくま まさひろ 佐久間 正 弘	開講期	後期
	講師	せき もとひとし 関 本 仁	授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明する。			

【授業の概要】 「学びの軌跡の集大成」としての本科目では、保育者・教育者としての生活を円滑にスタートするために自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能を補い定着を図る。 演習をととして、次に関する事項について学習する。 (1) 使命感や責任感、教育愛情等 (2) 社会性や対人関係能力 (3) 幼児・児童理解や学級経営等 (4) 保育内容等の指導力	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="checkbox"/>	A	知識
	<input type="checkbox"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
	<input type="checkbox"/>	G	協働能力
	<input type="checkbox"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
	<input type="checkbox"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="checkbox"/>	J	多様性への理解力、応用力
<input type="checkbox"/>	K	課題対処力	
<input type="checkbox"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
使命感や情熱、強い意志をもち、自己の職責を果たすことができる。		目標	H
組織の一員としての自覚をもち、他の職員と協力して職務を遂行することができるようになる。		目標	G・L
子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解して適切な指導を行うことができるようになる。		目標	B・K
子どもの活動や反応等の状況に応じて、指導計画や形態を工夫することができるようになる。		目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標、評価方法 (2) 保育・教育実習の振り返り	講義 授業計画 グループ討議	保育・教育実習における自己の課題を整理する
2	子どもを理解するということ 見る・視る・看る・診る	グループ討議 全体討議 配布資料	「みる」の違いを整理する
3	子どもを見る“まなざし” 「加点法」で「ほめる」こと	グループ討議 ロールプレイ レポート①課題提示	「ほめる」という活動の意義をまとめる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	子ども一人ひとりに「寄り添う」ということ 保育士、教師の動き	グループ討議 ロールプレイ 配布資料	「寄り添う」ということの意味をまとめる
5	保育士・教師の指導、援助 子どもへの柔らかな対応	グループ討議 ロールプレイ 配布資料	レポート①提出
6	子どもの活動（遊び）の統合性 遊び・5領域にまたがる活動 保育・教育の重点化、焦点化	グループ討議 全体討議 配布資料	「遊び」における遊具の条件を検討する
7	指導と評価 子どもの姿の見とりと援助 (気になる子への対応)	グループ討議 ロールプレイ 配布資料	指導と評価の言一体化についてまとめる
8	職場における人間関係構築 組織の一員としての自覚 教職員の協力	グループ討議 全体討議 配布資料	履修カルテを整理する
9	学級運営と保護者 保護者の課題と問題	グループ討議 全体討議 配布資料 新聞資料	履修カルテを整理する
10	地域と関係の構築 声に耳を傾けることと理解を得る説明	グループ討議 ロールプレイ 配布資料 新聞資料	履修カルテを整理する
11	保育所・幼稚園における危機管理(1) 事件・事故の未然防止	グループ討議 ロールプレイ 配布資料 新聞資料	履修カルテを整理する
12	保育所・幼稚園における危機管理(2) 事件・事故への適切な対応	グループ討議 ロールプレイ 配布資料 新聞資料	履修カルテを整理する
13	教員の研修と自己評価	グループ討議 全体討議 配布資料 レポート②課題提示	履修カルテを整理する
14	目指したい保育者・教師像	グループ討議 全体討議 配布資料	履修カルテを整理する
15	まとめ 自己を振り返りまとめる	グループ討議 全体討議	履修カルテ提出 レポート②提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. レポート レポート① 30点満点 レポート② 30点満点 2. 履修カルテ 30点満点（最終的に「履修カルテ」を提出しない場合は、単位の認定をしない） 3. 授業中の積極的活動、参加態度 10点満点			
【教科書】 使用しない。資料を配布する。※関連する文献については、授業中に紹介する。			

授業科目名	社会的養護内容		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 こう べ のぶ ゆき 神 戸 信 行		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	60時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 児童福祉施設において日常的に展開されている養護実践について、そのあり方や具体的な方法についてグループで調べたり、討論するなどして理解を深め、社会的養護における支援者としての実践力を培う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
施設の児童養護のあり方やその内容を理解し、日々行われる支援内容や支援者の課題を理解する。			目標	A・C・K
児童を多面的に理解し、児童の権利と心身の発達を保障する養護を実践できる知識や技能を事例等の研究により修得する。			目標	A・B・C・G・I・J・K
養護実践における支援者の児童観の倫理を理解する。			目標	A・C・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業内容の概要と到達目標 (2) 授業の展開と評価の視点	授業計画	
2	社会的養護の理念と原理 (1) 社会的養護の理念 (2) 社会的養護の原理	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	現代の日本の家族の課題について調べる
3	社会的養護と児童福祉施設の役割 (1) 児童福祉施設の体系 (2) 児童福祉施設の役割	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有しつつ授業内容を理解する	児童福祉施設の種類を調べる
4	施設養護の従事者 (1) 従事者の職種と職務内容 (2) チームワークによる支援 (3) 保育士等の倫理と専門性	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	チームワークの目的と成立要件について調べる
5	養育・支援の基本 (1) 信頼関係の形成 (2) 基本的生活習慣の形成 (3) 発達の保障	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	生活リズムと日課 (1) 生活日課 (2) 生活サイクル	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	子どもの発達課題について調べる
7	衣食住の基礎的ニーズの充足 (1) 食生活 (2) 衣生活 (3) 住生活	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	
8	健康と安全の確保 (1) 健康の維持と管理 (2) 性に関する教育 (3) 自己領域の確保と生き立ちの整理	配布された資料を参考にして話し合い、授業内容を理解する 指示された課題についてレポートを提出する	自分自身のライフヒストリーを整理してみる
9	生活習慣の形成と生活技術の修得 (1) しつけのあり方 (2) しつけの方法 ～ほめ方と叱り方	配布された資料を参考にして話し合い、授業内容を理解する 指示された課題についてレポートを提出する	新聞等で報道された児童虐待の事例を調べる
10	自立の支援 (1) 学習支援 (2) 就職支援 (3) 進学支援	配布された資料を参考にして話し合い、授業内容を理解する 指示された課題についてレポートを提出する	
11	行動上の問題や問題状況への対応 (1) 子どもの理解とチームケア (2) 心理的支援 (3) 関係機関や家族との連携	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	
12	関係機関や地域社会との連携 (1) 学校との連携 (2) 児童相談所等との連携 (3) 地域社会・ボランティアとの連携	配布された資料をもとにグループに分かれて討論し、その結果を共有して授業内容を理解する	関係機関にはどのようなものがあるのか調べる
13	施設養護の基本的在り方 (1) アドミッションケアとインケア (2) リーピングケアとアフターケア (3) 家族への支援	配布された資料を参考にして話し合い、授業内容を理解する 指示された課題についてレポートを提出する	
14	自立支援計画の作成と事例分析 (1) 自立支援計画の役割 (2) 自立支援計画策定の留意点 (3) 事例分析の方法	配布された資料を参考にして話し合い、授業内容を理解する 指示された課題についてレポートを提出する	
15	まとめ	振り返り資料	
期末試験	期末試験	筆記試験	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 学期末に実施する。(50点満点) 2. レポート 授業中の課題を作成し、レポートとして提出する。(50点満点) 3. その他 授業中の学習意欲・態度を重視する。			
【教科書】 授業ごとに資料を配布する。			
【参考書】 1. 書名：子どもの養護 ― 社会的養護の原理と内容 第3版 著者名：松本峰雄ほか 発行所：建帛社 価格：2,000円（税別） 2. 書名：この子を受けとめて、育むために ― 育てる・育ちあういとなみ 著者名：児童養護における養育のあり方に関する検討委員会（委員長：村瀬嘉代子） 発行所：全国社会福祉協議会 価格：500円（税別）			

授業科目名	保育相談支援		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任准教授 こん 今 清 孝		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		15時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 具体的に保護者が抱える育児に関する問題を、子どものより良い保育環境を整える視点から考える。 子どもにかかわる大人の生活（ライフサイクル）を理解し、保護者の子育てに関する問題に適切な対処をし、相談支援の記録・評価ができる力を養う。 本授業は講義のほかグループ討議、模擬相談演習、ロールプレイなどを行う。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
<input type="radio"/>	K	課題対処力		
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもや保護者の様子、また実際の保護者からの相談内容から、問題を見出し、支援を具体化する能力を身につける。			目標	A・B・C・H・J・K・L
問題の整理方法と支援方法、またそれらの過程を記録し評価する技術を身につける。			目標	A・B・C・J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法及び留意点 プロジェクト・アドベンチャー	授業計画 授業資料1・ゲーム	課題解決過程の復習
2	保育相談支援の意義	授業資料2 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
3	保育相談支援の原則	授業資料3 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
4	保育相談支援の進め方	授業資料4 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 親の立場での考え方の検討
5	保育相談支援の技術(1)	授業資料5 授業資料完成 グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	保育相談支援の技術(2)	授業資料6 授業資料完成グループ討議	前回授業資料の確認 保育者の立場での考え方の検討 1～6のまとめ
7	中間まとめ 小レポート作成	授業資料7	前回授業資料の確認 授業資料の整理
8	保育相談支援の実際(1)	授業資料8 DVD視聴「保育相談支援」 37分	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」の 在り方の検討
9	保育相談支援の実際(2)	授業資料9 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「助言」「解説」「情報提供」の 在り方の検討
10	保育相談支援の実際(3)	授業資料10 模擬相談演習	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の検討
11	保育相談支援の記録(1)	授業資料11 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「支持」「承認」の在り方の検討
12	保育相談支援の記録(2)	授業資料12 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」の在り 方の検討
13	保育相談支援の評価(1)	授業資料13 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「行動見本」「体験提供」の在り 方の検討
14	保育相談支援の評価(2)	授業資料14 ロールプレイ	前回授業資料の確認 「環境構成」の在り方の検討 8～14のまとめ
15	まとめ 小レポート作成		前回授業資料の確認
期末 試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 70点満点の筆記試験を学期末に実施する。 2. レポート レポート（2回）は30（各15）点満点の採点とする。課題は授業内容に基づいた枠組みのなかで、学生が関心のある事柄を各自設定する方式とする。 3. その他 毎授業終了時にレスポンスシートに授業で分かったこと、わからなかったことを記入し提出させ、次回授業時にコメントを記入し返却することで、授業の理解度を深める。			
【教科書】 書名：演習 保育相談支援（第2版） 著者名：小林育子 発行所：萌文書林 価格：1,600円（税別）			
【その他補足事項】 1. 初回授業時に身体運動のゲームを行うので、活動しやすい服装で出席のこと。 2. ロールプレイ等の実施のため、軽度の運動ができる服装で出席することを求める。 3. 筆記試験の際には、授業配布資料のみの持ち込みを可とする。			

授業科目名	乳児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 非常勤講師	なかのあきこ 中野明子 ながさわたかこ 永澤孝子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		中野：オフィスアワーは、初回授業時に説明する。 永澤：授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 乳児期は人間形成の基礎となる重要な時期である。 0～2歳児を中心とした、保育所利用率の上昇等を踏まえた上で、乳児保育の専門的知識や方法を学び、さらに技術の基本を理論と実践から習得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
乳児保育の理念と歴史の変遷や役割等について認識が出来る、自分の言葉で説明ができるようになる。	目標	A・C・K		
3歳未満児の発達の特徴をふまえ、感覚や運動機能の発達を支えること、情緒的絆の形成の重要性を理解し、実践に備えることができるようになる。	目標	A・B・C・E・F		
乳児期においても遊びを通して発達が促され、子どもが探索意欲を満たして自由に遊べる環境を保障することの大切さ、子どもの自発的な活動を尊重することの意義を理解できるようになる。	目標	A・B・C・E・F		
乳児保育の計画・保育内容・環境構成や観察・記録等について理解が出来る、実践に備えることができるようになる。	目標	A・C・D		
乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解が出来る、保育者としての職務に、誇りと自覚が持てるようになる。	目標	A・G・H・L		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・事業の進め方の留意点 乳児保育とは ・心身ともに最も養護を必要とする保育 ・人が育つことの理解 赤ちゃん人形を抱く	授業計画 たて抱き・横抱きの体験 第1回レポート作成	教科書第1章「乳児保育とは」を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	抱っこの仕方・おんぶの仕方 ・乳児とのふれ合いの基本を学ぶ 抱っこ・おんぶ・おむつの替え方	グループワーク：抱っこ・おんぶ・おむつ交換を学ぶ（人形使用） プリント	保育所保育指針 第2章保育の内容 1 乳児保育に関わるねらい及び内容を事前に読む P13～16
3	乳児保育の基本 ・乳児保育の理念と歴史の変遷 ・乳児保育の役割と機能 乳児保育の様々な場（保育所、認定こども園、小規模保育所、乳児院等）における乳児保育の現状	VTR視聴（20分） 「保育者への歩み」 プリント	保育所保育指針 第1章総則 1 保育所保育に関する基本原則を事前に読む P4～6 教科書第2章「乳児保育の基本」復習する
4	平成29年告示「保育所保育指針」について ・改定された保育指針の構成と内容の特徴 平成29年告示「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」について ・改定された教育・保育要領の構成と内容の特徴 乳児保育に関わる法律 ・児童福祉法、労働基準法、育児介護休業法等	保育所保育指針解説書から学ぶ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書から学ぶ プリント	教科書第3章「乳児保育の制度と課題」復習する
5	乳児の発達過程からみる保育内容 ・乳児保育の基本的事項 ・ポルトマン「生理的早産」から学ぶ ・6ヵ月未児の発達と保育内容 ・6ヵ月～1歳3ヵ月未満児の発達と保育内容	保育所保育指針・保育所保育指針解説書から学ぶ	保育所保育指針 第2章保育の内容 1 乳児保育に関わるねらい及び内容を事前に読む P13～16
6	3歳未満児の発達過程からみる保育内容 ・1歳3ヵ月～2歳未満児の発達と保育内容 ・2歳児の発達と保育内容 乳児の噛みつき・ひっかき等のトラブルへの対応	グループワーク 噛みつきへの対応 ロールプレイング	保育所保育指針 第2章2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容を事前に読む P16～22
7	乳児の心の発達 ・身近な人との絆を育む過程 乳児の発達とアタッチメント ・愛着の役割と形成について ・発達のゆりかごとなるアタッチメント	グループ討議： 保育現場におけるアタッチメントについて プリント	アタッチメントについて調べる 教科書第4章「3歳未満児の発達過程から見る保育内容」復習する
8	乳児のこたばの発達 ・思いを伝え合う手段を得る過程 ・三項関係の出現～9ヵ月の軌跡～ ・0歳児1歳児2歳児の喜ぶ絵本	VTR視聴（20分） 「絵本の読み聞かせ」 プリント	ブックスタートについて調べる
9	基本的な生活習慣 食事 ・授乳の仕方とその準備 ・人工乳・冷凍母乳について ・離乳に向けた食事（離乳食）の進め方 ・食物アレルギーの対応	VTR視聴（20分） 「聞いてみよう！食物アレルギーのこと」 グループ演習：調乳をする プリント	教科書第8章「食事の計画、提供及び評価・改善」を事前に読む
10	基本的な生活習慣 睡眠 ・乳児期の睡眠の特徴 基本的な生活習慣 排泄 ・排泄の自立への援助 ・トイレトレーニングについて	グループ討議： より良い睡眠環境と睡眠時の配慮 トイレの誘い方について 絵本「パンツのはきかた」 プリント	保育所保育指針 第1章総則 2 養護に関する基本的事項を事前に読む P6～7 教科書第5章「基本的な生活習慣の獲得」復習する
11	基本的な生活習慣 衣服の着脱 ・衣服の特徴と扱い方を知る 衣服の着せ方・脱がせ方 ・着替えの配慮のポイントを学ぶ	グループ演習 着せ方、脱がせ方を学ぶ（人形使用） プリント	教科書第5章「基本的な生活習慣の獲得」復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
12	乳幼児の砂遊び <ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びによる発達の要素の理解 ・感覚遊びの重要性 ・情緒が安定する砂遊び 	VTR視聴（20分） 「砂遊びから見る子どもの発達1」 プリント	教科書第9章コラム「砂遊びが子どもの生きる力を引きだす」を事前に読む
13	手作りおもちゃの製作(1) <ul style="list-style-type: none"> ・人と関わる楽しさを伝えるおもちゃ作り 	おもちゃの製作 音の鳴るおもちゃを作る プリント	乳児の発達を考慮し音の鳴る玩具を考えておく
14	手作りおもちゃの製作(2) <ul style="list-style-type: none"> ・完成したおもちゃの発表 	おもちゃの発表をする わかり易い発表の仕方 第2回レポート作成	
15	前期末試験		
16	保護者支援について(1) <ul style="list-style-type: none"> ・乳児を取り巻く協力を目指して ・保護者支援の重要性と必要性 ・産後ケアの重要性 	DVD視聴（30分） 「ママ達が非常事態」 グループ討議 虐待の発見と対応について プリント	教科書第7章「乳児保育における連携」を事前に読む
17	保護者支援について(2) <ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援の実際 連絡帳の書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちと家庭との連携 	DVD視聴（20分） 「育ち育てる子育ての時間」 連絡帳を書く（ワークシート使用） プリント	教科書第7章「乳児保育における連携」を復習する
18	基本的な生活習慣 清潔 <ul style="list-style-type: none"> ・沐浴の仕方・清拭の仕方 ・乳児のからだを清潔に保つために 	DVD視聴（20分） 「やさしい沐浴法」 グループワーク 沐浴をする（人形使用） プリント	教科書第5章「基本的な生活習慣の獲得」を事前に読む
19	保育環境の衛生管理 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の生活を清潔に保つために 乳児保育における安全管理(1) <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期特有の病気と薬の扱い方を学ぶ ・感染症への対応 ・保護者から依頼された与薬について 	教科書 プリント グループ討議	保育所保育指針 第3章健康及び安全を事前に読む P 32～35 教科書第7章「乳児保育における連携」を復習する
20	乳児保育における安全管理(2) <ul style="list-style-type: none"> ・乳児を事件・事故から守る方法を知る ・日常における危険 ・乳児保育室で配慮すべきこと 	VTR視聴（20分） 「保育の安全と事故防止」 プリント 第3回レポート作成	実習等で経験した日常の危険についてまとめておく 保育所保育指針第3章健康及び安全を復習する P 32～35
21	諸外国の出産の現状と子育て <ul style="list-style-type: none"> ・カンボジア（アンコールワット）等の出産現状 	DVD視聴（30分） 「小さな命の詩」	
22	子どもの育ちと家庭との連携(1) <ul style="list-style-type: none"> ・外国につながる子ども、保護者との信頼関係 ・民族、宗教、言葉等の多文化共生をめざした支援 	プリント グループ討議	外国につながる子ども、保護者について配慮すべきことを考えておく
23	子どもの育ちと家庭との連携(2) <ul style="list-style-type: none"> ・育児と家庭の役割 ・児童虐待の背景 ・少子化と子育て支援 ・子どもの権利について 	DVD視聴（30分） 「ママ達が非常事態2」 グループ討議 心によりそう支援について 子どもの権利について プリント	教科書第9章「子育てをめぐる家族の権利と責任」を事前に読む 子どもの権利条約について調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
24	発達課題について ・発達の遅れに気づく ・発達障害の理解 ・医療との連携について ・保護者の障害受容の困難について	DVD視聴（30分） 「自閉症の君が僕の息子に教えてくれたこと」 第4回レポート作成	発達障害について学んだことを整理しておく
25	乳児保育指導計画(1) ・年間指導計画の見方 ・指導案の部分作成	グループ演習 4月指導案の部分案作成 プリント	
26	乳児保育指導計画(2) ・年間指導計画の見方 ・指導案の部分作成 わらべうた遊び	グループ討議 4月指導案の部分案作成 プリント	教科書第6章「乳児保育の計画と記録」を事前に読む
27	福島の子どもの外遊び・砂遊び ・東日本大震災原発事故の影響と現在の状況 ・外遊び・砂遊びと乳児の発達 乳幼児の外遊び・砂遊びの取り組みや配慮について	DVD視聴（20分） 「砂遊びから見る子どもの発達2」 グループ討議 外遊び・砂遊びの取り組みについて 第5回レポート作成	実習先での外遊び、砂遊びの取り組みについてまとめておく
28	絵本の作成 ・簡単な絵本作り（終わらない絵本）	「終わらない絵本」を作成する	作成したい絵本を考えておく
29	絵本の読み聞かせ ・読み聞かせの発表をする	グループ演習 グループ毎に読み聞かせをする	乳児に読み聞かせしたい絵本を持参する
30	まとめ ・乳児保育における保育者の役割と専門性	DVD視聴（20分） 「地域の顔が見える子育て支援」	保育者の役割と専門性について考えをまとめておく
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験：前期末試験 30%・後期末試験 30% 2. レポート作成 20% 3. 製作物提出 20% ※授業計画の「成績評価への補足的対応措置」により、欠席・遅刻・早退による減点を行う。 レポート・製作物未定は2点減点、優秀なものは、1～2点の加点とする。 ※詳細については、第1回目の授業で説明する。			
【教科書】 書名：コンパス乳児保育 著者名：咲間まり子編著 発行所：建帛社 価格：1,900円（税別）			
【その他補足事項】 1. 本授業では平成29年告示「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を使用する。 2. 教科書の予習・復習をすること。 3. 絵本に関心を持ち、一人1冊、乳児にふさわしい絵本を用意しておく。 4. 授業配布資料は、適宜授業内容を書き込み、重要な点にアンダーラインを引く等して整理し、各自ファイルして試験に臨むこと。			

授業科目名	障害児保育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 佐々木 信一郎 〔本務先：こじか「子どもの家」発達支援センター 職名：園長〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 障害児支援は、幼稚園や保育所のみではなく、行政機関（児童相談所、保健福祉センターなど）、児童福祉施設（児童養護施設・児童発達支援センター、児童発達支援事業、障害児入所支援など）、病院など子どもが関わるあらゆる機関で求められている。 平成24年4月より児童福祉法が改正された。今までの乳幼児の通園施設、事業が一元化され、児童発達支援になった。これにより、各施設、事業は、特定の障害のみを支援対象にしていた時代が終わり、様々な障害と向き合うことが要請されている。 そのような昨今の中で、どのような場でも必要とされる障害児支援の基本を学ぶ。 障害児支援には、基本的に以下の大きな4つの柱がある。それは、「障害乳幼児の発達と支援方法」「家族の障害受容とその支援方法」「地域の関係機関とその連携」「法制度」である。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
障害とはどのような事なのか、主体的に考えることができる。		目標	A・C・J	
各障害について、学び、理解する。		目標	A・C・D・J	
障害児をもつ親を理解する。		目標	A・B・C・J	
障害児を支援する法制度を理解する。		目標	A・B・C・J	
上記の事柄を文章で表現し、発表することができる。		目標	D・I	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業のすすめ方、学習の仕方、参考図書、評価方法などの説明	授業計画、プリント配布 PowerPoint使用	
2	授業全体の流れの概観 障害児支援についての4つの視点「児童福祉（子どもの権利・保護・保障）、地域生活支援、家族支援、発達支援」について考える	プリント配布 PowerPoint使用	次回授業までに必要な学習を指示する
3	障害があるということ 障害があるということは、どのようなことなのか。人権、優生思想、障害を持った人々の存在意義について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	障害児支援の歴史 障害児の支援について、歴史的流れを概観し、草創期の人物・施設と制度の意義について考える	プリント配布 PowerPoint使用	次回授業までに必要な学習を指示する
5	新しい障害モデル 医療モデルから社会モデルへの変遷について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
6	乳幼児の発達課題 障害児の発達支援を行う際の基礎・土台としての定型発達の観方・捉え方について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
7	乳幼児の障害特性と発達支援(1) 障害児の概観、気になる子、愛着について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
8	乳幼児の障害特性と発達支援(2) 運動発達、基本的な生活習慣の確立、言語・コミュニケーションの問題について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
9	発達支援の仕組み(1) 制度・形態、専門性について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
10	発達支援の仕組み(2) 乳幼児健康診査、早期発見、ライフコースについて考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
11	発達支援の仕組み(3) 就学時健康診査、就学について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
12	まとめ・中間試験		〃
13	知的障害児の障害特性と支援(1) 知的障害児とは？	プリント配布 PowerPoint使用	〃
14	知的障害児の障害特性と支援(2) ダウン症児と出生前診断について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
15	知的障害児の障害特性と支援(3) 粗大運動・微細運動の捉え方、支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
16	知的障害児の障害特性と支援(4) 認知・注意・記憶・概念・言語について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
17	自閉症スペクトラムの障害特性と支援(1) 自閉症スペクトラム症児の捉え方について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
18	自閉症スペクトラムの障害特性と支援(2) 自閉症スペクトラム症児への支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
19	注意欠陥多動性障害児の障害特性と支援(1) 注意欠陥多動性障害児へ捉え方について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
20	注意欠陥多動性障害児の障害特性と支援(2) 注意欠陥多動性障害児へ支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
21	学習障害児の障害特性と支援 学習障害児の捉え方と支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
22	視覚・聴覚障害児の障害特性と支援 視覚・聴覚障害児の特徴と支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	家族支援(1) その家族が、その葛藤と苦難を乗り越え、どのように障害を受容していくのかを考える	プリント配布 PowerPoint使用	次回授業までに必要な学習を指示する
24	家族支援(2) 親への支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
25	家族支援(3) ペアレントトレーニングと兄弟支援について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
26	統合保育について 統合保育の意義等について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
27	保育所・幼稚園での支援体制 保育所・幼稚園内ではどのような支援体制を整える必要があるのか、また、小学校との連携について考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
28	障害児のアセスメント 保育では、子どもの全体像を把握することが大切で、その際のアセスメントについて考える	プリント配布 PowerPoint使用	〃
29	福島市における障害児保育・教育・療育に於ける問題点について	プリント配布 PowerPoint使用	〃
30	まとめ	プリント配布 PowerPoint使用	〃
期末試験	後期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 後期末試験（30%） 2. 中間試験（30%） 3. レポート提出（40%）			
【教科書】 教科書は使用しない。			
【参考書】 書名：よくわかる障害児保育 著者名：尾崎泰子・小林 真、他編著 発行所：ミネルヴァ書房 価格：2,500円（税別）			
【その他補足事項】 授業では、討論、プレゼンテーションなどを実施する。積極的に参加して欲しい。			

授業科目名	幼 児 音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 さ とう あつ こ 佐 藤 敦 子		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園、保育所等の保育現場で対応できる歌唱、楽器、理論を学ぶ。 1. 様々な種類の歌（あそび歌、手あそび歌、わらべ唄他を含む）を表情豊かに歌う。 2. 簡易楽器や民族楽器、ハンドベル、トーンチャイムを演奏し楽器演奏を体験する。 3. 簡単な音楽理論を学ぶ。（キーボードハーモニー簡易伴奏法も含む） 4. 保育現場における音楽療法を学ぶ。「気になる子」「つまずきのある子」への音楽でのかわり方を学ぶ。 5. グループごとに「ミニ・ミュージカル」を体験する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	K	課題対処力		
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
音楽の楽しさや喜びを子どもたちに伝えるための音楽技術、および表現方法を修得する。 幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を修得する。 様々な角度から音楽を学び保育者として自己表現することを体得する。			目標	A・B・E・F・G・H・I・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・授業の概要と到達目標 ・評価方法 ・授業の進め方 ・その他（本科目の留意点）	授業計画 こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜や音楽理論について自学学習しておく
2	歌唱(1)	こどもの歌名曲選 プリント DVD	〃
3	歌唱(2) 簡単な音楽理論(1)	〃	〃
4	歌唱(3)、簡単な音楽理論(2)	〃	〃
5	歌唱(4)、簡単な音楽理論(3)	楽譜	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
6	歌唱(5)、簡単な音楽理論(4)	こどもの歌名曲選 プリント	音楽理論について自学学習しておく
7	前期中間試験		
8	楽器演奏(1) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム)	楽器	楽器の使い方を自学学習しておく
9	楽器演奏(2) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム)	〃	〃
10	音楽療法(1) (七夕づくり、手作り楽器)	楽器、プリント	音楽療法について自学学習しておく 七夕について調べておく
11	歌唱(6)、簡単な音楽理論(5)	〃	音楽理論について自学学習しておく
12	特別講義(1) ゲストスピーカー(予定) 遠山文吉氏（東京芸術大学元教授）	〃	講義に該当する内容について自学学習しておく
13	音楽療法(2)、簡単な音楽理論(6)	楽器、プリント	楽器の使い方を自学学習しておく
14	楽器演奏(3) (簡易楽器、ハンドベル、トーンチャイム) 前期のまとめ	こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜をみて自学学習しておく 音楽理論について自学学習しておく
15	前期末試験		
16	歌唱(7)、簡単な音楽理論(7)	プリント	音楽理論について自学学習しておく
17	歌唱(8)	こどもの歌名曲選 プリント	教材の楽譜をみて自学学習しておく
18	ミニ・ミュージカル(1) アクティブラーニング	グループで実施	発表会に向けて自学学習しておく
19	ミニ・ミュージカル(2) アクティブラーニング	〃	〃
20	ミニ・ミュージカル(3) アクティブラーニング	〃	〃
21	後期中間試験、ミニ・ミュージカル発表会	グループで実施	
22	歌唱(9)	楽譜、プリント	歌唱の練習をしておく
23	楽器演奏(4) (ハンドベル、トーンチャイム)	〃	楽器の特質を自学学習しておく
24	特別講義(2) ゲストスピーカー(予定) 下川英子氏（埼玉療育センター職員）	〃	講義に該当する内容について自学学習しておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
25	歌唱(10)	プリント	歌唱の練習をしておく
26	「気になる子」「つまずきのある子」への音楽指導(1)	楽譜、プリント	「気になる子」への理解を深める
27	「気になる子」「つまずきのある子」への音楽指導(2)	〃	「気になる子」への理解を深める
28	簡単な鍵盤ハーモニー(1)	プリント	簡単な鍵盤ハーモニーを自学学習しておく
29	歌唱(11)	楽譜、プリント	個人歌唱発表を自学学習しておく
30	まとめ	個人歌唱発表	
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>1. 前期中間試験 25% ・ 前期末試験 30% ・ 後期中間試験 25% ※3回の試験と個人歌唱発表をしない場合は、単位を認定しない。</p> <p>2. 授業の参加態度等 20%（授業へ積極的に参加する。質問事項に答える） ※実技を実施するので、参加態度により学生の授業への意欲をみる事ができる。「成績評価への補足的対応措置」により、加点・減点等を行う。 ※詳細は初回授業時に示す。</p>			
<p>【教科書】 書名：こどもの歌名曲選 著者名：足羽 章 発行所：ドレミ楽譜出版社 価格：1,500円（税別）</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>1. 大学で実施する音楽鑑賞会に参加する場合がある。 2. 本学認定こども園の行事等を見学する場合がある。 3. 楽器作り、七夕づくり、ミニ・ミュージカル等において材料費が発生する場合がある。（自己負担とする）</p>			

授業科目名	幼 児 音 楽		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 伊 藤 俊 彦		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、幼稚園及び保育所等の保育現場で必要となる、歌うことや身近な楽器を使って演奏すること、音楽を聴いて表現することなどを学び、幼児が音楽に親しみ、音楽を楽しく聴いたり表現したりすることができるような指導力を身に付ける。 1. わらべうたや唱歌、童謡などを表情豊かに歌う。 2. 体や身近な打楽器等を使って、リズム遊びをする。 3. 手話ソングを通して手話に親しむ。 4. 手作り楽器を製作し、音楽に合わせてリズムを打つ。 5. 音楽の基礎的な理論を学び、音楽理解に役だてる。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
授業で扱う歌を表情豊かに自信をもって歌うことができる。		目標	E・F	
拍の流れにのり、手拍子や打楽器を使って楽しくリズム遊びができる。		目標	F・G	
手話ソングに積極的に取り組み、手話を使った表現の大切さが理解できる。		目標	E・J	
手作り楽器で自由に表現したり、音楽表現を楽しんだりすることができる。		目標	J・G	
楽譜の読み方や楽譜の決まり事について正しく理解することができる。		目標	A・J	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・ 授業概要と到達目標 ・ 評価方法及び授業の進め方について	・ 授業計画の説明 ・ 授業内容についての質問等	年間の授業内容を把握し学修の見直しをもつ
2	手話を使つての音楽表現 ・ 手話の必要性について ・ 手話ソング及び手話を使った簡単な表現	・ 二人組になって互いに手話で挨拶等を行う ・ 手話に関するプリント	手話についてのプリントを読んで予習
3	わらべうたで遊ぶ(1) ・ 知っているわらべうたを歌う	・ グループでわらべうたについての討議 ・ わらべうたのプリント	わらべうたの遊び方を予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	わらべうたで遊ぶ(2) ・わらべうたを歌いながら動きを付けて遊ぶ ・わらべうたの動きを工夫して遊ぶ	・グループでわらべうたの動きを工夫して発表	わらべうたの遊び方についての工夫
5	わらべうたで遊ぶ(3) ・わらべうたに楽器で伴奏を付けて歌う ・わらべうたに関するレポートの記述及び提出	・二人組でわらべうたに楽器の伴奏を付けて表現	伴奏の付け方に関するプリントを読んで予習
6	リズム遊び(1) ・手拍子でリズムの模倣やリズムリレーの表現 ・体の各部分を使ってのリズム表現	・リズム遊びに関するプリント ・二人でリズム表現の工夫	リズム遊びに関するプリントで内容を予習
7	リズム遊び(2) ・リズムの模倣やリズムリレーで楽しくリズム遊びをする	・グループ及び全体でリズム模倣やリズムリレーを工夫	リズム遊びの工夫を予習
8	リズム遊び(3) ・リズム問答やリズムの即興的な表現を楽しむ ・小テスト①	・グループによるリズム遊びの工夫	即興的な表現に関するプリントを読んで予習
9	ふし遊び(1) ・拍の流れにのって歌でふし問答をする	・ふし遊びに関するプリント ・二人組になってふし問答	ふし遊びに関するプリントで予習
10	ふし遊び(2) ・楽器を使ってふし問答をしたり、即興的にふし遊びをしたりする	・グループでふし遊びの工夫や即興的な表現についての討議	楽器を使っての即興的な表現についての予習
11	ふし遊び(3) ・グループでまとまりのあるふしづくりをする	・グループによるふし遊びの工夫	ふしづくりに関する内容についての予習
12	楽器を使って表現(1) ・グループで身近な楽器を使って簡単なアンサンブル表現を計画する	・グループで楽器を使ったアンサンブルに関する計画づくりを相談	発表するアンサンブルの内容を考えてくる
13	楽器を使って表現(2) ・グループで協力し、身近な楽器を使った簡単なアンサンブルを表現する	・グループで楽器を使っているアンサンブルの練習	アンサンブルの担当パートを予習
14	楽器を使って表現(3) ・発表に向け、グループごとに身近な楽器を使ったアンサンブルを仕上げる	・グループで互いに教え合い、磨きをかけて練習	同上
15	アンサンブルのミニ発表会 ・前期に学んだ内容を踏まえ、グループで練習した成果をアンサンブルとしてまとめる	・互いにアンサンブルを聴き合って意見交換 ・感想カードの記入	発表会で演奏するための構想を考えてくる
16	手作り楽器(1) ・身近にある材料を使い手作り楽器を製作し表現する	・手作り楽器のプリント ・グループで手作り楽器についての相談	手作り楽器製作のプリントを通読して予習
17	手作り楽器(2) ・手作り楽器（カズー）を製作し、いろいろな楽曲をカズーで吹く	・カズーに関する表現の仕方についての討議 ・カズーを使っての表現	カズーに関するプリントを読み内容を把握
18	手作り楽器(3) ・手作り楽器（マラカスや風船太鼓）を製作し、作った楽器で音楽表現をする	・マラカスや風船太鼓を使った表現についての討議	マラカスや風船太鼓の作り方をプリントで通読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
19	季節や生活に関連した歌 ・季節や生活に関連した歌を探し、聴いたり歌ったりする	・季節や生活に関連した歌を探し出し、グループ発表する相談	唱歌や童謡、子どもの歌に関する曲を選曲
20	音楽で物語をつくる(1) ・昔話や名作の中から選んだ物語をリメイクし、音楽で物語をつくる相談をする	・音楽物語に関する先輩の作品をDVDで視聴	音楽で物語をつくることについての構想を練る
21	音楽で物語をつくる(2) ・各自が持ち寄った昔話の内容を検討し、グループでどの物語を発表するかについて討議する	・グループで昔話を基にどの物語にするかを相談して決める	物語についての構想を発表できるように予習
22	音楽で物語をつくる(3) ・グループで相談し、演目を決定して構想を練る	・グループで演目についての検討を重ね、挿入曲について相談する	同上
23	音楽で物語をつくる(4) ・リメイクした音楽劇の台詞や舞台装置（背景）作りの相談をする。	・グループで台詞や舞台装置（背景）挿入曲についての討議	物語の全体像を各自が確認する
24	音楽で物語をつくる(5) ・グループごとに音楽劇の内容に沿った台詞や舞台の背景作りを行う	・グループ内で互いに相談し、台詞や背景作り、挿入曲に関する意見交換	役割分担に即して各自の構想を練る
25	音楽で物語をつくる(6) ・各自役割分担に即し、発表に向けての練習をする	・役割分担に即した練習と練習の反省	役割分担に応じた内容を各自が練習、確認
26	音楽で物語をつくる(7) ・練習した成果を各グループで発表する ・各自が感想カードに発表に関する内容を記入	・グループでリメイクした音楽劇の内容を発表	同上
27	手遊び歌(1) ・手遊び歌を探し、グループで歌ったり手遊びを紹介したりする	・手遊びに関するプリント ・グループで手遊びについての話し合いと紹介	手遊び①プリントで予習
28	手遊び歌(2) ・既成の手遊びの歌をリメイクして歌ったり発表したりする	・既成の手遊び歌をリメイクする相談をしたり発表したりする	手遊び②プリントで予習
29	手遊び歌(3) ・手遊びの歌を創作し、発表のための練習をする	・グループごとに手遊びを創作するための相談	手遊び③プリントで予習
30	手遊び歌(4) ・手遊び歌の発表会 ・1年間の学習のまとめ	・練習した手遊びを発表する ・1年間を振り返る	発表に向けての練習
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 各授業内容に応じたレポートを提出する。課題は複数の課題から選択し、40点満点の採点とする。 2. 毎回実施する学習カード（「本日の授業で学んだことと授業の感想」）から各自の授業内容の理解度を確認する。30点満点の採点とする。 3. 授業内容に応じた発表会での練習の成果やグループ内での協力度、意欲等をDVDに録画して評価する。30点満点の採点とする。			
【教科書】 特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し授業内容に即したプリントを配布する。			

授業科目名	幼児音楽Ⅱ		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 講師	ながくぼかず 長久保和子 あさのようこ 浅野洋子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目は、1年次に修得した基礎音楽の応用編として行われ、学生が保育現場で子どもたちに音楽の指導ができるような応用力を身につける。 手遊びや身体表現、歌唱などの活動を通して、楽しく音楽に親しめるような内容を学ぶ。 保育現場における音楽(身体)表現遊びの事例を検討し、保育技術を身につける。 また、指導計画案を基に、模擬保育を行い、保育における歌うことの楽しさや歌詞の伝え方、歌い方を習得する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
コードネームを手がかりに、簡易伴奏法を習得することができる。			目標	A・B
右手メロディ、左手和音でピアノ伴奏をしたり、ピアノの弾き語りができるようにする。			目標	A・B・F・J・K
実際に子どもたちが喜んで遊べるものを作ったり、動いて表現したりしながら、音楽に慣れ親しみ、音楽活動の楽しさを味わうことができる。			目標	A・B・E・F・H・J
楽器遊び、身体表現、手作りおもちゃ等、子どもたちが興味を持つものについてグループごとに話し合い、保育における歌うことの楽しさや歌詞の伝え方、歌い方への理解や関心を深めることができる。			目標	A・B・F・G・J・L
指導案を自分で作り模擬保育を行う中で、子どもの反応について話し合い、環境作りや導入の仕方、言葉かけなど保育技術を身に付けることができる。			目標	A・B・F・G・H・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション ・概要の説明および評価 ・授業の進め方など	授業計画	テーマに関する情報収集
2	コードネームについて 保育におけるピアノ伴奏とは	プリント①・楽譜	プリントの復習 楽譜の確認
3	コードネームと楽譜の読み方について 弾き語りについて	CD・ピアノ伴奏・楽譜 グループワーク・歌唱	テーマに関する情報収集 楽譜の確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
4	和音で伴奏を考える(1) ピアノ伴奏 (春のうた) 弾き語り	ピアノ伴奏・楽譜 グループワーク・歌唱	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認 テーマに関する情報収集
5	和音で伴奏を考える(2) ピアノ伴奏 (夏のうた) 弾き語り	ピアノ伴奏・楽譜 グループワーク・歌唱	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認 テーマに関する情報収集
6	両手で弾く伴奏について(1) ピアノ伴奏 (秋のうた) 弾き語り	ピアノ伴奏・楽譜 グループワーク・歌唱	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認 テーマに関する情報収集
7	両手で弾く伴奏について(2) ピアノ伴奏 (冬のうた) 弾き語り ・曲を選ぶ	ピアノ伴奏・楽譜 グループワーク・歌唱	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認
8	弾き語りの発表 お話から音楽を作ることにについて	ピアノ伴奏・楽譜 弾き語り発表・歌唱	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認
9	お話から音楽を作る(1) ・グループ分け・役割を決める ・和音、メロディを考える	ピアノ伴奏・楽譜・歌唱 グループディスカッション	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認 グループごとの打ち合わせ
10	お話から音楽を作る(2) ・歌詞をつける ・歌の練習をする	ピアノ伴奏・楽譜・歌唱 グループディスカッション	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認 グループごとの打ち合わせ
11	お話から音楽を作る(3) ・グループ発表	ピアノ伴奏・楽譜・歌唱 グループディスカッション	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認
12	楽器を作って遊ぶ ・グループを作る ・楽器を作る ・曲を選ぶ	ピアノ伴奏・楽譜 グループディスカッション 楽器製作 (学内散策)	楽譜の確認 作った楽器を次回持参
13	楽器を使って遊ぶ ・伴奏を考える ・楽器、歌唱、ピアノ伴奏の役割を決める ・歌をうたう	ピアノ伴奏・楽譜・歌唱 グループディスカッション	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認
14	グループ発表 (VTR記録) ・模擬保育を行う	ピアノ伴奏・楽譜・歌唱 グループディスカッション	伴奏、歌唱練習・楽譜の確認
15	全体の振り返りとまとめ (VTR鑑賞) ・保育におけるピアノ伴奏とは	プリント・DVD鑑賞 グループディスカッション	指導計画の確認 レポートをまとめる
16	後期の授業内容について 指導案の立て方と指導案 歌「チューリップ」(4月):歌唱、身体表現 ・グループで役割を決めダンスを作る レポート提出	指導計画・ピアノ伴奏・グループワーク・歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンス練習 指導案作成
17	歌「チューリップ」(4月):歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う *歌とダンス「夢をかなえてドラえもん」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク (発表) 歌唱と簡単なダンス	テーマに関する情報収集
18	歌「森のくまさん」(9月):歌唱、劇 ・グループでお話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える *作ってダンス「ありがとう」 ・キラキラペットの製作	ピアノ伴奏・演劇 グループワーク・おもちゃ製作 CD・歌唱とダンス	伴奏、歌唱、劇の練習 指導案作成・おもちゃを持参
19	発表会「森のくまさん」:歌唱、劇 ・グループごとに作った劇を発表 ・指導案をもとに模擬保育を行う (指導案提出) *ダンス「ありがとう」	ピアノ伴奏・演劇 グループワーク (発表) CD・歌唱とダンス	テーマに関する情報収集

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	歌「山の音楽家」(10月): 歌唱、劇、楽器演奏 ・楽器に触れる ・グループでお話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える	学内散策・ピアノ伴奏・演劇・楽器演奏・グループワーク・演奏と歌唱・身体表現	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案の作成
21	発表会「山の音楽家」: 歌唱、劇、楽器演奏 ・グループごとに発表する(1) ・指導案をもとに模擬保育を行う * なりきりダンス「忍者でござる」	ピアノ伴奏・演劇・楽器演奏・グループワーク(発表)・CD・簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案の作成
22	発表会「山の音楽家」: 歌唱、劇、楽器演奏 ・グループごとに発表する(2) ・指導案をもとに模擬保育を行う(指導案提出) * 伝承遊び「だるまさんがころんだスペシャル」	ピアノ伴奏・演劇・楽器演奏 グループワーク(発表)・ゲーム	テーマに関する情報収集
23	歌「あわてんぼうのサンタクロース」(12月): 歌唱、劇、楽器演奏 ・グループでお話を作り、役割を決め、伴奏や構成を考える * 作ってダンス「大宙へのステップ」	ピアノ伴奏・演劇・楽器演奏 グループワーク・おもちゃ製作 CD・歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案作成・おもちゃを持参
24	発表会「あわてんぼうのサンタクロース」 ・グループごとに発表する ・指導案をもとに模擬保育を行う(指導案提出) * ダンス「大宙へのステップ」	ピアノ伴奏・演劇・楽器演奏 グループワーク(発表) CD・歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、演奏の練習 指導案作成・おもちゃを持参
25	歌「ゆき」(1月): 歌唱、身体表現 ・グループで役割を決め、ダンスを作る ○作ってダンス「アンダー・ザ・シー」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク・おもちゃ製作 歌唱と簡単なダンス	伴奏、歌唱、ダンスの練習 指導案作成・おもちゃを持参
26	歌「ゆき」: 歌唱、身体表現 ・指導案をもとに模擬保育を行う(指導案提出) * チームでダンス「アンダー・ザ・シー」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク(発表) グループダンス	テーマに関する情報収集
27	歌「鬼は外」(2月): 歌唱、身体表現 ・鬼の面の製作 ・グループで役割を決め、ダンスを作る * ダンス「みんなのリズム」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク・製作 歌唱と簡単なダンス	伴奏や歌唱、ダンスの練習 指導案の作成
28	歌「春の小川」(3月): 合唱 ・グループで役割を決め、伴奏やハーモニーを作る * みんなでダンス「みんなのリズム」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク 歌唱と簡単なダンス	伴奏や歌唱の練習 鬼の面を持参
29	発表会「鬼は外」「春の小川」 ・指導案をもとに模擬保育を行う(指導案提出) * マーチでダンス「365日の紙飛行機」	CD・ピアノ伴奏 グループワーク(発表) 歌唱とグループダンス	ミニレポート
30	まとめ ・1年間を振り返り、成長や反省について発表する レポート提出 * みんなでダンス(今までのおさらい)	CD・ピアノ伴奏 グループワーク(発表) 歌唱と簡単なダンス	指導案の整理
【到達度の評価(評価方法・基準)】 1. 実技発表(7回) … 50% 2. 授業に取り組む姿勢や意欲、参加態度、積極 … 30% 3. レポート(2回)・指導案(5回) … 20% ※詳細は初回授業にて説明する。			
【その他補足事項】 1. 教室は音楽館第1音楽室とする。授業内容によって変更する場合もある。 2. 前もって指示があった場合は、材料や道具を各自準備し、授業に臨むこと。			

授業科目名	ピアノ演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】		
1. 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得する。	○	A	知識
2. 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)、練習曲(バイエル・ツェルニー等)を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学ぶ。	○	B	技術・技能
3. 個々のピアノ演奏技術に応じて、4つのグレードから一つを選択する。		C	論理的思考力
◆グレードの名称と選択する際の基準		D	文章表現力
「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度	○	E	表情及び身体表現力
「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度	○	F	感性及び感動表現力
「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度		G	協働能力
「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
4. グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式で授業を展開する。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック(確認テスト)を受ける。		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
◆グレードの課題曲数		J	多様性への理解力、応用力
「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲+歌曲20曲)		K	課題対処力
「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲+歌曲24曲)		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲+歌曲31曲)			
「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲+歌曲39曲)			
5. 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行する。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組む。			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
初心者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、ピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F	
初級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、曲想をつけながら表情豊かにピアノを弾くことができる。	目標	A・B・F	
中級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、弾きながら歌えるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	
上級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、アレンジして弾くことができるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の目的、概要、到達目標 評価方法 授業の進め方 グレードの確認 その他 		授業計画 テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	テキストを見て、弾ける曲を練習しておく
	ピアノ奏法の基本知識・技術①	課題曲の個別レッスン		
2	ピアノ奏法の基本知識・技術②	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
3	ピアノ奏法の基本知識・技術③	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
4	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
5	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
6	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
7	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
10	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
11	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
12	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
13	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
14	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
15	到達度確認のための演奏会① (前期末試験)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
17	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
18	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
19	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
20	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
21	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
22	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
23	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
24	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
25	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
26	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
27	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
28	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
29	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
30	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
期末試験	最終到達度確認のための演奏会②（後期末試験）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者は期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 各グレードの課題曲を達成する。演奏技術・表現力により加点・減点を行い、成績評価を行う。 なお、課題曲を達成しない場合は、単位を認定しない。 「初心者グレード」 60点～74点 「初級者グレード」 75点～80点 「中級者グレード」 81点～90点 「上級者グレード」 91点～100点 *前期末試験、後期末試験は、演奏会形式で実施する。 *演奏会はクラスごとに実施し、全履修者と授業担当者の前で1曲を演奏する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。				
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※グレードに応じて、楽譜のプリントを配布する。				
【その他補足事項】 1. グレード分けは、入学前研修会にて行う。 2. 初心者グレードのみ、第1～3回（3コマ分）の授業は、ピアノ奏法の基礎的な知識・技術を全員で学習する。（音符の読み方・長さ、リズム、指の使い方など） 3. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに授業担当者へ提出すること。 4. 課題曲を達成しないと見込まれる場合、授業担当者が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。				

授業科目名	ピアノ演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
1. 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得する。	○	A 知識
2. 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)、練習曲(バイエル・ツェルニー等)を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学ぶ。	○	B 技術・技能
3. 個々のピアノ演奏技術に応じて、4つのグレードから一つを選択する。 ◆グレードの名称と選択する際の基準		C 論理的思考力
「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度		D 文章表現力
「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度	○	E 表情及び身体表現力
「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度	○	F 感性及び感動表現力
「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度		G 協働能力
4. グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式で授業を展開する。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック(確認テスト)を受ける。 ◆グレードの課題曲数		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲+歌曲20曲)		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲+歌曲24曲)		J 多様性への理解力、応用力
「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲+歌曲31曲)		K 課題対処力
「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲+歌曲39曲)		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
5. 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行する。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組む。		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、ピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F
初級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、曲想をつけながら表情豊かにピアノを弾くことができる。	目標	A・B・F
中級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、弾きながら歌えるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F
上級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、アレンジして弾くことができるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業の目的、概要、到達目標 評価方法 グレードの確認 授業の進め方 その他 		授業計画 テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	テキストを見て、弾ける曲を練習しておく
	ピアノ奏法の基本知識・技術① (佐藤敦子教授担当)			
2	ピアノ奏法の基本知識・技術② (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
3	ピアノ奏法の基本知識・技術③ (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
4	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
5	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
6	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
7	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
10	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
11	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
12	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
13	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
14	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
15	到達度確認のための演奏会① (前期末試験)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
17	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
18	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
19	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
20	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
21	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
22	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
23	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
24	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
25	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
26	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
27	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
28	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
29	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
30	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
期末試験	最終到達度確認のための演奏会②（後期末試験）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者は期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 各グレードの課題曲を達成する。演奏技術・表現力により加点・減点を行い、成績評価を行う。 なお、課題曲を達成しない場合は、単位を認定しない。 「初心者グレード」 60点～74点 「初級者グレード」 75点～80点 「中級者グレード」 81点～90点 「上級者グレード」 91点～100点 *前期末試験、後期末試験は、演奏会形式で実施する。 *演奏会はクラスごとに実施し、全履修者と授業担当者の前で1曲を演奏する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。				
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※グレードに応じて、楽譜のプリントを配布する。				
【その他補足事項】 1. グレード分けは、入学前研修会にて行う。 2. 初心者グレードのみ、第1～3回（3コマ分）の授業は、ピアノ奏法の基礎的な知識・技術を全員で学習する。（音符の読み方・長さ、リズム、指の使い方など）【佐藤敦子教授担当】 3. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに授業担当者へ提出すること。 4. 課題曲を達成しないと見込まれる場合、授業担当者が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。				

授業科目名	ピアノ演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	あさのようこ 浅野洋子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】		
1. 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得する。	○	A	知識
2. 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)、練習曲(バイエル・ツェルニー等)を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学ぶ。	○	B	技術・技能
3. 個々のピアノ演奏技術に応じて、4つのグレードから一つを選択する。		C	論理的思考力
◆グレードの名称と選択する際の基準		D	文章表現力
「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度	○	E	表情及び身体表現力
「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度	○	F	感性及び感動表現力
「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度		G	協働能力
「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
4. グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式で授業を展開する。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック(確認テスト)を受ける。		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
◆グレードの課題曲数		J	多様性への理解力、応用力
「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲+歌曲20曲)		K	課題対処力
「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲+歌曲24曲)		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲+歌曲31曲)			
「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲+歌曲39曲)			
5. 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行する。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組む。			
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
初心者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、ピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F	
初級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、曲想をつけながら表情豊かにピアノを弾くことができる。	目標	A・B・F	
中級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、弾きながら歌えるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	
上級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、アレンジして弾くことができるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者 グレード		
1	オリエンテーション ・授業の目的、概要、到達目標 ・評価方法 ・グレードの確認 ・授業の進め方 ・その他		授業計画 テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	テキストを見て、弾ける 曲を練習しておく
	ピアノ奏法の基本知識・技術①	課題曲の個別レッスン		
2	ピアノ奏法の基本知識・技術②	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度を チェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
3	ピアノ奏法の基本知識・技術③	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度を チェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
4	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
5	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
6	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
7	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
10	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
11	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
12	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
13	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
14	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
15	到達度確認のための演奏会① (前期末試験)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習して おく
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
17	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
18	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
19	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
20	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
21	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
22	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
23	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
24	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
25	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
26	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
27	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
28	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
29	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
30	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
期末試験	最終到達度確認のための演奏会②（後期末試験）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者は期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 各グレードの課題曲を達成する。演奏技術・表現力により加点・減点を行い、成績評価を行う。 なお、課題曲を達成しない場合は、単位を認定しない。 「初心者グレード」 60点～74点 「初級者グレード」 75点～80点 「中級者グレード」 81点～90点 「上級者グレード」 91点～100点 ＊前期末試験、後期末試験は、演奏会形式で実施する。 ＊演奏会はクラスごとに実施し、全履修者と授業担当者の前で1曲を演奏する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。				
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※グレードに応じて、楽譜のプリントを配布する。				
【その他補足事項】 1. グレード分けは、入学前研修会にて行う。 2. 初心者グレードのみ、第1～3回（3コマ分）の授業は、ピアノ奏法の基礎的な知識・技術を全員で学習する。（音符の読み方・長さ、リズム、指の使い方など） 3. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに授業担当者へ提出すること。 4. 課題曲を達成しないと見込まれる場合、授業担当者が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。				

授業科目名	ピアノ演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	わた なべ あき こ 渡 邊 聡 子	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
1. 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得する。	○	A 知識
2. 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)、練習曲(バイエル・ツェルニー等)を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学ぶ。	○	B 技術・技能
3. 個々のピアノ演奏技術に応じて、4つのグレードから一つを選択する。		C 論理的思考力
◆グレードの名称と選択する際の基準		D 文章表現力
「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度		○ E 表情及び身体表現力
「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度		○ F 感性及び感動表現力
「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度		G 協働能力
「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
4. グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式で授業を展開する。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック(確認テスト)を受ける。		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
◆グレードの課題曲数		J 多様性への理解力、応用力
「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲+歌曲20曲)		K 課題対処力
「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲+歌曲24曲)		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲+歌曲31曲)		
「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲+歌曲39曲)		
5. 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行する。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組む。		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
初心者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、ピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F
初級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、曲想をつけながら表情豊かにピアノを弾くことができる。	目標	A・B・F
中級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、弾きながら歌えるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F
上級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、アレンジして弾くことができるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者 グレード		
1	オリエンテーション (専任教員担当) <ul style="list-style-type: none"> 授業の目的、概要、到達目標 授業の進め方 評価方法 グレードの確認 その他 		授業計画 テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	テキストを見て、弾ける曲を練習しておく
	ピアノ奏法の基本知識・技術① (佐藤敦子教授担当)			
2	ピアノ奏法の基本知識・技術② (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
3	ピアノ奏法の基本知識・技術③ (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
4	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
5	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
6	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
7	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
10	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
11	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
12	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
13	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
14	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
15	到達度確認のための演奏会① (前期末試験)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
17	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
18	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
19	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
20	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
21	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
22	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
23	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
24	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
25	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
26	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
27	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
28	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
29	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
30	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
期末試験	最終到達度確認のための演奏会②（後期末試験）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者は期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 各グレードの課題曲を達成する。演奏技術・表現力により加点・減点を行い、成績評価を行う。 なお、課題曲を達成しない場合は、単位を認定しない。 「初心者グレード」 60点～74点 「初級者グレード」 75点～80点 「中級者グレード」 81点～90点 「上級者グレード」 91点～100点 *前期末試験、後期末試験は、演奏会形式で実施する。 *演奏会はクラスごとに実施し、全履修者と授業担当者の前で1曲を演奏する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。				
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※グレードに応じて、楽譜のプリントを配布する。				
【その他補足事項】 1. グレード分けは、入学前研修会にて行う。 2. 初心者グレードのみ、第1～3回（3コマ分）の授業は、ピアノ奏法の基礎的な知識・技術を全員で学習する。（音符の読み方・長さ、リズム、指の使い方など）【佐藤敦子教授担当】 3. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに授業担当者へ提出すること。 4. 課題曲を達成しないと見込まれる場合、授業担当者が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。				

授業科目名	ピアノ演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師	いけだ 池田 奈央	開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】	
<p>1. 教育・保育の現場で必要となる、ピアノ演奏の基礎技能を修得する。</p> <p>2. 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)、練習曲(バイエル・ツェルニー等)を通して読譜力やピアノの表現力を養い、ピアノの奏法を学ぶ。</p> <p>3. 個々のピアノ演奏技術に応じて、4つのグレードから一つを選択する。</p> <p>◆グレードの名称と選択する際の基準</p> <p>「初心者グレード」 バイエル1番～バイエル60番程度 「初級者グレード」 バイエル40番～バイエル80番程度 「中級者グレード」 バイエル終了程度からツェルニー30番、ブルグミュラー25番程度 「上級者グレード」 ツェルニー30番10番以降、ブルグミュラー25番の10番以降程度、バッハインヴェンション二声程度、ソナチネ程度</p> <p>4. グレードごとに課題曲を設定し、アチーブメント方式で授業を展開する。各自の課題曲を自学学習し、完成度が基準に達した課題曲ごとに、担当教員からチェック(確認テスト)を受ける。</p> <p>◆グレードの課題曲数</p> <p>「初心者グレード」 28曲(練習曲8曲+歌曲20曲) 「初級者グレード」 35曲(練習曲11曲+歌曲24曲) 「中級者グレード」 42曲(練習曲11曲+歌曲31曲) 「上級者グレード」 47曲(練習曲8曲+歌曲39曲)</p> <p>5. 年度途中で、選択したグレードの課題曲を終了した場合は、次のグレードへ順次、移行する。ただし、上級者グレードの学生は、そのグレードに応じた新たな課題曲に取り組む。</p>	○	A 知識
	○	B 技術・技能
		C 論理的思考力
		D 文章表現力
	○	E 表情及び身体表現力
	○	F 感性及び感動表現力
		G 協働能力
		H まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I 積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J 多様性への理解力、応用力
		K 課題対処力
		L 人間関係、対人関係構築力及び対話力
	【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)
初心者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、ピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F
初級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音でピアノを正しく演奏し、曲想をつけながら表情豊かにピアノを弾くことができる。	目標	A・B・F
中級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、弾きながら歌えるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F
上級者グレード：歌曲、練習曲を正確なリズムや音で、曲想をつけながらピアノを表情豊かに演奏し、アレンジして弾くことができるような応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者 グレード		
1	オリエンテーション (専任教員担当) ・授業の目的、概要、到達目標 ・授業の進め方 ・評価方法 ・グレードの確認 ・その他		授業計画 テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	テキストを見て、弾ける 曲を練習しておく
	ピアノ奏法の基本知識・技術① (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン		
2	ピアノ奏法の基本知識・技術② (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度を チェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
3	ピアノ奏法の基本知識・技術③ (佐藤敦子教授担当)	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度を チェック (確認テスト)	テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
4	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
5	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
6	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
7	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
9	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
10	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
11	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
12	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
13	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
14	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
15	到達度確認のための演奏会① (前期末試験)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習して おく
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
17	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
18	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく
19	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック (確認テスト)		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習して おく

回数	授業テーマ・授業内容		授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
	初心者グレード	初級者・中級者・上級者グレード		
20	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
21	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
22	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
23	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
24	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
25	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
26	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
27	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
28	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
29	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
30	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗・完成度をチェック（確認テスト）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	各自、課題曲を練習しておく
期末試験	最終到達度確認のための演奏会②（後期末試験）		テキスト・楽譜 課題曲練習確認票	演奏会で弾く曲を練習しておく
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者は期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。				
【到達度の評価（評価方法・基準）】 各グレードの課題曲を達成する。演奏技術・表現力により加点・減点を行い、成績評価を行う。 なお、課題曲を達成しない場合は、単位を認定しない。 「初心者グレード」 60点 ～74点 「初級者グレード」 75点 ～80点 「中級者グレード」 81点 ～90点 「上級者グレード」 91点 ～100点 ＊前期末試験、後期末試験は、演奏会形式で実施する。 ＊演奏会はクラスごとに実施し、全履修者と授業担当者の前で1曲を演奏する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻、早退による減点を行う。				
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※グレードに応じて、楽譜のプリントを配布する。				
【その他補足事項】 1. グレード分けは、入学前研修会にて行う。 2. 初心者グレードのみ、第1～3回（3コマ分）の授業は、ピアノ奏法の基礎的な知識・技術を全員で学習する。（音符の読み方・長さ、リズム、指の使い方など）【佐藤敦子教授担当】 3. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに授業担当者へ提出すること。 4. 課題曲を達成しないと見込まれる場合、授業担当者が補習授業（2月上旬の後期末試験前）の受講を指定するので、必ず受講すること。				

授業科目名	ピアノ演習 (初級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習（初心者レベル）」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（バイエル）を通してピアノの奏法を学ぶ。 初級レベルの課題曲数は、バイエル終了程度と歌曲を合わせて35曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。		目標	A・B・F	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 評価方法 その他（本科目の留意点） 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配布 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲の達成 80% 2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 書名：標準バイエル教則本 著者名：全音楽譜出版社 価格：900円（税別） ※初級レベル履修者の教科書は、1年次に購入した上記を使用する。 その他、楽譜のプリントを適宜配布する。			
【その他補足事項】 履修者が他のレベルと合わせて15名を超える場合には、履修者数を調整する。 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習（初級レベル）」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲（ツェルニー・ブルグミュラー）を通してピアノの奏法を学ぶ。 中級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ブルグミュラー程度と歌曲を合わせて42曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 評価方法 その他（本科目の留意点） 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	楽譜配布 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 課題曲の達成 80% 2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5% ※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10%			
【教科書】 教科書の購入について別に指示する。 その他、楽譜のプリントを適宜配布する。			
【その他補足事項】 履修者が他のレベルと合わせて15名を超える場合には、履修者数を調整する。 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ピアノ演習 (中上級レベル)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 ミハウ・ソブコヴィアク		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習(中級レベル)」の単位を取得した者で、次のレベルを希望する履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲(童謡・あそび歌等)・練習曲(ツェルニー・ソナチネ)を通してピアノの奏法を学ぶ。 中上級レベルの課題曲数は、ツェルニー30番、ソナチネ程度と歌曲を合わせて47曲程度とし、課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック(確認テスト)を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力(アレンジできる能力を含む)を身につけることができる。			目標	A・B・E・F

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 授業概要と到達目標 評価方法 その他(本科目の留意点) 	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書を見て弾ける曲をレッスンしておくこと
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック(確認テスト)	楽譜配布 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
8	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期末試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	後期末試験（実技試験）	〃	〃

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワーを通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 課題曲の達成 80%
2. 前期末試験 5% ・ 後期末試験 5%
※前・後期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。
3. 受講態度 10%

【教科書】 教科書の購入について別に指示する。
その他、楽譜のプリントを適宜配布する。

【その他補足事項】

履修者が他のレベルと合わせて15名を超える場合には、履修者数を調整する。
課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。

授業科目名	ピアノ演習（再履修科目） （初心者・初級・中級・中上級レベル）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 （職名・氏名）	非常勤講師 <small>わた なべ あき こ</small> 渡 邊 聡 子		開講期	前期
			授業回数	30回 （週2コマ実施）
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間	30時間	
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 1年次「ピアノ演習」の単位を取得できなかった履修者を対象とする。 幼児の歌を中心に、歌曲（童謡・あそび歌等）・練習曲を通してピアノの奏法を学ぶ。 各レベルの課題曲数は、1年次での課題曲の残曲数を含めて、初心者レベル15曲、初級レベル17曲、中級レベル20曲、中上級レベル22曲とする。 課題曲の練習を行い、順次担当教員による進捗のチェック（確認テスト）を受ける。 なお、課題曲を達成した場合は、担当教員が示す別な課題曲に取り組む。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	

【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 （受講して得られる力）	
初心者レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを正しく演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標	A・B・F	
初級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを表情豊かに演奏し、保育現場で子どもたちがスムーズに歌えるようなピアノ演奏の基礎力を身につけることができる。	目標		
中級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちと共に表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力を身につけることができる。	目標	A・B・E・F	
中上級レベル 歌曲、練習曲を、正確なリズム、音でピアノを感性豊かに演奏し、保育現場で子どもたちとともに表情豊かに歌えるようなピアノ演奏の応用力（アレンジできる能力を含む）を身につけることができる。	目標		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション • 授業概要と到達目標 • 評価方法 • その他（本科目の留意点） • 授業の進め方 • レベルの確認	授業計画 楽譜 課題曲練習確認票	教科書・楽譜を見て1年次での課題曲をレッスンしておくこと

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	レベル別楽譜配布 教科書・楽譜	教科書・楽譜を見て、課題曲をレッスンしておくこと
3	〃	教科書・楽譜	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	前期中間試験（実技試験）	〃	〃
16	課題曲の個別レッスン 課題曲の進捗をチェック（確認テスト）	〃	〃
17	〃	〃	〃
18	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃
23	〃	〃	〃
24	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃
28	〃	〃	〃
29	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃
期末試験	前期末試験（実技試験）	〃	〃
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 各レベルの課題曲の達成 50% 2. 前期中間試験 20% ・ 前期末試験 20% *前期中間試験（実技試験）・前期末試験（実技試験）は、担当教員及び全履修者の前で演奏する。 3. 受講態度 10% ※評価点については、再履修科目であることからB評価以下とする。			
【教科書】 1年次に使用した教科書と楽譜を使用する。 その他、楽譜のプリントを適宜配布する。			
【その他補足事項】 1. 各レベルの課題曲（残曲以外）は担当教員が選定する。 2. 課題曲練習確認票は毎時間ごとに担当教員へ提出すること。			

授業科目名	ギター演習		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{さとう} 佐藤 ^{たかし} 隆 〔本務先：福島ギター学院 職名：院長〕		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択必修	
幼稚園教諭二種免許状		〃	選択	
保育士資格		〃	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了時に教室で質問等に対応する。		

【授業の概要】 ピアノ以外の楽器で、ギターを履修したい学生を対象とする。 ギターの特性を生かしながら、歌の伴奏を通して、表現豊かに演奏を行う。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	○	E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
	○	K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
ギターのコードを覚え、弾き語りを出来るようにする。		目標	A・B
保育現場での対応を出来るようにする。		目標	E・F・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 1. 授業の概要と到達目標 2. 授業内容と評価方法 3. その他	授業計画	
2	ハ長調 Iポジション ド～ソを覚える	ヤマハクラシックギター コースVol. 1	課題曲について自学自習 をすること
3	〃 ソ～シを覚える	〃	〃
4	〃 ド～ファを覚える	〃	〃
5	〃 低いミ～シを覚える	〃	〃
6	C & G ₇ コードを覚える	〃	〃
7	C & G ₇ コードでリズムパターン	〃	〃
8	メロディーと伴奏の同時演奏	〃	〃

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
9	イ短調 Am & E ₇ コードを覚える	ヤマハクラシックギター コースVol. 1	課題曲について自学自習 をすること
10	Dmコードを覚える アルペジオ	〃	〃
11	ここまで覚えた内容の確認	〃	〃
12	今までの曲をより滑らかに弾き語り	〃	〃
13	小セーハのFコードを覚える	〃	〃
14	大セーハのFコードを覚える	〃	〃
15	前期末試験		
16	ハ長調を重視した簡単な移調法(1)	ヤマハクラシックギター コースVol. 1 こどもの歌謡曲集	課題曲について自学自習 をすること
17	ハ長調を重視した簡単な移調法(2)	〃	〃
18	Eグループコード群(1)	〃	〃
19	Eグループコード群(2)	〃	〃
20	Aグループコード群(1)	〃	〃
21	Aグループコード群(2)	〃	〃
22	パワーコード	〃	〃
23	E & Aグループコードで主要三和音	〃	〃
24	パワーコードで主要三和音	〃	〃
25	現場で役立ついろいろな曲 練習(1)	〃	〃
26	現場で役立ついろいろな曲 練習(2)	〃	〃
27	現場で役立ついろいろな曲 練習(3)	〃	〃
28	現場で役立ついろいろな曲 練習(4)	〃	〃
29	現場で役立ついろいろな曲 練習(5)	〃	〃
30	後期末試験の演目選曲	〃	〃
期末 試験	後期末試験（実技）	〃	〃

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. 前期、後期、2回の期末試験（実技試験）80%（40%×2回）
 2. 授業態度等20%
- ※詳しくは初回授業時に示す。

【教科書】 書名：ヤマハクラシックギターコースVol. 1
著者名：音楽振興会
発行所：(株)ヤマハミュージックメディア
価格：900円（税別）

【その他補足事項】

履修者7名以上で開講する。

授業科目名	図 画 工 作		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 石 田 敏 和 兼任准教授 鈴 木 美 樹	いし だ とし かず すず き み き	開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 子どもの造形活動に伴う、様々な材料や道具の基礎知識と、表現方法について学ぶ。具体的には、様々な描画材を用いた平面作品や、紙材や粘土等を用いた立体作品を作る。必要に応じて講義も取り入れながら、造形表現力の向上を目指し、子どもの造形活動を適切に指導、援助するための方法を学ぶ。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
形や色、物質や空間等、造形の基本要素や理論を知り、表現するための技術を高めることができる。			目標	A・B・K
感性が磨かれ、イメージ豊かに表現できる。			目標	F・K
創造活動を楽しみながら、美術文化に関心を抱き、主体的にかかわる態度が身に付く。			目標	J・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 美術教育の意義について	授業計画 意見を述べ、疑問点を質問する	自然観察
2	< 絵画表現のための基礎演習 I > 無彩色による表現(1)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
3	< 絵画表現のための基礎演習 I > 無彩色による表現(2)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
4	< 絵画表現のための基礎演習 II > 図法を理解する(1)	プリント① 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント①の復習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	< 絵画表現のための基礎演習Ⅱ > 図法を理解する(2)	プリント② 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント②の復習 空き時間を使って、課題を進める
6	< 写生による絵画表現 > フレーミング	プリント③ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント③の復習 空き時間を使って、製作を進める
7	< 写生による絵画表現 > 対象物の構造を理解する	プリント④ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント④の復習 空き時間を使って、課題を進める
8	< 写生による絵画表現 > 明暗、質感、固有色	プリント⑤ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑤の復習 空き時間を使って、課題を進める
9	< 写生による絵画表現 > 表現技法	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント①～⑤の復習 空き時間を使って、課題を進める
10	< 写生による絵画表現 > 仕上げ	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	プリント①～⑤の確認 空き時間を使って、課題を進める
11	< 色彩の理解 > 知覚のシステム	プリント⑥ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑥の復習 空き時間を使って、課題を進める
12	< 色彩の理解 > 色の整理と分類(1)	プリント⑦ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑦の復習 空き時間を使って、課題を進める
13	< 色彩の理解 > 色の整理と分類(2)	プリント⑧ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑧の復習 空き時間を使って、課題を進める
14	< 色彩の理解 > 色名を覚える	プリント⑨ 色見本、ポスターカラー等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑨の復習 空き時間を使って、課題を進める
15	前期末試験 ※担当教員の指示により、筆記試験 もしくはレポート提出とする	プリント	プリント①～⑨の確認 空き時間を使って、課題を進める
16	< 粘土による表現 > 粘土の種類について 立体の表現(1)	プリント⑩ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑩の復習 対象の観察
17	< 粘土による表現 > 立体の表現(2)	プリント⑪ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑪の復習 対象の観察
18	< 粘土による表現 > 立体の表現(3)	プリント⑫ 粘土等で製作する 疑問点を質問する 感想や意見を述べ合う	プリント⑩～⑫の復習 対象の観察
19	< 紙材による表現Ⅰ > 基礎技法	プリント⑬ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑬の復習 空き時間を使って、課題を進める
20	< 紙材による表現Ⅰ > ペーパークラフトの製作(1)	プリント⑭ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑭の復習 空き時間を使って、課題を進める

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
21	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(2)	各自の製作テーマを述べる プリント⑮ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑮の復習 空き時間を使って、課題を進める
22	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(3)	各自の製作テーマを述べる プリント⑯ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑯の復習 空き時間を使って、課題を進める
23	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(4)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	資料を準備する 空き時間を使って、課題を進める
24	<紙材による表現Ⅰ> ペーパークラフトの製作(5)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 意見を述べ、疑問点を質問する	資料を準備する 空き時間を使って、課題を進める
25	<紙材による表現Ⅱ> 折り紙による表現(1)	プリント⑰ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑰の復習 空き時間を使って、課題を進める
26	<紙材による表現Ⅱ> 全体の構成を考える(2)	各自の製作テーマを述べる プリント⑱ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑱の復習 空き時間を使って、課題を進める
27	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(3)	各自の製作テーマを述べる プリント⑲ 鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	プリント⑲の復習 空き時間を使って、課題を進める
28	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(4)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
29	<紙材による表現Ⅱ> パーツを製作する(5)	鉛筆、画用紙等で製作する 意見を述べ、疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
30	<紙材による表現Ⅱ> 仕上げ(6)	鉛筆、画用紙等で製作する 感想や意見を述べ合う 疑問点を質問する	空き時間を使って、課題を進める
期末 試験	期末試験	プリント	
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 作品評価50%、期末試験40%（前期末試験20%・後期末試験20%）、受講態度10%。 「成績評価への補足的対応措置」により、欠席、遅刻・早退による減点を行う。 ※詳細については、初回授業時に説明する。			
【教科書】 その都度プリントを配布する。			
【その他補足事項】 材料費として1,800円を徴収する。 ※学習の進捗等により、内容が一部変更になる場合がある。			

授業科目名	幼 児 体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	1年次
担当教員 (職名・氏名)	非常勤講師 ^{すず き ゆ み こ} 鈴木 裕美子 〔本務先：福島大学 職名：特任教授〕		開 講 期	通年
			授 業 回 数	30回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		授業終了後およびメールにて質問等に対応する。		

【授業の概要】 本科目では、幼児体育についての基礎を理論と実践の両面から理解する。発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法、安全性を考慮した支援方法を学習する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	○	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
保育現場で活用できる運動遊びを習得する。			目標	A・B・E
子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につける。			目標	B・E・I・L
運動の指導者としてふさわしい実技能力を高め、表現力を養い、魅力ある指導者となる資質を身につける。			目標	B・E・I・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法・授業の進め方の留意点 VTR鑑賞（教室）	授業計画 「子どもの生活と遊び」60分	幼児の遊びを観察する
2	遊具なしのできる遊び(1) ・アイスブレイク ・ダンス	基本的な動作、手遊び、指遊び、ダンス	幼児期に遊んだ遊びやダンスを思い出す
3	遊具なしのできる遊び(2) 鬼あそび	鬼遊び	鬼遊びを分類する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	遊具なしでできる遊び(3) ゲーム	ゲーム	グループを作るゲームについて考える
5	ボール(1)（個人の遊び）	つく、投げる、ける、またぐ、まりつき（歌いながら遊ぶ）	ボール遊びの魅力について考察する まりつき歌を歌う
6	ボール(2)（集団の遊び）	リレー、ゲーム	ボールの運び方や仲間との連携を工夫する
7	なわ(1)（短なわ）	まわす、またぐ、跳ぶ、踏む、くぐる、跳ぶ、またぐ、踏む	縄がからまないように工夫する
8	なわ(2)（長なわ）	複数のなわや他の遊具と組み合わせさせて遊ぶ	縄を回すタイミングに合う歌を検討する
9	ゴム(1) ゴム跳び（1本、2本）	ゴムを使った遊びを考える	ゴムを跳び越す遊びを工夫する
10	ゴム(2) ゴム跳び（複数）	歌に合わせてゴムを引っ掛けたりまたいだりする	跳び方のネーミングを考える
11	竹(1)	よさこい バンブーダンス	鳴子の音の変化を出す工夫 3拍子の曲を探す
12	竹(2)	竹遊びを工夫する 運動として、ダンスとして、表現として	操作を工夫する遊具として 表現の小道具として
13	フープ(1) ころがす、跳ぶ、くぐる、まわす、投げる、受ける	大きさ、材質の違いによって遊び方を工夫する	操作、見立て、障地にするなど、どのように工夫できるか考える
14	フープ(2)	リレー、ゲーム	連携を工夫する
15	前期末試験	筆記試験	授業の復習
16	講義とVTR鑑賞	「集団遊びでからだづくり・友だち作り」60分	幼児の運動遊びの実態を知る
17	新聞紙(1)	新聞紙で遊ぶ	新聞紙で何ができるか試す
18	新聞紙(2)	新聞紙になる 新聞紙で表現する	新聞紙を何かに見立てる
19	リズムあそび(1)	ダンス、ミュージカル、歌遊び	軽快なリズムにのる リズムをつくる
20	リズムあそび(2) ミュージカル創作	ストーリーを考える	絵本を読む
21	リズムあそび(3) ミュージカル発表	発表会を運営する	ミュージカルを鑑賞する
22	器械運動あそび(1) マット …歩く、転がる、跳ぶ、障地にする	体の操作を模索する	安全かつ効果的に運動できる言葉かけを工夫する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	器械運動あそび(2) 跳び箱…歩く、跳ぶ、登る、降りる 平均台…歩く、すれ違う、障害物競走	年齢に応じた設定を工夫する バランスをとる	ねらい、方法、留意点について検討する 遊具の並べ方を工夫する
24	運動会(1) つなひき、玉入れ、障害物競争、大玉ころがし、 忍者の修行、海の世界 など	運動会の種目の文献から選んで紹介する	運営の方法を考える 開催までの練習計画と当日の進行、種目の種類と方法を考える
25	運動会(2) 種目を組み立てる	運動会の種目を指導する	グループで内容を相談する
26	現代社会における幼児体育の意義	グループディスカッション	発達、興味に応じた楽しい種目を考える
27	幼児体育のねらいと指導方法	グループディスカッション	生活・遊び・幼児の心と身体の関係に気付く
28	幼児体育の今後の課題	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
29	幼児の心と体	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
30	幼児体育と安全教育	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
期末試験	後期末試験	筆記試験	授業の復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 … 前期末試験20点・後期末試験20点 2. グループ発表 … 前期20点・後期20点 3. 授業態度 … 20点 *詳細は、オリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 書名：楽しく学ぶ運動遊びのすすめ — ポートフォリオを活用した保育実践力の探求 — 著者名：柴田 卓・石森真由子 発行所：株式会社 みらい 価格：1,300円（税別）			
【参考書】 書名：幼児の体育 子どもの未来づくり 著者名：澤田幸男、前橋 明、さわだスポーツクラブ 発行所：大学教育出版 価格：2,400円（税別）			
【その他補足事項】 1. 運動できる服装および室内用シューズを着用すること。 （スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めない） 2. 授業がはじまるまでに、アクセサリ類は必ず外すこと。 3. 髪が長い学生は一つにまとめること。 4. 貴重品はロッカーに入れること。			

授業科目名	幼 児 体 育		授業形態・単位数	演習・2単位
			開 講 年 次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ふじもと かなめ 藤 本 要	開 講 期	通年
	非常勤講師	すずき ゆみこ 鈴 木 裕美子	授 業 回 数	30回
	〔本務先：福島大学 職名：特任教授〕		期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。(藤本) 授業終了後に教室で質問等に対応する。(鈴木)		

【授業の概要】 本科目では、幼児体育についての基礎を理論と実践の両面から理解する。発育発達段階に応じた運動遊びの実践方法、安全性を考慮した援助方法を学習する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育現場で活用できる運動遊びを習得する。		目標	A・B・E	
子どもの遊びを豊かに展開するために必要な創造力や、子どもが運動に親しむための指導力を身につける。		目標	B・E・I・L	
運動の指導者としてふさわしい実技能力を高め、表現力を養い、魅力ある指導者となる資質を身につける。		目標	B・E・I・G	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と進め方 (3) 評価方法 (4) その他(本科目の留意点)	授業計画	授業計画を読み授業の概要・目標を理解しておく
2	幼児体育の実際	グループワーク	幼児体育の概要を調べてくる
3	からだを使った運動遊び(1) 移動系の遊び	グループ発表①	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	からだを使った運動遊び(2) 非移動系の遊び	グループ発表②	テーマに関する遊びについて調べてくる
5	ジャンプ遊び	グループ発表③	テーマに関する遊びについて調べてくる
6	器具を使った遊び(1) マット	グループ発表④	テーマに関する遊びについて調べてくる
7	器具を使った遊び(2) 跳び箱	グループ発表⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
8	器具を使った遊び(3) 平均台	グループ発表⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる
9	器具を使った遊び(4) 巧技台	グループ発表⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
10	器具を使った遊び(5) 鉄棒	グループ発表⑧	テーマに関する遊びについて調べてくる
11	用具を使った遊び(1) 短縄	グループ発表⑨	テーマに関する遊びについて調べてくる
12	用具を使った遊び(2) 長縄	グループ発表⑩	テーマに関する遊びについて調べてくる
13	用具を使った遊び(3) フラフープ	グループ発表⑪	テーマに関する遊びについて調べてくる
14	用具を使った遊び(4) ボール	グループ発表⑫	テーマに関する遊びについて調べてくる
15	前期末試験	筆記試験	授業の復習
16	オリエンテーション（担当教員交代のため） （1）授業の概要と到達目標 （2）授業内容と進め方 （3）評価方法 （4）その他（本科目の留意点）	授業計画	授業計画を読み授業の概要・目標を理解しておく
17	体づくり運動	グループワーク	体づくり運動の種類について調べてくる
18	ダンス・リズム体操	グループワーク	リズム体操について調べてくる
19	鬼あそび	グループ発表①	テーマに関する遊びについて調べてくる
20	伝承遊び	グループ発表②	テーマに関する遊びについて調べてくる
21	ふれあい遊び	グループ発表③	テーマに関する遊びについて調べてくる
22	ヨガ遊び	グループ発表④	テーマに関する遊びについて調べてくる

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
23	身近な素材を使った遊び(1)（タオル）	グループ発表⑤	テーマに関する遊びについて調べてくる
24	身近な素材を使った遊び(2)（新聞紙）	グループ発表⑥	テーマに関する遊びについて調べてくる
25	運動会	グループ発表⑦	テーマに関する遊びについて調べてくる
26	現代社会における幼児体育の意義	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
27	幼児体育のねらいと指導方法	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
28	幼児体育の今後の課題	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
29	幼児の心と体	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
30	幼児体育と安全教育	グループディスカッション	教科書を読んで理解する
期末試験	後期末試験	筆記試験	授業の復習
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー、もしくは学科長を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 筆記試験 前期20点 後期20点 2. グループ発表 前期20点 後期20点 3. 授業態度 20点 *詳細は、オリエンテーション時に説明する。			
【教科書】 書名：楽しく学ぶ運動遊びのすすめ ― ポートフォリオを活用した保育実践力の探求 ― 著者名：（編者）柴田 卓・石森真由子 発行所：株式会社 みらい 価格：1,300円（税別）			
【その他補足事項】 1. 運動できる服装および室内用シューズを着用すること。 （スカート、ジーンズ、サンダル、素足等の受講は安全上認めない） 2. 授業がはじまるまでに、アクセサリ類は必ず外すこと。 3. 髪が長い学生は一つにまとめること。 4. 貴重品はロッカーに入れること。 5. 1～15回の授業を藤本准教授、16～30回の授業は鈴木非常勤講師が担当する。前期と後期で授業担当者を交代する。 そのため前期に鈴木非常勤講師が担当するクラスは、16回目から授業開始となる。			

授業科目名	国 語		授業形態・単位数	講義・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 田 上 貞一郎 <small>た がみ ていいちろう</small>		開講期	後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーについては初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 幼稚園・小学校と連続する教科として国語教育の理解をテーマとし、次の点を到達目標とする。 1. 豊かな言語感覚と言語能力の育成の大切さを学ぶとともに、しっかりした思考力・表現力・読解力を育成する国語教育を理解する。 2. 幼稚園と小学校1、2年の国語の関連性を理解するとともに、幼稚園における国語の在り方、重要性を認識する。	【授業の概要との対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力
	<input type="radio"/>	D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
		F	感性及び感動表現力
		G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教育要領や保育所保育指針さらに認定こども園教育・保育要領の「言葉」の領域への理解を深める。		目標	A・J
小学校国語教育との接続を認識し、国語科の教科専門の力を育てる。		目標	A・C・D・L
絵本・童話と文学教材、音声言語教材、伝記教材、説明文教材を取り上げ、各教材の特徴を理解し授業を行う上での基礎的な知識を学ぶ。		目標	A・B

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他(本科目の留意点)	自己プレゼンテーション 教材: 授業計画・教科書・プリント	自己プレゼンテーションの用意 授業計画の確認
2	国語の位置づけと対象領域	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材: 教科書・プリント	教材予習 朗読練習
3	国語とは何か(1)(幼児にとっての国語・全体的な枠組み)	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材: 教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	国語とは何か(2)（話すこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
5	国語とは何か(3)（聞くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
6	国語とは何か(4)（書くこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
7	国語とは何か(5)（読むこと領域の基礎）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
8	幼稚園と小学校の国語（幼稚園での文字指導）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
9	幼稚園と小学校の国語（小学校での国語の相違）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
10	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（話すこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
11	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（聞くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
12	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（書くこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
13	幼児教育・幼稚園以降の目標と内容（読むこと）	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
14	伝統的な言語文化と国語の関連	指名問答、朗読、フィードバックシート 教材：教科書・プリント	教材予習・復習 朗読練習
15	まとめと振り返り	指名問答、口頭発表	質疑の準備
期末試験	期末試験		
【期末試験の講評】 期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。			
【到達度の評価（評価方法・基準）】 教科書・資料の朗読（10%）、期末試験の成績（90%）から客観的に評価する。 ※「成績評価への補足的対応措置」により、加点・減点等を行う。			
【教科書】 書名：小学校学習指導要領解説 国語編 著者名：文部科学省 発行所：東洋館出版社 価格：204円（税別）			

授業科目名	創作ミュージカル		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授 <small>ながくぼ かず こ</small> 長久保 和子	開講期	後期	
		授業回数	15回	
		期末試験の有無	無	
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	必修	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目は、現代の子どもたちに「伝えたいこと」をねらいとし、課題について学生同士で分析・検討を行いながら、子どものためのミュージカルを作っていく。 創作過程の中で豊かな感性や自己表現を養い、表現する楽しさや喜びを味わう。また、ミュージカルという手段で授業での成果を観客の前で発表する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
	○	E	表情及び身体表現力	
	○	F	感性及び感動表現力	
	○	G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	○	J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
○	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
現代の子どもたちに伝えたい思いを、学生同士でディスカッションし、今まで学んできた自分の保育内容や実習経験を十分に生かす。		目標	A・B・G・K・L	
脚本、演技(演奏)、ダンス、舞台芸術、音響、照明といったミュージカルという総合芸術を、自分たちで作り上げ、皆で表現することの楽しさや喜び、達成感を味わう。		目標	A・B・E・F・H	
ミュージカル創作の過程において、協調性・連携・責任感・自主性・思いやりなどを身に付け、保育者にとって必要なことを学ぶ。		目標	G・H・J・L	
空き時間の活用など自分たちで工夫しながら時間をやりくりし、計画的に物事を進める経験を得る。また、積極的に練習へ参加し、完成度への意識を高める。		目標	B・G・K・L	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法(アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	授業概要の説明 ・今後の日程(テーマ・題・内容の決定) ・教室借用の詳細 ・評価方法 ・実行委員と係の紹介 脚本修正・各係の打ち合わせ・配役の最終決定 各係の行程表作成	・授業計画、資料の説明 ・DVD ・係ごとのグループディスカッション	・行程表清書 ・脚本と各係の詳細打ち合わせ ・教室借用調整
2	各係の進行状況報告(注意事項含む) ・各係の分担について話し合う ・行程表提出 脚本仕上げ ステージ練習(1) ・配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認	・係ごとのグループディスカッション ・構成作業 ・セリフ合わせ ・歌唱、ダンス ・ステージ活動	・教室借用調整 ・指導を受けた点を修正、脚本の仕上げ ・立ち位置確認

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各係、行程表に沿って準備を進める <p>脚本の修正と仕上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚本に即して、舞台監督・音響・照明・大道具に分かれて打ち合わせをする <p>ステージ練習(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認 <p>プログラム構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 構成作業 (美術製作の構想・音響の選曲・照明の色合い構成、学内借用物、プログラム等) セリフ合わせ・歌唱、ダンス ステージ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 教室借用調整 指導を受けた点を修正、脚本の仕上げ 配役の確認 音響、照明、大道具、プログラム構成決定
4	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各係、行程表に沿って準備を進める <p>脚本の最終確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 脚本に即して、各係で話し合いを進める <p>ステージ練習(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 配役のセリフ合わせ、立ち位置の確認 <p>プログラム構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作 (音響選曲・照明構成、学内借用物、プログラム等) セリフ合わせ・歌唱、ダンス ステージ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 脚本を熟読 美術構成修正 学内借用物の決定 脚本と各係の詳細打ち合わせ
5	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（学内借用物決定、借用物作成） 選曲・照明の決定 <p>脚本の最終確認</p> <p>立ち稽古(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟・配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>プログラムの原案作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作・演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古） プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習 学内借用物一覧表の作成
6	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（学内借用一覧表提出） 選曲・照明の決定 <p>立ち稽古(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟・配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>プログラムの決定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作・演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古） プログラム作成 	<ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習 プログラムの清書提出
7	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 美術製作（大道具の保管場所確保と保管開始） 選曲・照明の決定 <p>立ち稽古(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟・配役のセリフ、動き方等表現指導 <p>通し稽古(1)</p> <p>プログラムの清書提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作・演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（立ち稽古、通し稽古） 	<ul style="list-style-type: none"> 大道具保管場所の確保（各サークルと調整） 音響、照明、プログラムなど指導を受けた点の改善 配役の練習
8	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 <p>通し稽古(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟・配役のセリフ、動き方等表現指導 シーンごとの細かな指導 <p>全体実行委員会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作・演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（通し稽古） 	<ul style="list-style-type: none"> 脚本、各係の細部打ち合わせ 指導を受けた点の改善 運営係の役割分担の決定 実行委員会の実施
9	<p>各系の進行状況報告（注意事項含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 音響、照明、大道具、配役などの指導 <p>総合司会、つなぎ（導入役）、記録、タイムキーパー、受付、会場係など当日の運営について</p> <p>通し稽古(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発声、柔軟・配役のセリフ、動き方等表現指導 シーンごとの細かな指導 	<ul style="list-style-type: none"> 係ごとのグループディスカッション 美術製作 演技、歌唱、ダンス 音響、大道具、照明を合体させたステージ活動（通し稽古） 運営係でのグループディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> 指導を受けた点の改善 音響、照明、大道具、配役による全体練習 運営係の確認 実行委員会の実施

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
10	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(1) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動(通し稽古)	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
11	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(2) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動(通し稽古)	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
12	各系の進行状況報告（注意事項含む） ・音響、照明、大道具、配役などの指導 全体練習(3) ・発声、柔軟 ・配役のセリフ、動き方等表現指導 ・シーンごとの細かな指導 ・音響、照明、大道具を合体 つなぎ、当日の運営の流れについて	・係ごとのグループディスカッション ・美術製作 ・演技、歌唱、ダンス ・音響、大道具、照明を合体させたステージ活動(通し稽古) ・つなぎ、運営係のディスカッション	・指導を受けた点の改善 ・音響、照明、大道具、配役による全体練習 ・実行委員会の実施
13	全体リハーサル実施 ・音響、照明、大道具、配役の動きの最終確認 ・つなぎ、当日の運営の流れの確認	・演技、歌唱、ダンス ・すべてを合体させたステージ活動 ・発表会運営練習	・役割分担や、配役の立ち位置、音響、照明のタイミングなどの最終確認
14	全体リハーサル実施（授業時間外に実施） ・全クラス合同で通し稽古を行う ・総合司会、つなぎ（導入役）、受付、会場、インカム係などの立ち位置確認 ・発表会同様に流れで全体練習を行う ・各係への細かな指導	・演技、歌唱、ダンス ・すべてを合体させたステージ活動 ・発表会運営練習（業者参加）	・指導を受けた点を改善し、発表会に備える
15	「創作ミュージカル発表会」実施（授業時間外に実施） ・千葉記念ホールで発表会を行う	・演技、歌唱、ダンス ・すべてを合体させたステージ活動 ・発表会運営	・発表会の感想や反省等をまとめる

【到達度の評価（評価方法・基準）】

1. テーマと脚本の整合性や音響・照明・大道具・衣装の創造性、配役の適性（歌唱力や演技力）など発表会の完成度を50%とする。
 2. 発表会までの過程における練習意欲や態度、参加に対して30%とする。
 3. 協調性や自分の役割に対する責任感を20%とする。
- ※発表当日およびリハーサルに参加しない場合は単位を認定しない場合がある。詳細は初回授業にて説明する。

【その他補足事項】

1. 授業は千葉記念ホールで行う。授業開始後、各役割に応じてリハーサルルーム、アンダルシア、図書館情報センタースタジオを使用する。
2. 脚本構想はあくまで、子どもに向けてのものであり、歌やダンスを加えることとする。
3. 練習に使用する教室は、事前に必ず教室使用手続きをとる。
 <時間割外練習教室> 千葉記念ホール・リハーサルルーム・アンダルシア・スペイン広場
 図書館情報センタースタジオ・大視聴覚室・音楽館第3音楽教室 等
4. 進捗状況によっては内容を変更することもある。

授業科目名	バリダンスレッスンとバリ島幼稚園交流 国際理解演習（バリ島）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 佐藤敦子		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目・教養教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目・教養教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目・教養教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】	【授業の概要との対応項目】			
		A	知識	
<p>1. バリ島研修（8月20日～8月25日）の6日間に参加することを条件として、授業を6月から行う。授業の履修届は5月31日(木)までとし、他学科の履修者「国際理解演習（バリ島研修）」を含め、12名以上の履修者で開講する。バリ島研修日程の詳細及び研修費用は、関心のある者に別途配布する。</p> <p>2. 本授業は、研修旅行前にバリ島の歴史、文化、芸術等を学び、かつ現地での交流のための準備を行う。</p> <p>3. 研修終了後はレポートを提出し、反省会を行う。また、パワーポイントを作成して発表会で発表する。 *渡航手続き等は、時間割外に行うことがある。</p>		B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
		K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
1. インドネシア共和国バリ島（バリ州）での研修を通じて、国際理解と文化、宗教の多様性を理解する。	目標	J		
2. バリの人々との交流を通じて、本学の建学の理念でもある「まごころ」や「思いやり」との共通性を理解する。	目標	H		
3. バリダンスレッスンや幼稚園等での現地交流で、表情及び身体表現力、感性及び感動表現力を身に付ける。	目標	E・F		
4. 研修活動を通じて、協働能力、人間関係、対人関係構築力及び対話力を磨く。	目標	G・L		
5. 研修レポート及び発表を通じて、文章表現力、プレゼンテーション力を身につける。	目標	D・I		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション（授業の進め方・評価方法他） バリ島研修の目的、意義、概要について ・現地の子どもたちとの交歓交流の内容 ・訪問先の具体的な説明 ・バリ島研修のDVD鑑賞	授業計画 資料配布 DVD資料	授業計画を読んでおく 資料の復習
2	旅行に必要なパスポート、保険等の手続き バリ島の宗教・歴史・芸術・文化 ・バリ島の気候風土や生活の様子 現地での治安、ホテルでのマナー	旅行取扱会社説明（JTB） 資料配布	資料の復習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	現地バリ島での交流内容の話し合い ・交流のダンスの振り付けを考案	ダンスの練習	ダンスの復習
4	交流の練習	〃	ダンスの復習
5	交流の練習 ・交流の服装の決定	〃	ダンスの復習 交流の服装を準備
6	交流の練習 出発前の日程、部屋割、保険等の最終確認	〃	研修日程の最終確認
7 8 9	研修旅行 1日目：8月20日(月)【3コマ】 ・福島から成田まで ・飛行機搭乗（成田⇒バリ島）	実地研修	研修の記録（メモ）
10 11 12 13	研修旅行 2日目：8月21日(火)【4コマ】 ・パラバン幼稚園での歓迎式典、園児との交歓・交流、 自分たちのパフォーマンス、幼稚園・小学校見学 ・デンパサールの芸術文化視察（美術館、寺院等見学）	〃	〃
14 15 16 17	研修旅行 3日目：8月22日(水)【4コマ】 ・タガス村での歓迎式典、子どもたちとの交歓・交流、 自分たちのパフォーマンス、ガムラン楽器体験 ・タガス村でのバリダンスレッスン受講、ケチャック ダンス鑑賞	〃	〃
18 19 20 21	研修旅行 4日目：8月23日(木)【4コマ】 ・ケランビタン宮殿での子どもたちとの交歓・交流、 自分たちのパフォーマンス ・ケランビタン宮殿でのバリダンスレッスン受講 ・ケランビタン宮殿でのバリ衣装体験 ・模擬結婚式体験 ・夕食会	〃	〃
22 23 24 25	研修旅行 5日目：8月24日(金)【4コマ】 ・自由研修 ・デブダンショー鑑賞	〃	〃
26 27	研修旅行 6日目：8月25日(土)【2コマ】 ・飛行機搭乗（バリ島⇒成田） ・成田から福島まで	〃	〃
28	写真交換会及び反省会	写真等持ち寄り	レポート作成
29	レポートの提出及びパワーポイント作成	パワーポイント作成	パワーポイント作成 プレゼンテーション練習
30	レポート発表会	パワーポイントによる プレゼンテーション	

【到達度の評価（評価方法・基準）】

到達目標 1. 2. 5

1. 及び2. について、2つのレポートにより評価する。

1. のレポート（1000字以上1200字以内） … 20点

2. のレポート（600字以上1000字以内） … 10点

1. 及び2. のレポートの発表（プレゼンテーション） … 10点

※発表はパワーポイントで（1人5分以上7分以内）、評価は担当教員、及び担当以外の教員3人による評価点の平均値とする。

到達目標 3. 4の到達度評価 … 各30点

※1. 事前・事後授業を欠席する場合は、1回につき3点減点とする。

ただし、特別な事情がある場合は申し出ること。

2. 海外研修における現地研修・公式プログラムについては、体調不調もしくは病気・怪我等で所定のプログラムに参加できなかった場合は、1プログラムごとに5点の減点とする。

【その他補足事項】

1. 本授業の履修届の提出は5月31日(木)までに教務課へ提出すること。

2. 履修学生確定後に授業時間を決定する。

なお、授業は研修旅行前の夏期休業期間中に実施することがある。

3. 6日間の研修旅行のプログラムや、海外での食事に対応できる体力と適応力が求められる。

4. 団体行動も多いので、協力や協調が求められる。また、お金等は自己管理となる。

5. 海外旅行に伴う海外傷害保険の付保が必要となる。

なお、本学としても万一に備えて団体保険を付保するので、ご家族からの承諾書をいただく。

6. 現地の情勢によって、旅行を中止もしくは延期することがある。

授業科目名	特別研究 (園行事DVD制作演習)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	兼任教授 菅 田 清 正 すが た きよ まさ		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では映像を活用して「ものづくり」をする際に、その制作意図をより効果的に表現するための「映像制作の基礎知識」を学ぶ。演習では学生自らが、企画から撮影・編集までをグループに分かれて行い、オリジナルのCMや園行事DVD等を制作し、体験を通して映像制作を理解する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力	
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力	
	<input type="radio"/>	G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
	<input type="radio"/>	I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
映像制作に必要な知識と技術を修得し、自ら創造する力を身につける。			目標	A・B
自分の考えや感動をわかりやすく表現する能力と感性を身につける。			目標	F
制作過程において相手の立場を理解し、尊重する協調性を身につける。			目標	G
構成台本や字幕テロップ等の作成において文書表現能力を身につける。			目標	D

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標について (2) 評価方法・授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画 去年制作のDVD視聴 	指定したWebサイトを 確認する
2	第1章 映像制作のフォローチャート 企画から台本作成・撮影・編集・完成までの流れを把握する	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 	指定したWebサイトで 制作の流れを復習する
3	第2章 撮影の基礎 (1) 画面サイズとカメラワーク (2) イマジナリーライン	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 DVD視聴 映画「激突!」(20分) 	指定したWebサイトで 授業内容を復習する
4	第3章 音声の基礎 (1) 音源の3要素 (2) マイクの種類と録音技法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 録音機器の説明 	指定したWebサイトで 授業内容を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	第4章 照明の基礎 (1) 照明の役割と設置位置 (2) 小テスト1 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 機器の説明 小テストの回答説明 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
6	第5章 絵コンテとは (1) 要素と構成 (2) CM立案	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 班単位で企画案を作成 	次回までにCM案をまとめる
7	第6章 CM絵コンテ作成 (1) 役割分担の決定 (2) 絵コンテ作成	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 絵コンテの完成 	次回までに撮影用の小道具等を準備する
8	第7章 撮影1 (1) ビデオカメラの操作説明 (2) 撮影開始	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテをもとに現場で撮影開始 	撮影上不都合が発生したら次回までに修正する
9	第7章 撮影2 (予備日) 前回に続き撮影	今回で撮影を終了する	撮影が終了しない場合は継続する
10	第8章 編集の基礎 (1) 編集とは何か (2) モンタージュ理論	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 DVD視聴「クレシヨフ効果」(20分) 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
11	第9章 編集1 映像編集 (1) 素材の取り込み (2) 編集開始	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 編集ソフトの説明 	次回までにBGMを選曲しておく
12	第9章 編集2 音声編集 BGMやSE等の音付け	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 音声編集を完成させる 	次回までに発表内容をまとめる
13	第10章 試写と講評 (1) 班ごとに作品発表 (2) 講評	<ul style="list-style-type: none"> 作品の制作意図を班ごとに発表する DVDの視聴と講評 	各自制作意図の反省点をまとめる
14	第11章 これだけは知っておきたい著作権 (1) 著作権とは何か (2) 小テスト2 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 小テストの回答説明 	Webサイトで著作権を更に復習する
15	第12章 前期まとめ (1) これまでの復習 (2) 前期まとめレポート提出 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 授業内でレポート提出 	前期の授業内容を復習する
16	第13章 専門用語の理解 (1) テレビ用語 (2) 舞台用語	<ul style="list-style-type: none"> 前回のレポート返却と前期の振り返り 資料配布 	配付資料を復習する
17	第14章 園行事の撮影法 (1) 運動会の撮影法 (2) 舞台発表の撮影法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 DVD視聴 過年度の園行事(15分×2本) 	撮影法のポイントを復習する
18	第15章 インサートカットとは (1) 撮影の留意点 (2) 編集に困った時の対処法	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 	指定したWebサイトで授業内容を復習する
19	第16章 マルチカメラの撮影 (1) 1台及び複数カメラ撮影法 (2) 小テスト3 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配布 授業内で小テスト回答説明 	指定したWebサイトで授業内容を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
20	第17章 映画に見る映像表現 ・映画視聴から映像表現を考える	・映像視聴 「ハリウッド 白熱教室」 から(20分)	他の映画を見て授業内容を 確認する
21	第18章 園行事撮影の準備 (1) 過年度の園行事DVD視聴 (2) 撮影機材の説明と準備	・資料配布 ・DVD視聴 「ふれあい参観」(20分)	次回までに撮影構成を考 えておく
22	第19章 現場訪問授業 ・認定こども園のふれあい参観（りんご狩り） ・撮影日～11月17日(土)予定（変更あり）	・撮影～認定こども園にて、 りんご狩り・芋煮会等を撮 影する	次回までに各自、編集構 成を考えておく
23	第20章 編集1～映像編集 (1) 素材の取り込み (2) 編集開始	・班ごとにPCで編集開始	次回までにBGMを選曲 しておく
24	第20章 編集2～音声編集 (1) BGMやSEの音付け編集 (2) ナレーション原稿作成	・班ごとにPCで編集開始	次回までにナレーショ ン原稿を考えておく
25	第20章 編集3 (1) MA（マルチオーディオ）作業（整音） (2) 字幕テロップ作成	・映像、音声編集の完成	次回の発表内容をまとめ ておく
26	第20章 編集予備日 & 試写・講評 (1) 班ごとに作品を発表する (2) 講評	・構成台本通りか内容をプレ ビューして再度確認し修正 する	各自制作意図の反省点を まとめる
27	第21章 テレビ放送の仕組み (1) 放送の仕組み (2) テレビ現場の映像制作	・資料配布	各自、テレビ局のHPを 確認する
28	第22章 現場で役立つトラブル対処法 (1) 映像現場・音声現場 (2) 小テスト4（20分）	・資料配布 ・機器の説明	対処法をまとめて、復習 する
29	第23章 映像で「伝える」とは何か (1) 感性を育む (2) 後期まとめレポート2提出（20分）	・資料配布 ・まとめレポートを時間内で 提出	これまでの配布授業資料 を復習する
30	第24章 後期まとめ (1) これまでの振り返り (2) 制作作品の視聴	・資料配布 ・制作したDVD視聴	配布資料を一冊にまとめ 保存する
【到達度の評価（評価方法・基準）】			
<ol style="list-style-type: none"> 前期末、後期末の試験は行わないが、希望者には成績評価について、オフィスアワー等を通じて説明する。 成績評価は100点満点とし、作品完成度50点、小テスト4回実施20点、レポート2回実施10点、授業の積極性20点で採点する。 授業内容の理解度を確保するため小テストを4回実施し、授業内で答え合わせを行い確認する。 			
【その他補足事項】			
<ol style="list-style-type: none"> 授業形態により履修学生は20名以下とする。 現場訪問授業は園行事の都合に合わせて実施するため、通常授業日を土曜日に変更して実施することがある。 授業で制作した作品を保存するDVDは各自が準備すること。 			

授業科目名	特別研究（子どもと園芸）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	教授 すぎ 杉 浦 ひろ 幸		開講期	通年
			授業回数	30回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育所・幼稚園・認定こども園では、多くでサツマイモ栽培など、農作物の栽培が実施されている。これは保育所保育指針の内容に「身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり大切にしたり、農作物を育てたり味わうなどし生命の尊さに気づく」とあることからであり、本授業ではこの点を重視する。つまり、農作物・植物の栽培と利用活動を保育に活用する方法を体験しながら学習し、発展させていく。	【授業の概要との対応項目】		
	○	A	知識
	○	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
		E	表情及び身体表現力
	○	F	感性及び感動表現力
	○	G	協働能力
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
		J	多様性への理解力、応用力
		K	課題対処力
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
子どもが自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気づくような保育ができるようにする。		目標	A・F・H
農作物栽培や庭園での活動を通し、子どもに季節感を養う保育ができるようにする。		目標	A・F
子どもが、自然に関心を持ち、遊びや生活に取り入れる保育ができるようになる。		目標	A・B・F
保育で農作物を育てたり味わうなどのプログラムを実施し、子どもが生命の尊さに気づくようにできる。		目標	F・G

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) 授業の進め方、その他の留意点 子どもと野菜(1) 畑作り・種イモ準備（土作り・うね立て）	授業計画 手製資料 Power Pointによる解説 土作り体験	畑作りに必要な服装・用具を準備・手配しておく
2	ジャガイモ植え付け ビオトープ作り(1)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：畑の除草を適宜行う

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	子どもと野菜(2) (サツマイモ畑作り、カボチャの苗作り・ニンジン播種) ビオトープ作り(2)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：畑の灌水を適宜行う
4	子どもと野菜(3) (サツマイモ定植、カボチャ畑作り) ビオトープ作り(3)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：畑の灌水を適宜行う
5	子どもと野菜(4) (カボチャ苗定植・追加播種) ビオトープ作り(4)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：畑の灌水を適宜行う
6	野草の利用(1) (ヨモギ餅のちまき)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：ちまきの作り方を学んでおく
7	果樹の管理 (サクランボ・イチジクのネット掛け) ビオトープ作り(5)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：鳥害について調べておく
8	夏物花壇作り (花苗植え替え) ビオトープ作り(6)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：夏の花の名前を復習しておく
9	畑・花壇の管理 (除草) ビオトープ作り(7)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：雑草の名前を復習しておく
10	収穫物の利用(1) (梅の収穫・シロップ作り) (収穫物の放射性物質調査)	手製資料 要エプロン	事前学修：シロップの作り方を学んでおく
11	野菜の交配・管理 (カボチャ交配・サツマイモ弦の整理・ジャガイモの土寄せ、追加定植、除草) ビオトープ作り(8)	手製資料 線量計	新聞などで放射線モニタリング結果を調べておく
12	収穫物の利用(2) (ビワの収穫・ジャム作り) ビオトープ作り(9)	手製資料 作業のため要長靴	事後学修：雑草の名前を復習しておく
13	ジャガイモの収穫、七夕飾り (畑の整理)	手製資料 作業のため要長靴	事前学修：ナス科野菜を調べておく
14	収穫物利用(3) — 収穫野菜でカレー作り —	手製資料 要エプロン	事前学修：カレーの調理法を理解しておく
15	冬野菜播種準備、栽培管理 (シノブフユナ播種、畑の除草)	手製資料 作業のため要長靴	事前学修：冬野菜の種類を調べておく
16	冬物野菜畑作りと播種 (冬野菜の畦立て作業)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：秋の雑草を調べておく
17	冬野菜畑の管理・追加植え付け (苗定植)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：秋の雑草を調べておく
18	ミニ七草園 (プランター)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：七草を調べておく
19	冬用花壇・野菜畑整備 (球根植え付け) カボチャ収穫	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：秋・冬の花を調べておく
20	ハロウィンのランタン作り	手製資料 要エプロン	事前学修：ランタンの作り方を調べておく
21	ハロウィンのランタン片付け 庭園冬支度(1) (冬物花壇苗定植、苗の温室移動)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：多年生花壇苗を調べておく

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
22	庭園冬支度(2) (チューリップ球根定植)	作業のため作業の服装と長靴を準備	事前学修：花壇苗の価格を調べておく
23	いも堀り、キウイフルーツ収穫、サフラン収穫	手製資料 要エプロン	事前学修：だんご刺しを調べておく
24	収穫物の活用 — 焼いも —	手製資料・服の臭い対策・ 要エプロン	事前学修：イモ利用法を調べておく
25	漬物作り、かいわれ作り (畑の冬野菜を利用)	手製資料 要エプロン	事前学修：リース作りを調べておく
26	クリスマスツリー飾り付け・リース作り	前回の手製資料 要エプロン	前回の不足材料を用意しておく
27	門松・しめ縄作り	手製資料 鋸で作業できる服装	門松とはどのようなものか、理解しておく
28	春の七草&いか人参 (七草がゆ)	手製資料 要エプロン	事前学修：春の七草を暗記しておく
29	だんご刺し (かざり団子作り)	手製資料 要エプロン	事前学修：節分の由来を調べておく
30	節分・シノブフユナの漬物仕上げ（恵方巻き） — レポート作成 —	各自の準備資料	事前学修：保育での農作物・花利用の事例を調査しておく
<p>【到達度の評価（評価方法・基準）】</p> <p>収穫物加工・作品作り90点（10点×9回）。レポート10点。 ※欠席は1回につき3点減点、遅刻・早退は1回につき1点減点（遅刻・早退3回は欠席1回とみなして3点減点）とする。ただし、実習、就職面接、自然災害、公共交通の遅れ等、正当な理由と判断される欠席（届出のあるもの）は除く。また、授業への取り組みに積極性が評価できる場合は3点加点、授業中の問題行動は1件につき1点減点とする。</p>			
<p>【参考書】 書名：環境を生かした保育 著者名：青木久子 発行所：チャイルド沙 価格：1,500円（税別）×4巻</p>			
<p>【その他補足事項】</p> <p>実質的にガーデニングや農作業と収穫物の加工（調理）をすることになるので、それらに興味のある学生の受講を勧める。また、畑や庭園での作業が多いため、受講者は作業着（ジャージ等）や長靴を準備しておくこと。本授業の特殊性から、履修者数を20名以内とする。</p>			

授業科目名	特別研究Ⅱ（保育者の表現遊び）		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年生
担当教員 （職名・氏名）	講師	ながしまてるこ 長島輝子	開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では「製作・手遊び・踊り・歌」といった表現活動を体験し、教育・保育実習先でも実際に活用できる遊びを習得する。授業回数15回を「製作遊び、手遊び、身体表現遊び」の3分野に分け、保育技術が身につくよう学んでいく。また、子どもと保育者役に分け、実際の保育現場で行うことを想定しながら、言葉かけなどを実演し、保育のあり方を学び考察する。	【授業の概要と対応項目】		
	<input type="radio"/>	A	知識
	<input type="radio"/>	B	技術・技能
		C	論理的思考力
		D	文章表現力
	<input type="radio"/>	E	表情及び身体表現力
	<input type="radio"/>	F	感性及び感動表現力
	<input type="radio"/>	G	協働能力
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力
	<input type="radio"/>	K	課題対処力
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標と対応項目】 （受講して得られる力）	
「作る（描く）・踊る（動く）・歌う」といった表現遊びの楽しさを味わう。		目標	A・B・E・F
表現遊びという実技を通して、保育への理解や関心を深める。		目標	A・B・G
簡単に役立つ表現遊びを習得し、実習にも生かせるようにする。		目標	B・G・J・K
グループで題材について話し合い、想像力や発想力、自主性を高める。		目標	E・F・G・L
読み聞かせの仕方や折り紙の折り方を知り、保育技術を身に付ける。		目標	A・B・J

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 授業内容の説明 指導計画とは ・「幼児の姿」、「ねらい」・「環境の構成」、「予想される幼児の姿」「教師の援助・留意点」	授業計画 資料に基づいて説明、講義	授業計画の確認 テーマとなる題材の情報や保育雑誌など調べる
2	「にじをつくったのだあれ？」のリボンの仕掛け絵本を通して、3・4・5歳児への保育方法を考える （3・4・5歳児それぞれの部分案を基に）	資料・部分案に基づいて講義 絵本を見る	授業の復習
3	教材研究（3グループごと） ・保育に必要な教材を作成する ・3歳児：パクパク人形 ・4歳児：パネルシアター ・5歳児：手話ソングを覚える他	前回の部分案に基づき グループで話し合いを行う 保育に使用する教材作成や保育の練習をする	授業の復習 次回の予習

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	グループごと発表を行う ・行事の中での出し物としての保育（教員チームで保育する）	グループで保育を行うことで、保育者間の協同について学ぶ	保育の反省・考察をまとめる
5	保育の反省・考察をする ・各グループで話し合う ・発表する	各自反省・考察してきたことをグループでまとめる	牛乳パック収集 製作する物を考える
6	廃材や紙を使い手作りおもちゃを作る ・パクパク人形を製作する	実践を行いながらの講義 牛乳パック他	自己紹介の予習
7	パクパク人形を使い保育する ・自己紹介やお話など	一人ひとりの保育について講義	レポート作成
8	手作りおもちゃで遊ぶ ・万華鏡	実践を行いながらの講義	プラバンのデザインを考える
9	手作りおもちゃで遊ぶ ・プラバン製作	実践を行いながらの講義	レポート
10	手話ソングを楽しむ ・保育の中に取り入れていく方法	講義・演習	手話ソングの復習
11	手話ソングを楽しむ ・指導案に基づいて	実践を行いながらの講義	授業の復習
12	手話ソングを楽しむ ・一人ひとりが保育を行うため指導案を作成	実践を行いながらの講義	指導案を基に保育の練習
13	手話ソングを楽しむ ・部分実習を行う（一人ひとり）	一人ひとりの保育について講義	反省・考察をまとめる
14	踊りや体操を楽しむ ・各グループで話し合いをする	助言および指導	選曲や踊りの練習
15	まとめ ・グループごとに発表する	各グループのパフォーマンスについて評価、助言	
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 授業に取り組む姿勢や意欲、参加態度、積極性 … 50% 2. 実技における完成度 … 30% 3. レポート内容（講義のテーマごとに考えた事や学んだ事についてまとめる） … 20% ※詳細は初回授業にて説明する。			
【その他補足事項】 1. 授業内容が実技のため動きやすいものでエプロンを準備する。 2. 実技を伴うため履修者は15名までとする（履修者が多い場合は調整する）。 3. 授業内容および順序は進行状況により変更する場合がある。 4. 教室は音楽館第1音楽室とする。授業内容などによっては変更される場合もある。 5. 前もって指示があった場合は、下記の物を各自準備すること。 《道具》 はさみ、カッターナイフ、ホチキス、セロハンテープ、定規、油性マーカー等 《教材》 牛乳パック、トイレトペーパーの芯、空き箱等の廃材			

授業科目名	特別研究Ⅱ (障害児生活支援演習)		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1・2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 高橋雄二 <small>たか はし ゆう じ</small>		開講期	前期・後期
			授業回数	15回
			期末試験の有無	有
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 本科目では、身体的に障害のある児童の日常生活を支援するための基本的な「食事・入浴・排泄」を中心とした生活支援に必要な知識と技術を修得していく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
	<input type="radio"/>	C	論理的思考力	
		D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
	<input type="radio"/>	J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
介護の基本的な視点である、「安全・安心・自立」を中心とした支援の在り方を学ぶ。			目標	A・C
介護を必要とする児童の日常生活を支える介護技術を実践する能力を身につける。			目標	B・J・K・L

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 評価方法、授業の進め方と留意点 生活支援の基本理念 「介護」とは ボディメカニクス 感染予防 介護における専門用語	授業計画 資料1 DVD視聴 (10分) 「ボディメカニクスの応用、 感染予防」	
2	環境整備 ギャジベッドの使用法 ベッドメイキング① 三角コーナーのベッドメイキング	資料2 DVD視聴 (10分) 「ベッドメイキング」	技術演習に必要な服装を準備しておく
3	ベッドメイキング② 四角コーナーのベッドメイキング	資料3	前回授業時配布資料を復習する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
4	実技試験(1)「ベッドメイキング」 実技試験内容提示	実技試験問題Ⅰ	前回授業時配布資料を復習する
5	移動介助(1) ベッド上の移動介助 体位変換・平行移動 引き上げ 端座位	資料4 DVD視聴（10分） 「体位と姿勢の変換の介助」	褥瘡について調べる
6	移乗の介助(2) ベッドから車いす リフターの操作	資料5	前回授業時配布資料を復習する
7	移乗の介助(3) 車いすの介助 車いすの名称・種類 車いす介助法	資料6 DVD視聴（10分） 「移動と移乗の介助」	前回授業時配布資料を復習する
8	車いす介助の実践 建物内の移動介助 路上の移動介助	学内を車いすに乗り移動する 車いす利用者と介助者の 実体験	前回授業時配布資料を復習する
9	杖歩行の介助 杖の種類と使用対象者 杖使用者への介助	資料7	前回授業時配布資料を復習する
10	視覚障害者の移動介助 ガイドヘルプの方法	資料8	前回授業時配布資料を復習する
11	実技試験(2)「ベッドからの移乗と車いすの操作」 実技試験内容提示	実技試験問題Ⅱ	前回授業時配布資料を復習する
12	衣服の着脱の介助 座位姿勢での介助 ベッドに寝たままでの介助	資料9 DVD視聴（10分） 「衣服の着脱の介助」	前回授業時配布資料を復習する
13	入浴の介助 入浴の効果 入浴介助の注意事項	資料10 DVD視聴（10分） 「入浴と清潔の保持」	入浴の効果について調べる
14	食事の介助 食事介助時の留意点	資料11 DVD視聴（25分） 「こうすれば食べられる」	前回授業時配布資料を復習する
15	排泄の介助 ポータブルトイレの介助 おむつ交換	資料12	排泄のメカニズムを調べる
期末試験	期末試験		

【期末試験の講評】

期末試験終了後、希望者には期末試験の講評について、オフィスアワー等を通じて説明する。

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- 筆記試験 記述方式のテストを学期末に実施70%
- 実技試験 介護技術試験を2回実施30%

【その他補足事項】

教科書は使用しない。適宜資料を配布する。

授業科目名	教育実習		授業形態・単位数	実習・5単位
			開講年次	1～2年次
担当教員 (職名・氏名)	准教授	ながくぼ 長久保 和子	開講期	通年
	講師	ながしま 長島 輝子	授業回数	時間割外
	講師	せきもと 関本 ひとし 仁	期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	必修	
保育士資格		専門教育科目	選択	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 教育実習は「基本実習（1週間）」「幼稚園実習（3週間）」およびその事前・事後指導からなる、長期にわたる学習である。すでに1年次において「基本実習」と事前指導の一部が実施されている。 2年次では「幼稚園実習」とそのための事前指導、すべての実習が終了した後に行う「実習反省会」などの事後指導を実施する。 ※教育実習（5単位）の内訳は、本学幼保連携型認定こども園「基本実習」（1単位）、「幼稚園実習」（3単位）、「教育実習事前・事後指導」（1単位）である。（「教育実習事前・事後指導」（1単位）の授業計画は以下に示す）	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】			【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
幼稚園教諭としての基礎的な幼児理解や専門技術を修得する。			目標	A・B
保育の方法を総合的に学び、望ましい幼稚園教諭としての資質・能力を養う。			目標	D・H・K

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション 実習の概要説明(1) ・教育実習について① 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 授業計画 学生便覧 プリント	復習： 配布資料を熟読
2	実習の概要説明(2) ・基本実習について① ・教育実習について② 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習： 配布資料を熟読
3	実習の概要説明(3) ・基本実習について③ 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習： 配布資料を熟読 実習希望調書記入
4	「基本実習」事前指導(1) ・基本実習の諸注意 ・技術演習について ・技術演習指導案について など 〔1年次：時間割の空き時間（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 基本実習の手引き プリント	復習： 配布資料を熟読 技術演習教材と指導案の作成

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
5	「基本実習」事前指導(2) ・技術演習の実演（発表） 〔1年次：時間割の空き時間（AB）／時間割内（CD）で実施〕	演習 技術演習で使用する教材 技術演習指導案	技術演習の練習
6	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(1) ・次年度「教育実習計画」について ・実習先の選定・依頼について① 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 プリント	次年度実習依頼先（幼稚園・幼保連携型認定こども園）を考えておく
7	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(2) ・実習先の選定（調整）・依頼について② 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 プリント（実習依頼資料）	復習： 配布資料を熟読
8	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(3) ・幼稚園の役割と機能 〔1年次：クラスセミナー（AB）／時間割内（CD）で実施〕	講義 プリント	復習： 配布資料を熟読
9	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(4) ・1年次：実習反省会への出席 ・1年次CD：基本実習の振り返りとまとめ	代表学生によるプレゼンテーション ディスカッション 講義 プリント（基本実習日誌）	事前に「実習反省会要項」を熟読しておく 復習： 配布資料を熟読
10	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(5) ・教育実習の意義・目的① ・実習先確認 ・実習先との打合せ 〔2年次：実習オリエンテーション（AB） ／時間割内（CD）で実施〕	講義 プリント	復習： 配布資料を熟読
11	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(6) ・教育実習の意義・目的② ・実習関係書類の作成 ・守秘義務について ・実習保障制度について 〔2年次：実習オリエンテーション（AB） ／時間割内（CD）で実施〕	講義 プリント	復習： 配布資料を熟読
12	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(7) ・実習日誌作成について① ・記録の目的・方法 〔2年次：実習オリエンテーション（AB） ／時間割内（CD）で実施〕	講義 基本実習の日誌 プリント	復習： 配布資料を熟読
13	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(8) ・授業の概要、内容、評価方法について ・教育実習の意義・目的③ ・幼稚園教諭免許状について ・幼稚園の概要 〔2年次：時間割内で実施〕	講義 授業計画 実習日誌 プリント	復習： 配布資料を熟読
14	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(9) ・実習生としての心得 ・実習関係書類の作成 〔2年次：時間割内で実施〕	講義 プリント 資料配付	復習： 配布資料を熟読 実習関連書類の作成他
15	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(10) ・実習先とのオリエンテーションについて ・実習の実際について ・子ども理解について 〔2年次：時間割内で実施〕	講義 質疑応答 プリント	復習： 配布資料を熟読
16	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(11) ・実習日誌作成について② 〔2年次：時間割内で実施〕	講義 質疑応答 プリント	復習： 配布資料を熟読

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
17	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(12) ・指導案とは何か ・指導計画の立て方 （立案の過程・部分実習・半日実習・全日実習） ・実習報告書について [2年次：時間割内で実施]	講義 プリント	予習：部分案作成
18	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(13) ・教材研究 ＊手歌遊び、歌遊び、パネルシアター、絵本、手作り人形他 ＊ゲームや鬼ごっこ、踊りや体操、製作遊び他 [2年次：時間割内で実施]	講義 演習 プリント 折り紙他	予習：部分案作成
19	「教育実習（幼稚園実習）」事前指導(14) ・特別講義 （教育実習の実際、実習生の具体的実習方法他） [2年次：時間割内で実施]	ゲストスピーカーによる 特別講義(幼稚園長など) ディスカッション 質疑応答 DVD	予習： 実習に向け準備 計画を立てる 実習の準備 (教材作成など)
20	「教育実習（幼稚園実習）」事後指導 ・2年次：実習反省会への出席	代表学生によるプレゼン テーション ディスカッション	事前に「実習反省会要項」 を熟読しておく

【到達度の評価（評価方法・基準）】

- ・基本実習（1単位） 20%（実習先の評価10%・基本実習事前指導10%）
 - ・幼稚園実習（3単位） 60%（実習先の評価40%・実習日誌10%・指導案10%）
 - ・教育実習事前・事後指導（1単位） 20%（受講態度10%・実習日誌5%・指導案5%）
- ※詳細については、授業時に説明する。

【教科書】

- ・平成30年度福島学院大学認定こども園基本実習の手引き
- ※その他必要に応じて、毎回プリントを配布する。

【その他補足事項】

1. 実習費（実習先への委託費）を実費徴収する。
 - (1) 基本実習・委託費 3,000円
 - (2) 教育実習・委託費 15,000円
2. 教育実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。
3. 教育実習を行うにあたり、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先に持参すること。
4. 実習先（認定こども園等）から、腸内感染症検査証明書の提出を指示された場合は、必ず提出すること。
（腸内感染症検査料600円程度は自己負担）
5. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。
6. 実習先からの評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったとき、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習指導		授業形態・単位数	演習・2単位
			開講年次	1～2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師	すずきともこ 鈴木智子	開講期	通年
	講師	なかのあきこ 中野明子	授業回数	15回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		60時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導は、2年次に行われる保育所での実習「保育所実習」と保育所以外の児童福祉施設での実習「施設実習」に向けた事前・事後指導で構成される。 1年次の児童福祉施設見学実習から開始し、2年次の実習反省会にまでわたる長期の学習である。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
保育実習の意義・目的を理解する。	目標	A		
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。	目標	A・B・D・K		
実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。	目標	A・B・D		
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。	目標	A・B・D・K		
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	目標	K		

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	1年次 児童福祉施設見学実習(1)	児童福祉施設①（児童養護施設）の見学 * 9月もしくは10月に実施	
2	児童福祉施設見学実習(2)	児童福祉施設②（障害系施設） もしくは、児童福祉施設③（保育所）の見学 * 9月もしくは10月に実施	見学先の施設の事前学習 見学実習報告書提出

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	「保育実習」の目的と意義(1) ・保育者に求められる人間性と専門職 ・実習の内容と評価 ・児童福祉施設見学実習報告書をもとにディスカッション	配布資料	資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
4	「保育実習」の目的と意義(2) ・保育所や施設の役割と機能	配布資料	資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
5	実習反省会への出席 実習生の発表を聞き、次年度の実習への意欲を高める	実習反省会要項	実習反省会要項の熟読
6	2年次 オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 施設実習事前指導(1) 目的と意義、実習先配当、実習の実際	授業計画	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
7	施設実習事前指導(2) 概要、準備、心得、日誌の記入の仕方	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読 提出物の記入 実習の準備
8	施設実習事前指導(3) 施設実習の実際（事例研究）、指導計画、誓約書、腸内感染症検査、保険、準備物	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、 実習の準備
9	施設実習事前指導(4) 特別講義（事例研究） 各施設の特徴、利用児（者）の実態や援助、処遇の仕方	ゲストスピーカーによる 特別講義（児童養護施設・ 障害系施設の施設長）	教科書、資料の熟読、 実習の準備
10	施設実習事後指導 実習報告（ディスカッション） 礼状と報告書	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、 実習の準備
11	保育所実習事前指導(1) 目的と意義、概要、準備、心得	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、提 出物の記入、実習の準備
12	保育所実習事前指導(2) オリエンテーションの受け方 指導計画案の作成	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、提 出物の記入、実習の準備
13	保育所実習事前指導(3) 日誌の記入の仕方 保育計画①	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、 実習の準備
14	保育所実習事前指導(4) 日誌の記入の仕方 保育計画②	教科書、配布資料	教科書、資料の熟読、 実習の準備
15	実習反省会 代表者の発表を聞き、自己の実習を考察する	実習反省会要項	実習反省会要項の熟読

【到達度の評価（評価方法・基準）】

単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。

下記の内容により評価を行う。

1. 報告書①（1年次）2種：児童福祉施設見学実習終了後（20%）
2. 報告書②（2年次）2回：児童福祉施設実習終了後（20%）、保育所実習終了後（20%）
3. 実習事前指導時の課題提出（40%）

【教科書】

1. 書名：「保育実習の手引き」
発行所：福島県保育者養成校連絡会編
 2. 書名：「福島県保育実習施設」
発行所：福島県保育者養成校連絡会編
- ※1～2の教科書は、1年次に配布する。（代金は大学で補助）
その他の資料はその都度、配付する。
3. 書名：平成29年告示保育所保育指針
発行所：フレーベル館
価格：120円（税別）
 4. 書名：平成29年告示幼稚園教育要領
発行所：フレーベル館
価格：100円（税別）
 5. 書名：平成29年告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領
発行所：フレーベル館
価格：150円（税別）
 6. 書名：平成29年告示保育所保育指針解説書
発行所：フレーベル館
価格：320円（税別）
 7. 書名：平成29年告示幼稚園教育要領解説書
発行所：フレーベル館
価格：240円（税別）
 8. 書名：平成29告示幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書
発行所：フレーベル館
価格：350円（税別）

※3～8の教科書は、他の授業科目でも使用する。それぞれの担当教員から指示がある場合は、その授業に持参すること。

【その他補足事項】

1. 実習費（実費徴収）1年次の児童福祉施設見学実習先への委託費として1,500円程度を徴収する。
2. 2年次で予定している保育所実習先（保育所、もしくは認定こども園）でのボランティア活動を、1年次の学生休業期間等の時間を利用して実施すること。*ボランティア活動の詳細は、後日説明する。

授業科目名	保育実習		授業形態・単位数	実習・4単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 すずきともこ 鈴木智子	講師 なかのあきこ 中野明子	開講期	通年
			授業回数	時間割外
	期末試験の有無	無		
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習は、保育所以外の児童福祉施設での実習「施設実習」をおおむね10日間、保育所での実習「保育実習」をおおむね10日間行う。 児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟する。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
実習を通して保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。	目標	A・B		
観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。	目標	A・B・K		
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。	目標	H・K		
保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し実践する。	目標	A・B・D・K		
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	目標	A・B		

【実習期間】	
保育所実習（2年次）：7月下旬～8月（おおむね10日間）	
施設実習（2年次）：5月～6月、もしくは10月中旬～11月（おおむね10日間）	
【到達度の評価（評価方法・基準）】	
実習先からの評価点（80%）・実習日誌、指導計画案（20%）	
【実習費（実費徴収）】	
1. 児童福祉施設実習委託費	10,000円
2. 保育所実習委託費	10,000円
3. 腸内感染症検査料（2回分）	1,200円程度
【その他補足事項】	
1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。	
2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。	
・「保育実習指導」授業の出席が、5分の4以上であること。	
・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。	
※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。	
3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風しんの抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。	
4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。	
5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。	

授業科目名	保育実習指導Ⅱ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 鈴木智子 講師 中野明子		開講期	前期
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 乳幼児の発達に応じたかかわり方についてのさらなる理解を深める。 さまざまな演習を通して実習に対しての実践力を高め、保育士の役割や専門性を再確認するとともに、グループワークや保育計画の検討等を通して、保育士になるためにそれぞれが取り組まなくてはならない課題を認識し、より良い支援のあり方について理解を深めていく。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
	<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力	
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。		目標	A・B・D・K・L	
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。		目標	A・B・D・K・L	
保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。		目標	A・B・D	
保育士の専門性と職業倫理について理解する。		目標	A・B	
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		目標	K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法 (アクティブラーニングの方法)、使用教材等	授業時間以外の必要な学修 【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他 (本科目の留意点) 保育実習Ⅱにおける総合的な学びとは何か、考察を深める (1) 子どもの最善の利益を生かした保育について (2) 保育所の生活の流れや展開について確認する	授業計画 保育実習の手引き	教科書の熟読 実習の準備、確認 子どもに関する報道や情報に関心を持ち考察する

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
2	事例研究 子どもの保育と保護者支援 保育士の専門性と職業倫理の理解 保育の観察、記録、自己評価を次へ生かすための考察	配布資料 実習反省会要項 グループワーク	教科書の熟読 実習の準備、確認
3	保育方法について(1) 子どもへの具体的ななかかわりについて理解を深める	実習反省会要項 グループワーク	教科書の熟読 実習の準備、確認
4	保育方法について(2) 保育の導入、展開の仕方について理解を深める	配布資料	教科書の熟読 実習の準備、確認
5	指導計画について(1) 指導計画と実践についての理解	グループワーク	実習で行う活動内容を考える
6	指導計画について(2) 作成した保育計画に基づく保育実践と評価	配布資料	指導計画の完成
7	特別講義（事例研究） 保育所実習の実際、実習生に望むこと	ゲストスピーカーによる 講義 (保育所長または主任)	特別講義のまとめ
8	保育実習Ⅱへ向けて（確認とまとめ）	保育実習の手引き 実習反省会要項 配布済資料の確認	実習の準備、確認 保育実習Ⅱ終了後「実習 報告書」の提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 2. 「保育実習Ⅱ」終了後、実習報告書を提出すること。 3. 下記の内容により、評価を行う。 (1) 実習事前指導時の課題提出（40%） (2) 指導案作成（20%） (3) 演習教材作成（20%） (4) 実習終了後の報告書（20%） ※詳細は授業時に示す。			
【教科書】 1. 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 2. 書名：「平成29年度実習反省会要項」（1年次に配布済み） 3. 平成29年告示版の保育所保育指針・解説書の2冊は授業で使用。 （使用時には事前に指示をするので持参すること）			

授業科目名	保育実習Ⅱ			授業形態・単位数	実習・2単位	
				開講年次	2年次	
担当教員 (職名・氏名)	講師	すずきともこ 鈴木智子	講師	なかのあきこ 中野明子	開講期	通年
	講師	なかのあきこ 中野明子	講師	なかのあきこ 中野明子	授業回数	時間割外
					期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス			授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分		必修・選択必修・選択の別		
卒業		専門教育科目		選択		
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目		選択		
保育士資格		専門教育科目		選択必修		
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。				

【授業の概要】 「保育実習（保育所実習）」の積み上げとして、保育所における実習を部分実習、指導実習を主にを行い、保育内容の技術的修得、保育計画・指導計画等の理解と立案を実践する。保育士としての態度と技術の習熟、乳幼児の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	【授業の概要との対応項目】					
	<input type="radio"/>	A	知識			
	<input type="radio"/>	B	技術・技能			
		C	論理的思考力			
	<input type="radio"/>	D	文章表現力			
		E	表情及び身体表現力			
		F	感性及び感動表現力			
		G	協働能力			
	<input type="radio"/>	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力			
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力			
		J	多様性への理解力、応用力			
	<input type="radio"/>	K	課題対処力			
		L	人間関係、対人関係構築力及び対話力			

【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)	
実習を通して保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。	目標	A・B
子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	目標	A・B
既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。	目標	K
保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深め実践する。	目標	A・B・D・K
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	A・B
実習を通して保育士としての自己の課題を明確化する。	目標	A・B・H

【実習期間】 8月中旬～下旬、または10月中旬～12月（概ね10日間）
【到達度の評価（評価方法・基準）】 実習先からの評価点80%、実習日誌・指導計画案20%。
【実習費（実費徴収）】 1. 保育実習Ⅱ委託費 10,000円 2. 腸内感染症検査料 600円程度
【その他補足事項】 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅱ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーのある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		授業形態・単位数	演習・1単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 高橋雄二 <small>たか はし ゆう じ</small>		開講期	通年
			授業回数	8回
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		30時間
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等		オフィスアワーは、初回授業時に説明する。		

【授業の概要】 保育実習指導Ⅲは、「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして実施される「保育実習Ⅲ」に向けた事前・事後指導で構成される。	【授業の概要との対応項目】			
	<input type="radio"/>	A	知識	
	<input type="radio"/>	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	<input type="radio"/>	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
		H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	<input type="radio"/>	K	課題対処力	
<input type="radio"/>	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】		【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)		
児童福祉施設の役割と機能を理解し、既習の実習や教科内容との関連性を踏まえ、総合的な保育実践力を培う。		目標	A・B・D・K・L	
利用者への態度と心構えを理解し、個人差や生活環境に伴うニーズを理解する。		目標	A・B・K・L	
実習日誌、個別支援計画の作成および自己評価の仕方等を学ぶ。		目標	A・B・D	
保育士の専門性および多職種連携と職業倫理について理解する。		目標	A・B	
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。		目標	K	

【授業計画】

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
1	オリエンテーション (1) 授業の概要と到達目標 (2) 授業内容と評価方法 (3) その他（本科目の留意点） 実習目標の確認	授業計画 教科書・プリント	教科書、資料熟読 提出物記入
2	記録の意義と自己評価のポイント	教科書・プリント グループディスカッション	教科書、資料熟読 事前リサーチ 提出物の記入

回数	授業テーマ・授業内容	授業方法（アクティブラーニングの方法）、使用教材等	授業時間以外の必要な学修【予習・復習】
3	実習の実際(1) 養護の基本原則と援助技術	教科書・プリント	教科書、資料熟読
4	施設の特質と機能 養護の実際 実習での留意点	教科書・プリント	教科書、資料熟読
5	実習の実際(2) 日常生活支援と指導計画の実際	教科書・プリント	教科書、資料熟読
6	実習の実際(3) 保育士の職業倫理と役割認識 多職種連携によるケアワーク	教科書・プリント	教科書、資料熟読
7	実習における留意点の確認 実習準備確認	教科書・プリント	教科書、資料熟読
8	保育実習Ⅲ事後指導 実習報告 礼状・報告書	教科書・プリント	実習報告書等の再点検・整理 報告書提出
【到達度の評価（評価方法・基準）】 1. 単位を取得するには、授業回数の5分の4以上の出席が必要である。 2. 実習事前指導課題提出40%、個別支援計画作成20%、実習施設の目標課題設定20%、実習報告書20%。			
【教科書】 <ol style="list-style-type: none"> 書名：「保育実習の手引き」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 書名：「福島県保育実習施設」 発行所：福島県保育者養成校連絡会編 ※教科書は1年次に配布済み。			
【参考書】 書名：障害のある子の支援計画作成事例集 著者名：日本相談支援専門協会編集 発行所：中央法規 価格：2,600円（税別）			

授業科目名	保育実習Ⅲ		授業形態・単位数	実習・2単位
			開講年次	2年次
担当教員 (職名・氏名)	講師 高橋雄二	たか はし ゆう じ	開講期	通年
			授業回数	時間割外
			期末試験の有無	無
開講キャンパス	宮代キャンパス	授業時間以外の必要な学修時間		—
卒業・資格・免許		授業科目区分	必修・選択必修・選択の別	
卒業		専門教育科目	選択	
幼稚園教諭二種免許状		専門教育科目	選択	
保育士資格		専門教育科目	選択必修	
オフィスアワー・メールアドレス等	オフィスアワーは、初回授業時に説明する。			

【授業の概要】 「保育実習（児童福祉施設実習）」の積み上げとして、児童家庭福祉施設における実習を部分実習、指導実習を主に行い、保育内容の技術の習熟、援助活動等の理解と立案を実践する。 保育士としての態度と技術の習熟、要援護者の個々が抱える問題への事例研究等について実習を通して展開する。	【授業の概要との対応項目】			
	○	A	知識	
	○	B	技術・技能	
		C	論理的思考力	
	○	D	文章表現力	
		E	表情及び身体表現力	
		F	感性及び感動表現力	
		G	協働能力	
	○	H	まごころ、思いやりの発現力と夢や希望の発信力	
		I	積極的発言力及びプレゼンテーション力	
		J	多様性への理解力、応用力	
	○	K	課題対処力	
	L	人間関係、対人関係構築力及び対話力		
【授業の到達目標】	【授業の概要・到達目標との対応項目】 (受講して得られる力)			
児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	目標	A・B・H		
家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。	目標	A・B・H・K		
保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	目標	A・B・H・K		
保育士としての自己の課題を明確化する。	目標	A・B・D・H・K		

【実習期間】 8月中旬～下旬、または10月中旬～12月。(概ね10日間)
【到達度の評価（評価方法・基準）】 実習先からの評価点80%、実習日誌・個別支援計画案20%
【実習費】 1. 保育実習Ⅲ委託費 10,000円 2. 腸内感染症検査料 600円程度
【その他補足事項】 1. 実習の履修制限・再実習等については、福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 2. 履修にあたっては、次の事項を満たしていることが前提となる。 ・「保育実習指導Ⅲ」授業の出席が、5分の4以上であること。 ・「保育実習」保育所実習と児童福祉施設実習に合格していること。 ※詳細は福島学院大学短期大学部履修規程を参照のこと。 3. 学外実習を行うにあたり、腸内感染症検査証明書、麻疹（はしか）・風疹の抗体を有する証明書（コピー）を実習先へ持参すること。 4. 食物アレルギーがある学生は、実習先へ必ず申し出ること。また、実習先から指示された際は、食物アレルギーに関する診断書を提出すること。 5. 実習先の評価に関し、学生もしくは家族等が直接実習先に照会を行ったときは、単位を認定しない場合がある。